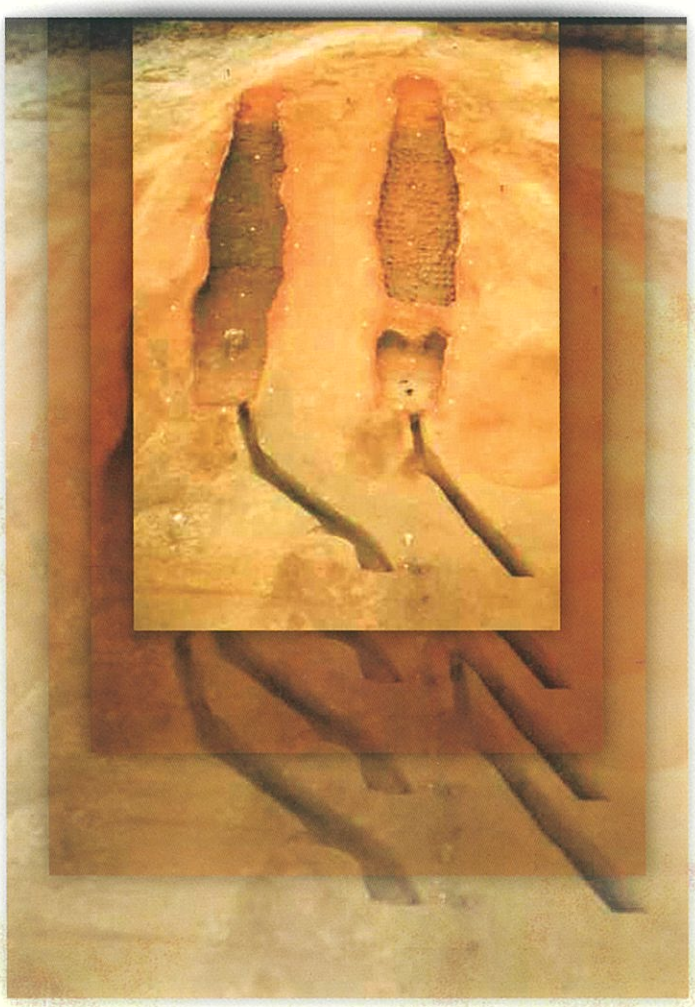
大府市文化財調査報告書　第５集

深廻間Ａ古窯跡群

～大府特定深廻間土地区画整理知内埋蔵文化財発掘調査報告～



２００５年

大府市教育委員会

大府市文化財調査報告書　第５集

深廻間Ａ古窯跡群

ふかはざま　こようせきぐん

～大府特定深廻間土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告～

２００５年

大府市教育委員会

序

知多半島は、常滑焼に代表される焼き物の一大生産地であります。その歴史は、古代に遡ると言われ、中世には、緩やかな丘陵地を利用した窯が各地で築窯され、多くの焼き物が生産されてきました。窯に利用された丘陵地は名古屋市南部から東部そして瀬戸・猿投山山麓まで続き、古代に操業を開始したと言われる猿投窯の窯もこの丘陵地に点在しています。大府市は、古代の猿投窯と常滑焼の影響を受けた地域ととらえられており、現在約１４０箇所の窯業遺跡が確認されております。

大府市は名古屋市に南接した都市で、区画整理事業・道路建設・民間開発事業が展開され、それに重なるように埋蔵文化財の発見・調査が増加しています。埋蔵文化財は歴史的にも文化的にも貴重な人類共通の遺産で、それを後世に伝えていくことは国民の義務であると考えます。

本市では、ここ８年間各地で発掘調査が実施され、海陸庵古窯群（平成６）・神明古窯群（平成７）・円通寺古墓（平成７）・森岡第１号窯（平成８）・ガンジ山Ａ古窯群（平成９）・深廻間Ａ古窯群（平成９）・羽根山古窯群（平成１０年）・深廻間Ｂ古窯群（平成１１年）・深廻間Ｃ古窯群・砂原古窯・石亀戸古窯群（以上平成１５年）など、着々と窯業遺跡調査が実施され、多くの成果が得られています。

今回の深廻間Ａ古窯群の発掘調査は、平成９年１１月から平成１０年１月までの期間で行ったもので、ここに報告書として上梓いたしました。

最後になりましたが、発掘調査を指導された同遺跡調査会会長立松宏氏（故人、前半田市立博物館館長）をはじめとする調査員の方々のご苦労とご協力に心から感謝いたします。また調査に際して、ご指導とご援助を賜りました愛知県教育委員会、大府市役所都市開発部区画整理課（現建設部区画整理課）、株式会社花井組、発掘調査作業にご参加された方々、この事業に対して、特別なご理解とご高配をいただきました大府深廻間土地区画整理組合理事長小島久夫氏（故人）はじめ役員の方々には厚くお礼を申し上げます。

平成１７年３月吉日

大府市教育委員会

教育長　梶　谷　修

巻頭１　主な出土遺物

巻頭２　調査区遠景　北東から

巻頭３　１号窯・２号窯　北東から

巻頭４　１号窯床面下施設　北東から

巻頭５　２号窯床面下施設　北東から

例　言

１．本書は愛知県大府市長草町深廻間１５の６１番地他に所在した深廻間Ａ古窯跡群の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は大府深廻間特定土地区画整理事業にともなう事前調査として大府市教育委員会の委託を請けた深廻間Ａ古窯発掘調査会が実施した。

３．調査期間は平成８年３月２６日に範囲確認調査を、平成９年１１月４日から平成１０年１月２４日まで本調査を行った。なお遺物洗浄作業は調査現場で実施した。平成１２年度に出土品整理作業とその図化作業を、平成１５年度に原稿作成を実施した。

４．発掘調査体制は、深廻間Ａ古窯発掘調査会を組織し、半田市立博物館館長立松宏（当時、故人）を会長とし、氏の指導の下、近藤英正（半田市立博物館学芸員）と古田功治（大府市歴史民俗資料館主任）が担当した。

５．発掘調査にあたっては、次の各機関をはじめ多くの方々からのご指導、ご協力を得た。記して感謝の意を表す次第である。
愛知県教育委員会文化財課、株式会社花井組、大府深廻間特定土地区画整理組合、大府市役所都市開発部区画整理課の各機関、松田訓（愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター）、長島広・柴田直光（当時愛知県教育委員会文化財課）

６．出土品整理（マーキング・接合・仕分など）と実測図作成は平成１２年度に緊急地域雇用対策基金などを利用して、アイシン精機株式会社事業企画室に委託した。

７．発掘調査と整理作業には以下の方々が参加協力された。現場調査の作業に２４名、出土品洗浄の作業に１５名、出土品整理に４名、出土品復元作業に３名、出土品図化作業に３名の方々が参加された。お名前は以下のとおりである。
現場作業２４名
木下信雄、村野實、舟崎千春、佐野栄作、松本純子、大竹富美子、服部裕子、鳥居和子、保科懐子、前田美江、児玉五市、酒向正三、榊原則夫、政時久、大川恵三、長谷川敏朗（以上作業員）、真島知恵、鷹羽みちこ、小野玲子（以上ボランティア）　富田智恵、遠山光嗣、石田優子、戸田未起、玉置あずさ
洗浄作業１５名
寺島トミ、竹内福江、深谷ぬい子、深谷きみ子、木村ち江子、山内みちゑ、小島一恵、宮原チサ、深谷ときゑ、相羽利一、内川ハツ、大嶋鎰子、有村美和子、岡田かよ子、浅田わさ（以上シルバー人材センター派遣）
出土品整理作業４名
村野實、平野洋子、永井末子、早川みどり（以上アイシン精機株式会社事業企画室）
出土品復元作業３名
牛田長子、加賀良子、深貝郁子
出土品図化作業３名
渡辺英美子、内田志野、谷上理恵（以上アイシン精機株式会社事業企画室）
また調査期間中の平成９年１２月６日、大府市立大府西中学校の生徒とその

父母３２名と引率教諭２名が発掘調査体験として参加した。

８．手書きによる地層断面図のデジタルトレースを平成１４年度にアイシン精機株式会社委託した。

９．熱残留磁気測定と炭化物分析はそれぞれ富山大学理学部教授広岡公夫氏と株式会社パレオ・ラボ　植田弥生氏に依頼した。

10．本書の編集は古田功治が担当し、執筆は第２章と第５章を近藤英正が、第３章を伊藤羊子と鈴木智恵が、それ以外を古田が行った。また第４章の熱残留磁気測定と炭化物分析については、それぞれ富山大学理学部教授広岡公夫氏（当時）・佐竹俊昭（富山大学理学部地球科学教室）と株式会社パレオ・ラボ植田弥生氏に玉稿を賜った。

11．窯体と調査区の測量および図化は愛知玉野情報システム株式会社が行い、座標は国土座標第Ⅶ系に準拠する。

12．土色には、小林正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖』を使用した。
調査記録および出土遺物は大府市歴史民俗資料館で保管している。

目　次

第１章　調査概要

第１節　位置と地形 …… 2
第２節　歴史的環境 …… 5
第３節　発掘調査に至る経緯等 …… 8

第２章　遺　構

第１節　窯体について …… 12
第２節　前庭部と灰原について …… 34

第３章　遺　物

第１節　器形分類 …… 42
第２節　窯内と灰原などの遺物 …… 45
第３節　床面下施設の遺物 …… 60
第４節　考察 …… 91

第４章　科学分析

第１節　深廻間Ａ古窯跡群の考古地磁気学的研究 …… 160
第２節　深廻間Ａ古窯跡群の出土炭化材の樹種同定 …… 173

第５章　総論

遺構について …… 184
遺物について …… 185
炭化材について …… 185
築窯年代について …… 186

報告書抄録 …… 187

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図（国土地理院　1/5 万地形図「名古屋南」）…… 2
第 2 図　大府市の表層地質図 …… 4
第 3 図　調査地点地形図 …… 6
第 4 図　周辺遺跡分布図（1/1.3 万）…… 6
第 5 図　調査前地形図 …… 9
第 6 図　遺構配置図 …… 13
第 7 図　1 号窯窯体実測図 …… 14
第 8 図　1 号窯埋土セクション図 1 …… 15
第 9 図　1 号窯埋土セクション図 2 …… 16
第 10 図　1 号窯断面セクション図 …… 17
第 11 図　1 号窯床面下施設一次面平面図 …… 18
第 12 図　1 号窯床面下施設一次面断面図 …… 19
第 13 図　1 号窯床面下施設二次面平面図 …… 20
第 14 図　1 号窯床面下施設二次面断面図 …… 21
第 15 図　2 号窯窯体実測図 …… 24
第 16 図　2 号窯埋土セクション図 1 …… 25
第 17 図　2 号窯埋土セクション図 2 …… 26
第 18 図　2 号窯断面セクション図 …… 27
第 19 図　2 号窯床面下施設一次面平面図 …… 28
第 20 図　2 号窯床面下施設一次面断面図 …… 29
第 21 図　2 号窯床面下施設二次面平面図 …… 30
第 22 図　2 号窯床面下施設二次面断面図 …… 31
第 23 図　2 号窯床面下施設最終床面図 …… 32
第 24 図　前庭部断面図 …… 35
第 25 図　灰原セクション図 …… 36
第 26 図　灰原トレンチ略図 …… 37
第 27 図　灰原位置図 …… 38
第 28 図　SD01・SD02・SK02 セクション図 …… 39
第 29 図　碗類器形分類図 …… 42
第 30 図　皿類器形分類図 …… 43
第 31 図　鉢類器形分類図 …… 44
第 32 図　部位等名称図 …… 44
第 33 図　遺物実測図（1 号窯）…… 53
第 34 図　遺物実測図（2 号窯）…… 54
第 35 図　遺物実測図（灰原）…… 55
第 36 図　遺物実測図（SK01・SK02・SK04・SK05）…… 56
第 37 図　1 号窯床面下施設碗類器形分類別組成図 …… 60
第 38 図　1 号窯床面下施設皿類器形分類別組成図 …… 61
第 39 図　SD02 碗類器形分類別組成図 …… 61
第 40 図　SD02 皿類器形分類別組成図 …… 62
第 41 図　2 号窯床面下施設碗類器形分類別組成図 …… 62
第 42 図　SD01 碗類器形分類別組成図 …… 63
第 43 図　SD01 皿類器形分類別組成図 …… 64
第 44 図　1 号窯床面下施設遺物取上位置番号図（二次面）…… 65
第 45 図　1 号窯床面下施設遺物取上位置番号図（一次面）…… 66
第 46 図　2 号窯床面下施設遺物取上位置番号図（二次面）…… 75
第 47 図　2 号窯床面下施設遺物取上位置番号図（一次面）…… 76
第 48 図　遺物実測図（1 号窯床面下・2 号窯床面下施設）…… 89
第 49 図　遺物実測図（SD01・SD02）…… 90
第 50 図　深廻間Ａ古窯の年代観 …… 93
第 51 図　西南日本版永年変化曲線（広岡、1977）と深廻間Ａ古窯
　　1 号・2 号窯の考古地磁気測定結果 …… 165
第 52 図　東海版永年変化曲線（広岡・藤澤、2003）と深廻間Ａ古窯
　　1 号・2 号窯の考古地磁気測定結果 …… 166
第 53 図　深廻間Ａ古窯の燃料材樹種の検出地点 …… 179
第 54 図　深廻間Ａ古窯 1 号窯床面下施設木材の樹種 …… 180

表目次

第 1 表　大府市遺跡一覧表 …… 7
第 2 表　発掘調査に伴う法的手続き …… 10
第 3 表　1号窯床面下施設出土碗類器形分類別組合せ表 …… 60
第 4 表　1号窯床面下施設出土皿類器形分類別組合せ表 …… 61
第 5 表　SD02 出土碗類器形分類別組合せ表 …… 61
第 6 表　SD02 出土皿類器形分類別組合せ表 …… 62
第 7 表　2号窯床面下施設出土碗類器形分類別組合せ表 …… 62
第 8 表　SD01 出土碗類器形分類別組合せ表 …… 63
第 9 表　SD01 出土皿類器形分類別組合せ表 …… 64
第 10 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（1） …… 67
第 11 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（2） …… 68
第 12 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（3） …… 69
第 13 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（4） …… 70
第 14 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（5） …… 71
第 15 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（6） …… 72
第 16 表　1号窯床面下施設遺物取上記録（7） …… 73
第 17 表　SD02 遺物取上記録 …… 74
第 18 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（1） …… 77
第 19 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（2） …… 78
第 20 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（3） …… 79
第 21 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（4） …… 80
第 22 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（5） …… 81
第 23 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（6） …… 82
第 24 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（7） …… 83
第 25 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（8） …… 84
第 26 表　2号窯床面下施設遺物取上記録（9） …… 85
第 27 表　SD01 遺物取上記録（1） …… 86
第 28 表　SD01 遺物取上記録（2） …… 87
第 29 表　碗類皿類の法量比較表 …… 91
第 30 表　碗類器形分類別組合せ表 …… 92
第 31 表　皿類器形分類別組合せ表（Ⅰ・Ⅱ系） …… 93
第 32 表　皿類器形分類別組合せ表（Ⅲ系） …… 93
第 33 表　遺物観察表（碗）1 …… 95
第 34 表　遺物観察表（碗）2 …… 96
第 35 表　遺物観察表（碗）3 …… 97
第 36 表　遺物観察表（碗）4 …… 98
第 37 表　遺物観察表（碗）5 …… 99
第 38 表　遺物観察表（碗）6 …… 100
第 39 表　遺物観察表（碗）7 …… 101
第 40 表　遺物観察表（碗）8 …… 102
第 41 表　遺物観察表（碗）9 …… 103
第 42 表　遺物観察表（碗）10 …… 104
第 43 表　遺物観察表（碗）11 …… 105
第 44 表　遺物観察表（碗）12 …… 106
第 45 表　遺物観察表（碗）13 …… 107
第 46 表　遺物観察表（碗）14 …… 108
第 47 表　遺物観察表（碗）15 …… 109
第 48 表　遺物観察表（碗）16 …… 110
第 49 表　遺物観察表（碗）17 …… 111
第 50 表　遺物観察表（碗）18 …… 112
第 51 表　遺物観察表（碗）19 …… 113
第 52 表　遺物観察表（碗）20 …… 114
第 53 表　遺物観察表（碗）21 …… 115
第 54 表　遺物観察表（碗）22 …… 116
第 55 表　遺物観察表（碗）23 …… 117
第 56 表　遺物観察表（碗）24 …… 118
第 57 表　遺物観察表（碗）25 …… 119
第 58 表　遺物観察表（碗）26 …… 120
第 59 表　遺物観察表（碗）27 …… 121
第 60 表　遺物観察表（碗）28 …… 122
第 61 表　遺物観察表（碗）29 …… 123
第 62 表　遺物観察表（碗）30 …… 124
第 63 表　遺物観察表（碗）31 …… 125
第 64 表　遺物観察表（碗）32 …… 126
第 65 表　遺物観察表（碗）33 …… 127
第 66 表　遺物観察表（碗）34 …… 128
第 67 表　遺物観察表（碗）35 …… 129
第 68 表　遺物観察表（皿）1 …… 130
第 69 表　遺物観察表（皿）2 …… 131
第 70 表　遺物観察表（皿）3 …… 132
第 71 表　遺物観察表（皿）4 …… 133
第 72 表　遺物観察表（皿）5 …… 134
第 73 表　遺物観察表（皿）6 …… 135
第 74 表　遺物観察表（皿）7 …… 136
第 75 表　遺物観察表（皿）8 …… 137
第 76 表　遺物観察表（皿）9 …… 138
第 77 表　遺物観察表（皿）10 …… 139
第 78 表　遺物観察表（皿）11 …… 140
第 79 表　遺物観察表（皿）12 …… 141
第 80 表　遺物観察表（皿）13 …… 142
第 81 表　遺物観察表（皿）14 …… 143
第 82 表　遺物観察表（皿）15 …… 144
第 83 表　遺物観察表（皿）16 …… 145
第 84 表　遺物観察表（皿）17 …… 146
第 85 表　遺物観察表（皿）18 …… 147
第 86 表　遺物観察表（皿）19 …… 148
第 87 表　遺物観察表（皿）20 …… 149
第 88 表　遺物観察表（皿）21 …… 150
第 89 表　遺物観察表（皿）22 …… 151
第 90 表　遺物観察表（皿）23 …… 152
第 91 表　遺物観察表（皿）24 …… 153
第 92 表　遺物観察表（皿）25 …… 154
第 93 表　遺物観察表（皿）26 …… 155
第 94 表　遺物観察表（皿）27 …… 156
第 95 表　遺物観察表（その他）1 …… 157
第 96 表　遺物観察表（その他）2 …… 158
第 97 表　深廻間Ａ古窯１・２号窯で採取した考古地磁気試料番号 …… 167
第 98 表　深廻間Ａ古窯１号窯の NMR の磁化測定結果 …… 167
第 99 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 2.5mT 消磁後の磁化測定結果 …… 167
第 100 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 5.0mT 消磁後の磁化測定結果 …… 168
第 101 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 7.5mT 消磁後の磁化測定結果 …… 168
第 102 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 10.0mT 消磁後の磁化測定結果 …… 169
第 103 表　深廻間Ａ古窯２号窯の NRM の磁化測定結果 …… 169
第 104 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 2.5mT 消磁後の磁化測定結果 …… 170
第 105 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 5.0mT 消磁後の磁化測定結果 …… 170
第 106 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 7.5mT 消磁後の磁化測定結果 …… 171
第 107 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 10.0mT 消磁後の磁化測定結果 …… 171
第 108 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 15.0mT 消磁後の磁化測定結果 …… 172
第 109 表　深廻間Ａ古窯１・２号窯の考古地磁気測定結果 …… 172
第 110 表　深廻間Ａ古窯出土炭化材の採取地点別樹種判定結果 …… 177
第 111 表　深廻間Ａ古窯の主な遺構・地点別の検出樹種 …… 178

写真目次

巻頭 1　主な出土遺物 …… i
巻頭 2　調査区遠景　北東から …… ii
巻頭 3　1号窯・2号窯　北東から …… ii
巻頭 4　1号窯床面下施設　北東から …… iii
巻頭 5　2号窯床面下施設　北東から …… iii
写真 1　遺跡遠景　北から …… 3
写真 2　遺跡近景　北東から …… 3
写真 3　1号窯完掘全体　北東から …… 22
写真 4　1号窯断割全体　北東から …… 22
写真 5　1号窯埋土縦ベルト　南東から …… 22
写真 6　1号窯埋土第2ベルト　北東から …… 22
写真 7　1号窯断割第3ベルト　北東から …… 22
写真 8　1号窯断割第1ベルト　北東から …… 22
写真 9　2号窯完掘全体　北東から …… 33
写真 10　2号窯断割全体　北東から …… 33
写真 11　2号窯埋土第1ベルト　北東から …… 33
写真 12　2号窯断割第3ベルト　北東から …… 33
写真 13　2号窯断割第1ベルト　北東から …… 33
写真 14　2号窯分焔柱断割　南東から …… 33
写真 15　1号窯前庭部　北から …… 34
写真 16　2号窯前庭部　東から …… 34
写真 17　灰原全体　北東から …… 37
写真 18　3a4a5a ベルト　西から …… 37
写真 19　大ベルト部分　南東から …… 37
写真 20　3a4a5a ベルト　南西から …… 37
写真 21　大ベルト全体　北東から …… 37
写真 22　3a4a5a ベルト土器溜り　西から …… 37
写真 23　SD01 第1ベルト　北東から …… 40
写真 24　SD01 第2ベルト　南東から …… 40
写真 25　SD02 第1ベルト　北から …… 40
写真 26　SD02 第2ベルト　南から …… 40
写真 27　SD01・02 並び　南西から …… 40
写真 28　SD01 完掘状況　北東から …… 40
写真 29　SK02　西から …… 40
写真 30　出土遺物1 …… 57
写真 31　出土遺物2 …… 58
写真 32　出土遺物3 …… 59
写真 33　1号窯床面下施設（二次面）南西から …… 88
写真 34　1号窯床面下施設（二次面）南西から …… 88
写真 35　1号窯床面下施設（一次面）南西から …… 88
写真 36　1号窯床面下施設（一次面）北西から …… 88
写真 37　2号窯床面下施設（二次面）南西から …… 88
写真 38　2号窯床面下施設（一次面）南西から …… 88
写真 39　サンプル採取状況1 …… 162
写真 40　サンプル採取状況2 …… 162
写真 41　出土炭化材樹種1 …… 181
写真 42　出土炭化材樹種2 …… 182

第1章　調 査 概 要

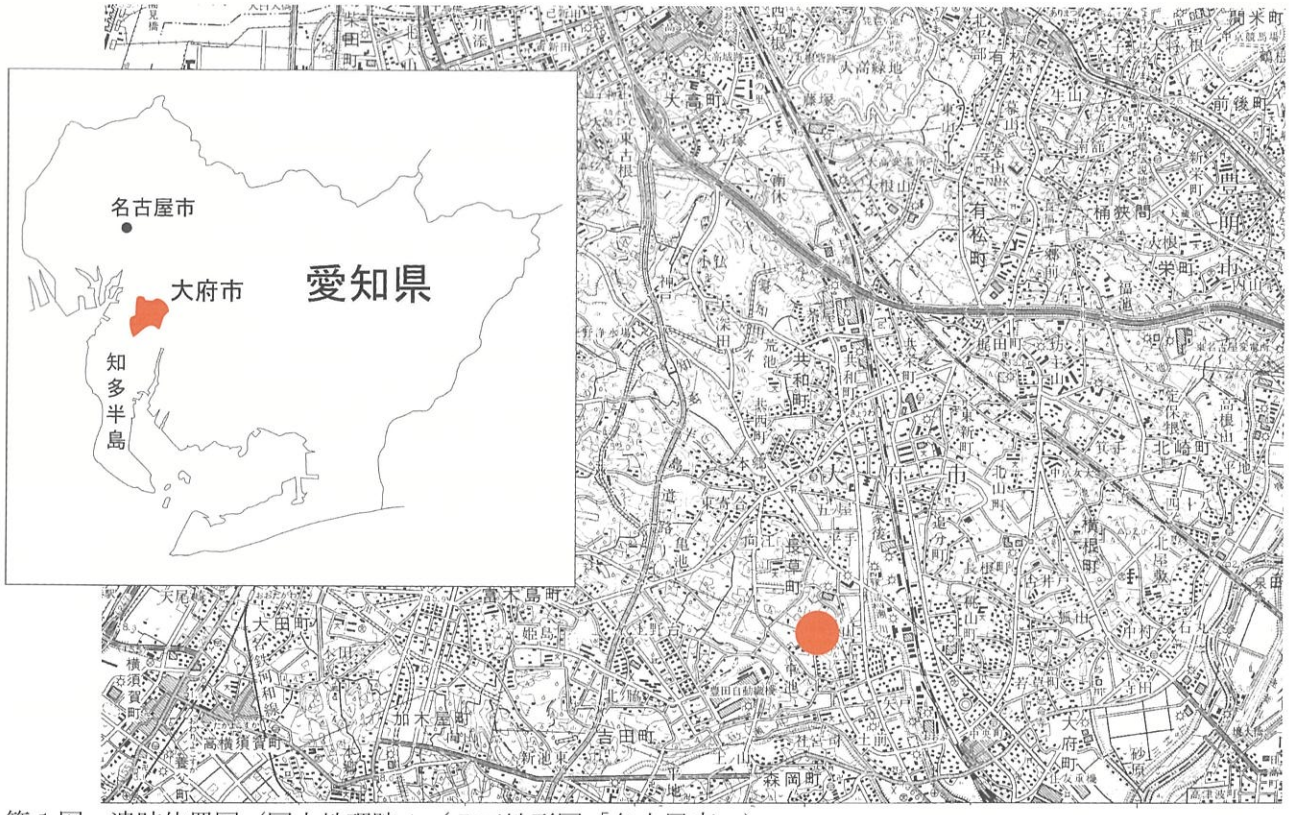
表土剥ぎ後の状況

第１節　位置と地形

大府市は知多半島の基部に位置し、南西の端を頂点とする二等辺三角形の市域を形成する。面積は33.68 ｋ㎡である。市域は主に丘陵地から成るが、中央部には丘陵地を二分する北西－南東方向の低地があり、そこをＪＲ東海道線が通っている。東部は尾張丘陵と総称される名古屋市の東部の丘陵につながり、西部は大府丘陵と呼ばれている。これらの丘陵は北東－南西方向に標高を下げ、市域では丘陵の最も高いところで40～50mとなっている。このため大府丘陵の方がややなだらかな地形となっている。丘陵は常滑層群と呼ばれる地層からなり、礫層、砂層、シルト層から構成される。常滑累層は下部から上部にかけて構成粒子が大きくなり、上部層の表出している尾張丘陵では礫層が多く挟まるようになる。このような地層的な特徴をもつ大府丘陵に深廻間Ａ古窯跡群は立地している①

この古窯跡群は市道東浦共和線に隣接しており、西へ約50m入った東側に傾斜した斜面に位置していた。当地はほとんどが雑木林で斜面の裾野部分が牧草地として利用され、北側には土取りをして道路面まで下げられた場所に住宅が建てられていた。雑木林であったため、遺跡の残存状況は良好であった。

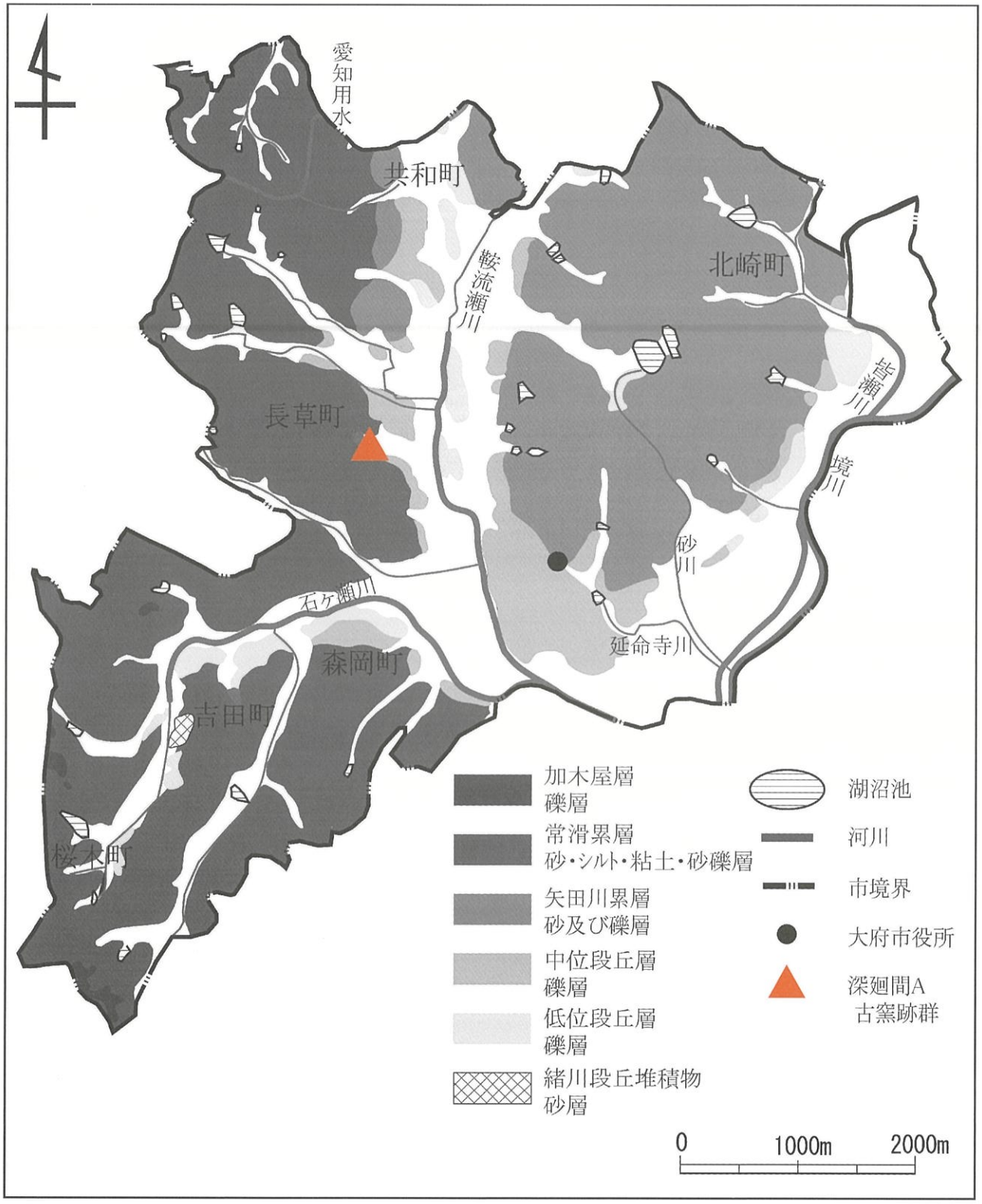
註①　『大府市誌』資料編　自然　3～18頁（1988年刊、大府市役所）。



第１図　遺跡位置図（国土地理院１／５万地形図「名古屋南」）

写真１　遺跡遠景　北から

写真２　遺跡近景　北東から



第２図　大府市の表層地質図

引用文献：『日本地質図大系』（名古屋南部、知多半島より加筆・修正）

第２節　歴史的環境

深廻間Ａ古窯跡群は市中心部に近接し、市庁舎やＪＲ大府駅のある市中心街から直線距離にして北西約 1.2 ㎞の場所である。ここは前述したように大府丘陵の一角であるが、地形的には境川に注ぐ鞍流瀬川水系の丘陵地で、東側に緩やかに傾斜した斜面に立地し、標高約 30m である。

縄文時代の遺跡は、共栄遺跡（市北部の共栄町、区画整理により滅失）と桟敷遺跡（朝日町）の２遺跡がある。

弥生時代の遺跡としては、市北西部の子安神社遺跡（共和町、1982・84 市教委調査）と北東部の惣作遺跡（横根町、1972 市教委調査）の２遺跡があるが、いずれも中世までの複合遺跡である。

愛知県は古代（5 世紀）から焼き物生産が始められ、猿投山山麓における窯は、生産地の一つとして成長したものである。この地区の古窯は猿投山西南麓古窯群と呼ばれている。また、12 世紀初頭の成立といわれる常滑古窯群が知多半島には存在し、知多古窯群とも称される。大府市はいずれの古窯群とも境を接する地区で、尾野善裕氏は猿投山西南麓古窯群と知多古窯群との境を市の中心を通る東海道本線で分けている[②]。この区割でいけば、深廻間Ａ古窯は後者にはいる。これが妥当かどうかは調査遺跡の増加と新発見の古窯から、検討の余地があると思われるが今は従っておくことにする。

平安時代になると、猿投山西南麓古窯群と目される灰釉陶器系の野々宮古窯跡や高根山Ｃ古窯群を最古の事例としてこの地域でも窯業生産が丘陵地に登場し、その流れを汲むと思われ、碗と皿を中心に焼成した中世山茶碗窯が市内全域で展開する。代表的な遺跡として 12 世紀代に鳥羽離宮安楽寿院の瓦を生産した吉田第１・第２号窯跡（吉田町 1968・69 市教委調査）、大量の広口長頸瓶を焼いた神明古窯跡群（1995 市教委調査）やへら描文をもつ壺が出土した森岡第１号窯跡群（1996 県埋文セ調査）がある。これらは石ヶ瀬川水系の丘陵地で、年代的に古い窯跡が多く、大府市での窯業生産の故知となすこともできる。一方鞍流瀬川水系の深廻間Ａ古窯跡群周辺には平安時代の遺跡は知られていないが、同古窯群から西に伸びる丘陵地には深廻間Ｂ古窯跡群（1999 市教委調査）・深廻間Ｃ古窯跡群（2003 市教委調査）、柊山Ａ古窯・柊山Ｂ古窯・柊山Ｃ古窯、車池Ａ古窯・車池Ｂ古窯などの窯業遺跡が確認でき、いずれも丘陵地に存在している。時代的には 12 世紀末期か 14 世紀頃の、いわゆる中世山茶碗窯である。

大府市では現在までに 170 カ所の遺跡を確認しているが、そのうち 146 カ所が窯業関連遺跡で、85.8%に及んでいる。遺跡の分布をみると、空白地帯が存在するが、ほぼ市内全域に古窯が確認され、その立地はすべて丘陵地である。すべての古窯跡の築窯年代が解明されているわけではないが、焼成品や調査結果から推測すると、この地は平安時代末期から鎌倉時代末期の約 200 年間ほどに集中している。つまり、この地は一大窯業地帯だったのではないかと想像される。今後、遺跡分布調査が進展すれば、さらに多くの窯跡が発見され、この仮説が裏付けされると確信される。

註②　尾野善裕編『ＮＮ３３０号窯発掘調査報告書』137 頁（1994 年刊、名古屋市教育委員会）

第３図　調査地点地形図

第４図　周辺遺跡分布図（１／１．３万）

平成16年12月1日現在

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	子安神社遺跡	弥生～中世	58	神明古窯群	平安末期	115	井田古窯群	中世
2	共栄遺跡	縄文	59	海陸庵古窯群	鎌倉中期	116	池之分古窯	不明
3	東光寺経塚	江戸	60	円通寺古墓	近世	117	山中遺跡	古代～中世
4	賢聖院貝塚	中世	61	上入道古窯	中世	118	児子廻間A遺跡	古代
5	惣作遺跡	弥生～鎌倉	62	長根山A古窯群	中世	119	児子廻間B遺跡	古代
6	棧敷貝塚	縄文晩期	63	立根B古窯群	中世	120	下入道子窯	中世
7	高山古墳	古墳後期	64	立根C古窯群	中世	121	坊主山A古窯群	中世
8	正官墳	中世	65	立根D古窯群	中世	122	井田B古窯	中世
9	南島貝塚	不明	66	立根E古窯	中世	123	梶田B古窯群	中世
10	石丸遺跡	中世	67	深廻間B古窯群	中世	124	石亀土古窯群	中世
11	源吾遺跡	古墳	68	西浜田遺跡	不明	125	箕手C古窯群	中世
12	野々宮古窯	平安中期	69	二ツ池東古窯	中世	126	古井戸A古窯	中世
13	森岡第1号窯群	12世紀中	70	藤井宮御酒瓶子出土地	中世	127	長峰北A古窯	中世
14	森岡第2号窯	13世紀	71	平子古窯	中世	128	長峰北B古窯	中世
15	北向古窯	13世紀	72	鴨池北古窯群	中世	129	長峰北C古窯群	中世
16	旧中部病院第1号窯	12世紀	73	鴨池東古窯	中世	130	篭染西古窯	古代
17	旧中部病院第2号窯	不明	74	下北山古窯群	中世	131	井戸場古窯群	中世
18	旧中部病院第3号窯	不明	75	川池西古窯	不明	132	西定保根A古窯群	中世
19	ハンヤ古窯	13世紀	76	石亀土古窯	不明	133	高根山B古窯群	古代～中世
20	吉田第1号窯	12世紀	77	柊山B古窯	不明	134	高根山C古窯群	古代
21	吉田第2号窯	12世紀	78	柊山C古窯	中世	135	山手C古窯群	中世
22	律粉古窯	13世紀	79	雨兼池西古墳	古墳	136	上り坂古窯	中世
23	篭染第1号窯	13世紀	80	山口古窯群	不明	137	山之神社北古窯	中世
24	篭染第2号窯	不明	81	大高山古窯	不明	138	八代山A古窯	中世
25	大日古窯	不明	82	篭染第3号窯	中世	139	八代山B古窯	中世
26	外輪第1号窯	不明	83	円通寺経塚	江戸中期	140	八代山C古窯	中世
27	外輪第2号窯	不明	84	大廻間古窯	中世	141	西定保根B古窯群	古代～中世
28	外輪第3号窯	不明	85	みどり公園古窯	中世	142	箕手D古窯	中世
29	外輪第4号窯	不明	86	高根山西古窯	中世	143	箕手E古窯群	中世
30	骨田末古窯	12世紀	87	口無池西古窯	中世	144	上東山A古窯	中世
31	吉川城跡	室町	88	北崎大池北古窯	平安	145	上東山B古窯	中世
32	横根城跡	戦国	89	箕手A古窯	中世	146	立合池東古窯群	中世
33	追分城跡	室町	90	箕手B古窯	中世	147	立合池西A古窯群	中世
34	石ヶ瀬古戦場跡	室町	91	ガンジ山A古窯群	13世紀	148	立合池西B古窯群	中世
35	大清水井戸跡	室町	92	律粉東古窯	中世	149	古井戸B古窯	中世
36	おしも井戸跡	不明	93	上徳古窯群	中世	150	脇ノ畑A古窯	中世
37	芦沢井戸跡	中世	94	丸根城跡	不明	151	脇ノ畑B古窯	中世
38	福池古窯	中世	95	大深田古窯	12世紀	152	脇ノ畑C古窯	中世
39	大根古窯	中世	96	荒池古窯群	中世	153	馬池東古窯	中世
40	高根山古窯群	中世	97	砂原古窯	中世	154	東端B古窯	中世
41	梶田古窯	中世	98	木根A古窯群	中世	155	毛分田A古窯	中世
42	別岨古窯群	中世	99	木根B古窯群	中世	156	毛分田B古窯	中世
43	権兵衛池古窯	中世	100	久分古窯	中世	157	家下古窯	中世
44	名高山古窯群	中世	101	瀬戸B古窯群	中世	158	上家下古窯	中世
45	立根A古窯群	中世	102	奥谷古窯	中世	159	車池A古窯	中世
46	深廻間A古窯群	鎌倉	103	瀬戸A古窯	中世	160	車池B古窯	中世
47	柊山A古窯群	中世	104	北山古窯	中世	161	森東古窯	中世
48	石ヶ瀬古窯	中世	105	石原古窯群	中世	162	前田A古窯	中世
49	江端古窯	中世	106	長草城跡	不明	163	前田B古窯	中世
50	延命寺貝塚	不明	107	長根山B古窯	中世	164	前田C古窯	中世
51	割木A古窯群	中世	108	普門寺遺跡	中世	165	森前古窯	中世
52	東端古窯	中世	109	寺田遺跡	中世	166	骨田池南古窯	中世
53	才田A古窯	中世	110	大高山西古窯群	中世	167	深廻間C古窯群	中世
54	才田B古窯	中世	111	影清屋敷跡	不明	168	子安古窯	古代～中世
55	山手A古窯	不明	112	外輪南古窯	中世	169	上田ノ松古窯	中世
56	山手B古窯	不明	113	炭焼遺跡	中世	170	瀬戸C古窯群	中世
57	羽根山古窯群	中世	114	上り戸古窯	中世			

第1表　大府市遺跡一覧表

第３節　発掘調査に至る経緯等

深廻間Ａ古窯跡群は、周知の遺跡であるが、『大府市誌』資料編考古[③]にも該当記事はなく、発見年次は不明である。しかし、ここに窯跡が存在することはごく一部の関係者の間では知られていた。

市内での区画整理事業立案が活発であった１９８０年代後半には長草町深廻間地区でも計画があり、平成７年９月には区画整理組合が設立され、大府深廻間特定土地区画整理事業として事業化された。組合設立前後から大府市役所区画整理課から愛知県教育委員会へ提出された「埋蔵文化財の有無の照会」により、愛知県教育委員会文化財課と協力して区域内における埋蔵文化財を把握するための分布調査を実施した。それにより、２箇所の遺跡を確認または発見するにいたり、それぞれ深廻間Ａ古窯群と深廻間Ｂ古窯群と命名し、埋蔵文化財包蔵地をして「大府市遺跡等分布図」に掲載した。その後、造成計画が決まり、造成工事前の事前調査として調査に着手した。本調査に先立ち、平成８年３月２６日に範囲確認調査（遺跡の範囲・規模・残存状況などを確認）を実施し、丘陵と牧草地の境と雑木の多い茂った中でトレンチ掘りと坪掘りにて行なった。トレンチ掘りでは灰原の存在を、坪掘りでは窯体の位置を確認した。しかし、窯体数は２基以上ということしかわからなかった。だが、雑木林部分の遺構はかなり良好に残存していることも判明した。

平成９年１０月に本調査の準備に入り、１０月１８日から樹木の伐採、同２７日から表土剥ぎ、１０月３１日に国土座標Ⅶ系に基づいて5m×5mのグリッドを設定、そして１１月４日から本調査を開始した。調査は、市から半田市立博物館館長立松宏氏を会長とする深廻間Ａ古窯発掘調査会に委託し、市歴史民俗資料館が支援する形で行った。調査面積は約800㎡である。

すでに、抜根と表土剥ぎの段階で窯跡が２基と灰原１箇所であることが確認できた。調査の通例として、灰原の検出を優先し、その後窯体掘削に移行することとして調査を開始した。灰原は丘陵の斜面と牧草地の下にあり、牧草地の部分は攪乱の上に盛り土された状態で、遺構はほとんど消滅した状態であった。窯体はほぼ全体が残り、２基が平行して並んでいた。区別するために窯に対面して左から順に１号窯・２号窯と名付けることにした。窯内には縦方向（窯体と平行）に１本と横方向（窯体と直交）に３本のベルトを設定した上でそこを残す形で掘削し、１２月５日に窯内掘削は完了した。１２月１７日の午後には空撮を行い、１９日から床面の断割作業に移行した。いずれの窯の焼成室にも床面下施設が施されていることが分かった。その全体を露出させるのための掘削作業は難航し、冬季ということもあり、遅々としてはかどらなかったが、１月１６日には床面下施設の図下作業が完了、２１日からその遺物取上を行い、２４日にすべての調査を終了することができた。

註③　平成３年３月２０日刊　大府市誌編さん刊行委員会編集

N
11.59
12.92
12.5
13.51
15.0
13.38
10.58
16.69
17.5
13.97
15.30
1:200
0 1 5 10m

第５図　調査前地形図

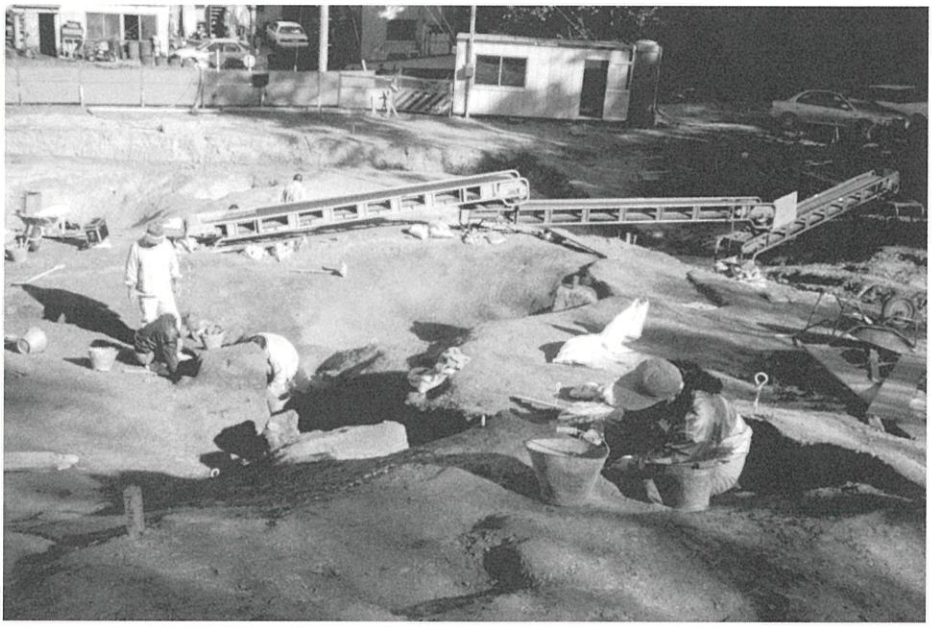
調査日誌抄

平成９年	１０月１８日	伐採作業開始
	１０月２７日	表土剥ぎ
	１０月３１日	調査区設定と基準および杭打ち
	１１月４　日	作業員投入と調査開始（遺構検出と灰原等掘削開始）
	１１月１９日	窯内掘削開始
	１２月５日	窯内完掘
	１２月６日	大府西中学校生徒発掘体験学習
	１２月１７日	空撮測量、現地説明会
	１２月１９日	窯体断割作業開始
	１月１６日	床面下施設図化完了
	１月２１日	床面下施設遺物取上
	１月２４日	調査終了
	１月２６日	出土品洗浄作業開始
	２月２７日	出土品洗浄作業終了
	３月９日	現場撤収

区　分	大府深廻間特定土地区画整理組合	大府市教育委員会	愛知県教育委員会
文化財保護法 第５７条の２	届出、平成９年10月１日	進達、平成９年10月１日 大教生発第152号	通知、平成９年12月24日 ９教文第63－422号
文化財保護法 第９８条の２		通知、平成９年10月31日大教生発第151号	通知、平成10年１月19日 １０教文第62-2号
終了届		平成10年１月30日	
遺失物法 第１条による届出		平成10年１月24日	
埋蔵文化財保管証		平成10年３月25日大教生第151号	

第２表　発掘調査に伴う法的手続き

第２章　遺　　構



発掘調査風景

第１節　窯体について

１号窯

本窯は、煙道部の一部と焼成室から焚口まで、ほぼ完全に残存していた。窯体の残存長は 10.5mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はＳ－53°―W、標高は 16.9m～13.3mである。

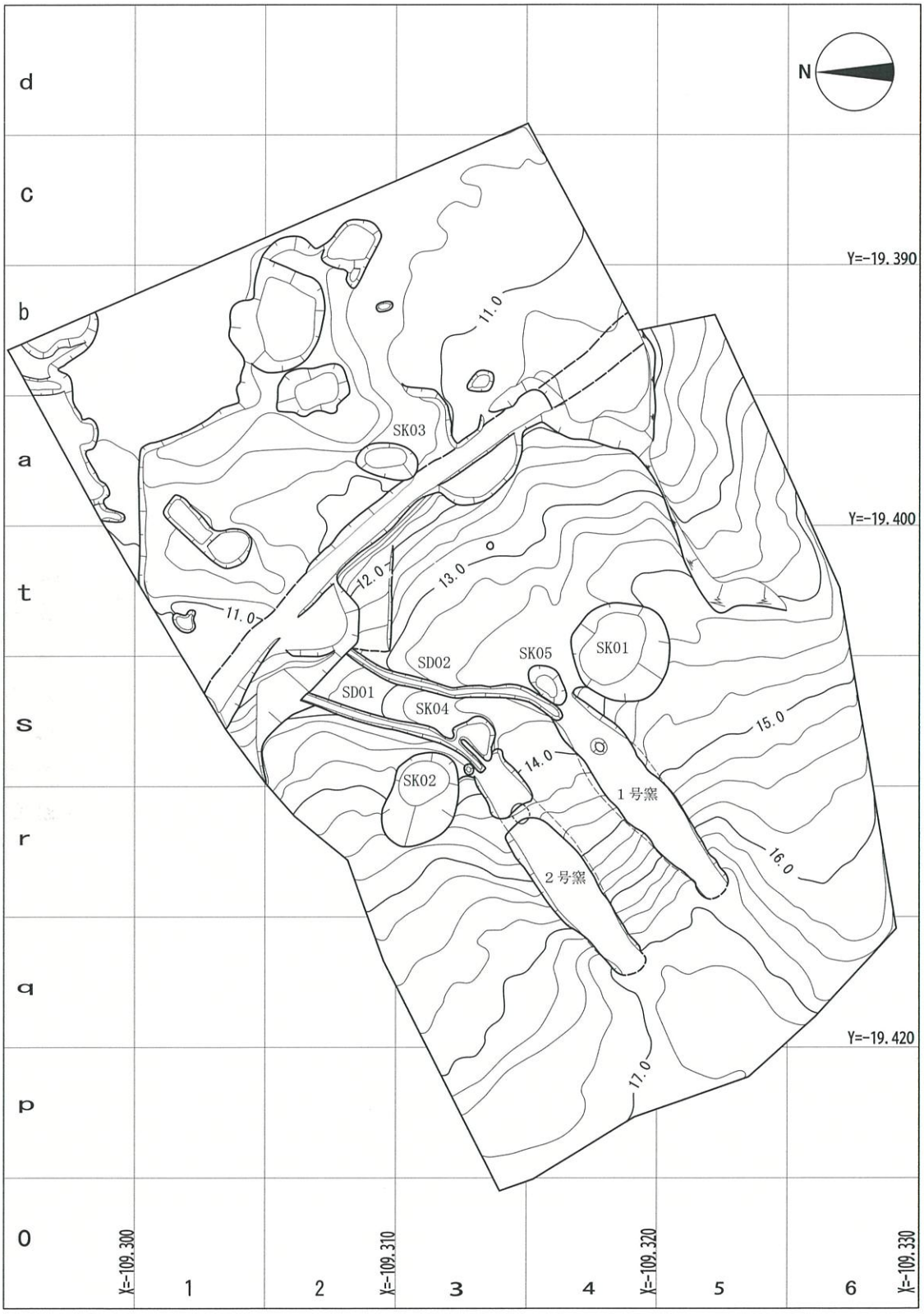
焚口から燃焼室までの遺存状態は良好で、側壁も左右両方とも焚口までほぼ残存しており、焚口の幅は 1.1m、燃焼室の幅は分焔柱基部で 1.68m、燃焼室の長さは分焔柱基部まで 1.75mである。燃焼室の床面傾斜は、分焔柱基部から 78cm までは 4°、そこから 62cm までは 10°の傾斜で上昇し、一旦急激に下降したのち、焚口まで 5°の傾斜で上昇している。床面は灰黒色でよく焼き締まっており、側壁は赤褐色を呈し、左右とも約 60cm 残存していた。燃焼室の床面下には、排水溝と思われる溝（SD02）が検出された。この溝は右通焔孔部分から始まり、燃焼室右側壁に沿って前庭部へと続いている。床面の下約 30cm の位置に作られており、溝の幅は約 30cm、深さは約 20cm で、溝のなかには焼台や伏せた碗が並んでいた。

分焔柱は後で作られたものである。残存している高さは 50cm、基底部は幅 45cm、奥行 59cm でほぼ四角形を呈している。分焔柱中央部での窯体の幅は、床面で 1.88m、通焔孔の床面幅は、左右とも 70cm で通焔孔の高さは推定で左右とも約 80cm あったと思われる。

焼成室はセンターライン上で 7.5m、側壁は高いところで約 1mを残す。床面の傾斜は、分焔柱から 30cm の地点まで 21°の傾斜で下降し、そこから約 40cm の地点まではほぼ水平である。そこから 90cm の地点までは 17°の傾斜で上昇し、そこから 5.4mの地点までは 32°の急傾斜で上昇し、それ以降は 24°で上昇していく。床面と側壁はともに灰黒色を呈しよく焼き締っている。床面は分焔柱基部から 2.3mの地点に補修痕とみられる段差が検出された。

焼成室の床面の断割り調査を行なったところ、床面下施設が検出された。床面下施設は、床面の段差部分から焼成室上方・下方ともに施されており、上方部分では２面検出された。二次面は床面の段差部分から 4.5mの地点まで、最終床面から約 20cm の深さで暗赤褐色に焼き締められたシルト層があり、そこから約 20cm の深さで赤灰色に焼き締められた粘土層が検出された。段差部分から下方には、床面下から碗が伏せて並べられた施設が検出された。最終床面から約 20cm の深さに、枝状の溝が作られていた。この溝は６本検出された。幅約 15cm で、長さは１本が 90cm で、他の５本は 1.5m～1.8mであった。この溝はそれぞれ分焔柱基部付近で合流し、右通焔孔から焼成室へ続いていた。それぞれの溝には、碗が伏せて並べられ、その上を砂で覆って、溝のある部分に木材が敷かれていた。木材はすべて炭化していた。またこの木材のまわりには、隙間を埋めるように碗が伏せて敷き詰められていた。碗のなかには、熔着したものも認められた。

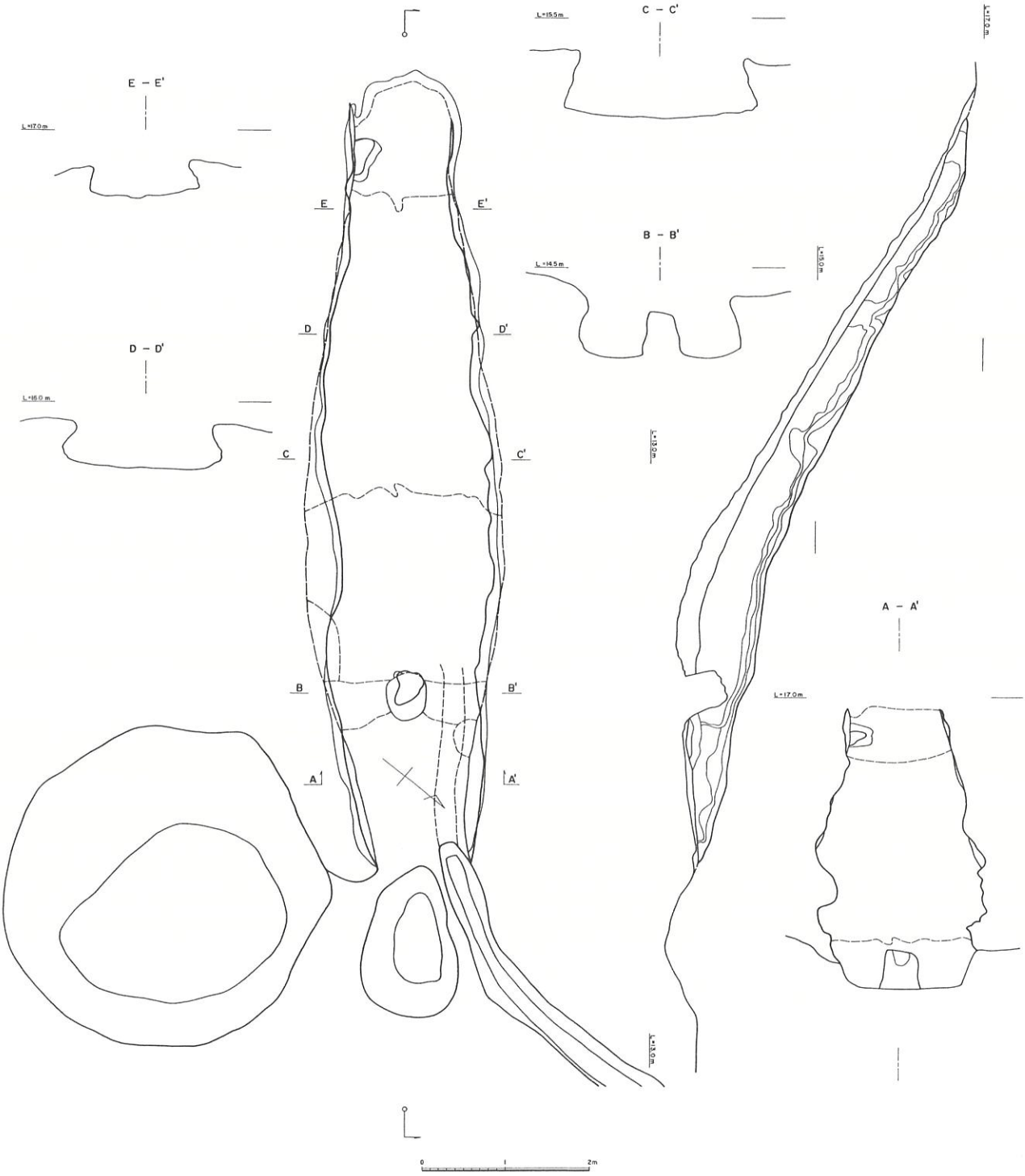
煙道部は床面の幅 1.1m、長さ約 50cm が残存していた。床面は赤褐色を呈しているが、遺存状態は良好ではなかった。



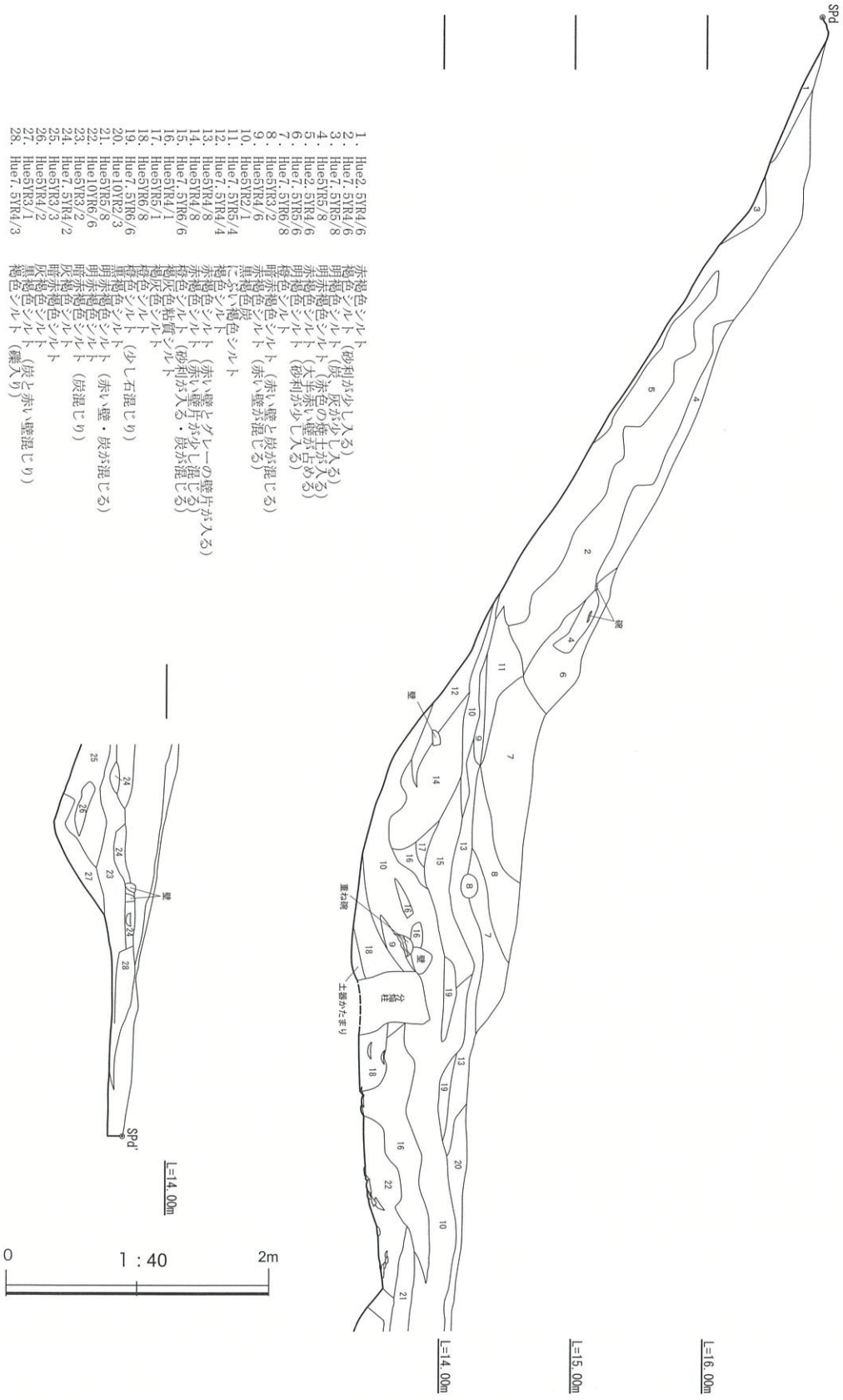
1：200

0 1 5 10m

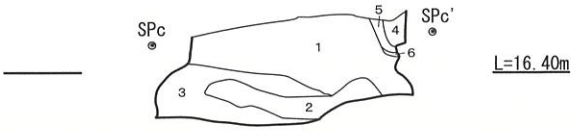
第６図　遺構配置図



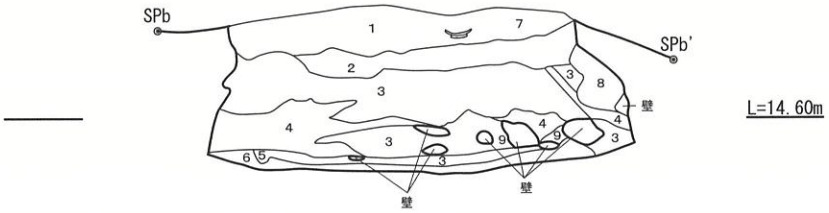
第７図　１号窯窯体実測図



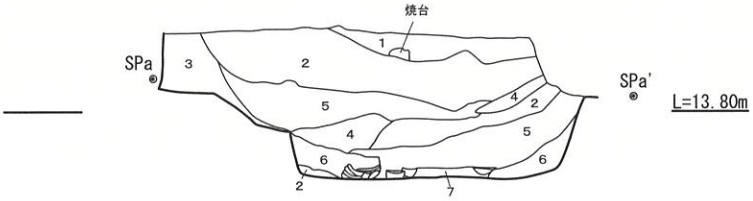
第８図　１号窯埋土セクション図１



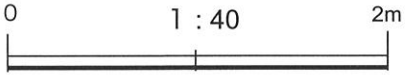
1．Hue7.5YR4/6　褐色シルト（砂利混じり、粘る）
2．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト（薄く炭が入る、砂利入り）
3．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト（粘る）
4．Hue2.5YR4/6　赤褐色シルト
5．Hue2.5YR5/8　明赤褐色粘土（壁の落ち込み部）
6．Hue2.5YR4/1　赤灰色粘土（壁の落ち込み部）



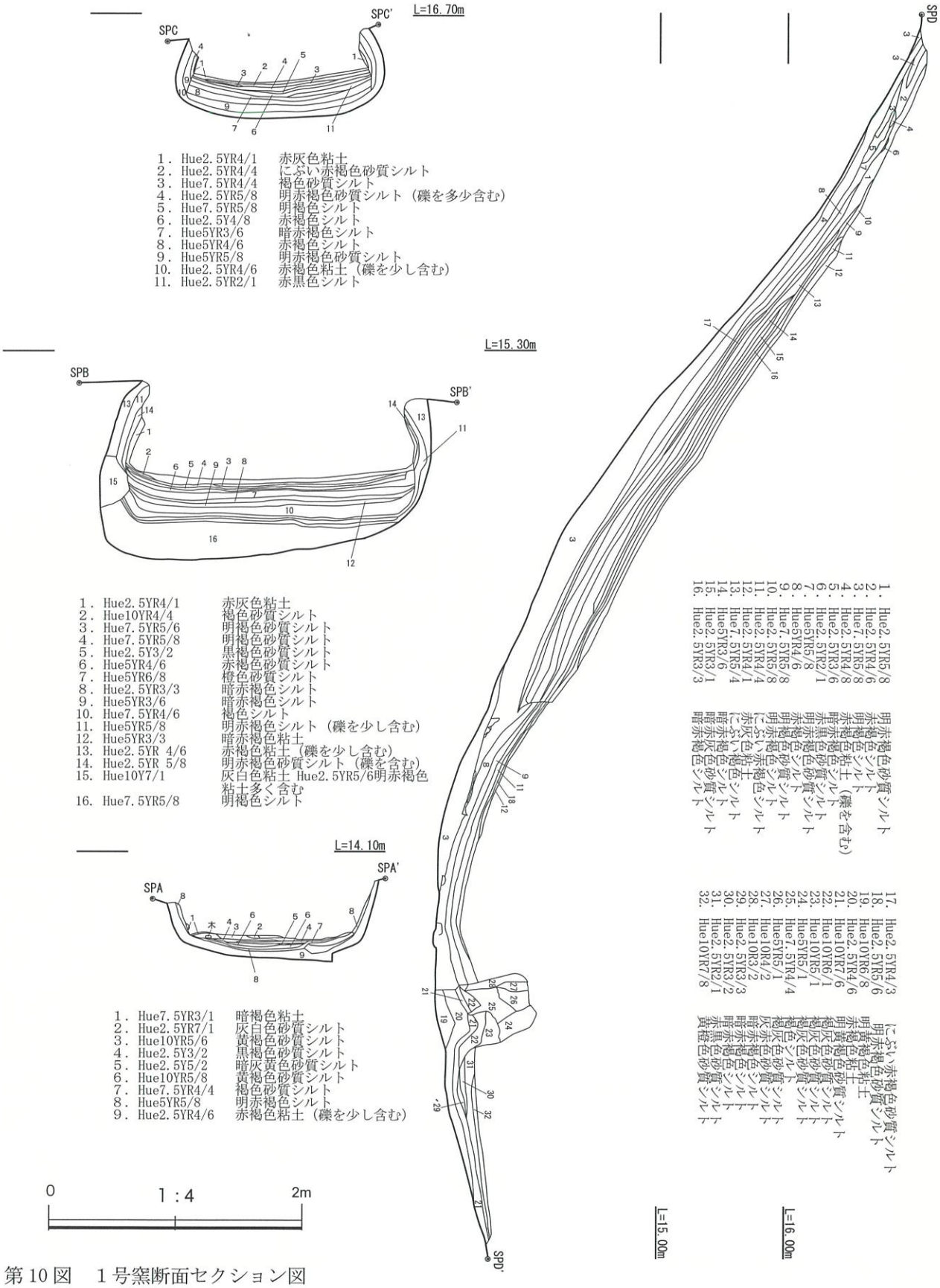
1．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト（粘る）
2．Hue10YR5/6　黄褐色シルト（粘る）
3．Hue10YR5/8　黄褐色シルト（粘る）
4．Hue2.5YR4/6　赤褐色シルト（粘る）
5．Hue7.5YR1.7/1　黒色シルト（炭層）
6．Hue7.5YR4/4　褐色シルト
7．Hue5YR4/8　赤褐色シルト（小石混じる）
8．Hue10YR5/8　黄褐色シルト
9．Hue5YR4/6　赤褐色シルト（炭が少し入る）



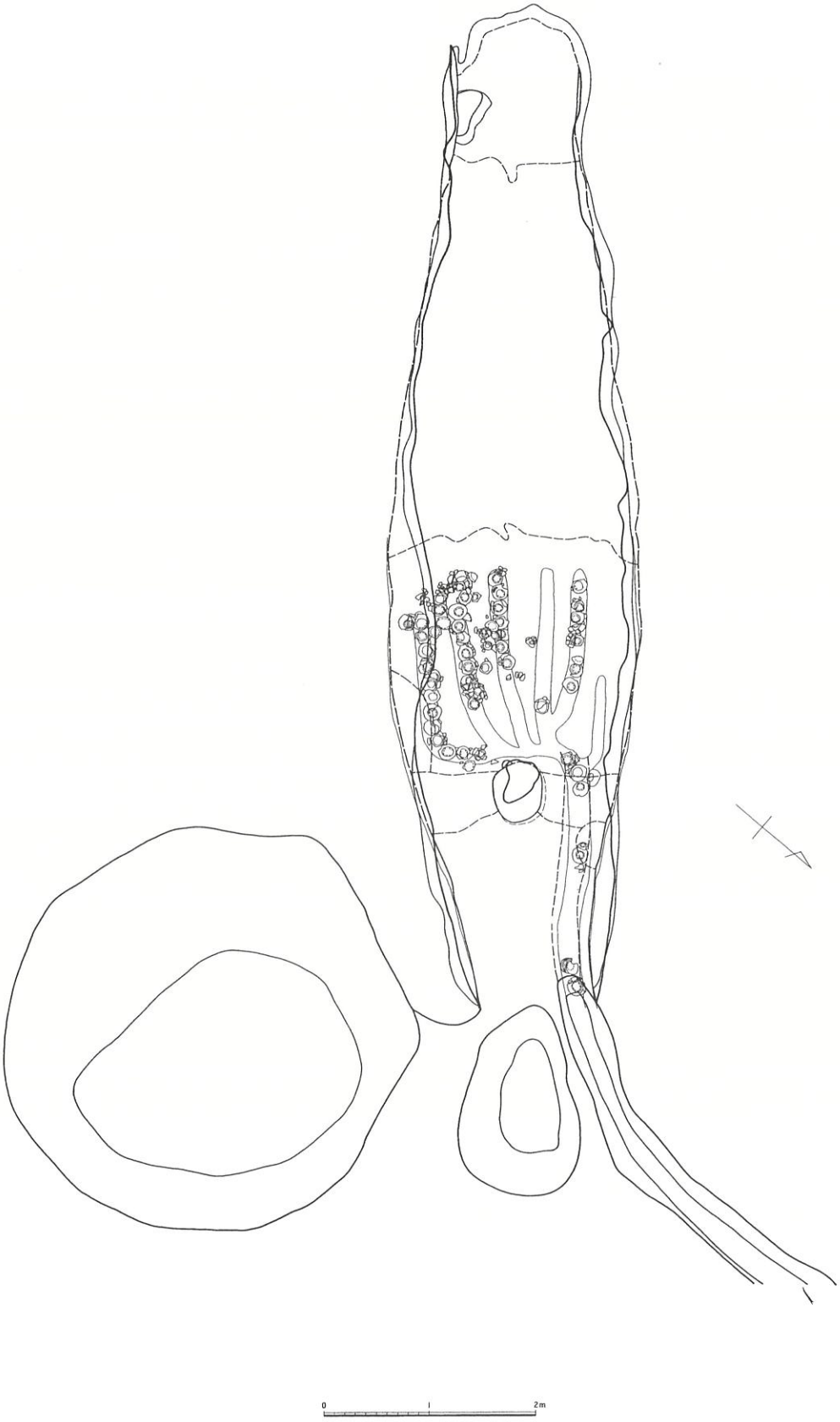
1．Hue7.5YR4/4　褐色シルト（砂利入り、少し粘りがあり、赤い焼土が点々と入る）
2．Hue10YR2/3　黒褐色シルト（炭が目立つ程度に入っている。あまり粘りがない）
3．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト（粘りがある　砂利入り）
4．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト（若干、炭が入る）
5．Hue10YR3/3　暗褐色シルト（炭と焼土が同程度入る。大きい石が少し散ばる）
6．Hue7.5YR4/6　褐色シルト（赤い焼土）
7．Hue7.5YR5/2　灰褐色シルト（遺物を含む細積層）



第９図　１号窯埋土セクション図２

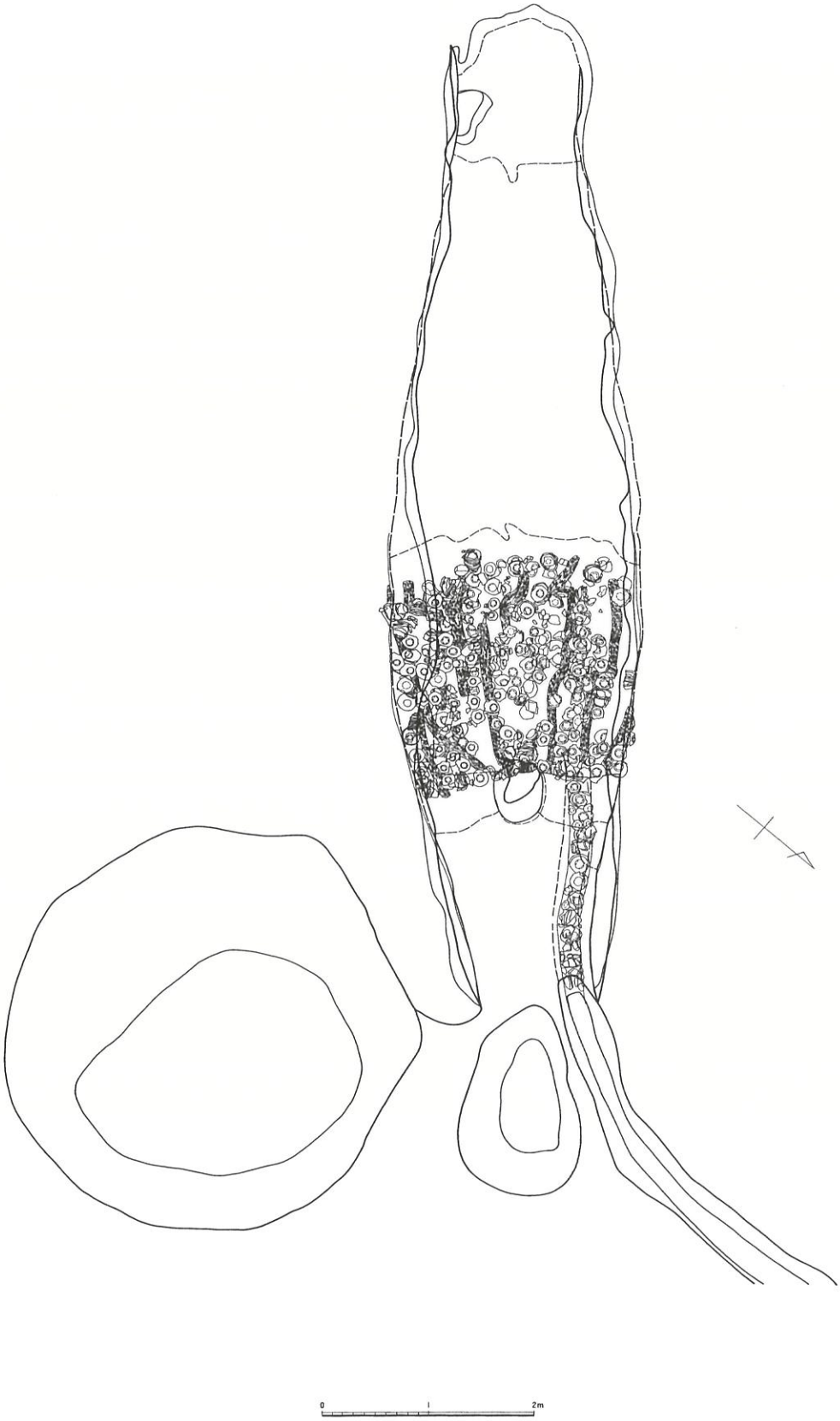


第10図　1号窯断面セクション図

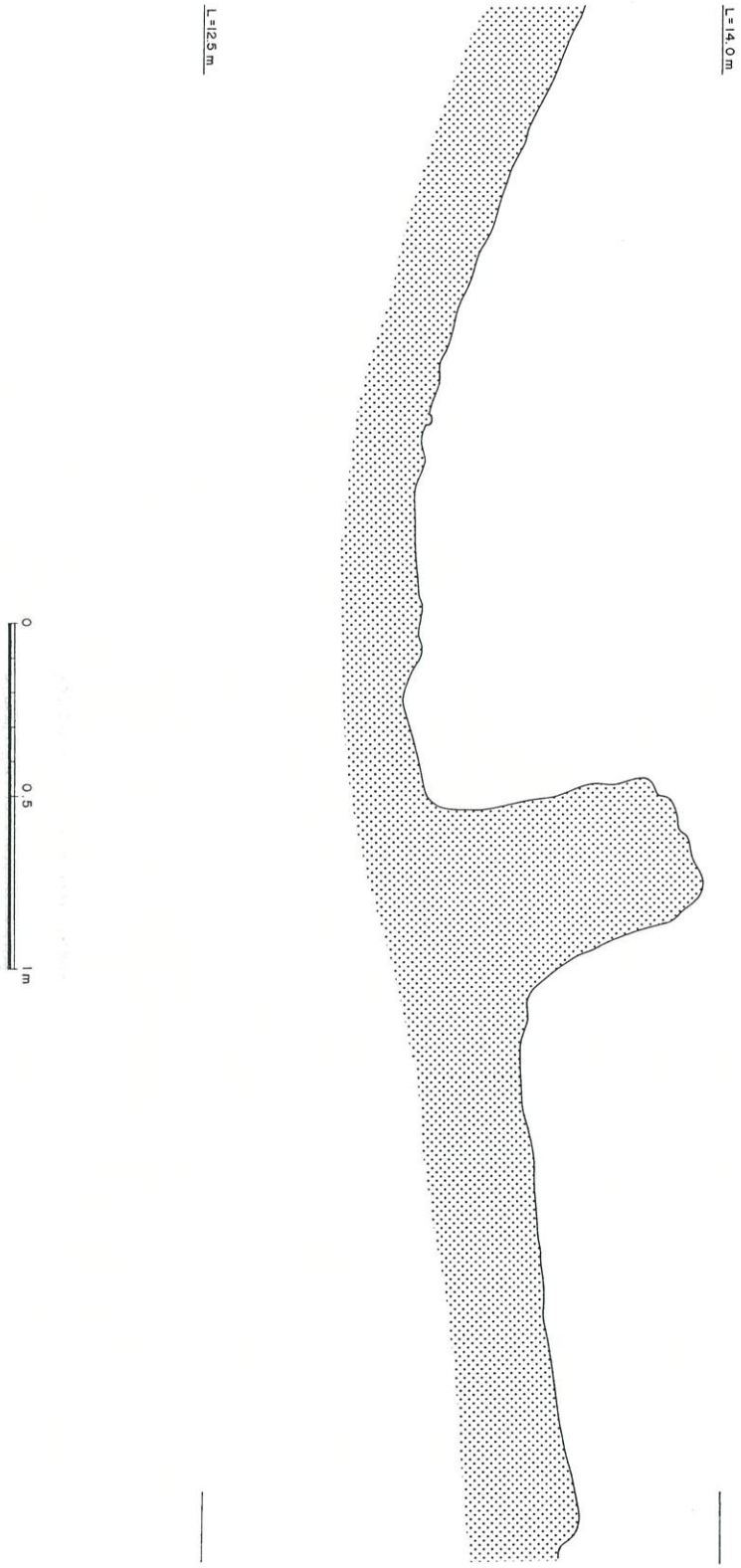


第 11 図　1 号窯床面下施設一次面平面図

第 12 図　1 号窯床面下施設一次面断面図



第 13 図　1 号窯床面下施設二次面平面図



第14図　1号窯床面下施設二次面断面図

写真３　１号窯完掘全体　北東から

写真４　１号窯断割全体　北東から

写真５　１号窯埋土縦ベルト　南東から

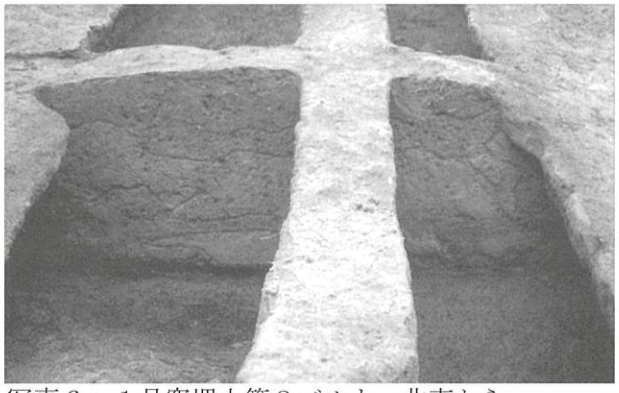


写真６　１号窯埋土第２ベルト　北東から

写真７　１号窯断割第３ベルト　北東から

写真８　１号窯断割第１ベルト　北東から

２号窯

本窯は１号窯の北西約 2.5mの地点に位置し、１号窯にほぼ並行に築窯されていた。１号窯同様、煙道部の一部と焼成室から焚口までほぼ完全に残存していた。窯体の残存長は 10.9mである。窯体は焚口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はＳ－53°―W、標高は 17.1m～13.4mである。

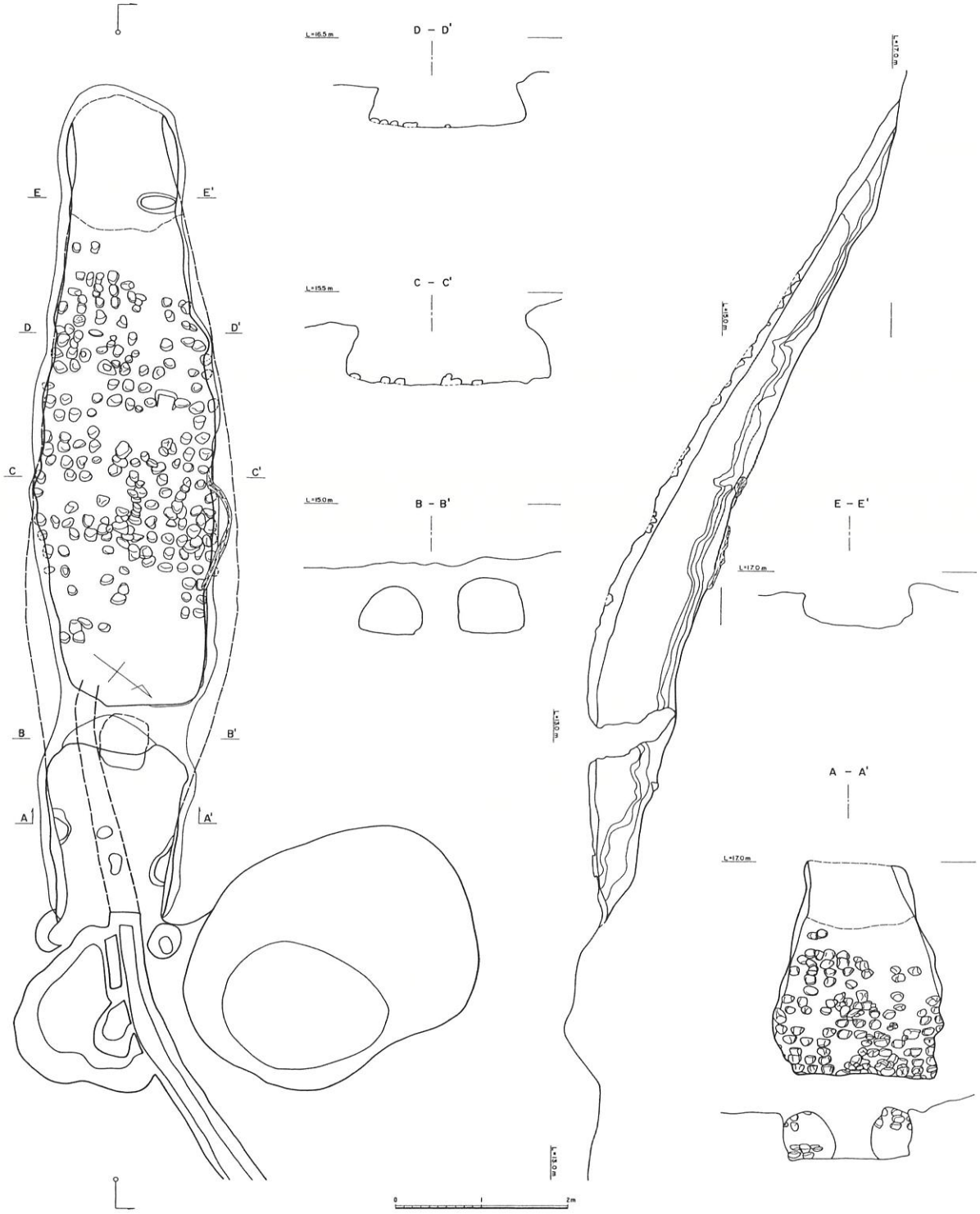
焚口から燃焼室までの遺存状態は良好である。側壁も左右両方とも焚口まで残存しており、焚口の幅 1.2m、燃焼室の幅は分焔柱基部で 1.75m、燃焼室の長さは分焔柱基部まで 1.75mである。燃焼室の床面傾斜は、分焔柱基部から 20cm までは 3°の傾斜で上昇し、そこから 70cm までは７°、それ以降は 15°の傾斜で上昇している。床面は灰褐色で焼き締っており、側壁は赤褐色を呈し、高いところで約 80cm が残存している。燃焼室の床面下には排水溝と思われる溝（SD01）が１号窯同様検出された。この溝（SD01）は左通焔孔部分から始まり、燃焼室中央部を通り焚口のやや右側から出て、前庭部へと続いている。床面の下約 30cm の位置に作られており、溝の幅約 30cm、深さは約 20cm で、溝の中には熔着した碗が多く詰められていた。

分焔柱は後で作られたものであるが、天井部まで残存している。基底部は幅 56cm・奥行 62cm でほぼ四角形を呈しており、上部になるにつれてやや広がりながら天井部につながっている。分焔柱中央部での床面幅は 1.95m、通焔孔は右が高さ 65cm、床面幅 70cm で、最大幅は 72cm である。左通焔孔は高さ 56cm、床面幅 65cm、最大幅 72cm である。また残存している天井部の上部までの高さは、床面から 1.05mであった。

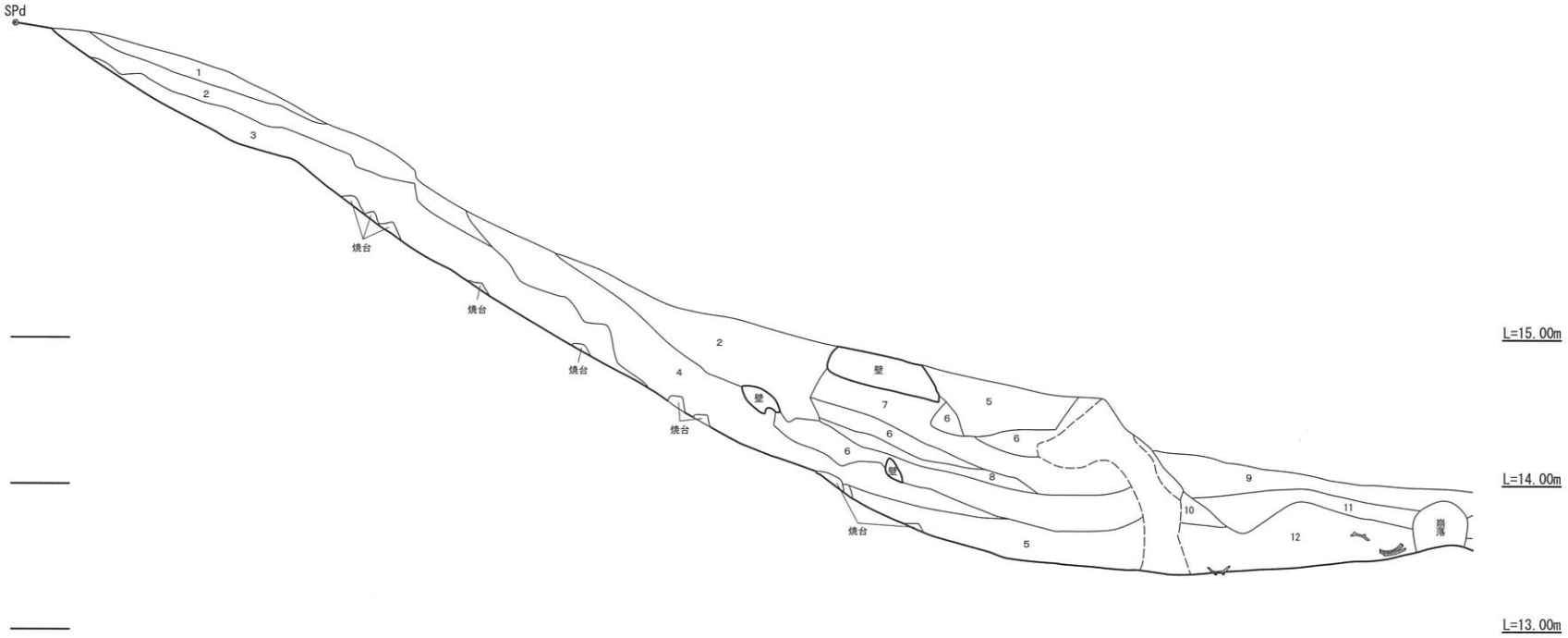
焼成室はセンターライン上で 7.6m、側壁は高いところで約 1mを残す。床面の傾斜は、分焔柱から 20cm の地点まで 7°の傾斜で下降し、そこから 60ｃｍの地点までは 5°の傾斜で上昇し、そこから 80cm の地点までは 16°、1.1mの地点まで 25°の傾斜で上昇していく。そこから 3.7mの地点までは 32°の急傾斜で上昇し、それ以降は 17°で上昇していく。床面と側壁はともに灰黒色を呈しよく焼き締っている。また床面は特に堅く焼き締っており、焼台も多数が残存していた。

焼成室の床面の断割り調査を行なったところ、１号窯と同様に床面下施設が検出された。床面下施設は分焔柱基部から約 2mの範囲にわたって２層に施されていた。二次面はほぼ全面にわたって碗が伏せて並べられていたが、一次面ではところどころに碗が伏せられていた。二次面は最終床面から約 20cm の深さで暗赤褐色に焼き締められたシルト層があり、そこから約 10ｃｍの深さで赤色に焼き締められた粘土層が検出された。二次面では全面にわたり碗がきれいに伏せて並べられており、左通焔孔部分から排水溝へと続いていた。１号窯とは異なり、木材などで作られた溝などの遺構は検出されなかった。

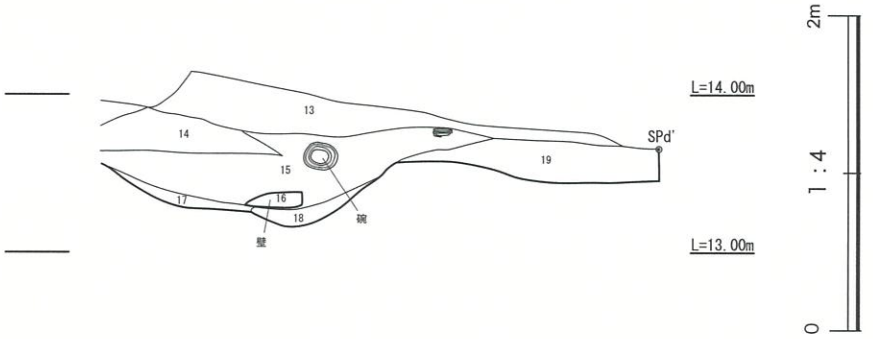
煙道部は、床面の幅 1.1m、長さ約 50cm が残存していた。床面は赤褐色を呈しているが、遺存状態は良好ではなかった。



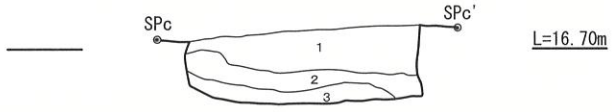
第15図　2号窯窯体実測図



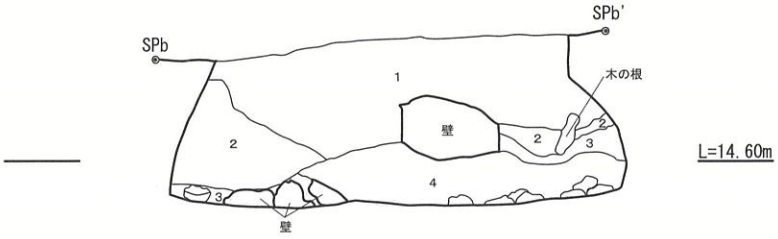
1．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト
2．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト
3．Hue5YR5/8　明赤褐色シルト（2～4mの範囲に大量の壁が入っている）
4．Hue5YR4/8　赤褐色シルト（砂利混じり）
5．Hue7.5YR6/8　橙色シルト
6．Hue5YR5/6　明赤褐色シルト
7．Hue7.5YR4/6　褐色シルト
8．Hue7.5YR4/4　褐色シルト（砂利混じり）
9．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト（2cm大の礫が少し入る）
10．Hue7.5YR4/6　褐色シルト（炭化物・壁が多少入る）
11．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト（1cm大の礫が多く入る・壁が多少入る）
12．Hue7.5YR4/6　褐色シルト（焼台の塊・礫入る）
13．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト
14．Hue10YR4/6　褐色シルト
15．Hue10YR3/3　暗褐色シルト（炭入り）
16．Hue2.5YR4/8　赤褐色シルト（壁）
17．Hue10YR5/8　黄褐色シルト
18．Hue10YR3/4　暗褐色シルト
19．Hue10YR5/6　黄褐色シルト（礫混じり）



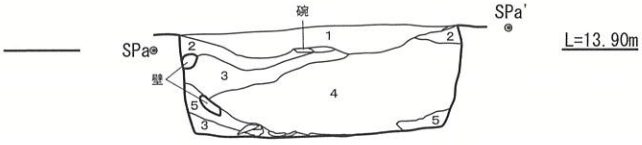
第16図　2号窯埋土セクション図1



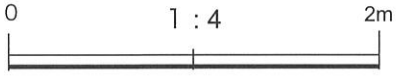
1．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト
2．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト
3．Hue5YR4/8　明赤褐色シルト



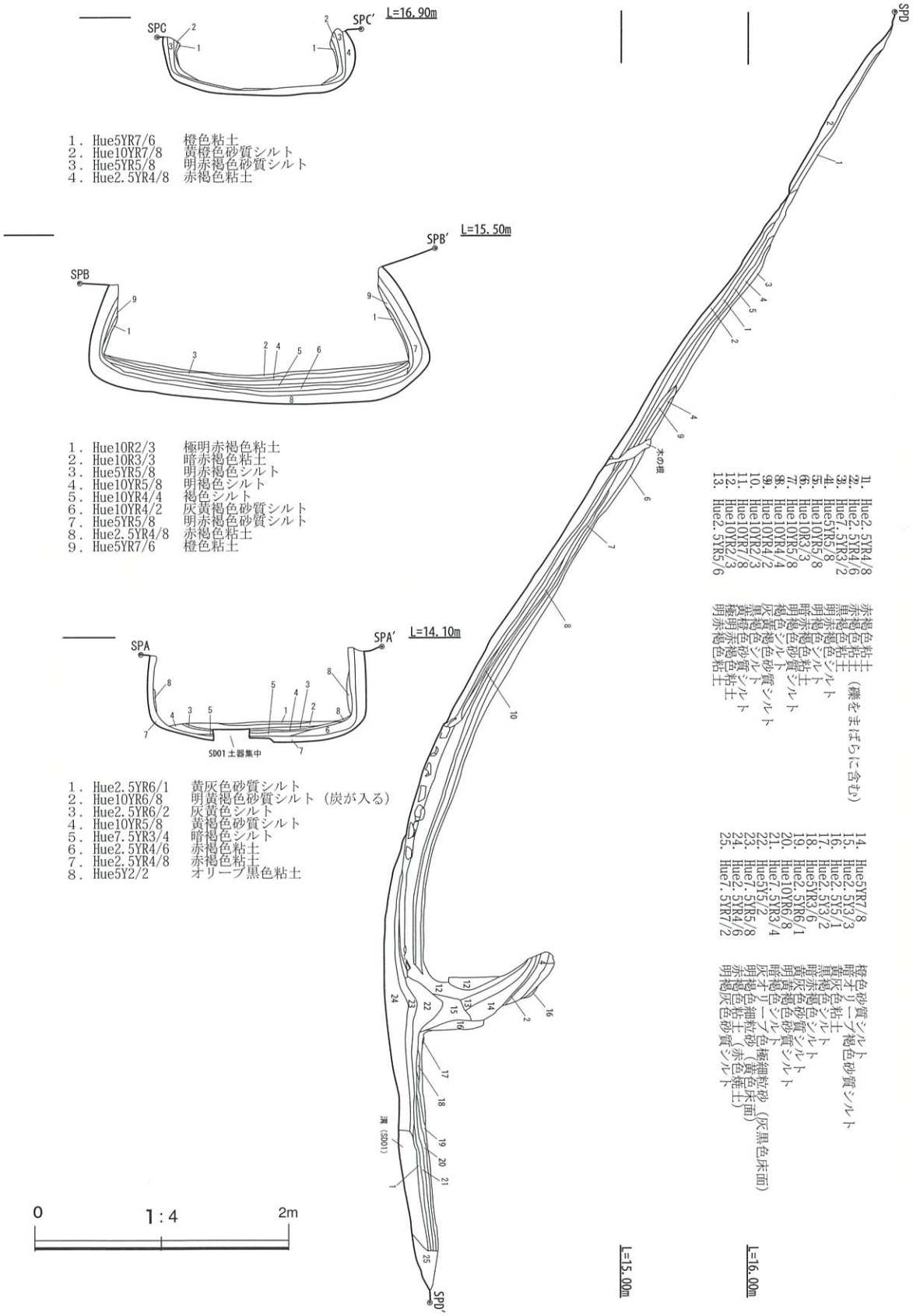
1．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト
2．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト
3．Hue5YR4/8　赤褐色シルト
4．Hue7.5YR4/6　褐色シルト



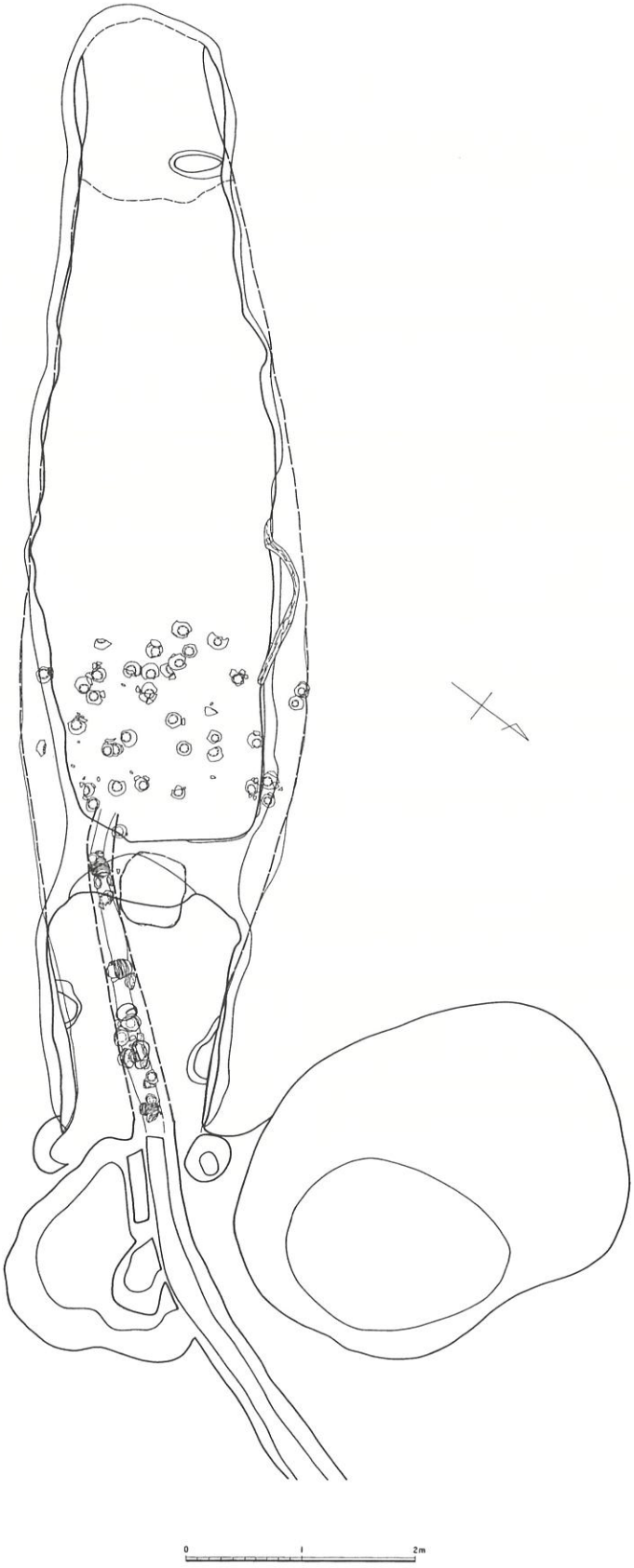
1．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト
2．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト
3．Hue7.5YR4/2　灰褐色シルト
4．Hue7.5YR4/2　灰褐色シルト（壁落ち込み層）
5．Hue7.5YR5/4　にぶい褐色シルト



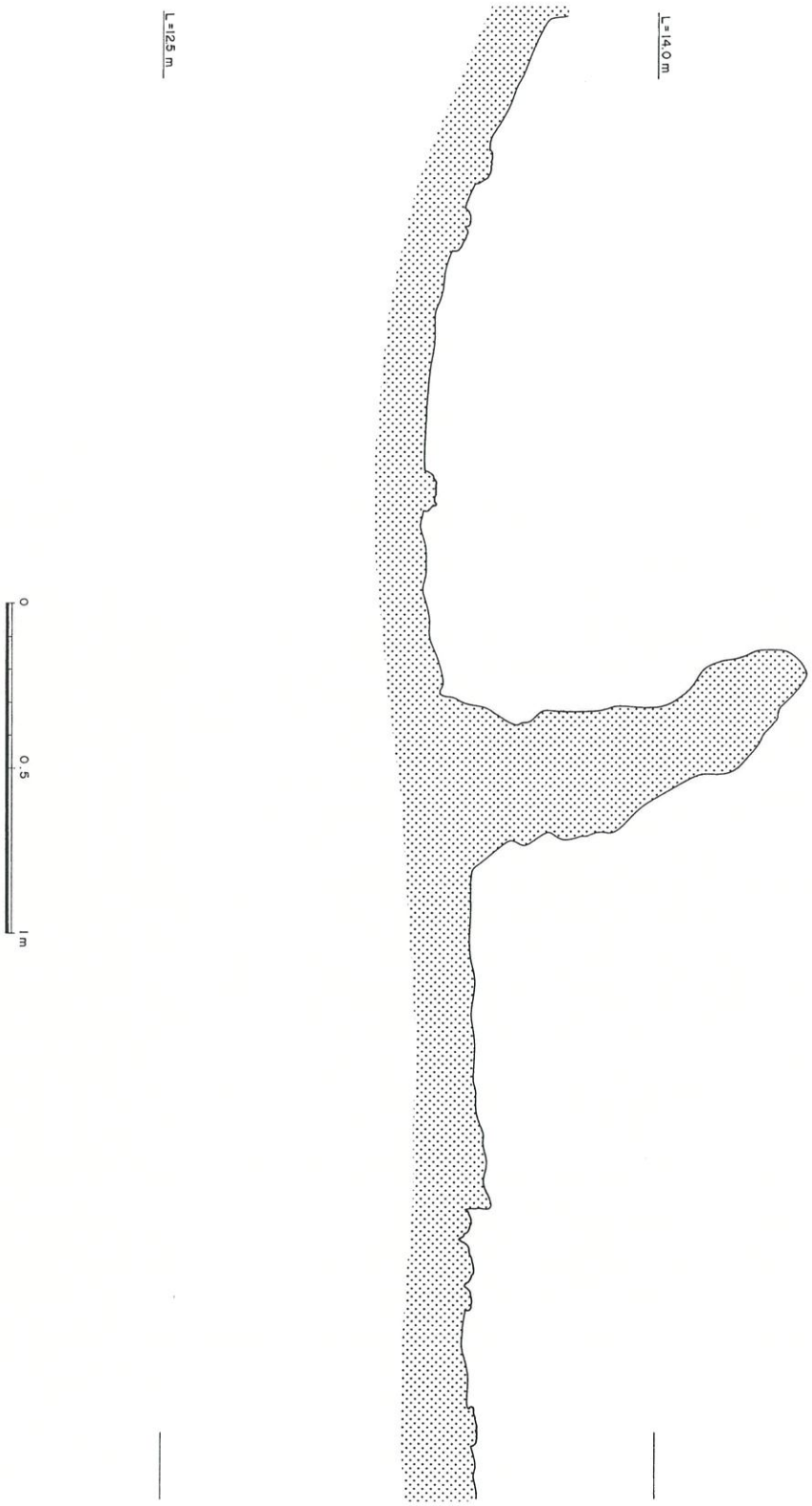
第17図　２号窯埋土セクション図２



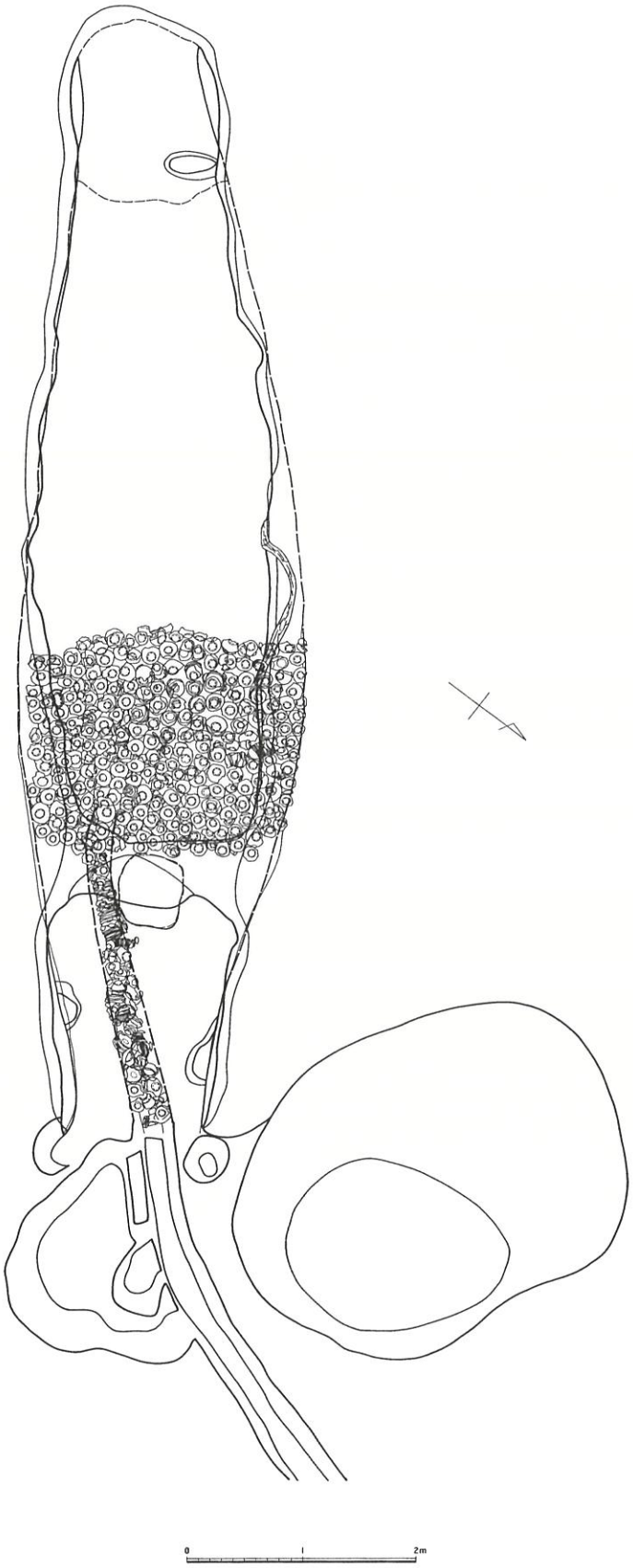
第18図　２号窯断面セクション図



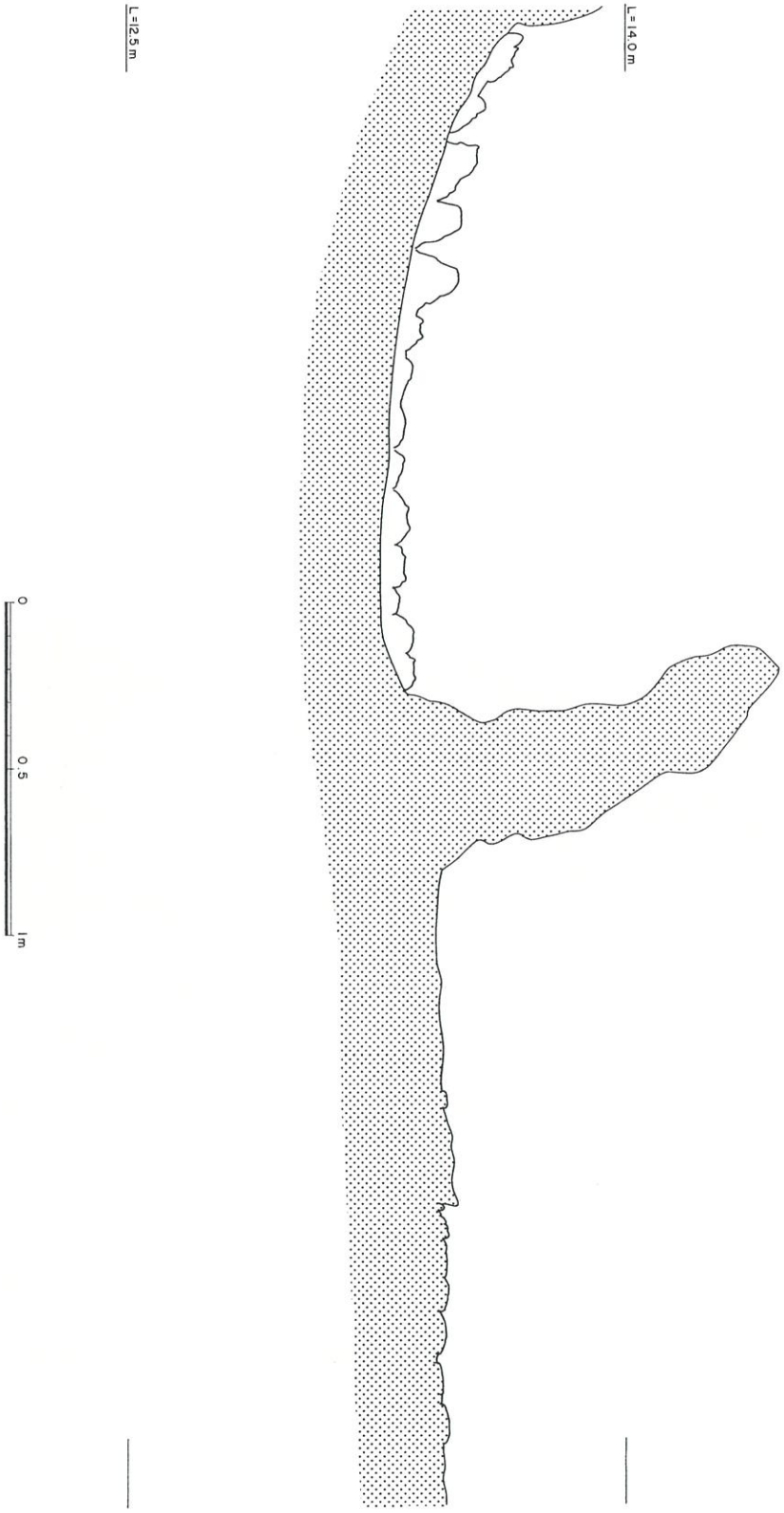
第 19 図　2 号窯床面下施設一次面平面図



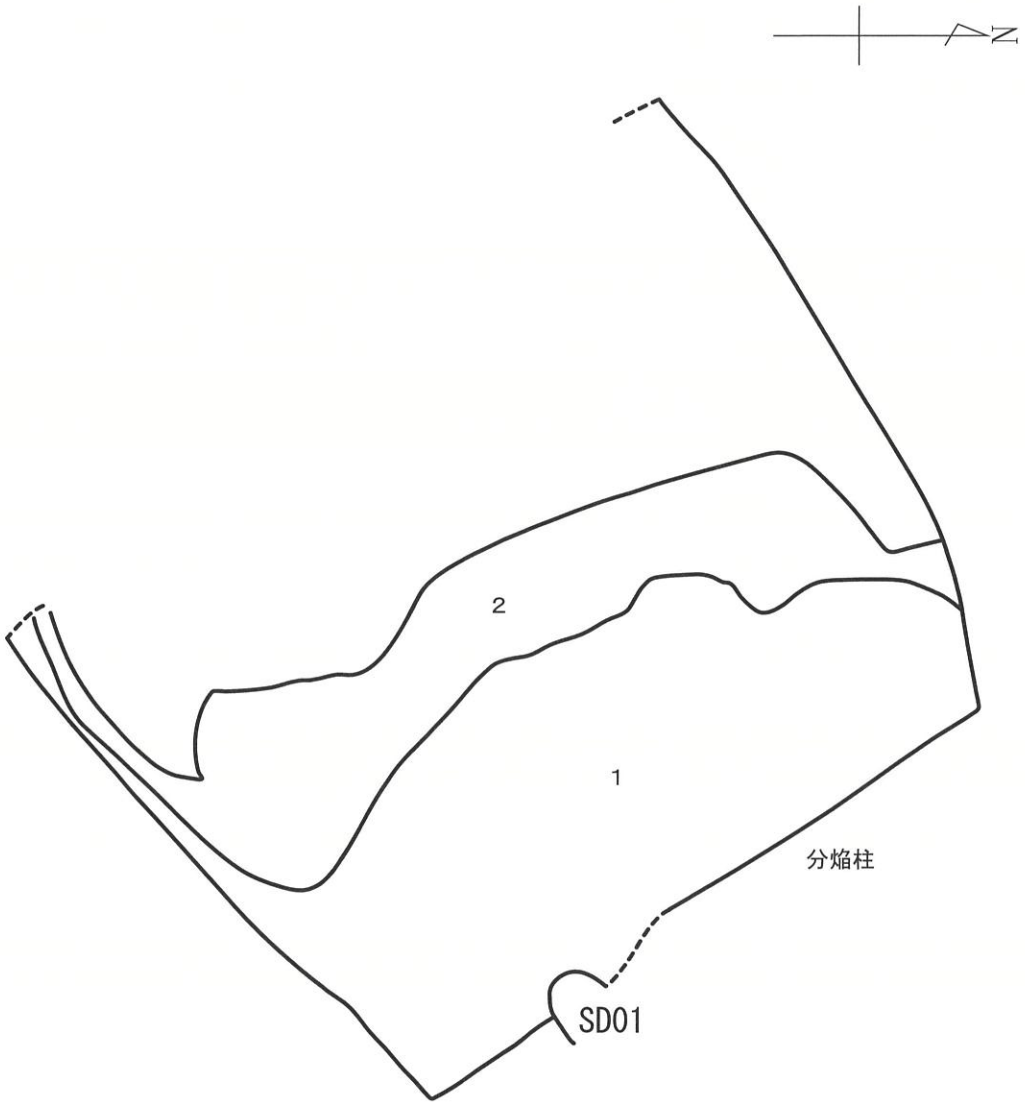
第 20 図　2 号窯床面下施設一次面断面図



第21図　2号窯床面下施設二次面平面図



第22図　2号窯床面下施設二次面断面図



1．床面残り
2．焼土

第 23 図　2 号窯床面下施設最終床面図

写真９　２号窯完掘全体　北東から

写真 10　２号窯断割全体　北東から

写真 11　２号窯埋土第１ベルト　北東から

写真 12　２号窯断面第３ベルト　北東から

写真 13　２号窯断割第１ベルト　北東から

写真 14　２号窯分焔柱断割　南東から

第２節　前庭部と灰原について

本古窯跡群の２基の窯体については、遺存状態は良好であった。前庭部もほぼ良好に残存していたが、前庭部末端から灰原にかけては、後世の耕作や土木工事による削平が激しく、特に灰原部分は末端部分がほとんど滅失していた状態であったが、調査結果や地形などから第 27 図の灰原位置図のように推定した。およそ灰原は傾斜にそって扇状に広がっていたと思われる。

前庭部及び灰原は１号窯と２号窯と共用されていたと思われる。前庭部の広さは幅約 12m、長さは約 9mが残存している。窯体の焚口から約 4mの地点まではほぼ平坦で、そこから緩やかに下降し、そこから 3mの地点から急激に下降していく。

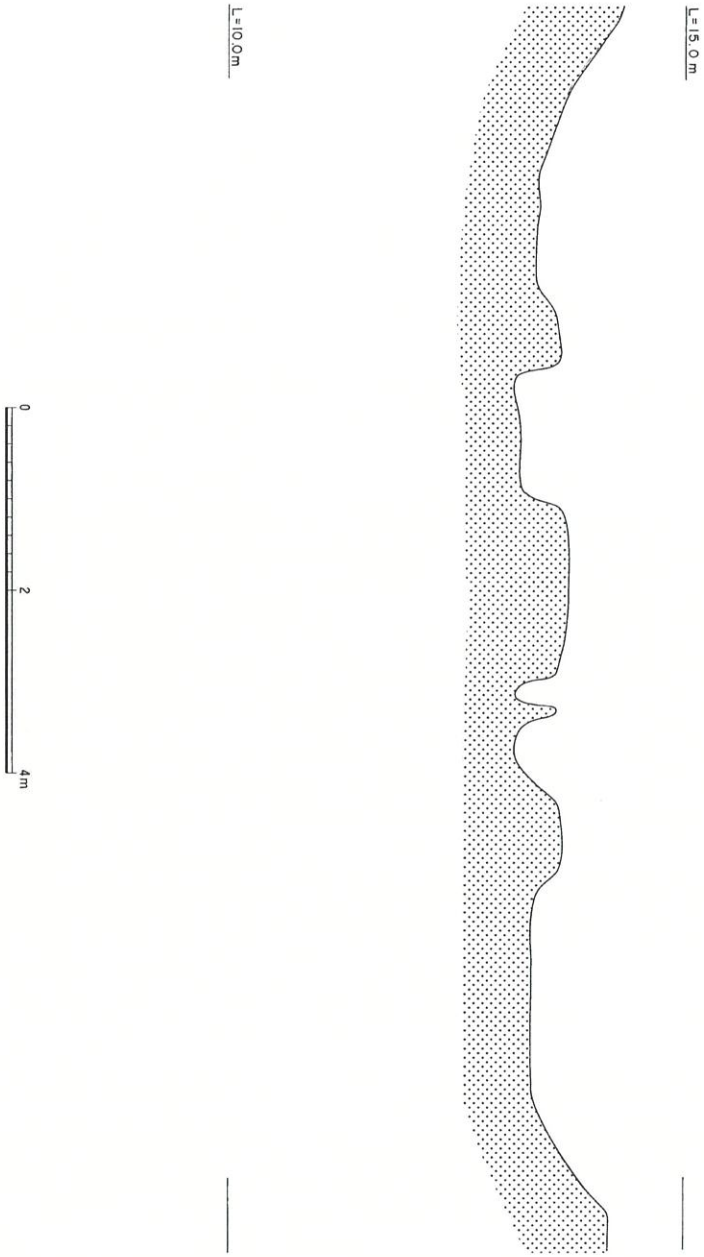
１号窯の焚口手前に作業用と思われるピット(SK04)が検出された。1.8m×1.1mの楕円形で、深さは 35cm である。焚口の南東からは、焚口に接するように大型のピット(SK02)が検出された。3.8m×3.9mのほぼ円形で、底部は 2.1m×2.7mで平坦になっており、深さは 60cm であった。焚き口の右側壁に沿って作られた排水溝(SD02)は、作業用のピット(SK04)と重なることなく前庭部へと続いている。

２号窯の焚口手前にも作業用と思われるピット(SK05)が検出された。このピット(SK05)は排水溝(SD01)の上部に作られていたため、ピット(SK05)は一部壊れていた。残存している長さは 1.8m、幅は 1.2mの半円形で、深さは 60cm であった。焚口の北面には焚口に接するように大型のピット(SK01)が検出された。2.7m×3.5mの楕円形で、底部は 1.4m×1.95mで平坦になっており、深さは 55cm であった。燃焼室を横切るように設置された排水溝(SD01)は、作業用(SK05)ピットの下部を通り前庭部へと続いている。

１号窯と２号窯から出る２本の排水溝は、やや蛇行しながらほぼ並行に続いている。１号窯の排水溝(SD02)は、幅約 40～50cm、深さ 30～40cm、長さ約 8m、２号窯の排水溝(SD01)は、幅約 40cm、深さ 55cm で、長さ約 7mで、それぞれ灰原部にまで至っている。２本の排水溝とも内部には熔着した碗の他、焼台や側壁の破片などが敷かれていた。

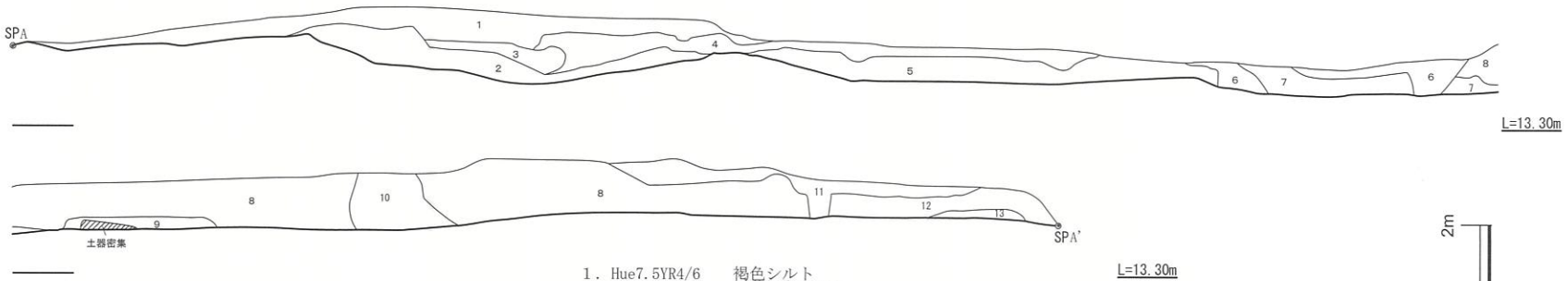
写真 15　１号窯前庭部　北から

写真 16　２号窯前庭部　東から



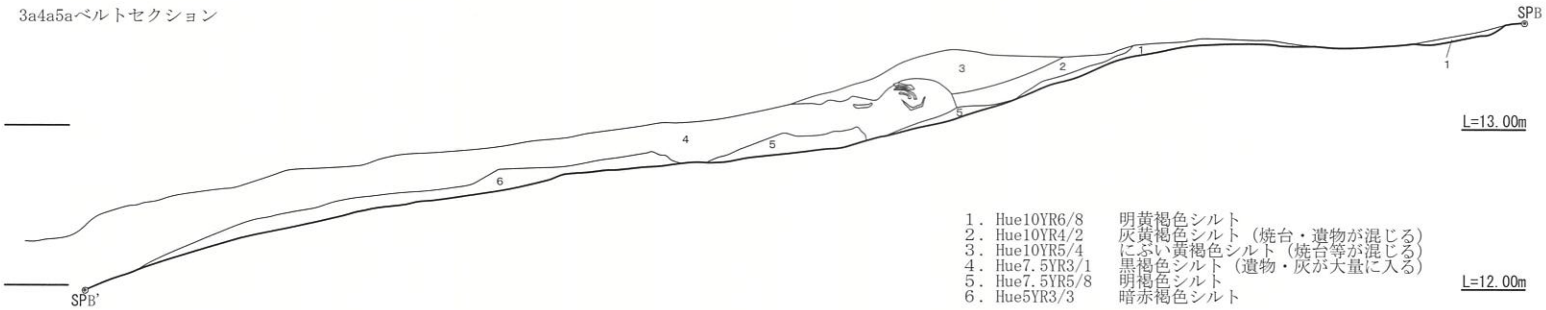
第 24 図　前庭部断面図

大ベルトセクション



1．Hue7.5YR4/6　褐色シルト
2．Hue10YR6/6　明黄褐色シルト
3．Hue5YR4/2　灰褐色シルト（焼台・ヘキ混じり）
4．Hue5YR2/1　黒褐色シルト（少し遺物が混じる）
5．Hue10YR5/8　黄褐色粘質土
6．Hue5YR4/4　にぶい赤褐色シルト
7．Hue7.5YR4/3　褐色シルト
8．Hue7.5YR4/2　灰褐色シルト
9．Hue7.5YR3/3　暗褐色シルト（土器包含）
10．Hue7.5YR3/2　黒褐色シルト（土器包含）
11．Hue10YR5/4　にぶい黄褐色シルト（遺物・砂利が大量）
12．Hue7.5YR4/4　褐色細粒砂
13．Hue7.5YR 3/4　暗褐色細粒砂

3a4a5aベルトセクション



1．Hue10YR6/8　明黄褐色シルト
2．Hue10YR4/2　灰黄褐色シルト（焼台・遺物が混じる）
3．Hue10YR5/4　にぶい黄褐色シルト（焼台等が混じる）
4．Hue7.5YR3/1　黒褐色シルト（遺物・灰が大量に入る）
5．Hue7.5YR5/8　明褐色シルト
6．Hue5YR3/3　暗赤褐色シルト

第25図　灰原セクション図

写真 17　灰原全体　北東から

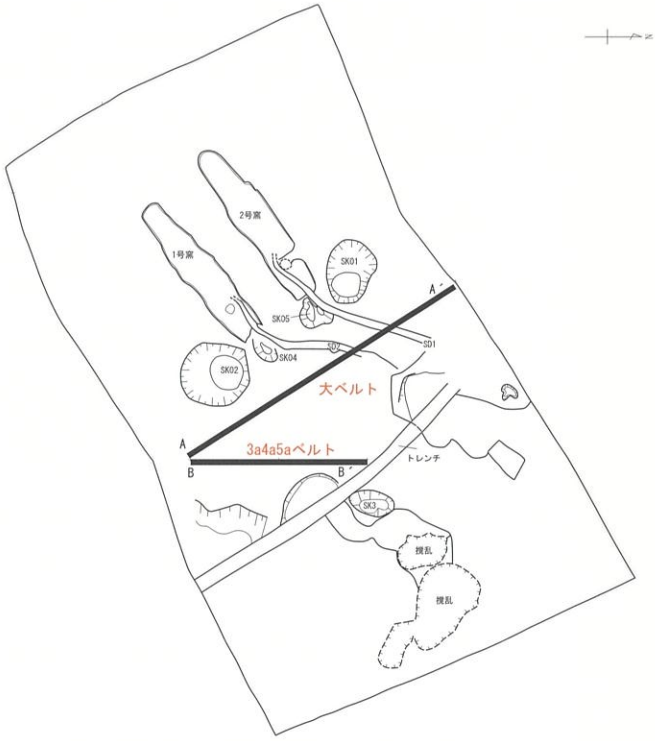
写真 18　3a4a5a ベルト　西から

写真 19　大ベルト部分　南東から

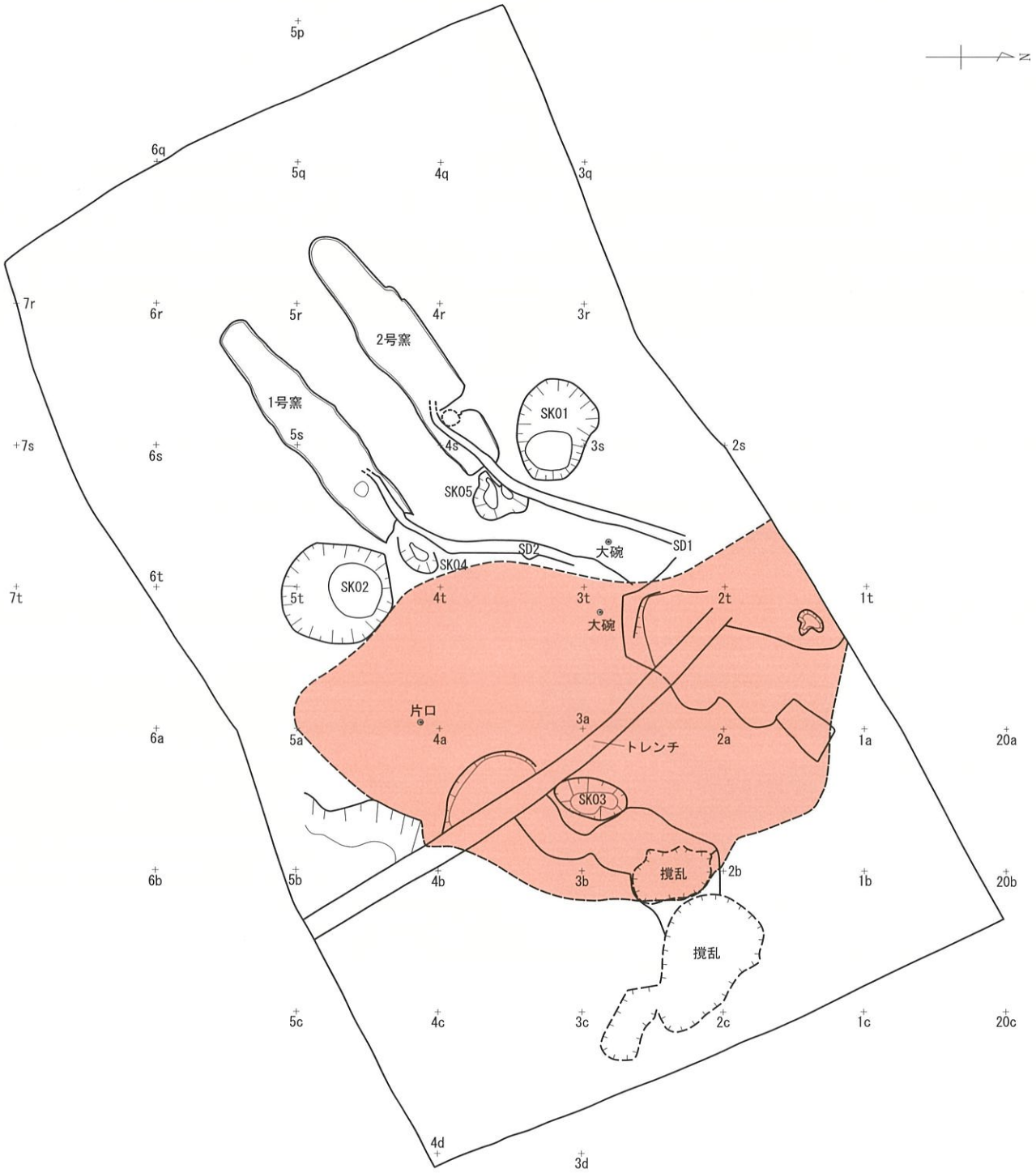
写真 20　3a4a5a ベルト　南西から

写真 21　大ベルト全体　北東から

写真 22　3a4a5a ベルト土器溜り　西から



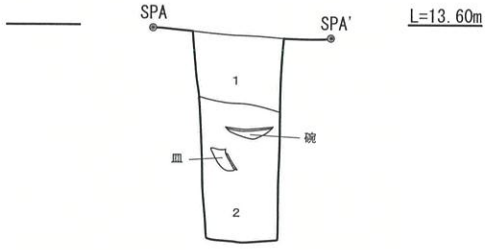
第 26 図　灰原トレンチ略図



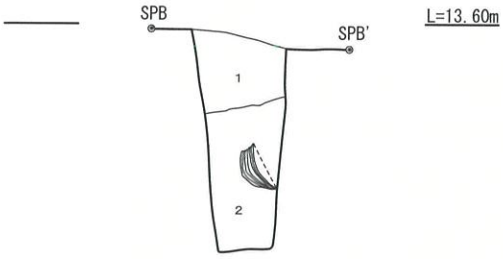
色の部分が灰原推定地

第 27 図　灰原位置図

SD01セクション

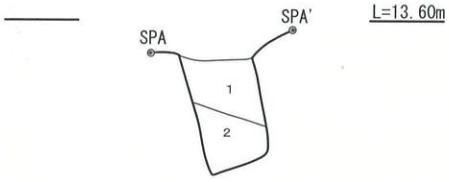


1．Hue10YR5/6　黄褐色シルト
2．Hue10YR3/4　暗褐色シルト

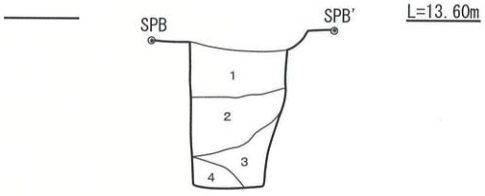


1．Hue10YR5/6　黄褐色シルト
2．Hue10YR3/4　暗褐色シルト

SD02セクション

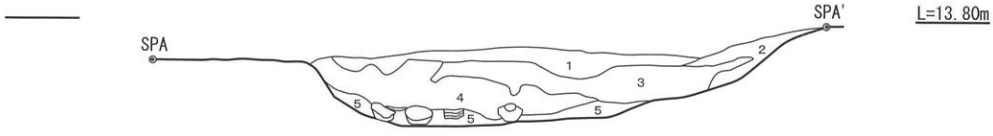


1．Hue7.5YR3/1　黒褐色シルト
2．Hue7.5YR4/2　灰褐色シルト

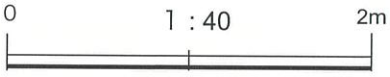


1．Hue7.5YR3/1　黒褐色シルト
2．Hue7.5YR4/2　灰褐色シルト
3．Hue7.5YR6/8　橙色シルト
4．Hue7.5YR5/2　灰褐色シルト

SK02セクション



1．Hue10YR5/6　黄褐色シルト（粘質・小石混じり）
2．Hue7.5YR5/6　明褐色シルト
3．Hue5YR4/1　褐灰色シルト（灰層、壁・焼台少々混入）
4．Hue5YR5/8　明赤褐色シルト
5．Hue10YR6/6　明黄褐色シルト



第28図　SD01・SD02・SK02セクション図

写真 23　SD01 第１ベルト　北東から

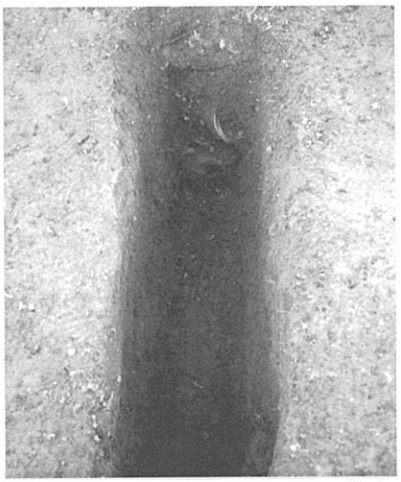


写真 24　SD01 第２ベルト　南東から

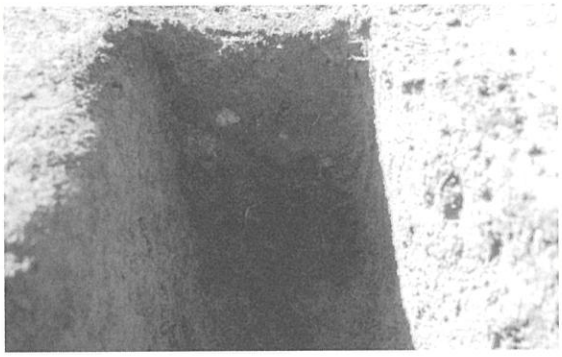


写真 25　SD02 第１ベルト　北から

写真 26　SD02 第２ベルト　南から

写真 27　SD01・02 並び　南西から

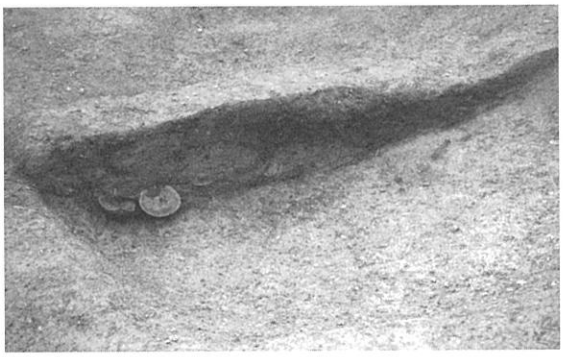


写真 29　SK02 ベルト　西から

写真 28　SD01 完掘状況　北東から

第３章　遺　　物

遺物出土状況

１節　器形分類

今回出土した遺物は容量 36 リットルのコンテナで 290 箱である。器種は碗、皿がほとんどで、他に鉢、伊勢型鍋、これに窯道具として焼台が加わる。この他須恵器の破片が１点出土している。

個体数については碗、皿は底部が 1/2 以上残存するものを１個体とし、他の器種については破片からみて明らかに１個体と判別できるものをカウントした。

また、碗、皿、鉢について器形をもとに分類を行った。

（１）碗

碗は 3955 点と、複数の碗が融着したもの（以後重ね碗と表記）が 796 組出土した。すべて無施釉で灰白色を呈する、いわゆる山茶碗である。

体部と口縁端部の形態により以下のように分類した。

体部

Ａ類　体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるもの

Ｂ類　体部から口縁部にかけて曲線的に立ち上がるもの

Ｃ類　体部が直線的に立ち上がり口縁部付近で外反するもの

Ｄ類　体部が曲線的に立ち上がり口縁部付近で外反するもの

口縁端部

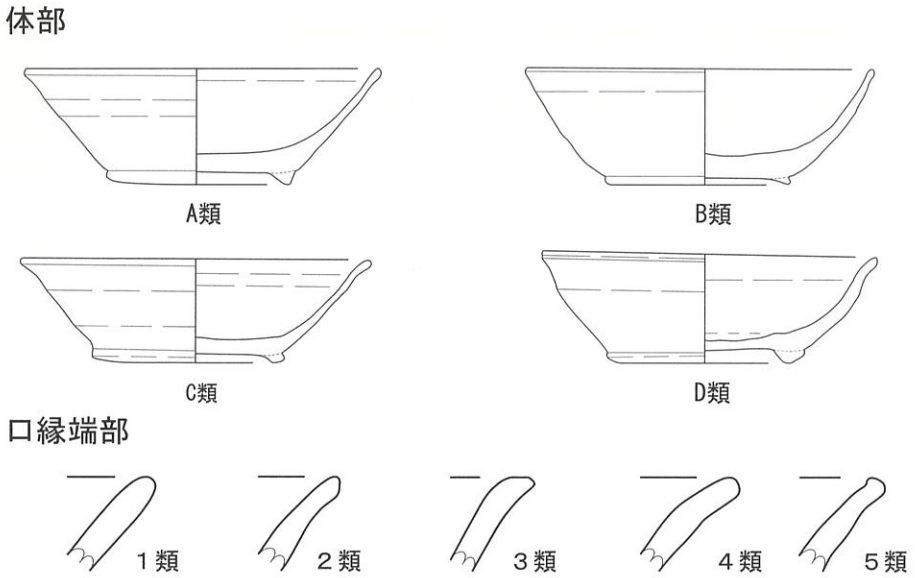
１類　丸みを帯びたもの

２類　端部内側の曲点が外側の曲点より鋭角になるもの

３類　端部内側の曲点が外側の曲点より鈍角になるもの

４類　口縁端部の内側と外側の曲点がほぼ直角になるもの

５類　口縁端部の内側が突起状に張り出るもの



第 29 図　碗類器形分類図

（2）皿

皿は1691点と、複数の皿が融着したもの（以後重ね皿と表記）が337組出土した。碗同様すべて無施釉で灰白色を呈する、いわゆる山皿である。

体部と口縁端部、さらに底部の形態により以下のように分類した。

体部

A類　体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるもの

B類　体部から口縁部にかけて曲線的に立ち上がるもの

C類　体部が直線的に立ち上がり口縁部付近で外反するもの

D類　体部が曲線的に立ち上がり口縁部付近で外反するもの

E類　体部がくの字に屈曲するもの

口縁端部

1類　丸みを帯びたもの

2類　端部内側の曲点が外側の曲点より鋭角になるもの

3類　端部内側の曲点が外側の曲点より鈍角になるもの

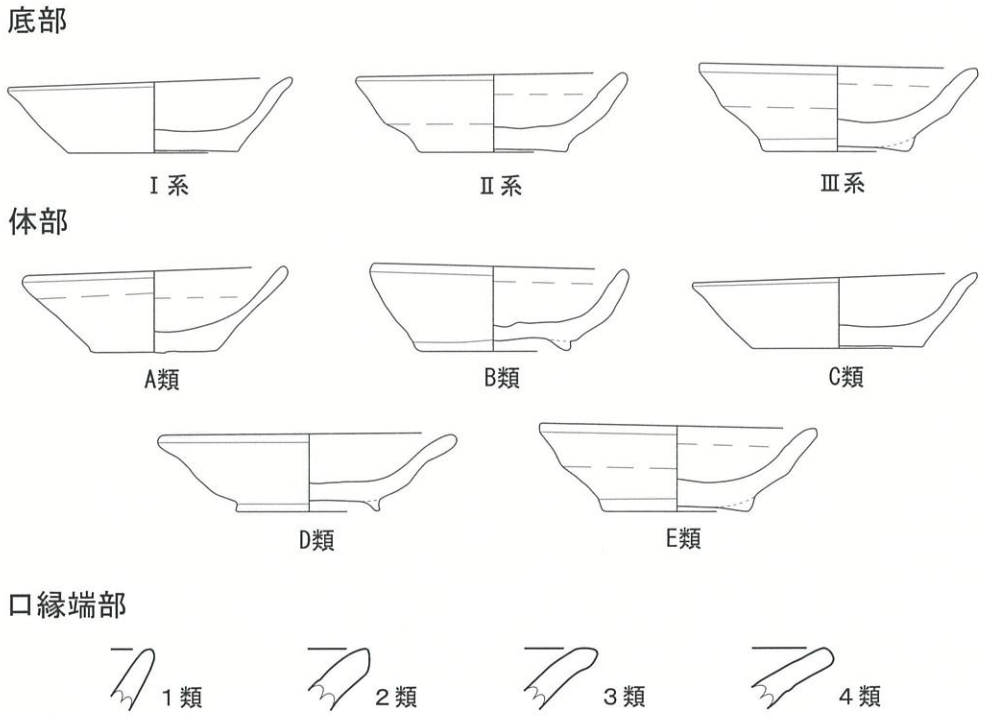
4類　口縁端部の内側と外側の曲点がほぼ直角になるもの

底部

Ⅰ系　高台のないもの

Ⅱ系　底部が円柱状に突出するもの

Ⅲ系　高台のあるもの



第30図　皿類器形分類図

（3）鉢

鉢は破片が 43 点出土し、接合、観察の結果明らかに 1 個体と認められるものが 10 点となり、全て無施釉で灰白色を呈している。

体部と口縁端部の形態により分類した。

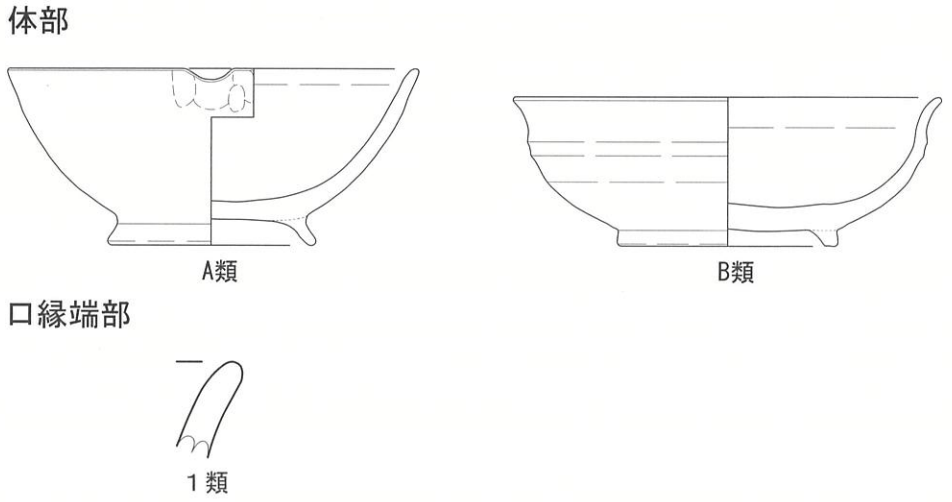
体部

A類　体部から口縁部にかけて曲線的に立ち上がるもの

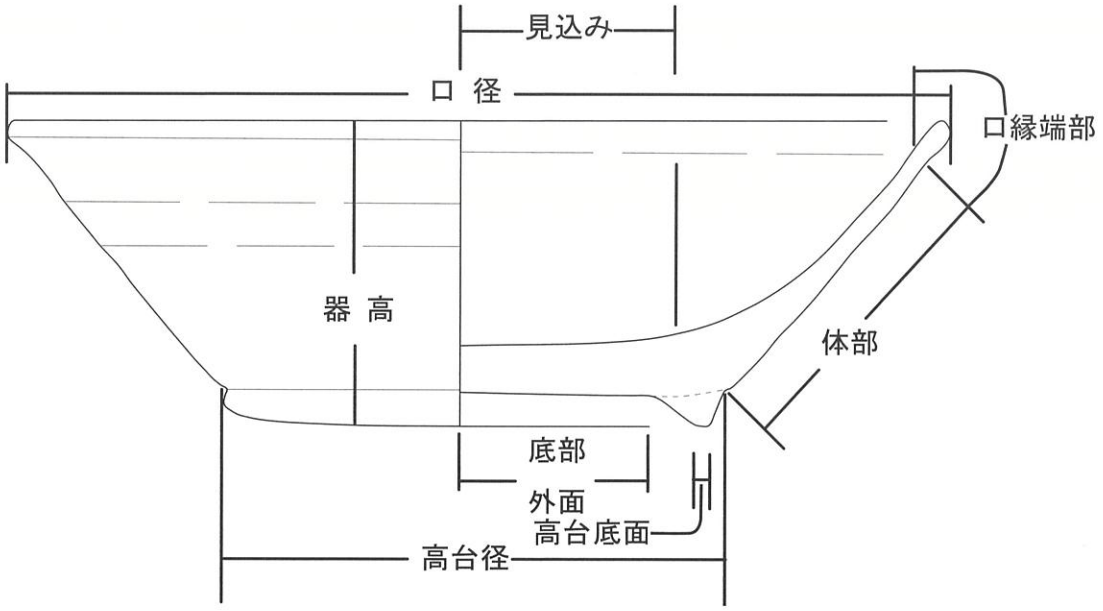
B類　体部が曲線的に立ち上がり口縁部付近で外反するもの

口縁端部

1類　丸みを帯びたもの



第 31 図　鉢類器形分類図



第 32 図　部位等名称図

第２節　　窯内と灰原などの遺物

１号窯に関する遺物

窯内と焚口付近の遺構（SK04）からと床面下施設やそれに伴う溝（SD02）から碗・皿類が出土している。碗類よりも皿類の方が多く出土している。１号窯内には、２号窯とは違い床面に焼台は残されてはいなかった。

碗（第33図）

碗は１号窯内から100点出土しているが、そのうち分類可能なものは80点である。

各部の法量は、平均値で口径16.1㎝、高台径8.3㎝、器高5.0㎝である。最大値は口径17.1㎝、高台径9.3㎝、器高5.5㎝である。最小値は口径15.0㎝、高台径5.2㎝、器高4.4㎝である。高台底面の付着痕は、籾痕が69点（86%）、籾殻・砂痕が11点（14%）である。底面外面の調整痕は、大きく分けて糸切り痕が46点（58%）、糸切り痕後ナデが28点（35%）、ナデが6点（７%）で、殆どの遺物に糸切りが見られた。内面底部の見込みは回転ナデが55点(69%)、横ナデが24点(30%)、不明１点である。胎土は、粘土が均質で最良なものが９点（11%）、砂は混じるが良質なものが70点（88%）、砂粒を多く含んで荒いものが１点である（以後は、最良・良・不良で表記する）。焼成はすべて良であった。

器形分類は、体部がA類１点、B類３点、C類４点、D類72点（90%）でほとんどD類である。口縁端部は、１類67点（84%）、２類12点（15%）、４類が１点で、ほとんどが１類である。体部と口縁端部を組み合わせると、体部がD類で口縁が１類というものが60点あり、窯内の遺物の75%にあたる。これら以外の特徴は、口縁にゆがみがあるものが13点あり、そのうち４点がほぼ完形品であった。

皿（第33図）

皿は窯内から154点出土しているが、そのうち分類可能なものは132点であった。

各部の法量は、平均値で口径9.0㎝、高台径4.8㎝、器高2.5㎝である。最大値は口径9.7㎝、高台径5.5㎝、器高2.9㎝である。最小値は口径8.5㎝、高台径4.1㎝、器高2.0㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するものが50点（39%）のうち籾痕44点（33%）、籾殻・砂痕６点（4%）である。底面外面の調整痕は、糸切り痕が81点（61%）、糸切り痕後ナデが42点（32%）、ナデが３点、不明が６点であった。内面底部の見込みは、回転ナデが103点（78%）、横ナデが17点（13%）、コロシが３点（2%）、不明が９点（7%）である。胎土と焼成は全て良である。

器形分類は、高台がⅠ系31点（24%）、Ⅱ系49点（37%）、Ⅲ系52点（39%）で、Ⅰ・Ⅱ系を足すと付高台が無いものが61%を占め、高台を有するものより多くあった。体部はA類８点（6%）、B類１点、C類19点（14%）、D類59点（45%）、E類45点（34%）である。口縁端部は、１類69点（52%）、２類63点（48%）で、ほぼ半々の数値である。高台と体部と口縁端部の組合せで多いものは、高台がⅢ系、体部がD類、口縁端部が１類の 14 点であった。その他に、内面体部に段差が入るものが15点、内面底部がくぼむなどして孔が開いて指圧痕が残るものもある。

ＳＫ０４

碗（第 36 図）

碗は遺構から 35 点出土しているが、そのうち分類可能なものは 28 点であった。

各部の法量は、平均値で口径 16.3 ㎝、高台径 8.4 ㎝、器高 5.0 ㎝である。最大値は口径 16.8 ㎝、高台径 9.6 ㎝、器高 5.5 ㎝である。最小値は口径 15.5 ㎝、高台径 7.2 ㎝、器高 4.3 ㎝である。高台底面の付着痕は籾痕 24 点（86%）、籾殻・砂痕 4 点（14%）である。底面外面の調整痕は、糸切り痕 2 点（7%）、糸切り痕後ナデ 20 点（71%）、ナデ５点（18%）、不明 1 点である。内面底部の見込みは、回転ナデ 14 点（50%）、横ナデ 13 点（46%）、不明 1 点である。胎土は、最良 4 点（14%）、良 24 点（86%）である。焼成は、良 25 点（89%）、不良 3 点（11%）である。

器形分類は、体部がＡ類 2 点（7%）、Ｃ類 4 点（14%）、Ｄ類 22 点（79%）である。口縁端部は、１類 27 点（96%）、２類 1 点である。組合せで多かったのは、体部がＤ類、口縁端部が１類の 21 点である。

皿（第 36 図）

皿は遺構から 51 点出土しているが、そのうち分類可能なのもが 47 点であった。

各部の法量は、平均値で口径 9.0 ㎝、高台径 4.8 ㎝、器高 2.5 ㎝である。最大値は口径 9.5 ㎝、高台径 5.7 ㎝、器高 3.0 ㎝である。最小値は口径 8.5 ㎝、高台径 4.1 ㎝、器高 2.0 ㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するもの 23 点（49%）のうち籾痕 22 点（48%）、籾殻・砂痕 1 点である。底面外面の調整痕は糸切り痕 22 点（51%）、糸切り痕後ナデ 12 点（26%）、ナデ 9 点（19%）、不明 2 点である。内面底部の見込みは、回転ナデ 27 点（58%）、横ナデ 17 点（36%）、コロシ 2 点（4%）、不明 1 点である。胎土と焼成は、全て良である。

器形分類は、高台がⅠ系 16 点（34%）、Ⅱ系８点（17%）、Ⅲ系 23 点（49%）で、Ⅰ・Ⅱ系の付高台の無いものを足してみると、高台を有するものとの点数は、ほぼ半々になり、１号窯内の皿類と同じような傾向になった。体部は、Ａ類 2 点、Ｃ類 2 点、Ｄ類 19 点（40%）、Ｅ類 24 点（51%）である。口縁端部は、１類 22 点（47%）、２類 24 点（51%）、３類 1 点である。全体的にはＤ類と１類が多いのだが、ここだけでいうと、体部がＥ類で、口縁端部が２類というのが多かったため、組合せは高台がⅢ系、体部がＥ類、口縁端部が２類という組が 7 点であった。

１号窯には床面下施設および溝（SD02）の遺構が存在し遺物も出土しているが、床面下の遺物については次節で細かく触れる。

２号窯に関する遺物

窯内と焚口付近の遺構（SK05）からと床面下施設やそれに伴う溝（SD01）から碗・皿・鉢類と焼台が出土している。窯内に残っていた遺物は、皿類より碗類の方が多く残されていた。１号窯とは違い、床面には焼台が比較的きれいに並んで残されていた。

碗（第 34 図）

碗は窯内から 272 点出土しているが、そのうち分類可能なものは 146 点であった。

各部の法量は、平均値で口径 16.3 ㎝、高台径 8.3 ㎝、器高 5.1 ㎝である。最大値は口径 17.2 ㎝、高台径 9.1 ㎝、器高 5.7 ㎝である。最小値は口径 15.7 ㎝、高台径 7.3 ㎝、器高 4.4 ㎝である。高台底面の付着痕は、籾痕が 134 点（92%）、籾殻・砂痕が 10 点（７%）、砂が 1 点、不明が 1 点で、高台が全て剥離している。底面外面の調整痕は、糸切り痕が 47 点（32%）、糸切り痕後ナデが 95 点（65%）、ナデが 4 点（3%）である。１号窯内に残されていた遺物とは違って、糸切り痕の後にナデのあるものが多い。内面底部の見込みは、回転ナデが 71 点（49%）、横ナデが 69 点（47%）、不明が 6 点で、回転ナデと横ナデがほぼ半々の数値になった。胎土は、最良が 25 点（17%）、良が 119 点（82%）、不良が 2 点である。1 号窯に比べると最良の遺物が少し多く残されていた。焼成は、良が 140 点（96%）、不良が 6 点である。胎土に小石を含むものが 15 点、高台のつぶれがないものも 3 点含まれている。それ以外に、底部以外が全体に黒ずむものが 1 点あり、何故それだけ黒いのかは不明である。

器形分類は、体部はA類 12 点（8%）、B類 14 点（10%）、C類 31 点（21%）、D類 89 点（61%）である。口縁端部は、１類 83 点、２類 56 点、４類 4 点、５類 3 点である。組合せで一番多かったのは、体部がD類の口縁端部が１類で 57 点あり、39%の割合を占めていた。

皿（第 34 図）

皿は 97 点出土しているが、そのうち分類可能なものは 82 点であった。

各部の法量は、平均値で口径 9.0 ㎝、高台径 5.0 ㎝、器高 2.5 ㎝である。最大値は口径 10.1 ㎝、高台径 6.1 ㎝、器高 2.9 ㎝である。最小値は口径 8.4 ㎝、高台径 4.0 ㎝、器高 2.1 ㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するもの 39 点（48%）のうち、籾痕が 28 点（34%）、籾殻・砂痕が 8 点（10%）、不明が 3 点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕が 48 点（59%）、糸切り痕後ナデが 32 点（39%）、不明 2 点である。その中には、二重に糸切りしたらしきもの 1 点を含んでいる。内面底部の見込みは、回転ナデ 37 点（45%）、横ナデ 37 点（45%）、コロシ 1 点、不明 7 点で、回転ナデと横ナデが同数値となった。胎土は、最良 3 点（4%）、良 79 点（96%）で、最良の中に灰釉陶器に近い均質で器壁の薄いものを含んでいる。焼成は、良が 81 点、不良が 1 点である。

器形分類は、高台がⅠ系 30 点（36%）、Ⅱ系 13 点（16%）、Ⅲ系 39 点（48%）である。Ⅰ・Ⅱ系の付高台が無いものを足すと 43 点（52%）になり、高台を有するものよりも少し多くなる。体部は、A類 26 点（32%）、B類２点、C類４点、D類 23 点（28%）、E類 27 点（33%）である。A類・D類・E類がほぼ同じ数値であった。口縁端部は、１類 49 点、２類 31 点、３類１点、４類１点である。組合せで多かったのは、高台がⅢ系、体部がD類、口縁端部が１類の 9 点（11%）で、次に多かったのがⅢ系・D類・２類の８点（10%）の組合せで、大きな差は見られなかった。

焼台（第 34 図）

焼台は、窯道具として焼成室内に大量に残されていた。その中から状態の良いものを選択し焼成室から 7 点紹介する。そのうち、遺物番号 2814 の 1 点が多少の欠損はあるもののほぼ完形品であった。残存するものだけの平均値の最大長は 16.37 ㎝、最大幅は 12.4 ㎝、最大高は 6.46 ㎝である。上面平坦部に籾痕が残るものが、5 点確認できた。

ＳＫ０５

碗（第 36 図）

碗は遺構から 21 点出土しているが、そのうち分類可能なものは８点であった。

各部の法量は、平均値で口径 16.1 ㎝、高台径 7.9 ㎝、器高 5.2 ㎝である。最大値は口径 16.7 ㎝、高台径 8.4 ㎝、器高 5.3 ㎝である。最小値は口径 15.5 ㎝、高台径 7.0 ㎝、器高 5.0 ㎝である。高台底面の付着痕は、全て籾痕の 8 点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕 1 点、糸切り痕後ナデ 6 点、ナデ 1 点である。内面底部の見込みは、回転ナデ 2 点、横ナデ 6 点である。胎土は、最良 1 点、良 7 点である。焼成は、良 8 点である。

器形分類は、体部がＣ類 1 点、Ｄ類 7 点である。口縁端部は、１類 8 点である。組合せで多いのは、全体と同じ体部がＤ類で、口縁端部が１類の 7 点である。

皿

皿は 15 点出土しているが、そのうち分類可能なものは 13 点であった。

各部の法量は、平均値で口径 8.8 ㎝、高台径 4.8 ㎝、器高 2.4 ㎝である。最大値は口径 9.2 ㎝、高台径 5.3 ㎝、器高 2.5 ㎝である。最小値は口径 8.5 ㎝、高台径 4.1 ㎝、器高 2.2 ㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するもの 5 点のうち籾痕 4 点、籾殻・砂痕 1 点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕 8 点、糸切り痕後ナデ 1 点、ナデ 4 点である。内面底部の見込みは、回転ナデ 7 点、横ナデ 4 点、不明 2 点である。胎土は、最良 1 点、良 12 点である。焼成は、全て良である。

器形分類は、高台がⅠ系 4 点、Ⅱ系 4 点、Ⅲ系 5 点である。Ⅰ・Ⅱ系の付高台が無いものを足すと 8 点になり、高台を有するものより多くなる。体部は、Ａ類 1 点、Ｂ類 2 点、Ｄ類 6 点、Ｅ類 4 点である。口縁端部は、１類 8 点、２類 5 点である。

２号窯も１号窯と同様に床面下施設と溝（SD01）の遺構から遺物が出土しているが、次節で詳しく詳細する。

灰原に関する遺物

この灰原は、１号窯と２号窯の窯業生産をほぼ同時期に行っていると思われるため、堆積を区別することが出来なかった。そのため、遺物を一括して取り扱う事とにした。灰原からは碗・皿・鉢類と焼台以外に、玉縁状口縁碗片と土師質堝片が出土している。

碗（第 35 図）

碗は 2372 点出土しているが、そのうち分類可能なものは 824 点であった。

各部の法量は、平均値で口径 16.0 ㎝、高台径 8.2 ㎝、器高 4.8 ㎝である。最大値は口径 17.8 ㎝、高台径 10.3 ㎝、器高 5.7 ㎝でる。最小値は口径 14.4 ㎝、高台径 6.5 ㎝、器高 3.9 ㎝である。高台底面の付着痕は、籾痕 717 点（87%）、籾殻・砂痕 79 点（10%）、砂 13 点（1%）、不明 15 点（2%）で、不明の中には高台が全て剥離しているものが 1 点含まれる。底面外面の調整痕は、糸切り痕 127 点（15%）、糸切り痕後ナデ 603 点（73%）、ナデ 91 点（11%）、不明 3 点である。内面底部の見込みは、回転ナデ 483 点（58%）、横ナデ 294 点（36%）、コロシ 2 点、不明 45 点（5%）であ

る。胎土は、最良2点、良822点で、その内小石を含むものが64点である。焼成は、良734点(89%)、不良90点（11%）である。

器形分類は、体部がA類67点（8%）、B類135点（16%）、C類116点（14%）、D類504点（61%）、不明2点で底部のみ残存するもの1点を含む。内面底部には、センイ状のものでナデたものもある。口縁端部は、1類598点（72%）、2類126点（15%）、3類23点（3%）、4類52点（6%）、5類24点（3%）、口縁なしが1点である。組合せで多かったのは、やはり体部がD類で、口縁端部が1類の382点で、割合は46%でほぼ半分を占めている。

皿（第35図）

皿は1036点出土しているが、そのうち分類可能なものは712点であった。

各部の法量は、平均値で口径8.7㎝、高台径4.8㎝、器高2.5㎝である。最大値は口径10.1㎝、口台径6.2㎝、器高3.3㎝である。最小値は口径7.6㎝、高台径3.4㎝、器高2.0㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するもの559点（78.5%）のうち、籾痕454点（63%）、籾殻・砂痕56点（8%）、砂7点（1%）、不明42点（6%）である。不明の中には籾痕が見受けられなかったものを6点含んでいる。底面外面の調整痕は、糸切り痕145点(20%)、糸切り痕後ナデ266点(37%)、ナデ281点（40%）、不明20点（3%）である。内面底部の見込みは、回転ナデ182点（25%）、横ナデ422点（59%）、コロシ3点、不明105点（15%）である。胎土は、最良2点、良708点、不良2点である。焼成は、最良2点、良701点、不良9点である。胎土と焼成の最良は同じものである。

器形分類は、高台はⅠ系100点（14%）、Ⅱ系53点（8%）、Ⅲ系559点（78%）である。体部は、A類147点（21%）、B類183点（26%）、C類49点（7%）、D類243点（34%）、E類90点（12%）である。口縁端部は、1類592点（83%）、2類106点（14%）、3類6点、4類8点、口縁欠損1点である。組合せで多いのは、やはり体部がD類の口縁端部が1類で164点存在し、23%の割合で含まれていた。

鉢（第35図）

鉢は破片など41点出土しているが、そのうち分類可能なものは8点であった。

各部の法量は、平均値で口径19.6㎝、高台径9.8㎝、器高7.3㎝である。最大値は口径20.3㎝、高台径は10.4㎝、器高7.6㎝である。最小値は口径19.0㎝、高台径9.4㎝、器高7.1㎝である。高台底面の付着痕は、籾痕7点、不明1点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕後ナデ6点、ナデ1点、不明1点である。内面底部の見込みは、回転ナデ3点、横ナデ4点、不明1点である。胎土と焼成は、全て良であった。

器形分類は、体部がA類1点、B類3点である。口縁端部は1類4点であった。底部のみ残存するものが4点存在している。また、体部が曲線的に立ち上がるものが多く見受けられた。遺物番号2792は、重なっている碗2点の上に片口鉢が積まれている。遺物番号2793も片口鉢である。

玉縁状口縁碗（第35図）

この碗は口縁部分の破片1/6が1点のみ出土した。推定値でのデータになるが、口径の大きさだけ

で見ると碗の平均値よりはやや大きく、鉢と類似した大きさの碗である。胎土や焼成は、良で内面表面には緑系の自然釉がかかっている。

土師質堝（第34図）

この堝は伊勢型鍋で口縁部と頸部の2点が出土している。破片数5点であるが遺物の状態はとても悪く、非常にもろい。遺物番号2824の口縁部破片は、口縁部をやや厚手に成形し、口縁端部は内側に折り返されて、端部を肥厚させている。また、口縁から頸部に向かう傾斜がきつくなっている。遺物番号2823の頸部破片は、裏表の表面は濃い茶色で中が黒く焼けた感じになっているが、頸部内側に破面から約1.5㎝下がった所の横に一回りすると思われる浅い溝が一条入っている。

焼台（第34図）

焼台は窯道具として灰原から大量に出土した。殆んど破損していたため、その中でも状態の良いものを2点紹介する。最大長は不明である。最大幅の平均は12.85㎝、最小幅の平均は7.5㎝である。遺物番号2821は、上面平坦部に籾痕と指圧痕が認められた。

ＳＫに関する遺物

ＳＫ０１

碗（第35図）

碗は遺構から135点出土しているが、そのうち分類可能なものは72点であった。

各部の法量は、平均値で口径16.3㎝、高台径8.5㎝、器高4.8㎝である。最大値は口径16.7㎝、高台径9.4㎝、器高5.3㎝である。最小値は口径15.2㎝、口台径7.6㎝、器高4.3㎝である。高台底面の付着痕は、籾痕66点（92%）、籾殻・砂痕5点（7%）、砂1点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕19点（27%）、糸切り痕後ナデ41点（57%）、ナデ11点（15%）、不明1点である。内面底部の見込みは、回転ナデ50点（69%）、横ナデ12点（17%）、不明10点（14%）である。胎土は、最良6点（8%）、良66点（92%）である。焼成は、良70点（97%）、不良2点である。

器形分類は、体部がＡ類3点、Ｂ類3点、Ｃ類8点（11%）、Ｄ類57点（80%）、不明1点である。口縁端部は、１類60点（83%）、２類9点（12%）、３類1点、４類2点である。組合せはで多いのは、体部がＤ類で口縁端部が１類の48点で66%を占めている。

皿（第35図）

皿は48点出土しているが、そのうち分類可能なものは37点であった。

各部の法量は、平均値で口径9.0㎝、高台径5.0㎝、器高2.6㎝である。最大値で口径9.5㎝、高台径6.0㎝、器高2.8㎝である。最小値は口径8.6㎝、高台径4.0㎝、器高2.4㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するもの16点（43%）のうち籾痕14点（38%）、籾殻・砂痕2点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕20点（54%）、糸切り痕後ナデ6点（16%）、ナデ10点（27%）、不明1点である。内面底部の見込みは、回転ナデ10点（27%）、横ナデ17点（46%）、コロシ1点、不明9点（24%）である。胎土と焼成は、全て良であった。

器形分類は、高台がⅠ系12点（33%）、Ⅱ系9点（24%）、Ⅲ系16点（43%）である。体部は、

A類6点（16%）、C類6点（16%）、D類3点（8%）、E類22点（60%）である。口縁端部は、1類26点（70%）、2類11点（30%）である。組合せで多いのは3通りあり、高台がⅠ系、体部がE類、口縁端部が1類のものと、高台がⅢ系・体部がC類・口縁端部が1類と高台がⅢ系・体部がE類・口縁端部が2類のものが、各5点で13%ずつを占めていた。

ＳＫ０２

碗（第36図）

碗は遺構から40点出土しているが、そのうち分類可能なものは28点であった。

各部の法量は、平均値で口径16.5㎝、高台径8.3㎝、器高5.3㎝である。最大値は口径17.2㎝、高台径9.6㎝、器高6.1㎝である。最小値は口径15.5㎝、高台径7.0㎝、器高4.6㎝である。高台底面の付着痕は、籾痕24点(86%)、籾殻・砂痕4点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕5点(18%)、糸切り痕後ナデ23点（82%）である。内面底部の見込みは、回転ナデ16点（57%）、横ナデ11点（39%）、不明1点である。胎土は、最良2点、良26点である。焼成は、良23点、不良5点である。

器形分類は、体部がA類2点、B類1点、C類7点（25%）、D類18点（64%）である。口縁端部は、1類18点（64%）、2類8点（29%）、3類2点である。組合せで多いのは、体部がD類で口縁端部が1類の10点で、36%を占めている。

皿（第36図）

皿は18点出土しているが、そのうち分類可能なものは15点であった。

各部の法量は、平均値で口径9.0㎝、高台径4.7㎝、器高2.6㎝である。最大値は口径9.7㎝、高台径5.4㎝、器高2.9㎝である。最小値は口径8.5㎝、高台径4.2㎝、器高2.3㎝である。高台底面の付着痕は、付高台を有するのもの12点（80%）のうち籾痕11点（73%）、籾殻・砂痕1点である。底面外面の調整痕は、糸切り痕3点、糸切り痕後ナデ2点、ナデ9点（60%）、不明1点である。内面底部の見込みは、回転ナデ5点、横ナデ8点、不明2点である。胎土は、全て良である。焼成は、良14点、不良1点である。

器形分類は、高台がⅠ系2点、Ⅱ系1点、Ⅲ系12点（80%）である。体部はA類2点、D類9点（60%）、E類4点である。口縁端部は、1類11点（73%）、2類3点、4類1点である。組合せで多かったのは、高台がⅢ系、体部がD類、口縁端部が1類の6点で、40%を占めている。

土師質堝（第36図）

この堝は伊勢型鍋で口縁部分の破片が1点出土している。2点の破片が接合されているが、遺物の状態は非常に悪くもろい。口縁端部は、短く内側に折り返されて肥厚させている。口縁から頸部に向かう傾斜は、遺物番号2824よりは緩やかである。

ＳＫ０３

碗

碗は12点出土しているが、そのうち分類可能なものは3点であったが体部が1/2以上残存しないため、高台径の計測のみ記することにする。平均値は7.8㎝、最大値8.9㎝、最小値7.0㎝である。

高台底面の付着痕は、全て籾痕である。底面外面の調整痕は、糸切り痕１点、糸切り痕後ナデ２点である。内面底部の見込みは、回転ナデ２点、横ナデ１点である。胎土は、全て良である。焼成は、良２点、不良１点である。

器形分類は、体部がＣ類２点、Ｄ類１点である。口縁端部は、全て１類である。

皿

皿は５点出土しているが、そのうち分類可能なものは３点であった。

各部の法量は、口径と器高が残存するものが１点なため、口径の平均値・最大値・最小値は8.6㎝で、器高は全て2.4㎝である。高台径は平均値4.8㎝、最大値4.9㎝、最小値4.7㎝である。付高台は、３点とも有する。高台底面の付着痕は、全て籾痕であった。底面外面の調整痕は、糸切り痕２点、不明１点である。内面底部の見込みは、回転ナデ１点、横ナデ１点、不明１点である。胎土と焼成は、全て良である。

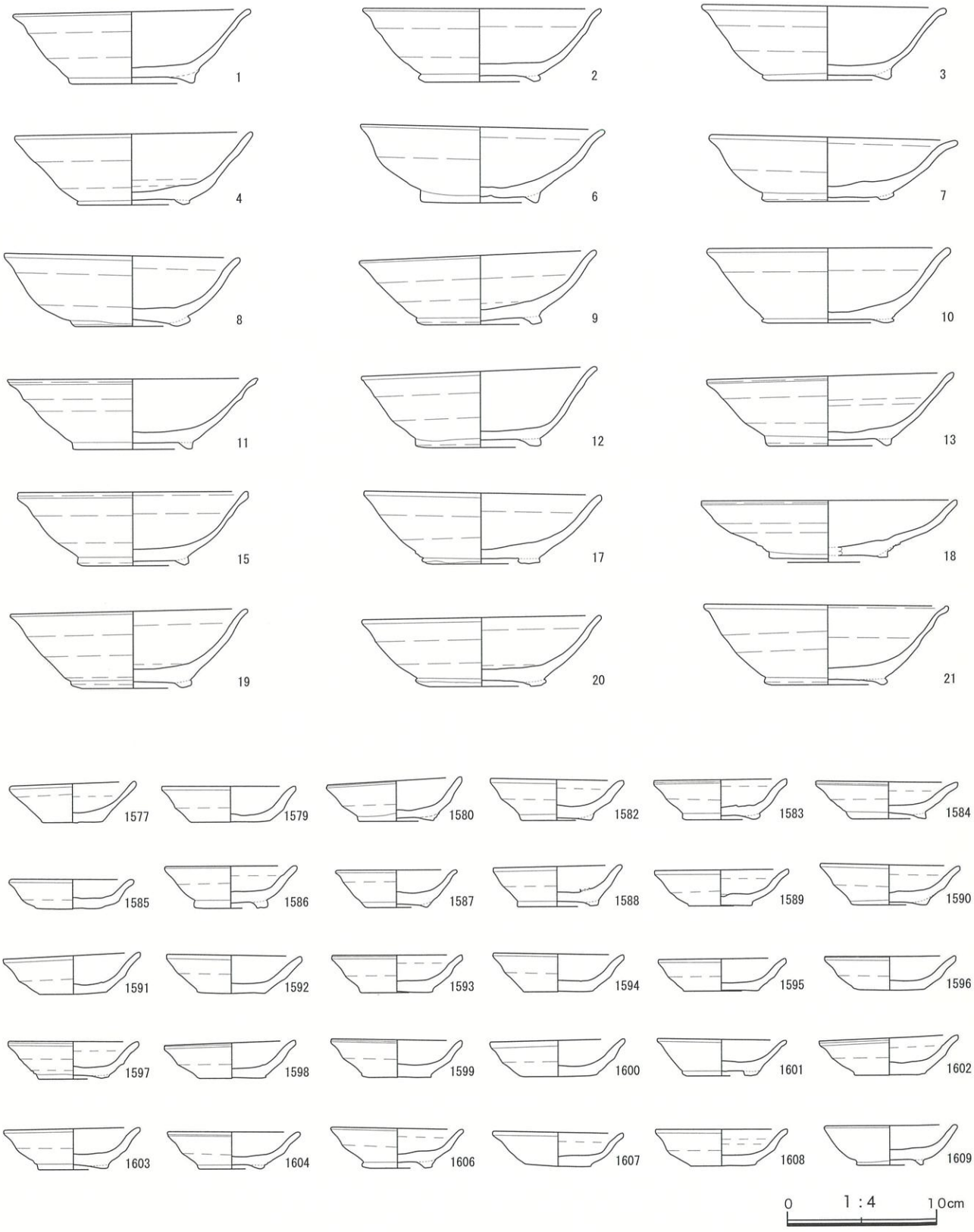
器形分類は、高台が全てⅢ系で、体部がＡ類１点、Ｄ類１点である。口縁端部は、１類１点、２類２点である。

その他の遺物

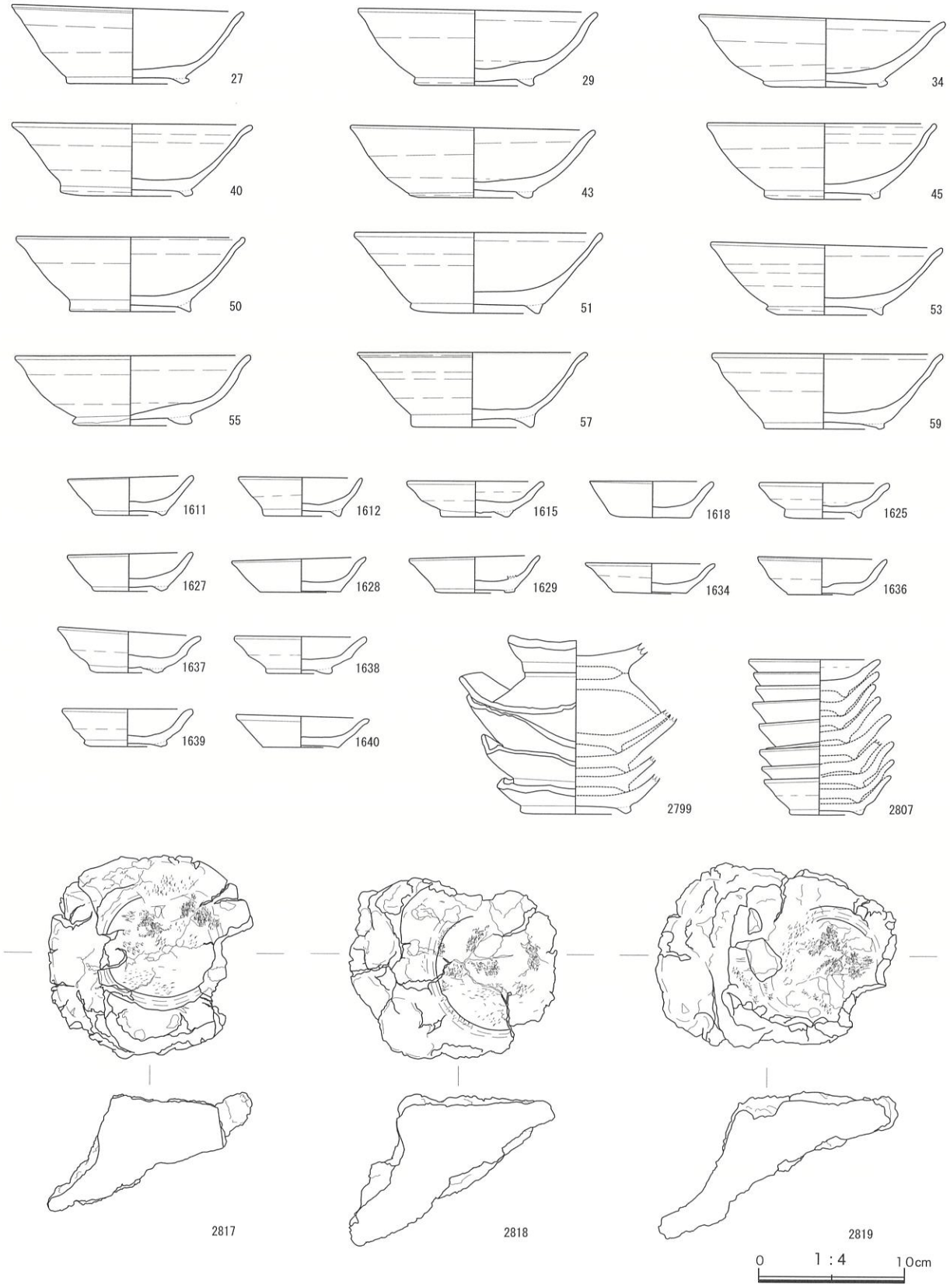
これまで紹介した遺物以外に調査区内から須恵器が出土している。

須恵器（第35図）

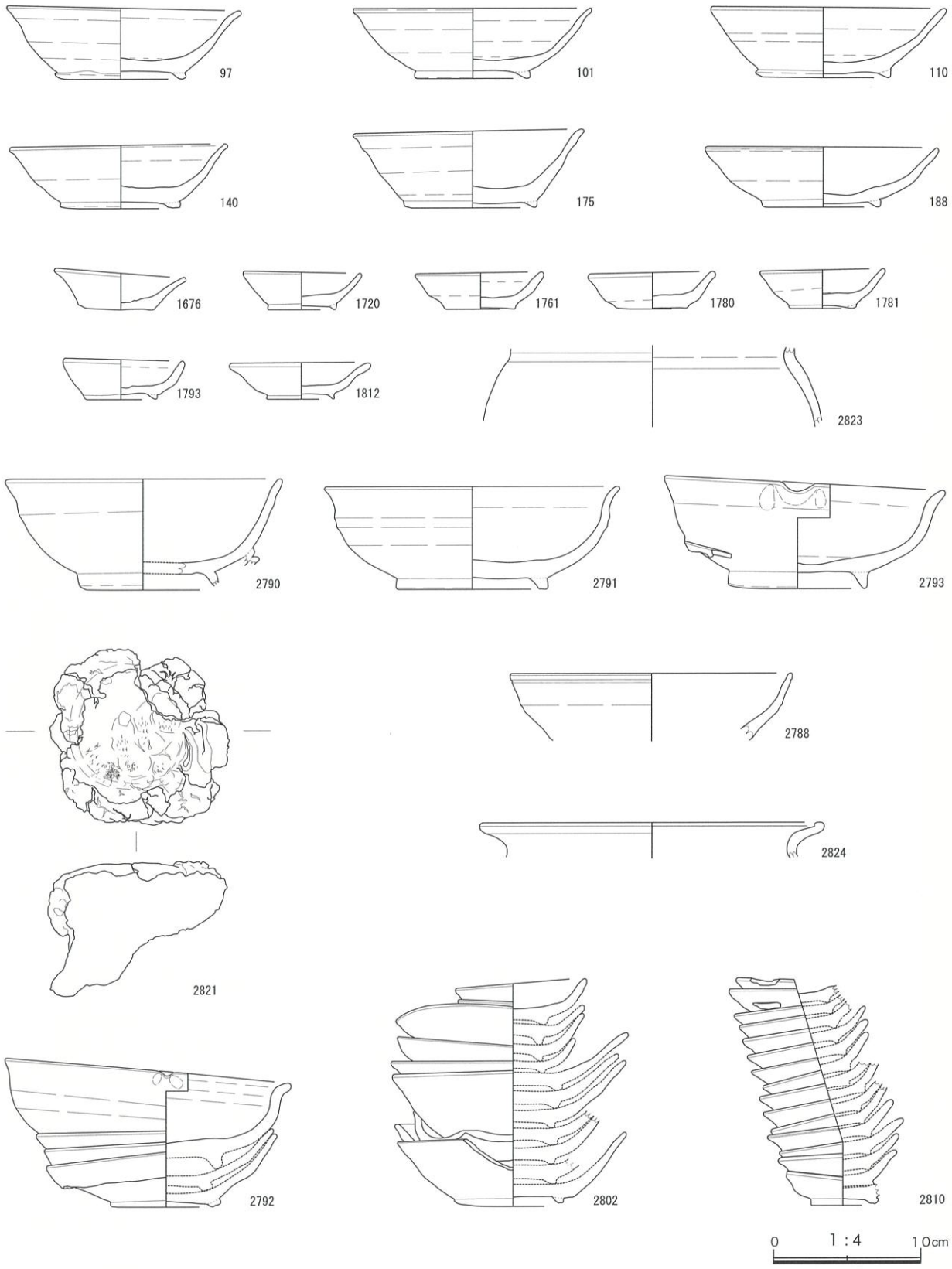
須恵器は破片が１点出土している。３ａのグリットの遺跡表面から採取したが、小さな破片で器形は不明であり、この遺跡に関係するものではないと思われる。



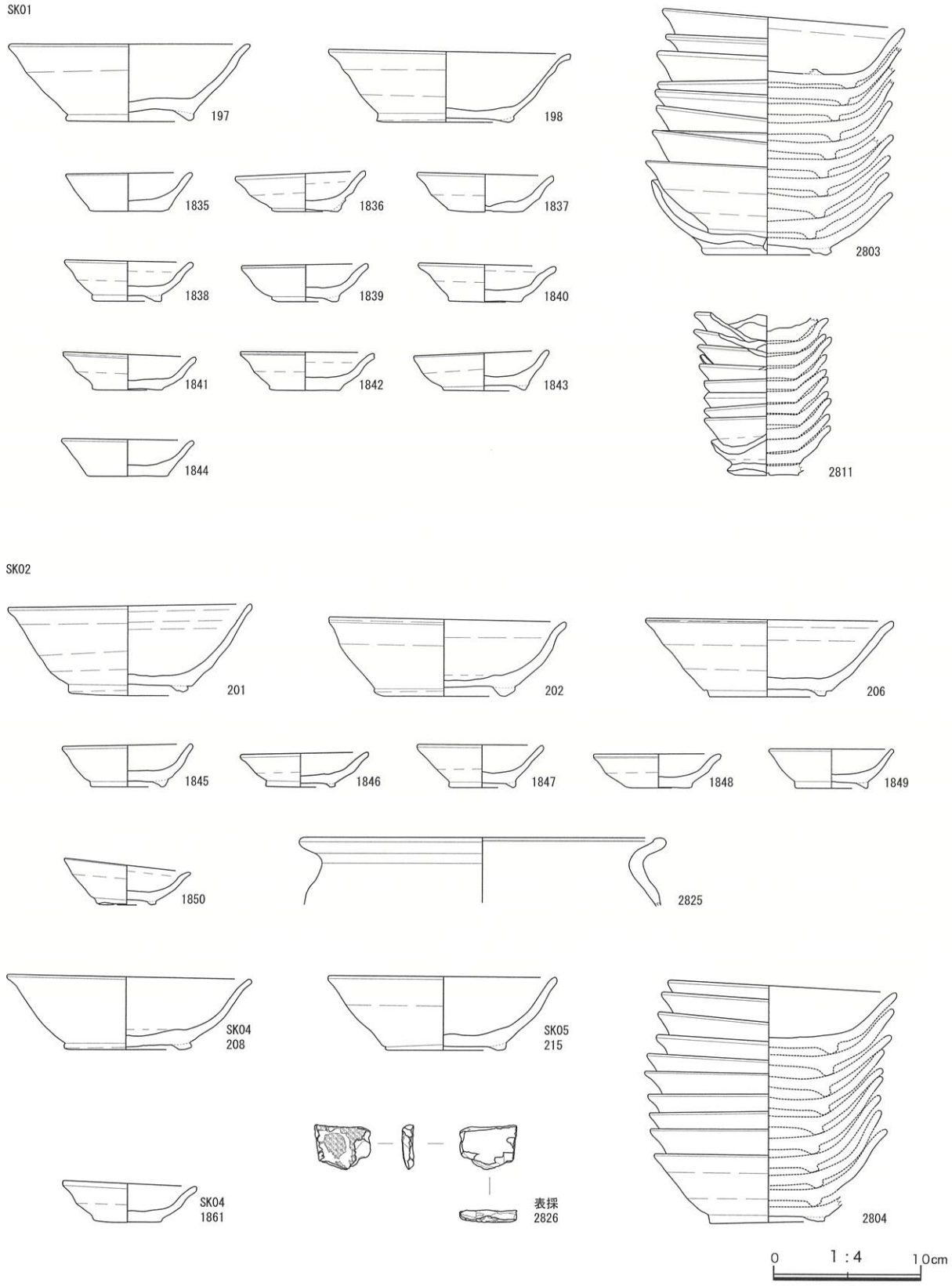
第 33 図　遺物実測図（1 号窯）



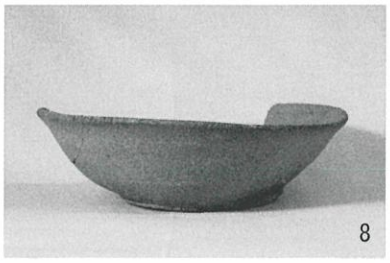
第34図　遺物実測図（2号窯）

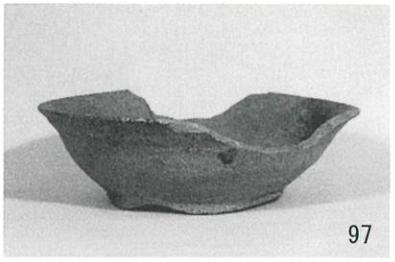


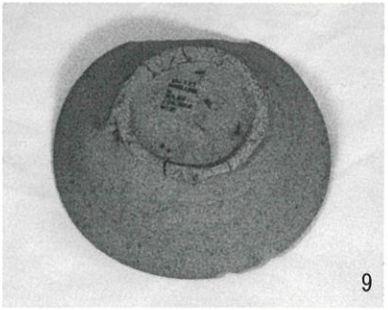
第 35 図　遺物実測図（灰原）

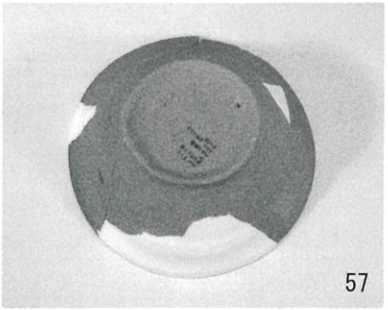


第36図　遺物実測図（SK01・SK02・SK04・SK05）









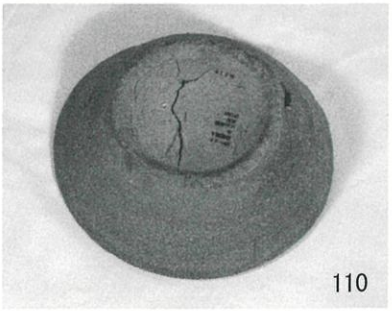


写真 30　出土遺物 1

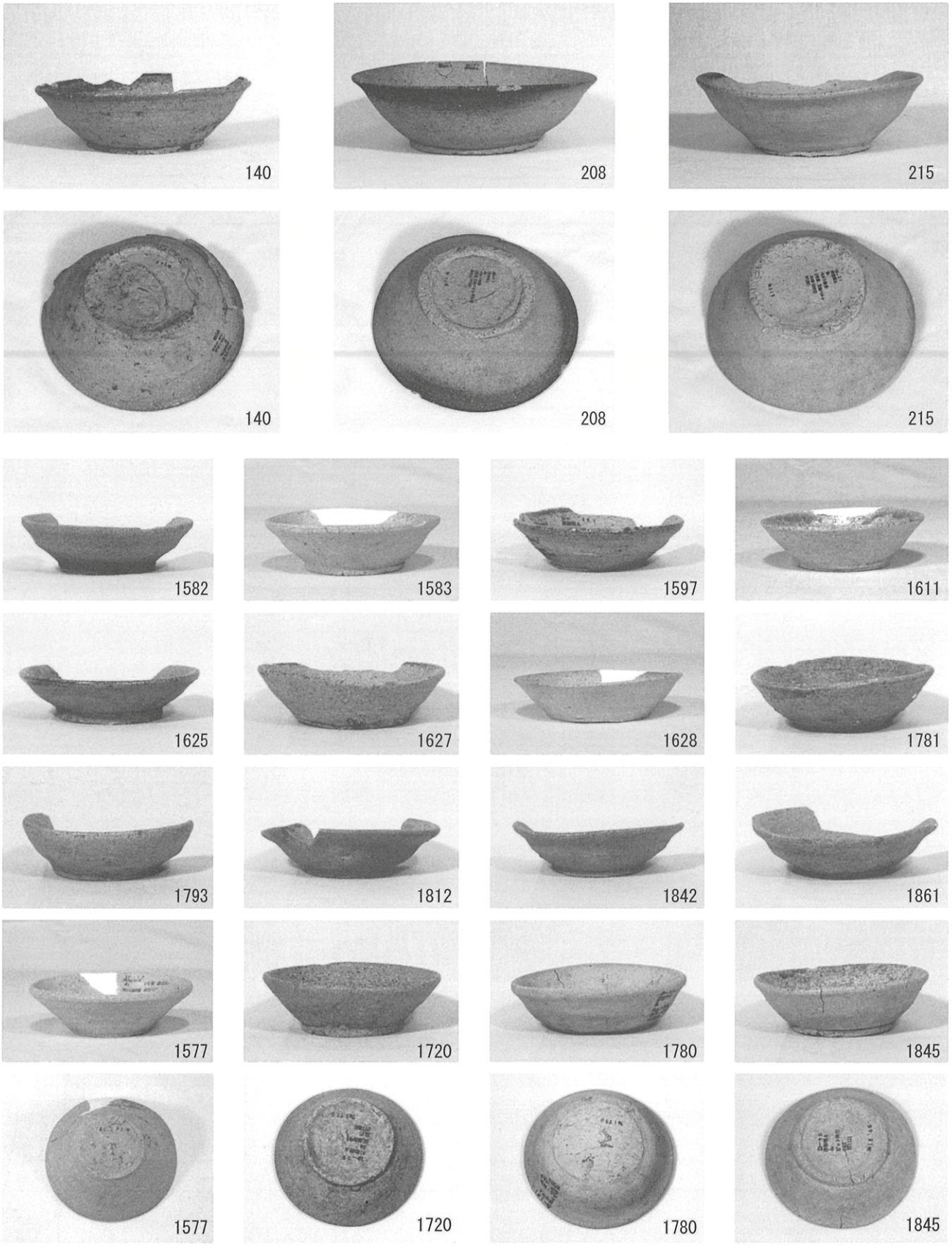
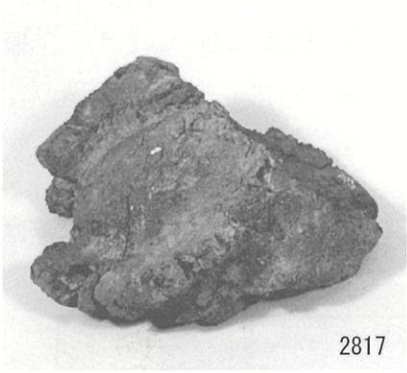
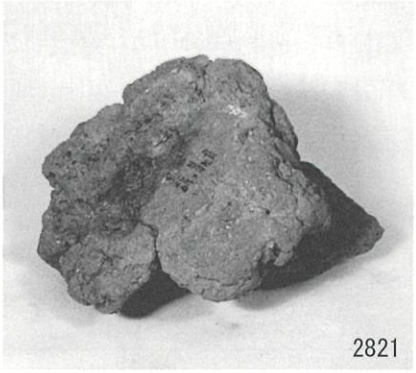
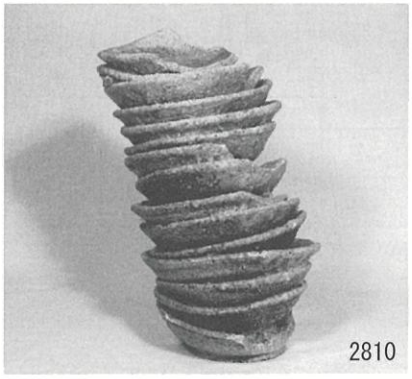
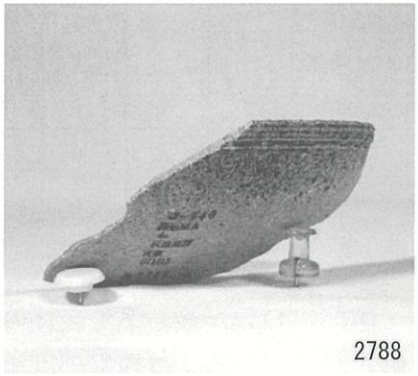

140
208
215
140
208
215
1582
1583
1597
1611
1625
1627
1628
1781
1793
1812
1842
1861
1577
1720
1780
1845
1577
1720
1780
1845

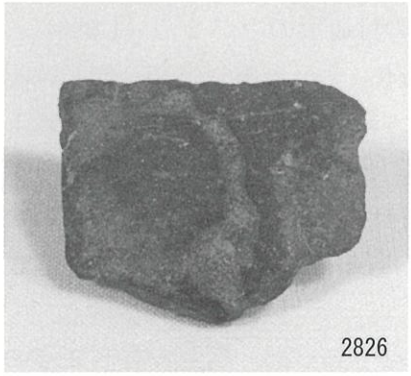
写真 31　出土遺物 2

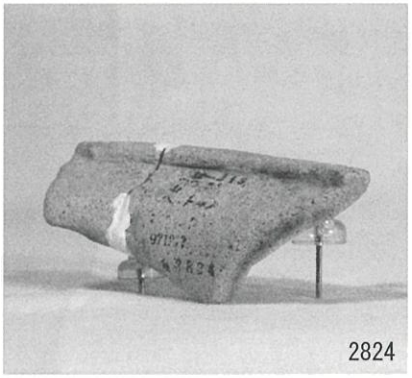












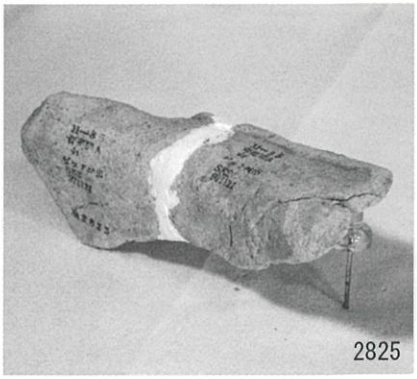


写真 32　出土遺物 3

第３節　床面下施設の遺物

古窯の床面下には窯内の水分を除湿、排水する目的と考えられる施設が設置されている場合がある。今回１号窯、２号窯共にこのいわゆる床面下施設が検出され、どちらも碗を主体とする遺物が多く敷き詰められていた。

（1）１号窯

１号窯の床面下施設の遺物は、分焔柱から焼成室に向かって、分焔柱の根元から 2.3m、窯体幅全体にわたり敷き詰められていた。伏せられているもの、上向きのもの、横向きのものが粗雑に置かれており、遺物群の下から列状に検出された炭化物に沿って並べられたという印象は薄い。しかし上段部分の遺物を取上げた後出土した遺物は、炭化物の間に掘り窪められた溝に列状に並べられていた。

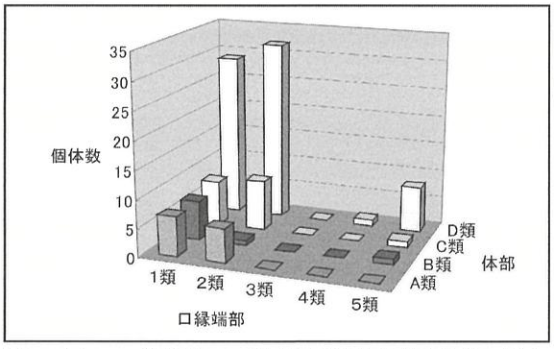
出土遺物は碗 175 点と重ね碗 59 組、皿 11 点と重ね皿 11 組で、碗が全体の 91.4%を占める。このうち分類可能なものは、碗 110 点、皿 9 点であった。

碗は口径平均 16.3cm、高台径平均 8.3cm、器高平均 5.1cm で、窯体内の碗の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

口縁端部／体部	１類	２類	３類	４類	５類	合計
A類	7	6	0	0	0	13
B類	7	1	0	0	1	9
C類	8	9	0	0	1	18
D類	29	32	0	1	8	70
合計	51	48	0	1	10	110

第３表　１号窯床面下施設出土碗類器形分類別組合せ表



第 37 図　１号窯床面下施設碗類器形分類別組成図

体部はD類が最も多く全体の 63.6%を占めるが、窯体内のD類が 90%にのぼるのに対し少ない数値となっている。口縁端部は１類と２類にほぼ二分されるが、５類の占める 9.1%は窯体内や２号窯と比べても若干多い。高台はほとんどの個体が押圧のためつぶれており、その付着痕は籾殻痕のみが 66 点（60%）、籾殻と砂の付着痕を有するものが 33 点（30%）、砂の付着痕のみが 2 点（1.8%）、不明 9 点であった。外面底部の調整痕は、不明の 3 点を除き、底面全体にナデを施し糸切り痕が確認できないものが 1 点、糸切り後ナデを施したものが 90 点（81.8%）、糸切りのみが 12 点（10.9%）糸切り痕とナデの他センイ痕が認められるものが 3 点（2.7%）糸切り痕とセンイ痕が認められるものが 1 点である。内面底部は回転ナデ 86 点（78.2%）横ナデ 21 点（19.1%）であった。胎土は砂粒を多く含み荒い 2 点を除いて良好でありこのうち粘土が均質で最良のものが 12 点認められた。焼成は不良の 6 点（5.5%）を除き良好であった。

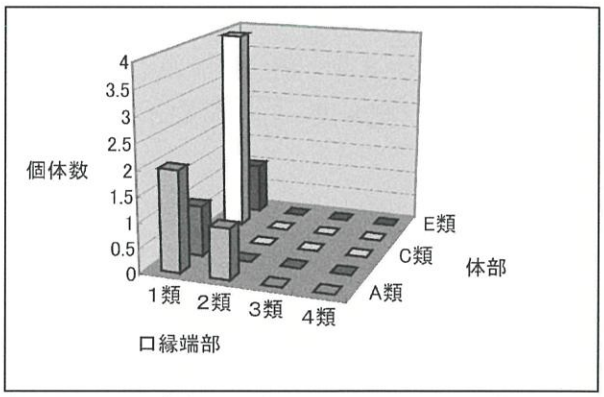
皿について、分類可能な 9 点のうちⅠ系 4 点、Ⅱ系 2 点、Ⅲ系 3 点であった。高台のある 3 点の高台全てに籾殻痕のみが付着していた。底面外部は糸切り痕のみがみられるものが 6 点、ナデのみが

みられるものが6点、ナデのみが残るものが3点、内面底部は不明の3点を除くと回転ナデと横ナデがそれぞれ3点ずつあった。胎土、焼成共に全て良好であった。法量は口径平均8.9cm、高台径・底径平均4.9cm、器高平均2.6cmで、窯体内の皿の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

体部＼口縁端部	1類	2類	3類	4類	合計
A類	2	1	0	0	3
B類	1	0	0	0	1
C類	0	0	0	0	0
D類	4	0	0	0	4
E類	1	0	0	0	1
合計	8	1	0	0	9

第4表　1号窯床面下施設出土皿類器形分類別組合せ表



第38図　1号窯床面下施設皿類器形分類別組成図

体部はA類とD類がほとんどを占め、口縁端部はほとんど1類である。

碗、皿とも窯体内の遺物との大きな差は認められないことから、この施設に使用されたものはこの窯で焼かれた個体が多く利用されていると考えられる。

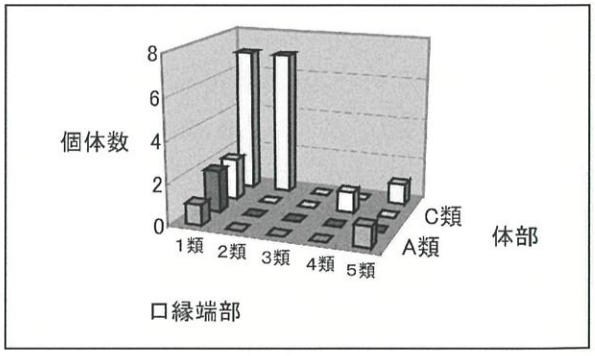
さらにこの焼成室内の施設から分焔柱の右側（北西）を通り、右側（北西）窯壁に沿って外部に続く溝（SD02）が確認され窯体内部分には遺物が伏せ、上向き、横向きに粗雑に置かれていた。出土遺物は碗24点と重ね碗11組、皿18点と重ね皿2点で碗が全体の63.6%であった。このうち分類可能なものは碗22点、皿15点であった。

碗は口径平均16.0cm、高台径平均8.0cm、器高平均5.0cmで、窯体内の碗の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

体部＼口縁端部	1類	2類	3類	4類	5類	合計
A類	1	0	0	0	1	2
B類	2	0	0	0	0	2
C類	2	0	0	1	0	3
D類	7	7	0	0	1	15
合計	12	7	0	1	2	22

第5表　SD02出土碗類器形分類別組合せ表



第39図　SD02碗類器形分類別組成図

体部はD類（68.2%）、口縁端部は1類（54.5%）がそれぞれ最も多いが、5類の9.1%は窯体内と同値である。高台はほとんどの個体が押圧のためつぶれており、その付着痕は籾殻痕のみが17点と77.3%を占め、籾殻と砂の付着痕を有するものが3点（13.6%）、不明2点であった。外面底部の調整痕は、不明の1点を除き、底面全体にナデを施し糸切り痕が確認できないものが2点、糸切り後ナデを施したものが14点、糸切りのみが4点、糸切り痕とナデの他センイ痕が認められるものが1点である。内面底部は回転ナデが16点、横ナデが4点、不明が2点であった。胎土は全て良好で、焼成は18点

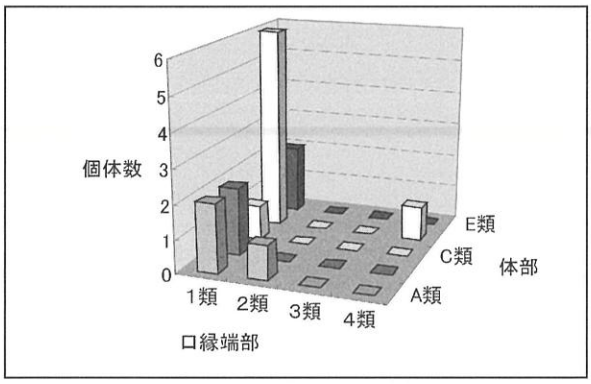
が良好であったが不良4点の占める18.2%は窯体内などに比べると多い数値となっている。

皿について、分類可能な15点のうちⅠ系2点、Ⅱ系1点、Ⅲ系12点であった。80%を占めるⅢ系の高台には不明の1点以外の全てに籾殻痕が付着し、さらに3点に砂の付着痕が認められた。底面外部は糸切り痕のみが1点、ナデのみが残るものが10点、糸切り後ナデを施したものが4点である。内面底部は回転ナデ3点、横ナデ8点、不明4点であった。胎土、焼成共に全て良好であった。法量は口径平均9.0cm、高台径・底径平均4.9cm、器高平均2.7cmで、窯体内の碗の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

体部＼口縁端部	1類	2類	3類	4類	合計
A類	2	1	0	0	3
B類	2	0	0	0	2
C類	1	0	0	0	1
D類	6	0	0	1	7
E類	2	0	0	0	2
合計	13	1	0	1	15

第6表　SD02出土皿類器形分類別組合せ表



第40図　SD02皿類器形分類別組成図

体部はD類の46.7%が最も多く窯体内とほぼ同値であるが、B類の占める13.3%は窯体内の0.8%に比べ多い数値となっている。口縁端部は1類が86.7%を占める。

(2) 2号窯

2号窯の床面下施設の遺物は、分焔柱焼成室に向かって、分焔柱の根元から2.0m、窯体幅全体にわたりほとんど伏せられた状態でぎっしりと並べられていた。

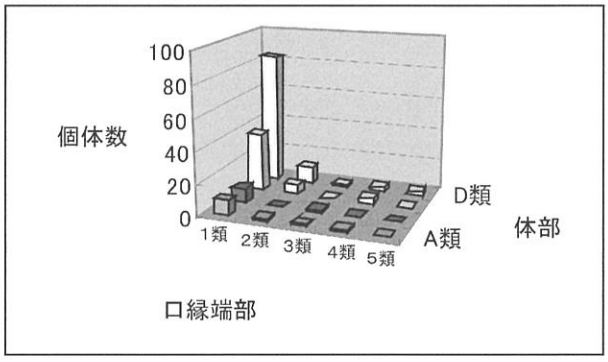
出土遺物は碗247点と重ね碗86組、皿2点と重ね皿5点、鉢2点で、碗が全体の97.4%を占める。このうち分類可能なものは、碗168点、皿2点、鉢2点であった。

碗は口径平均16.0cm、高台径平均7.8cm、器高平均5.0cmで、窯体内の碗の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

体部＼口縁端部	1類	2類	3類	4類	5類	合計
A類	10	1	1	1	0	13
B類	9	0	1	0	0	10
C類	37	6	0	3	0	46
D類	83	11	1	2	2	99
合計	139	18	3	6	2	168

第7表　2号窯床面下施設出土碗類器形分類別組合せ表



第41図　2号窯床面下施設碗類器形分類別組成図

体部はD類が最も多く全体の59.0%を占め、窯体内に近い値である。口縁端部は1類が82.7%、2類

が 10.7%と両者の割合の差は窯体内より大きく、むしろ SY01 の窯体内に近い。高台はほとんどの個体が押圧のためつぶれており、その付着痕は籾殻痕のみが 90 点（53.6%）、籾殻と砂の付着痕を有するものが 70 点（41.7%）、砂の付着痕のみが 5 点（3%）、籾殻と砂の付着痕にセンイ痕を有するものが 1 点（0.6%）不明 2 点であった。外面底部の調整痕は、底面全体にナデを施し糸切り痕が確認できないものが 12 点（7.1%）、糸切り後ナデを施したものが 124 点（73.8%）、糸切りのみが 6 点（3.6%）糸切り痕とナデの他センイ痕が認められるものが 19 点（11.3%）糸切り痕とセンイ痕が認められるものが 6 点（3.6%）で、窯体内と同様にセンイ痕が確認できる点の割合が SY01 に比べて多い。内面底部は回転ナデ 119 点（70.8%）横ナデ 41 点（24.4%）であった。胎土は砂粒を多く含み荒いものが 9 点（5.4%）あり窯体内に比べると若干多い。焼成は不良の 2 点を除き良好であった。

以上、窯体内の碗との大きな差は認められないことから、この施設に使用されたものはこの窯で焼かれた個体が多く利用されていると考えられる。

皿について、分類可能な 2 点のうち遺物番号 1907 はⅢ系で高台には籾殻痕のみを有し、底面外部はナデのみ、内面底部は回転ナデが施されていた。体部はE類、口縁端部は 1 類に分類される。遺物番号 2787 はⅠ系で底面外部は糸切り痕のみ、内面底部は横ナデが確認できる。体部はA類、口縁端部は 1 類に分類される。2 点の胎土、焼成ともに良好であった。法量は 2 点ともに同値で口径 8.5 ㎝、高台径・底径 4.8 ㎝、器高 2.4 ㎝である。

鉢について、分類可能な 2 点はどちらも体部はA類、口縁端部は 1 類、高台は 2 点とも籾殻痕のみである。遺物番号 2794 は片口を有し外面底部はナデのみが確認でき、内面底部は回転ナデ、遺物番号 2795 の外面底部は糸切り後ナデ、内面底部は横ナデが残っており、高台径 9.6㎝ のみ計測できた。

この焼成室内の施設から分焔柱の左側（南東）を通り焚口の右側（北西）より外部へ続く溝（SD01）が確認された。焼成室内とは異なり、伏せ、上向き、下向きの遺物が粗雑に置かれていた。

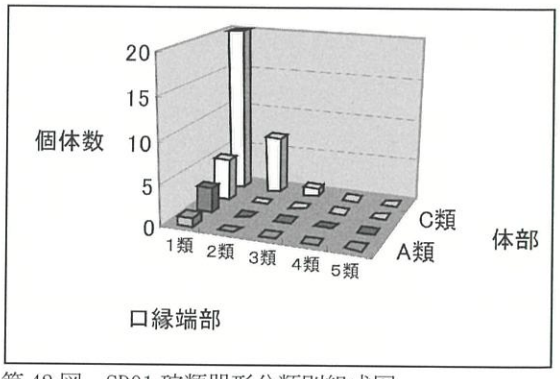
出土遺物は碗 130 点と重ね碗 62 組、皿 78 点と重ね皿 22 組で、碗が全体の 65.8%を占める。このうち分類可能なものは、碗 37 点、皿 42 点であった。

碗は口径平均 16.1㎝、高台径平均 8.0㎝、器高平均 5.0㎝ で、窯体内の碗の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

体部＼口縁端部	1類	2類	3類	4類	5類	合計
A類	1	0	0	0	0	1
B類	3	0	0	0	0	3
C類	5	0	0	0	0	5
D類	20	7	1	0	0	28
合計	29	7	1	0	0	37

第 8 表　SD01 出土碗類器形分類別組合せ表



第 42 図　SD01 碗類器形分類別組成図

体部はD類が最も多く全体の 75.7%を占めるが、窯体内のD類 59.3%に対し多い数値となっている。口縁端部は 1 類が 78.4%を占め、窯体内の 1 類 59.3%に対し多い。一方 2 類の 18.9%は窯体内の 38.4%に対し少ない。高台はほとんどの個体が押圧のためつぶれており、砂の付着痕のみを有する 1 点を除

いた全てに籾殻痕があり籾殻痕のみが 28 点(75.7%)、籾殻と砂の付着痕を有するものが 6 点(16.2%)、砂の付着痕のみが 2 点、籾殻痕の他にセンイ痕を有するものが 2 点（5.4%）であった。外面底部の調整痕は、底面全体にナデを施し糸切り痕が確認できないものが 9 点、糸切り後ナデを施したものが 20 点（54.1%）、糸切りのみが 4 点（10.8%）糸切り痕とセンイ痕が認められるものが 4 点（10.8%）である。内面底部は不明の 4 点を除くと回転ナデ 20 点（54.1%）横ナデ 13 点（35.1%）であった。胎土は砂粒を多く含み荒い 1 点を除いて良好であり、焼成は全て良好であった。

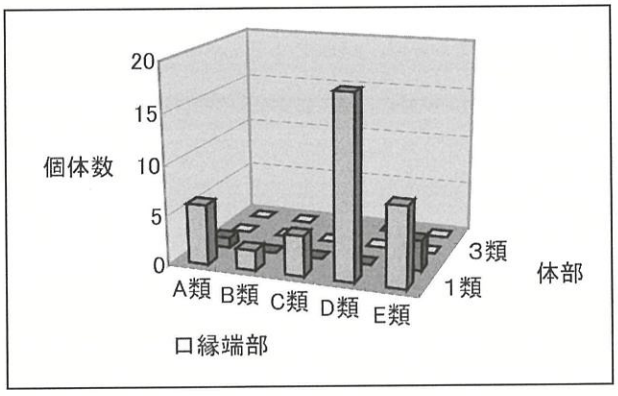
皿について、分類可能な 42 点のうちⅠ系 14 点、Ⅱ系 2 点、Ⅲ系 26 点であった。高台のある 26 点は不明の 16 点と砂の付着痕のみ砂の残る 1 点を除いた 25 点に籾殻痕が付着していた。このうち 2 点には籾殻のほか砂の付着痕が認められた。底面外部は糸切り痕のみがみられるものが 19 点、糸切り後ナデを施したものが 8 点、糸切り後センイ痕の残るものが 1 点、内面底部は不明の 3 点を除くと回転ナデと横ナデがそれぞれ 3 点ずつあった。胎土は砂粒を多く含み荒い 1 点を除き全て良好、焼成は全て良好であった。

皿の口径平均 8.7cm、高台径・底径平均 4.8cm、器高平均 2.6cm で、窯体内の皿の法量との大きな差はみられなかった。

次に器形分類の内訳についての表を示した。

口縁端部 / 体部	1類	2類	3類	4類	合計
A類	6	1	0	0	7
B類	2	0	0	0	2
C類	4	0	0	0	4
D類	18	0	0	0	18
E類	8	3	0	0	11
合計	38	4	0	0	42

第 9 表　SD01 出土皿類器形分類別組合せ表

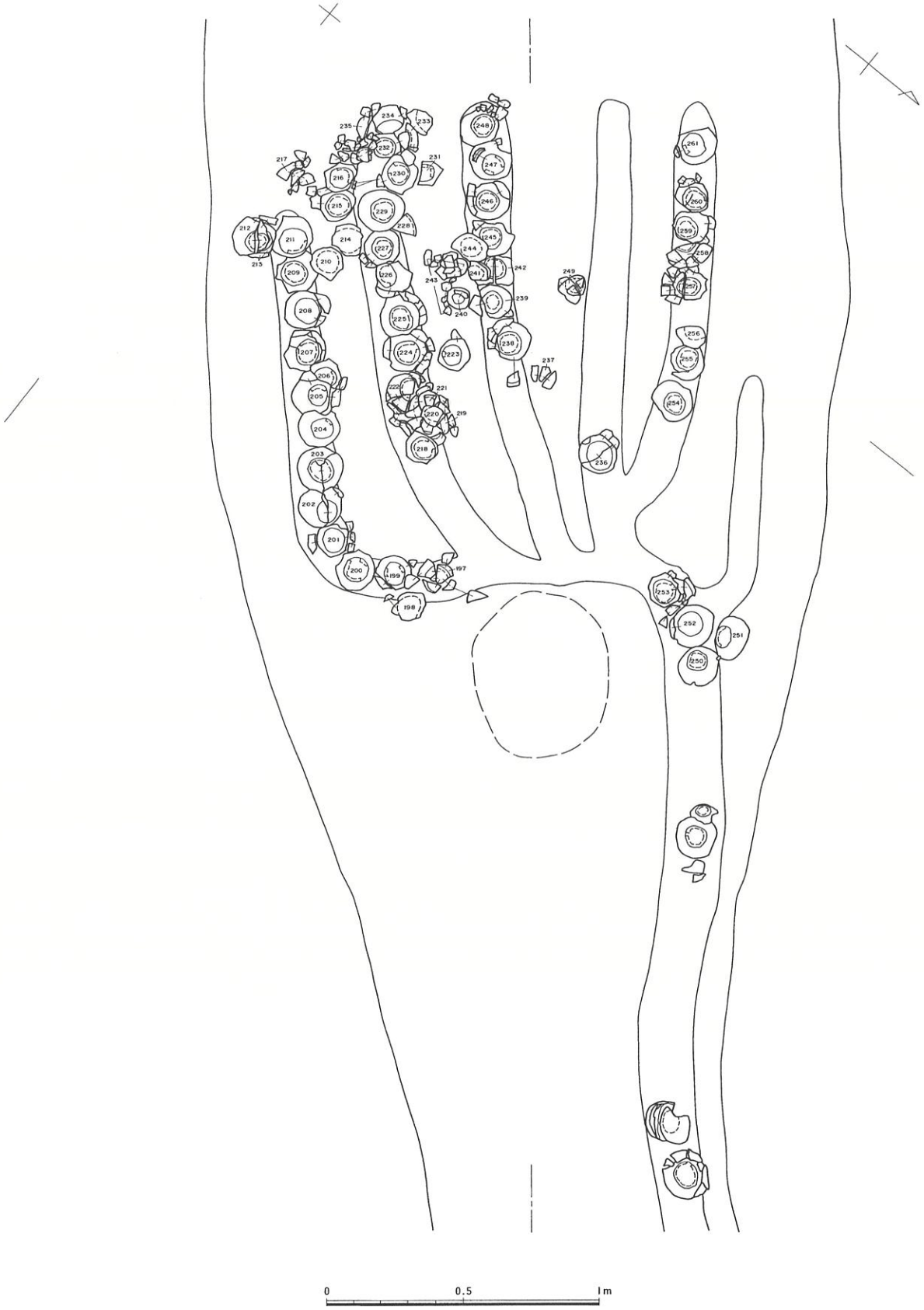


第 43 図　SD01 皿類器形分類別組成図

体部はD類（42.9%）が最も多くE類（26.2%）A類（16.7%）と続くが、窯体内のA類が 31.7%を占めるのに対し SD01 のA類の比率はかなり少ない。

「注・・・台は焼台の略」

第44図　1号窯床面下施設遺物取上位置番号図（二次面）



第 45 図　1 号窯床面下施設遺物取上位置番号図（一次面）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
1	碗（重ね）	横	－	有り		
2	碗（重ね）	伏せ	－	有り		1号窯床面下取上番号3の上にのる
3	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
4	碗	伏せ	1	有り		
5	碗	伏せ	1	有り	1342	
6	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
7	皿（重ね）	横	－	有り		1号窯床面下取上番号8の上にのる
8	皿（重ね）	上	－	有り	2782	
9	碗	伏せ	1	なし		
10	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
11	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
12	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
13	碗	伏せ	1	有り	229	
14	碗（重ね）	横	－	有り		
15	碗（重ね）	伏せ	－	有り		下に炭が入り込んでいる
16	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
17	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
18	碗	伏せ	1	なし		
19	碗	横	1	なし		高台なし、底部なし
20	碗	伏せ	1	なし		割れ、下に焼台あり
21	碗	伏せ	1	有り		
22	碗	伏せ	1	有り		バラバラ、焼台が下にあり
23	碗（重ね）	伏せ	－	なし		下に焼台あり
24	碗	伏せ	1	有り	1343	1号窯床面下取上番号24の下に1個隠れている
25	碗	伏せ	1	有り		
26	碗	伏せ	1	有り	1344	
27	碗	伏せ	1	有り	1345	
28	碗	横	1	有り		下に隠れている
29	碗	伏せ	1	有り	230	
30	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
31	碗	上	1	有り	1346	
32	碗	上	2	有り	1347・1348	
33	碗	伏せ	1	なし	1349	
34	碗	上	1	なし	1350	
35	碗	伏せ	1	有り	1351	
36	碗	横	1	なし		
37	碗	伏せ	1	有り		1個下に隠れている
38	碗	伏せ	1	有り		

第10表　1号窯床面下施設遺物取上記録（1）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
39	碗	伏せ	1	なし	1352	
40	碗（重ね）	伏せ	―	なし		
41	碗	伏せ	1	なし		
42	碗	伏せ	1	有り	1353	
43	碗	伏せ	1	有り	1354	
44	碗	伏せ	1	有り		
45	碗	伏せ	1	なし		皿が下に隠れている
46	皿	上	1	有り	2783	
47	碗（重ね）	伏せ	―	不明		
48	碗	横	1	なし		
49	碗	伏せ	1	なし	1355	
50	碗	横	1	有り		
51	碗	伏せ	1	なし		炭の上にのっている
52	碗	伏せ	1	有り	231	炭の上にのっている
53	碗（重ね）	横	―	なし		
54	碗	伏せ	1	なし	1356	炭の上にのっている
55	碗	伏せ	2	有り	1357	
56	碗	横	1	有り	1358	
57	碗（重ね）	横	―	有り		
58	碗（重ね）	伏せ	―	有り		炭の上にのっている
59	碗（重ね）	横	―	有り		
60	碗	横	1	有り		バラバラ
61	碗	伏せ	1	なし	1359	
62	碗	上	1	有り		
63	皿	横	1	なし	1908	
64	皿（重ね）	横	―	有り		下に隠れている
65	碗	伏せ	1	有り		バラバラ
66	碗	伏せ	1	有り	1360	
67	碗	伏せ	1	有り	232	
68	碗	上	1	有り	1361	バラバラ
69	碗	伏せ	1	有り		
70	碗	伏せ	1	有り	233	下に隠れている
71	碗（重ね）	横	―	有り		
72	碗	伏せ	2	有り	1362	
73	碗	伏せ	1	なし		1号窯床面下取上番号74の上にのっている
74	碗	伏せ	1	有り	1363	
75	碗	伏せ	2	有り	1364・1365	下に隠れている
76	碗	伏せ	1	有り	1366	下に隠れている

第11表　1号窯床面下施設遺物取上記録（2）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
77	碗	伏せ	1	有り		下に隠れている
78	碗	伏せ	1	有り		下に隠れている
79	碗	上	1	有り		
80	碗	伏せ	1	有り	1367	バラバラ
81	碗	伏せ	1	有り	1368	
82	碗（重ね）	横	—	有り		下に隠れている
83	碗	伏せ	1	有り		
84	皿	伏せ	1	有り	1909	バラバラ
85	碗	伏せ	1	有り	1369	
86	碗	伏せ	1	有り	1370	
87	碗	伏せ	1	有り		炭が下に入っている
88	碗	伏せ	1	有り		1号窯床面下取上番号89・90の上にのっている
89	碗	上	1	なし		
90	碗	伏せ	1	有り	234	
91	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
92	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
93	碗	伏せ	1	なし	1371	
94	碗	伏せ	1	なし		
95	碗	上	1	なし		
96	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
97	碗	横	1	なし		
98	碗	伏せ	1	有り	1372	
99	碗	伏せ	1	なし		
100	碗	伏せ	1	有り	1373	バラバラ
101	碗（重ね）	横	—	有り		
102	碗	伏せ	1	有り	1374	
103	碗	伏せ	1	なし		
104	碗	伏せ	2	なし		
105	碗	横	1	なし	1375	
106	碗（重ね）	横	—	有り		
107	碗（重ね）	横	—	有り		
108	皿（重ね）	横	—	なし		
109	碗	伏せ	1	有り		
110	碗	伏せ	1	有り	1376	炭が上にのっている
111	碗（重ね）	伏せ	—	有り		炭が上にのっている
112	碗	伏せ	1	有り		
113	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
114	碗	伏せ	1	有り		

第12表　1号窯床面下施設遺物取上記録（3）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
115	碗（重ね）	上	－	有り		
116	碗	伏せ	1	有り	1377	
117	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
118	碗	上	1	有り	1378	
119	碗	横	1	有り		
120	碗（重ね）	上	－	有り		
121	碗（重ね）	横	－	有り		
122	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
123	碗	伏せ	1	なし		炭が上にのっている
124	碗	上	1	有り		バラバラ
125	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
126	碗	伏せ	1	有り		
127	碗	横	1	有り		１号窯床面下取上番号125の下に隠れている
128	碗	伏せ	1	なし		
129	皿	伏せ	1	なし	2784	碗の破片が下に入っていた
130	碗	伏せ	1	なし	1910	
131	碗	伏せ	1	なし		
132	碗	伏せ	2	有り	1379・1380	
133	碗	伏せ	1	なし		
134	碗	伏せ	1	なし		
135	碗	伏せ	1	なし		
136	碗	上	2	有り		
137	碗	伏せ	1	有り	1381	
138	碗	伏せ	1	有り		
139	碗	上	1	なし		
140	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
141	碗	伏せ	1	有り	1382	
142	碗	上	1	なし		
143	碗	上	1	なし	235	
144	碗（重ね）	上	－	有り		
145	碗	横	1	有り	1383	
146	碗（重ね）	伏せ	－	有り		下に隠れている
147	碗	伏せ	1	有り	1384	
148	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
149	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
150	碗（重ね）	横	－	有り		下に隠れている
151	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
152	碗（重ね）	伏せ	－	有り		

第 13 表　１号窯床面下施設遺物取上記録（４）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
153	碗（重ね）	上	―	有り		1個下に隠れている
154	碗	伏せ	1	有り	1385	下に隠れている
155	碗	伏せ	1	有り		
156	碗（重ね）	伏せ	―	有り		下に隠れている
157	碗	伏せ	1	有り		
158	碗	上	1	有り		
159	碗	伏せ	1	なし	1386	
160	碗	伏せ	1	なし	1387	
161	皿（重ね）	横	―	有り		
162	皿（重ね）	横	―	なし		
163	碗	伏せ	1	有り	236	
164	碗	伏せ	1	有り	1388	
165	碗（重ね）	横	―	有り		
166	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
167	碗	伏せ	1	有り	237	
168	碗	伏せ	1	有り	1389	バラバラ
169	碗	伏せ	1	有り	1390	
170	碗	伏せ	1	有り		生焼け
171	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
172	碗	上	1	有り		
173	碗	上	1	なし		
174	碗	伏せ	1	有り	1391	バラバラ
175	碗	上	1	なし	1392	
176	碗	伏せ	1	有り		
177	碗	伏せ	1	有り		
178	碗	伏せ	1	有り		
179	碗	伏せ	1	有り	1393	
180	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
181	碗	伏せ	1	有り	1394	下に隠れている
182	碗	伏せ	1	有り	1395	
183	碗（重ね）	横	―	有り		
184	碗	伏せ	1	有り		
185	碗	伏せ	1	有り	1396	下に隠れている
186	碗	伏せ	1	有り		下に隠れている
187	皿（重ね）	伏せ	―	有り		
188	碗	伏せ	―	なし	238	
189	碗	伏せ	1	有り		
190	碗	伏せ	1	有り	239	

第14表　1号窯床面下施設遺物取上記録（5）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
191	碗	伏せ	1	有り		
192	碗（重ね）	横	―	なし		
193	碗	横	2	有り	1397・1398	
194	碗（重ね）	横	―	有り		炭が上にのっている
195	碗	伏せ	1	なし	240	
196	碗	伏せ	1	有り	1399	
197	碗	伏せ	2	有り	1400	バラバラ、下に１個体分入っていた
198	碗	上	1	なし		
199	碗	伏せ	1	有り	1401	
200	碗	伏せ	1	なし	241	
201	碗	伏せ	1	有り	1402	
202	碗	伏せ	1	有り	1403	
203	碗	伏せ	1	なし	242	
204	碗	伏せ	1	有り	1404	
205	碗	伏せ	2	有り	1406	
206	碗	伏せ	1	なし		
207	碗	伏せ	1	有り	1405	バラバラ
208	碗	伏せ	1	有り	1407	中に炭が入っていた
209	碗	伏せ	1	有り	1408	
210	碗	上	1	なし		
211	碗	伏せ	1	有り	1409	
212	碗	伏せ	1	有り	243	１号窯床面下取上番号213が下に入る
213	碗	伏せ	1	有り	1410	中に炭が入る
214	碗	上	1	有り		
215	碗	伏せ	1	有り		
216	碗	伏せ	1	有り	1411	
217	碗	上	1	有り		バラバラ
218	碗	伏せ	1	有り		
219	碗	伏せ	1	有り	1412	１号窯床面下取上番号220・221が上にあり、その下の破片はすべて１号窯床面下取上番号219で処理
220	皿	上	2	有り		重ね皿かもしれない
221	皿	上	2	有り	2785	重ね皿かもしれない
222	碗	伏せ	2	有り	1413・1414	完全に隠れた碗（伏せ）が１つあり
223	碗	伏せ	1	有り		
224	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
225	碗	伏せ	1	有り	244	中に炭が入っている
226	碗	伏せ	1	有り	1415	
227	碗	伏せ	1	有り	1416	中に炭が入っている
228	碗	上	1	なし		１号窯床面下取上番号229と接合

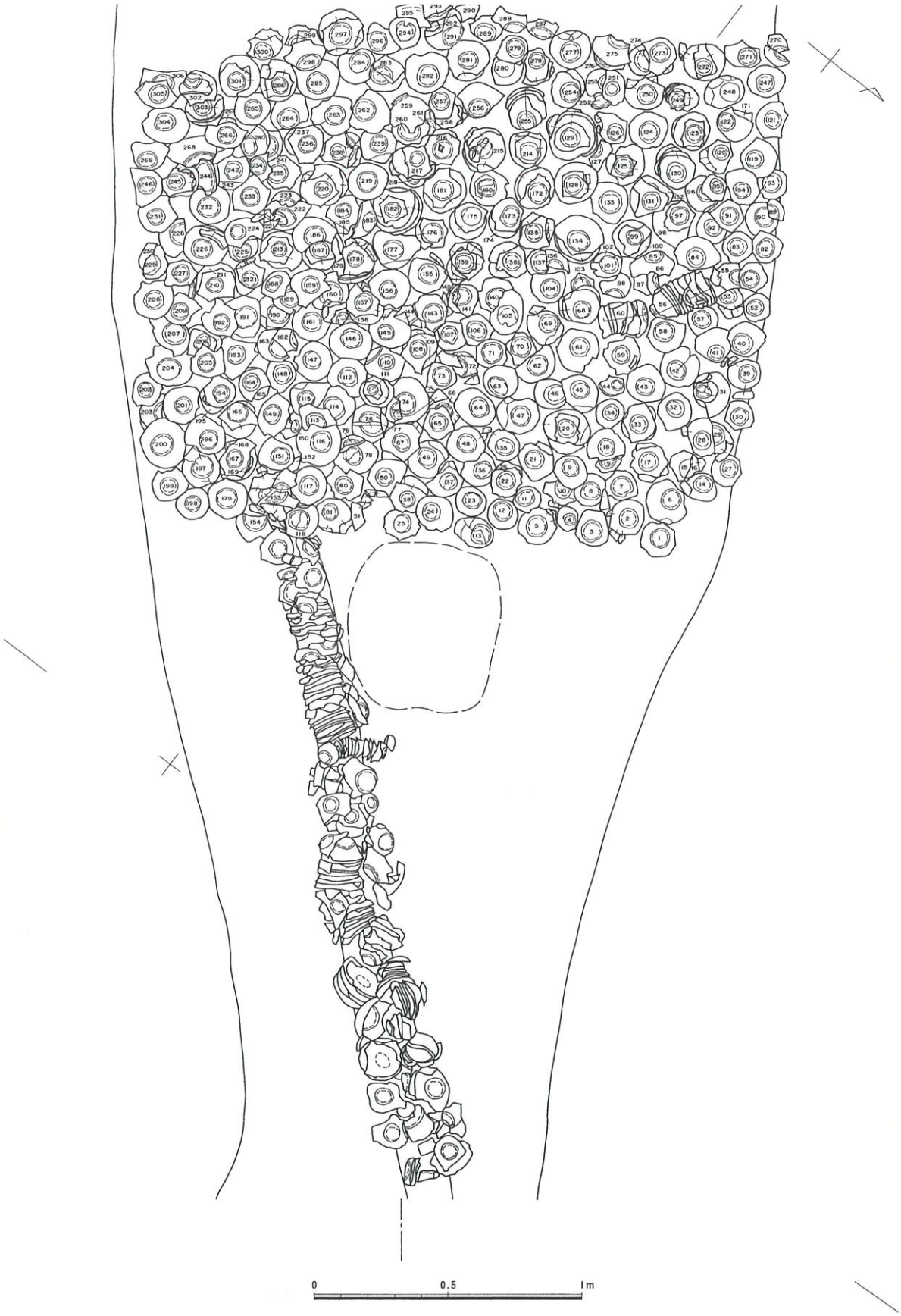
第15表　１号窯床面下施設遺物取上記録（６）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
229	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
230	碗	伏せ	1	有り	1417	
231	碗	伏せ	1	有り		
232	碗	伏せ	1	有り	1418	下に炭あり
233	碗	上	1	有り		
234	碗	伏せ	1	有り	1419	中に石（1個）あり
235	碗	伏せ	1	有り		バラバラ状態
236	碗	伏せ	1	有り	1420	
237	碗	伏せ	0	なし		口縁のみ
238	碗	伏せ	1	有り	245	中に炭あり
239	碗	伏せ	1	有り	1421	
240	皿	伏せ	1	なし		
241	皿（重ね）	上	―	なし		
242	碗	伏せ	1	有り	1422	
243	碗	上	1	有り		バラバラ状態
244	碗	上	1	有り		
245	碗	伏せ	1	有り	1423	
246	碗	伏せ	1	有り	1424	
247	碗	伏せ	1	有り	1425	
248	碗	伏せ	1	有り	246	
249	皿	上	3	有り	2786	
250	碗	伏せ	1	有り	247	
251	碗	伏せ	1	有り	1426	
252	碗	伏せ	1	有り	1427	
253	碗	伏せ	1	有り	1428	
254	碗	伏せ	1	有り	248	
255	碗	伏せ	1	有り		中に炭あり
256	碗	上	1	有り		
257	碗	伏せ	1	有り	1429	
258	碗	伏せ	1	有り		バラバラ状態
259	碗	伏せ	1	有り	1430	中に炭あり
260	碗	伏せ	1	有り		中に炭あり
261	碗	伏せ	1	有り	1431	中に炭あり

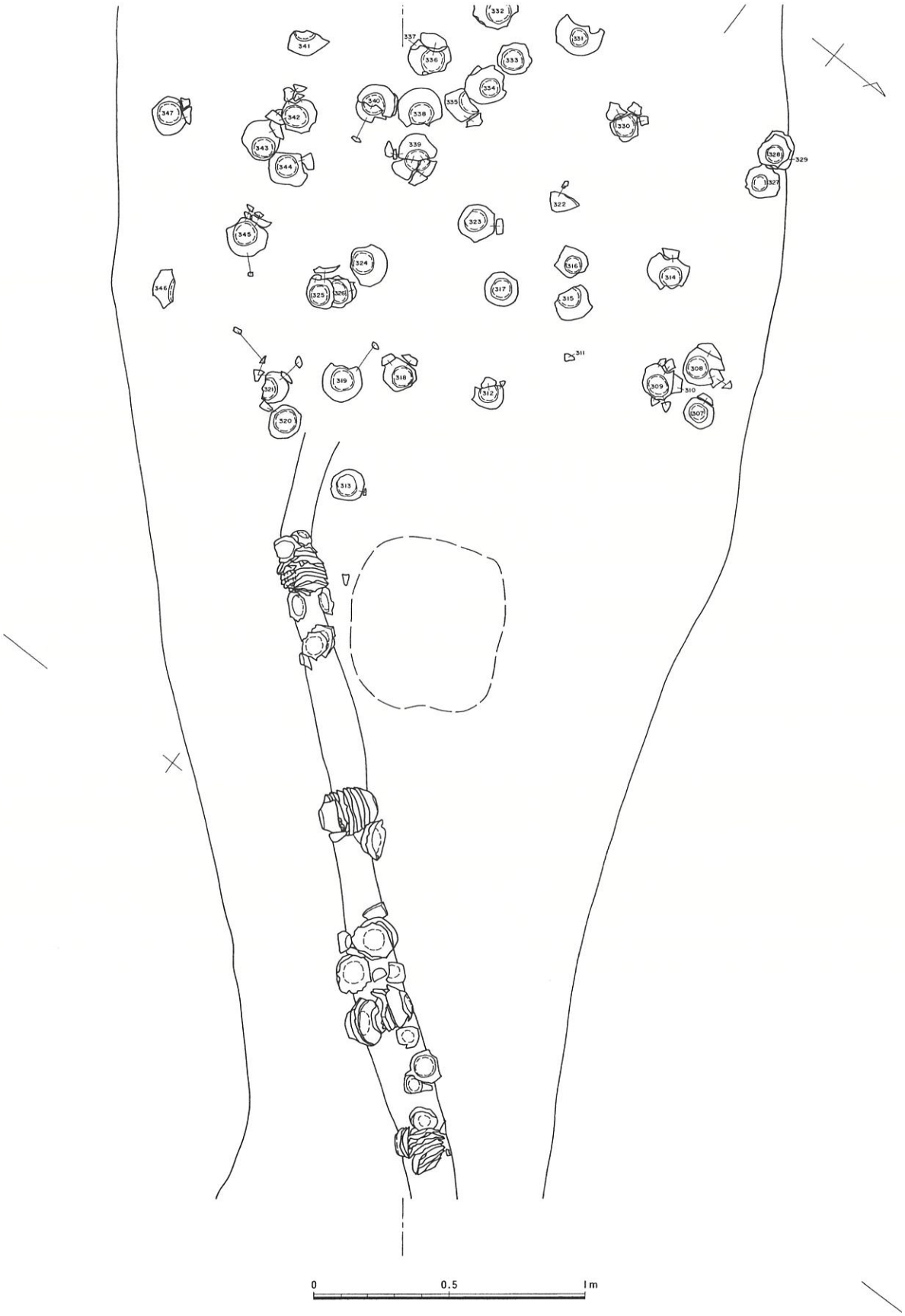
第16表　1号窯床面下施設遺物取上記録（7）

取上番号	器種名	出土状態	個体数（高台数）	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
1	碗	伏せ	1	有り	1283	
2	碗	伏せ	1	有り	1287	
3	皿	上	2	なし	2696・2697	洗浄後、重ね皿（２枚）が分離
4	皿	上	1	なし	1881	
5	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
6	皿	上	1	なし	2698	
7	皿	上	1	なし	1882	
8	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
9	皿	上	1	有り	1883	
10	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
11	碗	伏せ	1	有り	1288	
12	皿	上	1	有り	2699	
13	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
14	皿	上	1	なし	2700	
15	碗（重ね）	横	―	有り		
16	碗	伏せ	1	有り		
17	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
18	碗（重ね）	伏せ	1	有り	1289	
19	皿	横	1	なし	1884	
20	碗	伏せ	1	なし	226	完形品
21	碗	伏せ	0	なし		口縁部のみ
22	碗（重ね）	横	―	有り		
23	碗	伏せ	1	有り	225	

第 17 表　SD02 遺物取上記録



第46図　2号窯床面下施設遺物取上位置番号図（二次面）



第 47 図　２号窯床面下施設遺物取上位置番号図（一次面）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
1	碗	伏せ	1	なし		
2	碗	伏せ	1	有り	1432	
3	碗	伏せ	1	有り	1433	破片が下に入っていた
4	皿（重ね）	伏せ	―	有り		
5	碗	伏せ	1	有り	1434	
6	碗	伏せ	1	有り	1435	
7	碗	伏せ	1	有り		
8	碗	伏せ	1	有り		
9	碗	伏せ	1	有り		
10	碗	伏せ	1	有り	1436	破片が下に入っていた
11	碗	伏せ	1	有り		
12	碗	伏せ	1	なし		
13	碗	伏せ	1	なし		バラバラに割れていた
14	碗	伏せ	1	なし		
15	碗	伏せ	1	有り		
16	碗	伏せ	1	有り		バラバラ
17	碗	伏せ	1	有り	249	
18	碗	伏せ	1	なし	1497	２号窯床面下取上番号19の上に半分かかる
19	碗	伏せ	1	有り		２号窯床面下取上番号18の上にのる
20	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
21	碗	伏せ	1	有り	250	
22	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号26の上に完全にのる
23	碗	伏せ	1	有り		
24	碗	伏せ	1	有り	1438	
25	碗	伏せ	1	なし		
26	碗	伏せ	1	有り		
27	碗	伏せ	1	なし		
28	碗	伏せ	1	有り	1439	２号窯床面下取上番号29の上に半分かかる
29	碗	伏せ	1	有り		
30	碗	伏せ	1	なし		
31	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
32	碗	伏せ	1	有り	1440	下に見えていないものがある
33	碗	伏せ	1	有り		
34	碗	伏せ	1	有り		
35	碗	伏せ	1	有り		
36	碗	伏せ	1	有り		
37	碗	伏せ	1	有り	1442	
38	碗	伏せ	1	有り	1443	
39	碗	伏せ	1	有り	1444	

第18表　２号窯床面下施設遺物取上記録（１）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
40	碗	伏せ	1	有り	1445	
41	碗	伏せ	1	なし	1446	
42	碗	伏せ	1	有り	1447	下に見えていないものがある
43	碗	伏せ	1	有り	251	下に見えていないものがある。 破片は取上げの時にわれたもの。
44	皿(重ね)	伏せ	—	なし		
45	碗	伏せ	1	有り	1448	
46	碗	伏せ	1	不明		
47	碗(重ね)	伏せ	—	有り		
48	碗	伏せ	1	有り	1449	
49	碗	伏せ	1	有り	1450	
50	碗	伏せ	1	有り	1451	
51	碗	伏せ	0	有り		高台なし
52	碗	伏せ	1	有り		
53	碗	伏せ	1	有り	1452	
54	碗	伏せ	1	有り		
55	碗	伏せ	1	有り	1453	
56	碗(重ね)	横	—	有り		
57	碗	伏せ	1	有り		
58	碗(重ね)	伏せ	—	有り		
59	碗(重ね)	伏せ	—	有り		
60	碗(重ね)	横	—	有り		
61	碗(重ね)	伏せ	—	有り		
62	碗	伏せ	1	なし	1454	2号窯床面下取上番号70に上に少し重なる
63	碗	伏せ	1	有り	1455	
64	碗	伏せ	1	なし	1456	
65	碗	伏せ	1	有り		2号窯床面下取上番号66に上に重なる
66	碗	伏せ	1	有り		
67	碗	伏せ	1	有り	1457	
68	碗(重ね)	伏せ	—	有り		2号窯床面下取上番号103に上に重なる
69	碗	伏せ	1	有り	1458	下に完全に見えない状態で一つある
70	碗(重ね)	伏せ	—	有り		
71	碗	伏せ	1	なし		下に見えないものがある
72	碗	伏せ	1	有り		
73	碗	伏せ	1	有り	1459	
74	碗	伏せ	1	有り	1460	2号窯床面下取上番号75の下にあった
75	碗	伏せ	1	なし		出土位置は離れていた
76	碗	伏せ	1	なし		2号窯床面下取上番号77の上にのる
77	碗	伏せ	1	有り	1461	
78	碗	伏せ	1	有り	1462	2号窯床面下取上番号79の下になる

第19表　2号窯床面下施設遺物取上記録（2）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
79	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号78の上になる
80	碗	伏せ	1	有り		下に隠れていた
81	碗	伏せ	1	有り		
82	碗	伏せ	1	なし		
83	碗	伏せ	1	有り		
84	碗（重ね）	伏せ	―	有り	1463・1464	洗浄後、重ね碗（２枚）が分離
85	碗	伏せ	1	なし	252	２号窯床面下取上番号86の上にのる
86	碗	伏せ	1	なし	1465	２号窯床面下取上番号87の上にのる
87	碗	伏せ	1	有り	1466	下に見えないものあり
88	碗	伏せ	1	有り	1467	
89	碗	伏せ	1	なし		
90	碗	伏せ	1	なし	1468	
91	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号92の上に少しかかる
92	碗	伏せ	1	なし		
93	碗	伏せ	1	なし		
94	碗	伏せ	1	有り	1469	下に１個あり
95	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号96の上に少しかかる
96	碗	伏せ	1	有り	1470	
97	碗	伏せ	1	有り	1471	２号窯床面下取上番号98の上にのる
98	碗	伏せ	1	有り	1472	
99	碗	伏せ	1	なし	1473	２号窯床面下取上番号100の上にのる
100	碗	伏せ	1	有り	253	
101	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号102の上にのる
102	碗	伏せ	1	有り		
103	碗	伏せ	1	なし		割れている
104	碗	伏せ	1	有り	1474	
105	碗	伏せ	1	有り	1475	
106	碗	伏せ	1	有り	1476	
107	碗	伏せ	1	なし		
108	碗	伏せ	1	有り	1477	
109	碗	伏せ	1	有り	1478	２号窯床面下取上番号108の下にあり
110	碗	伏せ	1	有り	1479	下に隠れている
111	皿（重ね）	伏せ	―	有り		
112	碗	伏せ	1	なし	1480	
113	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号114・115の上にのる
114	碗	伏せ	1	有り	1481	
115	碗	伏せ	1	有り	1482	
116	片口鉢	伏せ	―	なし	2794	
117	碗	伏せ	1	有り	254	

第20表　２号窯床面下施設遺物取上記録（３）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
118	碗	伏せ	1	なし	1483	割れ、SD01と接する位置にあり
119	碗	伏せ	1	なし	1484	下に隠れている
120	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
121	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
122	碗	伏せ	1	なし	1485	わずかにみえるものが１つ下にあり
123	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
124	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
125	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
126	碗	伏せ	1	有り	1486	下に隠れている
127	碗	伏せ	1	有り	1487	
128	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
129	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
130	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
131	碗	伏せ	1	なし	1488	２号窯床面下取上番号132の上にのる
132	碗	伏せ	1	有り	1489	
133	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
134	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
135	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
136	碗	伏せ	1	なし		下に隠れている
137	碗	伏せ	1	有り		
138	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
139	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
140	碗	伏せ	1	なし	1490	
141	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号142の上にのる
142	碗	伏せ	1	なし		
143	碗	伏せ	1	有り	1491	
144	碗	上	1	有り		
145	碗	伏せ	1	有り	1492	
146	碗（重ね）	伏せ	―	なし		
147	碗	伏せ	1	なし	255	下に１個隠れている
148	碗	伏せ	1	有り		
149	碗	伏せ	1	有り		下に１個隠れている
150	皿	伏せ	1	有り	2787	２号窯床面下取上番号149の下にかくれていたものの上にあり
151	碗	伏せ	1	有り	1493	２号窯床面下取上番号152の上にのる
152	碗	伏せ	1	有り	1494	
153	碗	伏せ	1	不明	1495	割れ
154	碗	伏せ	1	有り	1496	
155	碗（重ね）	伏せ	―	有り		
156	碗	伏せ	1	有り	256	

第 21 表　２号窯床面下施設遺物取上記録（４）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
157	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
158	皿（重ね）	伏せ	—	なし		
159	碗	伏せ	1	有り		下に隠れている
160	碗	伏せ	1	なし	1497	下に隠れている
161	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
162	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号163の上にのる
163	碗	伏せ	1	有り	1498	
164	碗	伏せ	1	有り	1499	２号窯床面下取上番号165の上にのる
165	碗	伏せ	1	有り		下に隠れている
166	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
167	碗	伏せ	1	なし	1500	
168	碗	伏せ	1	有り		２号窯床面下取上番号169の上にのる
169	碗	伏せ	1	有り	1507	
170	碗	伏せ	1	有り	257	
171	碗	伏せ	1	有り	1502	
172	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
173	碗	伏せ	1	なし		
174	碗	伏せ	1	有り	1503	２号窯床面下取上番号173の下にあり
175	碗（重ね）	伏せ	—	なし		下にあり
176	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
177	碗	伏せ	1	なし		
178	碗	伏せ	1	有り	1504	
179	碗	伏せ	1	なし	1505	下にあり
180	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
181	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
182	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
183	碗	伏せ	1	なし	258	
184	碗	伏せ	1	有り	1506	
185	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
186	碗	伏せ	1	有り	1507	２号窯床面下取上番号187の上にのる
187	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
188	碗	伏せ	1	有り		２号窯床面下取上番号189の上にのる
189	碗	伏せ	1	有り		
190	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
191	碗	伏せ	1	有り	1508	
192	碗	伏せ	1	なし	1509	
193	碗	伏せ	1	有り	1510	
194	碗	伏せ	1	なし		
195	碗	伏せ	1	有り	1511	

第 22 表　２号窯床面下施設遺物取上記録（５）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
196	碗	伏せ	1	有り	1512	
197	碗	伏せ	1	不明	1513	バラバラ
198	碗	伏せ	1	有り		
199	碗	伏せ	1	なし		
200	碗	伏せ	1	なし	259	ほぼ完形
201	碗	伏せ	1	有り	1514	
202	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号203の上に少し重なる
203	碗	伏せ	1	有り	1515	
204	碗	伏せ	1	有り	1516	
205	碗	伏せ	1	有り		
206	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
207	碗	伏せ	1	なし		碗の下から炭
208	碗	伏せ	1	有り	1517	下に１個あり
209	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
210	碗	伏せ	1	有り	1518	下に２号窯床面下取上番号211あり
211	碗	伏せ	1	なし	1519	上に２号窯床面下取上番号210あり
212	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
213	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
214	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
215	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
216	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
217	碗（重ね）	伏せ	－	なし		２号窯床面下取上番号218の上にあり
218	碗	伏せ	1	なし	1520	下に隠れている
219	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
220	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
221	碗	伏せ	1	不明		バラバラ
222	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号223の上
223	碗	伏せ	1	なし	1521	
224	碗	伏せ	1	なし	1522	２号窯床面下取上番号225にかかる
225	碗	伏せ	1	なし		下に隠れていた
226	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
227	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
228	碗	伏せ	1	なし	1523	
229	碗	伏せ	1	なし	1524	２号窯床面下取上番号230の上
230	碗	伏せ	1	なし		
231	碗	伏せ	1	有り	1525	
232	碗	伏せ	1	不明	261	
233	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
234	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号235の上

第 23 表　２号窯床面下施設遺物取上記録（６）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
235	碗	伏せ	1	なし	1526	下に隠れている
236	碗	伏せ	1	なし	1527	２号窯床面下取上番号237の上
237	碗	伏せ	1	不明	1528	バラバラ
238	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
239	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
240	碗	伏せ	1	なし	1529	２号窯床面下取上番号241の上
241	碗	伏せ	1	有り	262	下に隠れている
242	碗	伏せ	1	有り	1530	２号窯床面下取上番号243の上
243	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
244	碗	上	1	なし		
245	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
246	碗	伏せ	1	有り	1531	
247	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
248	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
249	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
250	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
251	碗	伏せ	1	有り	1532	２号窯床面下取上番号253の上
252	碗	伏せ	1	有り		２号窯床面下取上番号253に重なる
253	碗	伏せ	1	有り	1533	
254	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
255	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
256	碗	伏せ	1	なし	1534	下に隠れている
257	碗	伏せ	1	なし		２号窯床面下取上番号258に重なる
258	碗（重ね）	伏せ	－	なし		下に隠れている
259	碗	伏せ	1	有り	1535	２号窯床面下取上番号260の上
260	碗	伏せ	1	有り	1536	２号窯床面下取上番号261の上
261	碗	伏せ	1	なし	1537	下に隠れている
262	碗	伏せ	1	なし	1538	下に隠れている
263	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
264	碗	伏せ	1	有り	1539	下に隠れている
265	碗	伏せ	1	有り		
266	碗	伏せ	1	なし	1540	２号窯床面下取上番号267の上
267	碗（重ね）	伏せ	－	なし		
268	鉢	伏せ	1	有り	2795	
269	碗	伏せ	1	有り		
270	碗	伏せ	1	有り	1541	
271	碗	伏せ	1	なし	1542	
272	碗（重ね）	伏せ	－	有り		
273	碗（重ね）	伏せ	－	なし		２号窯床面下取上番号274に重なる

第24表　２号窯床面下施設遺物取上記録（７）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
274	碗	伏せ	1	有り	1543	
275	碗	伏せ	1	なし	1544	２号窯床面下取上番号276の上
276	碗	伏せ	1	有り	1545	
277	碗	伏せ	1	有り	1546	下に隠れている
278	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
279	碗	伏せ	1	有り		２号窯床面下取上番号280に重なる
280	碗	伏せ	1	有り	1547	下に隠れている
281	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
282	碗	伏せ	1	なし	263	下に２枚隠れている
283	碗（重ね）	伏せ	—	不明		
284	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
285	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
286	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
287	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
288	碗	伏せ	1	なし	1548	
289	碗	伏せ	1	有り	264	下に隠れている
290	碗	上	1	なし	1549	
291	碗	伏せ	1	有り	1550	２号窯床面下取上番号292の上にあり
292	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
293	碗	横	1	なし		
294	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
295	碗	上	1	なし	1551	
296	碗	伏せ	2	有り	1552・1553	重なりの状態で出土。もみ片付着。
297	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
298	碗	伏せ	1	なし	265	下に隠れている。２号窯床面下取上番号299が下にはいる。
299	碗	伏せ	1	有り	1554	
300	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
301	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
302	碗（重ね）	伏せ	—	なし		２号窯床面下取上番号303と重なる
303	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
304	碗	伏せ	1	なし	1555	下に隠れている
305	碗	伏せ	1	なし	1556	２号窯床面下取上番号306と重なる
306	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
307	碗	伏せ	1	なし		
308	碗	伏せ	1	有り	1557	
309	碗	伏せ	1	有り	1558	２号窯床面下取上番号310が下
310	碗	伏せ	1	有り	1559	
311	碗	伏せ	1	なし		口縁のみ
312	碗	伏せ	1	有り		

第25表　２号窯床面下施設遺物取上記録（８）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
313	碗	伏せ	1	有り		
314	碗	伏せ	1	有り	1560	
315	碗	伏せ	1	有り	1561	破片は下に入っていた
316	碗	伏せ	1	なし		
317	碗	伏せ	1	なし		
318	碗	伏せ	1	有り	1562	
319	碗	伏せ	1	有り	1563	
320	碗	伏せ	1	有り	1564	
321	碗	伏せ	1	有り	1565	
322	碗	伏せ	1	有り		口縁のみ
323	碗	伏せ	1	有り	1566	
324	碗	伏せ	1	なし	1567	
325	碗	伏せ	1	有り		
326	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
327	碗	伏せ	1	なし		
328	碗	伏せ	1	有り		２号窯床面下取上番号329が下
329	碗	伏せ	1	なし		
330	碗	伏せ	1	有り	1568	
331	碗	伏せ	1	なし	266	
332	碗	伏せ	1	なし	1569	
333	碗	伏せ	1	なし		
334	碗	伏せ	1	有り	1570	
335	碗	伏せ	1	有り		
336	碗	伏せ	1	有り	1571	２号窯床面下取上番号337が下に入る
337	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
338	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
339	碗	伏せ	1	有り	1572	
340	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
341	碗	伏せ	1	なし		
342	碗	伏せ	1	有り	1573	
343	碗	伏せ	1	有り	1574	
344	碗	伏せ	1	有り	1575	
345	碗	伏せ	1	有り	267	
346	碗	伏せ	1	なし		
347	碗	伏せ	1	有り	1576	

第26表　２号窯床面下施設遺物取上記録（９）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
1	碗	伏せ	1	なし		
2	碗	横	1	有り	1268	
3	碗	伏せ	1	有り		
4	碗	伏せ	1	なし		
5	碗	伏せ	1	有り		
6	碗（重ね）	横	—	有り		
7	碗	伏せ	1	なし		
8	碗	伏せ	1	なし		
9	皿	横	1	なし	2686	
10	碗	横	1	有り		
11	碗（重ね）	横	—	有り		
12	碗（重ね）	横	—	なし		
13	皿	横	2	なし	2687	
14	碗（重ね）	横	—	有り		
15	皿	上	1	なし	1877	
16	皿（重ね）	伏せ	—	なし		
17	皿（重ね）	横	—	なし		
18	皿（重ね）	横	—	なし		
19	碗	伏せ	1	有り	1269	
20	碗（重ね）	横	—	有り		
21	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
22	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
23	皿	伏せ	1	なし		
24	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
25	碗（重ね）	横	—	有り		
26	碗	横	1	なし		
27	碗（重ね）	横	—	有り		
28	碗（重ね）	横	—	有り		
29	碗	横	1	なし	2688	
30	碗（重ね）	横	—	なし		
31	碗（重ね）	上	—	有り		
32	碗（重ね）	横	—	有り		
33	碗	上	1	有り		
34	碗（重ね）	横	—	有り		
35	碗（重ね）	横	—	有り		
36	碗	上	1	なし		
37	碗（重ね）	横	—	有り		
38	碗（重ね）	上	—	有り		

第 27 表　SD01 遺物取上記録（1）

取上番号	器種名	出土状態	個体数(高台数)	破片の有無	遺物観察表対照	備　考
39	碗（重ね）	上	—	なし		
40	碗（重ね）	横	—	有り		
41	碗（重ね）	伏せ	—	なし		
42	碗	上	1	有り	1270	
43	碗	上	1	有り	1271	
44	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
45	碗	伏せ	1	不明		バラバラ
46	碗（重ね）	伏せ	—	有り		
47	碗（重ね）	横	—	なし		
48	碗	伏せ	1	有り		
49	皿（重ね）	横	—	なし		
50	碗	伏せ	1	なし		
51	碗（重ね）	横	—	有り		SD01取上番号75が下に隠れていて、SD01取上番号53と同じ状態においてある。
52	碗	横	1	なし	1272	
53	碗	横	1	なし	1273	
54	碗	上	1	なし		
55	碗	上	1	なし		
56	碗	横	1	有り		
57	碗	横	1	有り		
58	碗（重ね）	横	—	有り		
59	碗（重ね）	横	—	有り		
60	皿（重ね）	上	—	なし		
61	碗（重ね）	上	—	なし		
62	碗	上	1	なし		
63	皿	横	1	なし	2689	
64	皿	横	1	なし	2690	
65	碗（重ね）	上	—	なし		
66	皿	上	1	なし	1878	
67	碗（重ね）	横	1	なし	221	
68	碗（重ね）	横	—	有り		
69	皿	上	1	有り	2691	
70	碗	伏せ	1	なし		
71	碗	伏せ	1	有り		下から大量の破片が隠れていた。
72	碗（重ね）	横	—	有り		
73	碗（重ね）	横	—	なし		
74	皿	上	—	有り		
75	碗	横	1	なし		

第28表　SD01 遺物取上記録（2）

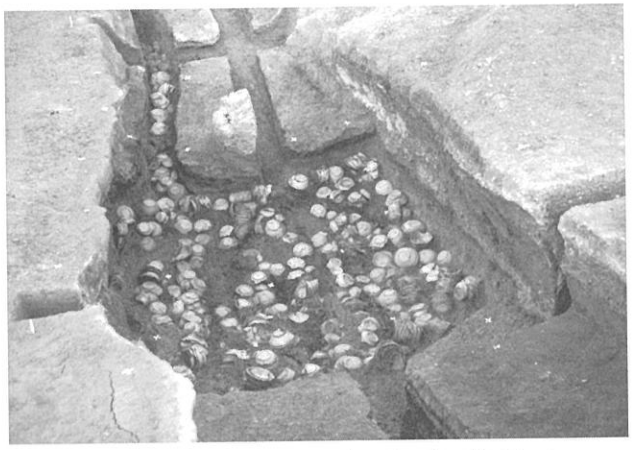


写真 33　1 号窯床面下施設（二次面）南西から

写真 34　1 号窯床面下施設（二次面）南西から

写真 35　1 号窯床面下施設（一次面）南西から

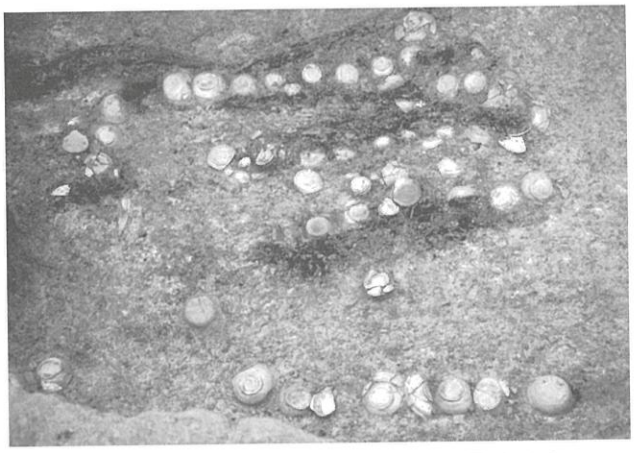


写真 36　1 号窯床面下施設（一次面）北西から

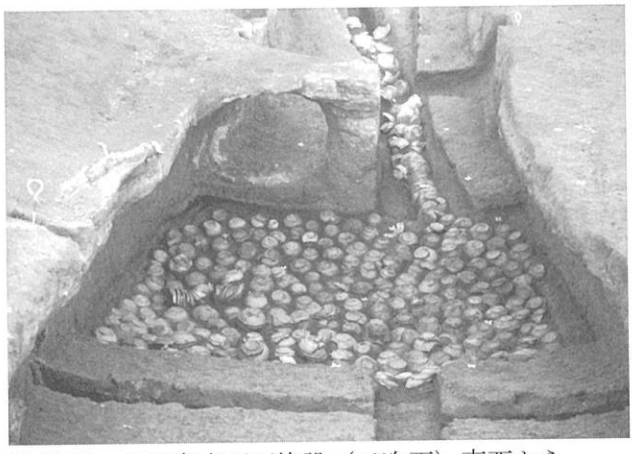


写真 37　2 号窯床面下施設（二次面）南西から

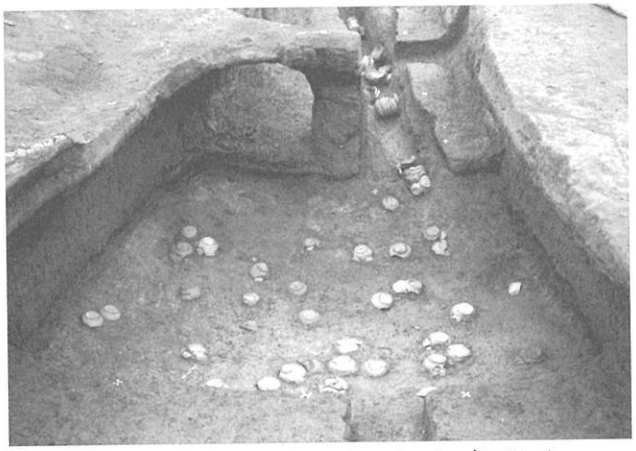
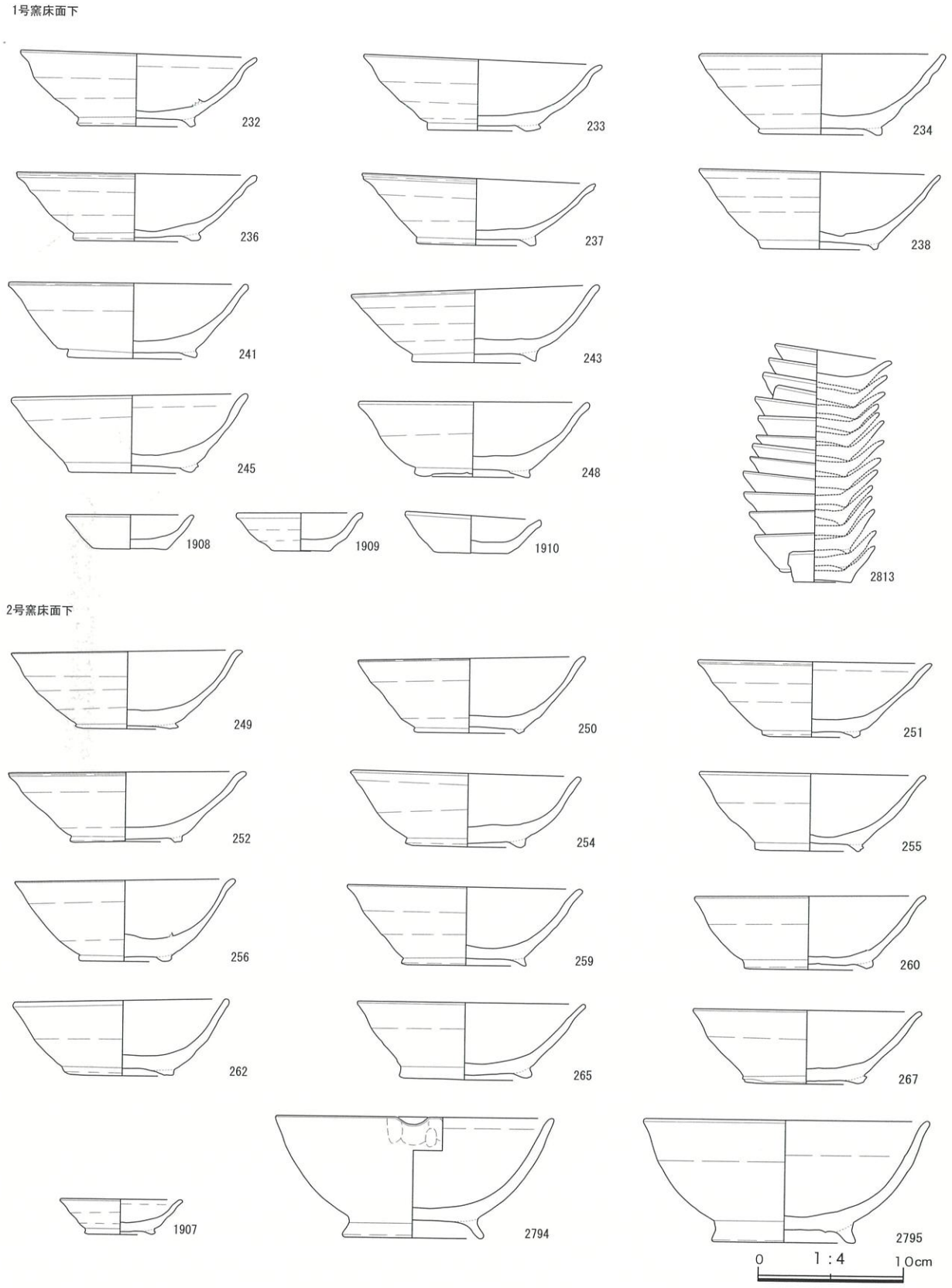
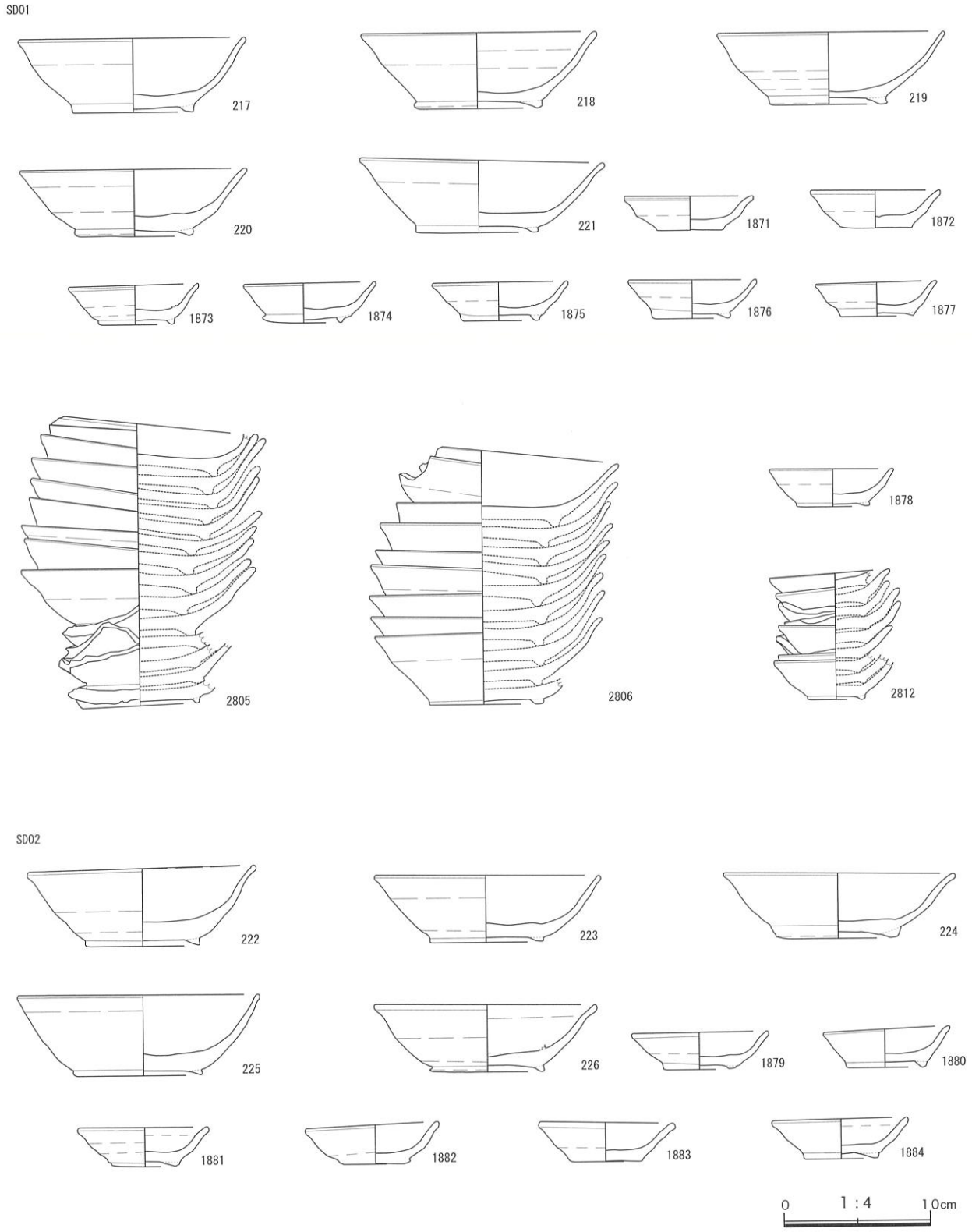


写真 38　2 号窯床面下施設（一次面）南西から



第 48 図　遺物実測図（1 号窯床面下・2 号窯床面下施設）



第 49 図　遺物実測図（SD01・SD02）

第４節　　考察

深廻間Ａ古窯群は、第２節・第３節や遺物観察表に示したとおり、ここでは主に碗類・皿類が生産されていたと思われる。今回出土した２つの窯内からは両窯の床面下に排水施設を伴う遺構とともに溝も検出された。そのため、碗類・皿類も窯内だけでなく、床面下施設のものと、それに伴う溝や遺構と灰原という多岐にわたるデータが対象となった。

そのうち碗類は、1576 点出土し、主な遺構での内訳は、窯と灰原に関連するもの 1239 点（79%）で、１号窯床面下施設 110 点（7%）で、２号窯床面下施設が 168 点（11%）である。SD01 からは 37 点（2%）、SD02 からは 22 点（1%）を対象とした。皿類は、1211 点出土し、窯と灰原に関連するものが 1142 点（93%）、１号窯床面下施設が 9 点、２号窯床面下施設が２点で、施設をともなう皿は点数が少なく比較するにはデータが少なく、皿は比較対象としない事とした。SD01 には 42 点（3%）、SD02 には 15 点（1%）を対象として考えた。

碗類は、碗全体の平均が口径 16.1 ㎝、高台径 8.2 ㎝、器高 4.9 ㎝であったが、窯と灰原と１号窯と２号窯床面下施設と、それに伴う溝(SD)の法量を比較してみると次のようになった。

出土地点＼器種		碗　類			皿　類		
		口径	高台径	器高	口径	高台径	器高
窯と灰原	平均値	16.2	8.2	5.0	8.8	4.9	2.5
	最大値	17.8	10.3	6.1	10.1	6.2	3.3
	最小値	14.4	5.2	3.9	7.6	3.4	2.0
１号窯床面下施設	平均値	16.3	8.3	5.1	8.9	4.9	2.6
	最大値	17.4	9.5	5.7	9.4	5.6	2.7
	最小値	15.3	7.0	4.4	8.2	4.0	2.4
２号窯床面下施設	平均値	16.0	7.8	5.0	8.5	4.8	2.4
	最大値	17.2	9.1	5.6	8.5	4.8	2.4
	最小値	15.0	6.3	4.2	8.5	4.8	2.4
ＳＤ０１	平均値	16.1	8.0	5.0	8.7	4.8	2.6
	最大値	16.7	9.0	5.3	9.7	5.6	2.9
	最小値	15.4	6.7	4.5	8.3	4.0	2.3
ＳＤ０２	平均値	16.0	8.2	5.0	9.0	4.9	2.7
	最大値	16.7	9.2	5.1	9.4	5.6	2.8
	最小値	15.2	6.7	4.5	8.6	4.1	2.5

第 29 表　碗類皿類の法量比較表

碗の平均値は高台径を除いてほぼ同数値で、最大値は、窯と灰原の数値が床面下や SD の数値よりも全て大きく、口径に於いては、窯と灰原を最大値として床面下が中間値で SD が最小値と徐々に小さくなるという結果となった。床面下と SD は、口径を除いてほぼ同じ数値であった。最小値は、最大値とは逆の結果となり、窯と灰原の数値が一番小さく、その中でも高台径は、窯と灰原と１号窯床面下施

設で1㎝の大きさの違いがあったが、床面下とSDではほぼ同数値という結果になった。

大府市域内で発掘調査した他の窯業遺跡で出土した遺物と比較すると、海陸庵古窯跡群の碗（平均値で口径15.9㎝、高台径7.1㎝、器高5.0㎝）よりは若干大きく、ガンジ山A古窯跡群の碗（窯と灰原の平均値で口径16.4㎝、高台径8.0㎝、器高4.8㎝）とほぼ同様であり、神明古窯址群の碗（2号窯の平均値で口径16.7㎝、高台径7.9㎝、器高5.2㎝）よりは若干小さい数値であった。

続いて碗の器形分類における体部は、窯と灰原・1号窯2号窯の床面下施設いずれにおいても、D類の曲線的に立ち上がり口縁付近で外反するものが全体の64%を占め、多い結果となった。口縁端部に関しても全てにおいて、1類の丸みを帯びたものが圧倒的に多く、71%を占めている。

結果として、体部のD類と口縁端部の1類を組み合わせたものというのがもっとも多く740点あり碗全体の47%を占めていた。

体部＼口縁	1類	2類	3類	4類	5類	不明	合計
A類	80	22	4	9	3	0	118
B類	133	30	6	16	5	0	190
C類	168	65	7	11	4	0	255
D類	741	192	13	35	29	0	1010
不明	2	0	0	0	0	1	3
合計	1124	309	30	71	41	1	1576

第30表　碗類器形分類別組合せ表

皿類は1211点出土した。皿類は、付高台を有するものと、高台が無いものの大きく分けて二つに分かれる。付高台を有するものが824点（68%）で、高台の無いものは385点（32%）で、圧倒的に付高台を有するものが多かった。そこで皿類全てのものと、高台の存在を分けたものの両方で平均を計算してみたが、すべて同じ数値という結果になった。皿類の全体の平均は口径8.8㎝、高台径4.8㎝、器高2.5㎝で、遺構別の数値は上記の表のとおりである。

平均値が、全体の平均とは窯と灰原が同数値となったが、SDの平均はほぼ同数値という結果となった。最大値・最小値は、碗類同様に最大値が全て大きい数値の値を示し、最小値は全て小さい数値を示した。碗と同じく市内の遺跡と比較してみると、海陸庵古窯跡群の皿（平均値で口径7.9㎝、底径3.7㎝、器高2.1㎝）やガンジ山A古窯跡群の皿（窯と灰原の平均値で口径8.5㎝、底径4.8㎝、器高2.1㎝）よりは若干大きく、神明古窯跡群の皿（灰原の平均値で口径9.3㎝、高台径5.1㎝、器高2.6㎝）よりは若干小さめであるという結果となった。

続いて器形分類については、観察表の中では高台が無いものをさらに二つに分けて3種類に分類した。その結果、体部は3種類ともD類が一番多く36%を占めた。付高台が無いものは、ともにE類が多かったのに対し、高台を有するものはA類・B類がほぼ同じくらい多かった。全体に見た場合、次に多かったのはE類（20%）であるが、A類・B類（18%）も数に大きな差は見られなかった。口縁端部に関しても、どの種類も1類（76%）が圧倒的に多く、2類（22%）がその後に続いている。

その結果、碗同様に体部はD類で、口縁端部が1類という形が29%で一番多い割合を占めていた。

高台	Ⅰ系					Ⅱ系				合計	総計
口縁 / 体部	1類	2類	3類	4類	合計	1類	2類	3類	4類		
A類	30	13	2	2	47	6	0	0	0	6	53
B類	19	5	0	0	24	18	1	0	1	20	44
C類	11	3	0	0	14	7	4	0	0	11	25
D類	61	18	0	0	79	42	18	0	0	60	138
E類	39	35	0	0	74	30	21	0	0	51	125
合計	160	72	2	2	238	103	44	0	1	148	385

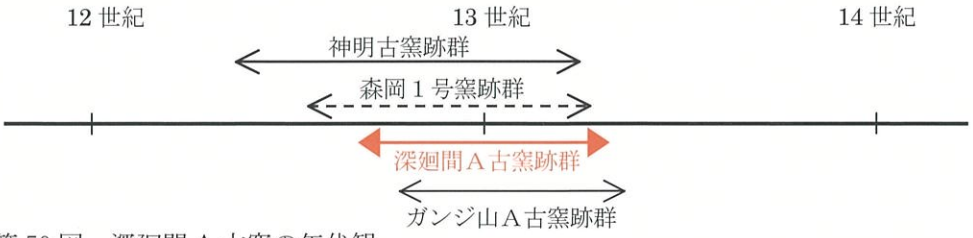
第 31 表　皿類器形分類別組合せ表（Ⅰ・Ⅱ系）

高台	Ⅲ系						Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
口縁 / 体部	1類	2類	3類	4類	口縁なし	合計	総計
A類	132	34	1	2	1	170	223
B類	146	22	0	0	0	168	212
C類	50	11	2	0	0	63	88
D類	253	41	2	5	0	301	440
E類	79	42	0	2	0	123	284
合計	660	150	5	9	1	825	1211

第 32 表　皿類器形分類別組合せ表（Ⅲ系）

今まで見てきたように、今回の調査で出土した遺物を中野晴久氏による「赤羽・中野編年」（「生産地における編年について」　全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集　日本福祉大学知多半島総合研究所 1994 年刊）に従うと、2～3型式（12 世紀後半から 13 世紀初頭）に相当すると思われる。碗類は、全体の平均値にしても体部が曲線的に立ち上がるものと、直線的に立ち上がるものが混在するということや、口縁端部が外反するが、その先端は丸みを帯びるものや尖るもの、厚みが極端に薄くなる事もなくなるという特徴が両型式に類似しているように思われる。皿類は、付高台を有するものが高台の無いものよりも多く出土している事から判断すると、2型式の傾向を色濃く残した時期であると考えられる。そのため、碗類も皿類も2型式から3型式へ移行する時期であったのではないかと考えられるのではないだろうか。

この遺跡では、碗類や皿類と鉢を含めて主に焼成し、壷などの特殊なものはなかった。これまでに調査した市内の古窯跡と比較してみると、深廻間A古窯跡群は神明古窯跡群よりは新しく、森岡第1号窯跡群（灰原のみ残存の遺跡）の少し後でガンジ山A古窯跡群よりはやや前から始まっているのではないか考えられる。



第 50 図　深廻間Ａ古窯の年代観

出土遺物観察表の凡例

【法量の計測】

口　径　実測できるものは、そのまま計測した。1/2 以下は推定値を記し、（　）で記入した。測定が困難な個所は「測定不能」と測定個所が欠損している場所は「－」とした。

高台径　実測できるものは、そのまま計測した。1/2 以下は推定値を記し、（　）で記入した。測定が困難な個所は「測定不能」と測定個所が欠損している場所は「－」とした。高台径で高台が欠けているものは底径として数値を入れた。

器　高　実測できるものは、そのまま計測した。1/2 以下は推定値を記し、（　）で記入した。高台が欠けているものは、残存長として数値をいれた。測定が困難な個所は「測定不能」と測定個所が欠損している場所は「－」とした。

【各部位の観察】

高台底面付着痕

高台底面には様々な痕跡が認められるが、ここでは籾痕、砂、センイ痕などを観察した。

底部外面（碗皿共通）

底部外面には様々な痕跡が認められるが、ここでは回転台から切り離す工程で出来た糸切り痕と糸切り後にナデたものなどを観察した。

見込み　内面底部中央のこと。その個所の状態を記した。

焼　成　均一に上手く焼けていたものを最良、生焼けのものは不良、それ以外を良とした。

胎　土　粒子が細かく砂粒が少ないものを最良、やや砂粒の混じるものを良、砂粒を多く含むものを不良とした。

備　考　相当項目がないか、記入した方がよい点のある場合は適宜記入した。

【その他】

１Ｙ　１号窯床面下施設の略号

２Ｙ　２号窯床面下施設の略号

第33表　遺物観察表（碗）1

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
1	碗	4s	1号窯焼成室	16.2	8.5	4.9	もみ・砂	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
2	碗	4s	1号窯焼成室	16.1	8.2	5.0	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
3	碗	4s	1号窯焼成室	16.4	8.7	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
4	碗	4s	1号窯焼成室	(16.1)	7.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
5	碗	4s	1号窯焼成室	(16.3)	9.3	(5.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
6	碗	4s	1号窯焼成室	16.5	8.2	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
7	碗	4s	1号窯焼成室	16.7	8.9	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ　口縁にゆがみ
8	碗	4s	1号窯焼成室	16.0	8.0	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、高台にゆがみ
9	碗	4s	1号窯焼成室	16.0	8.3	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ひび割れ
10	碗	4s	1号窯焼成室	(16.3)	8.7	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
11	碗	4s	1号窯焼成室	(17.0)	8.2	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	C	1		
12	碗	4s	1号窯焼成室	15.9	8.4	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	最良	C	1		
13	碗	4s	1号窯焼成室	16.6	8.6	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
14	碗	4s	1号窯焼成室	(16.1)	7.6	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		高台のつぶれほぼなし
15	碗	4s	1号窯焼成室	(15.6)	7.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	最良	D	2		体部非常に薄い
16	碗	4s	1号窯焼成室	(16.4)	8.2	(4.5)	もみ	糸切り	横ナデ	良	最良	D	1		底部～体部ひび割れ
17	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.1	7.8	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・体部に重ね焼片付着
18	碗	4s	1号窯 第1ベルト	(17.1)	(8.0)	(4.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片・体部に砂粒付着
19	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.1	8.1	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
20	碗	4s	1号窯 主軸ベルト第2層	16.2	8.6	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
21	碗	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	16.4	8.1	5.4	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	不良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、ゆがみ
22	碗	4r	2号窯 焼成室	16.4	8.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		底部ひび割れ、胎土に小石含む
23	碗	4r	2号窯 焼成室	16.5	8.2	5.4	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	最良	C	1		
24	碗	3r	2号窯 焼成室	(16.2)	7.7	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	2		胎土に小石含む
25	碗	3r	2号窯 焼成室	(15.9)	8.1	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕	不明	良	良	D	2		天場もの、カマクソ・小石付着、釉たれ、内面全体に釉かかる
26	碗	4r	2号窯 焼成室	16.3	9.0	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	最良	A	1		
27	碗	4r	2号窯 焼成室	16.1	8.3	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	A	1		ほぼ完形
28	碗	4r	2号窯 主軸ベルト	(17.1)	8.5	(5.3)	砂	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	不良	良	D	1		底面内部ひび割れ
29	碗	3r	2号窯 焼成室	16.3	8.0	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
30	碗	3r	2号窯 第2ベルト	16.3	8.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ・小石付着、胎土に小石含む
31	碗	3r	2号窯 第2ベルト	16.5	8.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
32	碗	3r	2号窯 第2ベルト	16.0	8.5	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	C	2		底部～体部ひび割れ、胎土に小石含む
33	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.0	8.7	5.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
34	碗	3s	2号窯 燃焼室	17.0	8.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台にゆがみ
35	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.0	8.4	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
36	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.7	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
37	碗	3s	2号窯 燃焼室	15.9	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
38	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.3)	7.9	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	A	2		口縁にゆがみ、底部ひび割れ
39	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.7)	7.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	A	2		内面底部に重ね焼片付着
40	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.7	9.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		底部ひび割れ
41	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.3)	8.4	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、内面体部に砂粒付着、胎土に小石含む
42	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.2)	8.3	(5.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		底部ひび割れ
43	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.8	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
44	碗	3r	2号窯 燃焼室	(15.9)	8.3	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
45	碗	3r	2号窯 燃焼室	15.8	8.0	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		

第34表　遺物観察表（碗）2

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
46	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(16.8)	8.5	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
47	碗	3s	2号窯 燃焼室	(15.9)	8.5	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1		
48	碗	3s	2号窯 燃焼室	(15.4)	8.5	(4.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	2		内面底部に重ね焼片・砂粒付着
49	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.5)	8.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1		底部ひび割れ
50	碗	3s	2号窯 燃焼室	(15.9)	8.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		
51	碗	3s	2号窯 燃焼室	17.0	8.9	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		底部～体部ひび割れ
52	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.2)	8.5	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	C	1		高台のつぶれほぼなし、内面に砂粒付着
53	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.0	7.9	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
54	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.3	8.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
55	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	16.4	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
56	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	16.3	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		胎土に小石含む
57	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	15.7	8.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1		高台のつぶれなし
58	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	16.2	8.4	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		底部ひび割れ
59	碗	3r	2号窯 第2ベルト	15.9	8.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		底部ひび割れ
60	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(16.0)	8.1	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
61	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(16.0)	7.8	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
62	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(17.3)	8.7	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
63	碗	2s	検出Ⅰ	16.5	8.1	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部ひび割れ
64	碗	3s	検出Ⅰ	15.9	8.4	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
65	碗	2s	検出Ⅰ	15.2	7.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
66	碗	2s	検出Ⅰ	15.8	8.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
67	碗	2s	検出Ⅰ	(15.6)	7.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着
68	碗	2s	検出Ⅰ	15.8	8.1	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
69	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	9.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
70	碗	4t	検出Ⅰ	(15.2)	7.0	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
71	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	6.8	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	5		天場もの、内面全体に釉かかる、外面体部に釉たれ
72	碗	4t	検出Ⅰ	15.4	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
73	碗	4t	検出Ⅰ	15.6	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
74	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	8.6	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部に重ね焼片・砂粒付着
75	碗	4t	検出Ⅰ	16.6	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
76	碗	4t	検出Ⅰ	14.9	7.4	4.2	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
77	碗	4t	検出Ⅰ	15.7	7.9	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
78	碗	4t	検出Ⅰ	14.8	7.8	4.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
79	碗	4s	検出Ⅱ	15.1	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部にカマクソ付着
80	碗	3s	検出Ⅱ	15.8	8.8	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
81	碗	2a	検出Ⅱ	16.1	7.1	5.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
82	碗	2t	検出Ⅱ	(15.9)	8.3	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
83	碗	2t	検出Ⅱ	(16.3)	8.1	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
84	碗	4s	検出	(16.7)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	4		
85	碗	4s	検出Ⅲ	16.7	9.1	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
86	碗	4s	検出Ⅲ	(16.2)	7.8	(4.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
87	碗	4s	検出Ⅲ	(16.1)	7.9	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
88	碗	2t	試掘トレンチ	(15.6)	7.7	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
89	碗	4t	灰原	16.8	9.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
90	碗	4t	灰原	16.8	7.8	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		胎土に小石含む

第35表　遺物観察表（碗）3

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
91	碗	3a	灰原	15.5	9.2	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	3		
92	碗	3a	灰原	16.2	8.2	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
93	碗	3a	灰原	16.6	7.5	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
94	碗	3a	灰原	15.9	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
95	碗	3a	灰原	16.2	7.9	4.6	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
96	碗	3a	灰原	16.1	7.7	5.0	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
97	碗	3a	灰原	16.1	8.7	4.9	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
98	碗	3a	灰原	15.9	7.4	4.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
99	碗	3a	灰原	16.1	8.5	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面口縁部に重ね焼片付着
100	碗	3s	3s3tベルト	(16.6)	8.5	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
101	碗	3s	3s3tベルト	(16.3)	7.7	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
102	碗	2t	灰原	(16.8)	8.9	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
103	碗	2t	灰原	15.6	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
104	碗	2t	灰原	15.9	8.5	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		天場もの、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる、外面に釉たれ
105	碗	3a	灰原	15.8	7.5	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	C	1		
106	碗	3a	灰原	14.6	7.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
107	碗	2t	灰原	16.4	8.8	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		口縁にゆがみ、高台楕円
108	碗	2t	灰原	16.3	9.1	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	3		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
109	碗	2t	灰原	16.4	8.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		底部ひび割れ
110	碗	2t	灰原	16.0	9.1	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
111	碗	2t	灰原	16.0	8.4	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
112	碗	2t	灰原	(15.0)	7.7	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
113	碗	2t	灰原	(17.0)	9.1	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		
114	碗	2t	灰原	16.0	7.5	4.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面～口縁部に砂粒付着
115	碗	2t	灰原	16.6	7.9	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
116	碗	2t	灰原	15.1	8.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
117	碗	3a	灰原	(16.1)	8.0	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
118	碗	2t	灰原	16.3	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
119	碗	3a	灰原	15.9	7.9	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		底部ひび割れ
120	碗	3a	灰原	16.1	8.1	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		内面体部に砂粒付着
121	碗	3a	灰原	16.4	8.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁～体部にゆがみ
122	碗	3a	灰原	14.5	7.2	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
123	碗	3a	灰原	16.2	7.8	4.8	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面底部中央にくぼみ
124	碗	3t	灰原	(16.0)	8.0	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着
125	碗	3t	灰原	14.4	7.3	4.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
126	碗	2t	灰原	(16.1)	8.6	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着
127	碗	2t	灰原	15.3	7.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部・体部ひび割れ
128	碗	2t	灰原	16.8	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着
129	碗	2t	灰原	16.9	9.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	4		内面底部に重ね焼片付着
130	碗	2t	灰原	15.7	7.5	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片、内面に砂粒付着
131	碗	4a	灰原	15.3	7.1	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
132	碗	3t	灰原	14.8	7.1	4.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着
133	碗	3t	灰原	15.1	7.3	4.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
134	碗	3t	灰原	15.9	7.8	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面にカマクソ・小石付着
135	碗	2t	灰原	15.6	7.9	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	3		

第36表　遺物観察表（碗）4

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
136	碗	3s	3t4tベルト	(17.2)	9.4	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
137	碗	1t	灰原	(16.6)	7.8	(4.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
138	碗	4t	4a4tベルト	14.9	7.2	4.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
139	碗	4t	4a4tベルト	16.5	8.5	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
140	碗	4t	4a4tベルト	15.0	8.2	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		内外面体部に重ね焼片付着
141	碗	3t	3a4aベルト	15.4	7.7	4.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		
142	碗	3t	3a4aベルト	15.4	8.0	4.3	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
143	碗	3t	3a4aベルト	16.1	7.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着
144	碗	3t	3a4aベルト	16.4	8.6	5.1	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、内面体部に小石付着
145	碗	4t	4a5aベルト	15.0	8.6	3.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	5		内面底部に重ね焼片付着
146	碗	4a	4a4bベルト	(15.6)	8.7	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
147	碗	4a	4a4bベルト	15.2	7.5	4.5	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
148	碗	3t	3a3tベルト	15.7	8.4	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	3		
149	碗	3t	3a3tベルト	16.4	8.7	5.0	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	3		
150	碗	3t	3a3tベルト	17.4	9.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	3		内面底部に重ね焼片付着
151	碗	3t	3a3tベルト	15.7	7.6	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	5		
152	碗	3t	3a3tベルト	16.0	8.6	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
153	碗	3t	3a3tベルト	16.7	9.3	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	5		
154	碗	4a	4a杭山	(15.2)	7.9	(4.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
155	碗	2s	灰原	16.4	9.2	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
156	碗	2s	灰原	16.4	9.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
157	碗	3t	3t杭山	15.8	8.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
158	碗	3t	3t杭山	16.7	8.8	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		ほぼ完形
159	碗	2s	灰原	16.6	9.0	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	3		
160	碗	3a	灰原	16.0	8.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		内面口縁に重ね焼片付着
161	碗	3s	灰原	16.2	8.6	5.0	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	3		底部ひび割れ、ゆがみ、ほぼ完形
162	碗	3s	灰原	16.1	8.2	5.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
163	碗	3s	灰原	15.7	8.0	4.1	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	2		
164	碗	3s	灰原	16.0	9.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
165	碗	3s	灰原	(16.2)	7.8	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
166	碗	3s	灰原	16.0	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
167	碗	2s	灰原	15.2	7.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
168	碗	2s	灰原	15.2	8.9	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部～体部ひび割れ
169	碗	2s	灰原	15.9	7.9	4.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
170	碗	2s	灰原	15.2	7.2	4.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
171	碗	2s	灰原	15.8	8.3	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
172	碗	2s	灰原	16.5	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
173	碗	2s	灰原	15.2	8.3	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
174	碗	2s	灰原	16.1	8.7	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
175	碗	2s	灰原	15.9	9.2	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		底部ひび割れ、完形
176	碗	2s	灰原	(16.0)	7.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面上部に2本のミゾあり
177	碗	2s	灰原	15.4	7.8	4.6	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
178	碗	2s	灰原	16.0	9.9	5.0	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		底部ひび割れ、内面底部中央ハクリ
179	碗	3s	灰原	15.9	8.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
180	碗	2s	灰原	16.2	9.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着

第37表　遺物観察表（碗）5

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
181	碗	2s	灰原	15.5	7.6	4.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		全面に砂粒付着
182	碗	2s	灰原	15.5	8.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
183	碗	2s	灰原	16.3	9.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
184	碗	2s	灰原	16.0	9.3	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
185	碗	2s	灰原	15.1	7.2	4.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		全面に砂粒付着し器面荒れる
186	碗	3t	灰原	15.4	9.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	3		
187	碗	3t	灰原	16.2	8.7	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
188	碗	3t	灰原	15.9	8.1	4.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面に砂粒付着、口縁にゆがみ、ほぼ完形
189	碗	3t	灰原	16.1	8.0	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
190	碗	3s	大ベルト	16.4	9.9	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
191	碗	3s	大ベルト	16.2	8.8	5.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	D	1		
192	碗	3s	大ベルト	16.2	9.2	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	3		内面底部に重ね焼片付着
193	碗	2s	2t3tベルト	15.5	8.2	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	コロシ	良	良	D	2		
194	碗	2s	2t3tベルト	16.1	8.8	4.7	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	3		
195	碗	2s	2t3tベルト	16.5	9.2	5.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		
196	碗	3s	SK01	16.3	8.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		底部・体部ひび割れ
197	碗	3s	SK01	16.6	8.7	5.3	もみ	不明	不明	良	良	C	1		底部ひび割れ、ほぼ完形、外面底部器面荒れる
198	碗	3s	SK01	16.3	9.1	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		ほぼ完形
199	碗	3s	SK01	16.1	7.8	4.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
200	碗	4s	SK02	15.8	7.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁端部尖る
201	碗	4s	SK02	16.7	8.2	6.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		体部ひび割れ、ほぼ完形
202	碗	4s	SK02	16.0	9.2	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
203	碗	4t	SK02	15.5	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
204	碗	4t	SK02 第1ベルト	16.5	8.6	5.5	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	最良	C	1		底部～体部ひび割れ、高台1/2ハクリ
205	碗	4t	SK02 第1ベルト	16.9	8.9	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		底部～体部ひび割れ
206	碗	4t	SK02 第1ベルト	16.9	8.1	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		体部ひび割れ、ほぼ完形
207	碗	4t	SK02 第1ベルト	17.0	9.6	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	3		
208	碗	4t	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.7	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
209	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	15.7	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	最良	C	1		
210	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.2	8.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
211	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.9)	7.2	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		カマクソ付着
212	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.8	8.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
213	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.7	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
214	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	15.6	7.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
215	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	15.5	8.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
216	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	16.7	8.3	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
217	碗	2s	SD01 検出	(15.7)	8.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
218	碗	2s	SD01 検出	16.0	8.4	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
219	碗	2s	SD01 検出	15.6	8.1	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
220	碗	3r	SD01 検出	(15.6)	8.0	(4.6)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	B	1		
221	碗	3s	SD01 検出	16.7	8.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	SD01-67	内面底部に重ね焼片付着
222	碗	4s	SD02 第2ベルト	15.7	7.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		底部ひび割れ、胎土に小石含む
223	碗	3s	SD02 第2ベルト	15.4	7.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		器面荒れる、ほぼ完形
224	碗	2s	SD02 第2ベルト	15.9	8.9	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		器面荒れる
225	碗	4s	SD02 施設	16.7	8.8	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	SD02-23	胎土に小石含む

第38表　遺物観察表（碗）6

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
226	碗	4s	SD02 施設	15.2	7.4	4.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	SD02-20	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、ほぼ完形
227	碗	2a	検出Ⅰ	16.2	8.6	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		底部ひび割れ
228	碗	2t	検出Ⅰ	16.1	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
229	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.3	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-13	
230	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	8.5	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-29	内面底部に重ね焼片付着
231	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.7	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-52	
232	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.4	8.1	5.0	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-67	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
233	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.5	7.7	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-70	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
234	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.8	8.5	5.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-90	
235	碗	4r	1号窯 床面下施設	16.1	7.8	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	1Y-143	内面底部に重ね焼片付着
236	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.6	8.7	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-163	口縁にゆがみ
237	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	8.2	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	2	1Y-167	
238	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.5	8.5	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	1Y-188	
239	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.9	8.0	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1	1Y-190	
240	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.9	7.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	1Y-195	
241	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.6	8.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	1Y-200	
242	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.7	8.7	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-203	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
243	碗	4s	1号窯 床面下施設	17.2	8.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	2	1Y-212	底部ひび割れ
244	碗	4s	1号窯 床面下施設	17.4	8.6	5.5	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-225	
245	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.4	9.3	5.3	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	不良	良	A	1	1Y-238	胎土に小石含む
246	碗	4r	1号窯 床面下施設	17.2	8.3	5.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-248	胎土に小石含む
247	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.3	7.7	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	1Y-250	
248	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.9	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-254	内面底部に重ね焼片付着、胎土小石含む
249	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.0	6.9	5.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	3	2Y-17	外面体部に重ね焼片付着
250	碗	3r	2号窯 床面下施設	15.7	7.6	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-21	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
251	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.0	6.8	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-43	口縁端部尖る
252	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.5	7.7	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1	2Y-85	口縁端部尖る
253	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.8	7.0	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-100	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
254	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.0	8.3	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	3	2Y-117	
255	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.5	7.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-147	
256	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.3	6.3	5.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-156	内面底部・口縁に重ね焼片付着、口縁端部尖る
257	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.2	8.0	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-170	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に小石付着
258	碗	4t	2号窯 床面下施設	15.8	7.5	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-183	内面底部にもセンイ痕、底部ひび割れ
259	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.3	8.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	C	1	2Y-200	底部～体部ひび割れ、胎土に小石含む
260	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.8	9.0	5.1	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1	2Y-223	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
261	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.1	8.2	5.3	もみ・砂・センイ痕	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	不良	D	2	2Y-232	胎土に小石含む
262	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.0	7.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	2Y-241	底部ひび割れ
263	碗	4r	2号窯 床面下施設	17.1	8.9	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-282	天場もの、内面にカマクソ付着、高台端部2/3ハクリ、口縁にゆがみ
264	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.2	7.9	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-289	
265	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.8	9.0	5.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	C	1	2Y-298	底部ひび割れ、胎土に小石含む
266	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.8	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1	2Y-331	天場もの、内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
267	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.6	8.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	4	2Y-345	内面底部に重ね焼片付着
268	碗	4s	1号窯 焼成室	(17.2)	8.7	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
269	碗	4s	1号窯 焼成室	－	7.8	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		口縁部ほぼなし
270	碗	4s	1号窯 焼成室	15.4	8.0	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面に重ね焼片付着

第39表　遺物観察表（碗）7

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
271	碗	4s	1号窯 焼成室	測定不能	7.6	測定不能	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		ゆがみ
272	碗	4s	1号窯 焼成室	16.1	8.2	5.1	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、ほぼ完形
273	碗	4s	1号窯 焼成室	(19.2)	8.2	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		
274	碗	4s	1号窯 焼成室	(15.6)	8.1	(4.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		ゆがみ、底面体部ひび割れ
275	碗	4s	1号窯 焼成室	16.4	8.6	5.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部ひび割れ
276	碗	4s	1号窯 焼成室	(16.4)	8.5	5.0	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
277	碗	4s	1号窯 焼成室	15.9	8.2	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁～体部ひび割れ
278	碗	4s	1号窯 焼成室	15.0	7.6	4.5	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		内面・外面体部器面荒れる、高台ほぼハクリ
279	碗	4s	1号窯 焼成室	16.3	8.7	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
280	碗	4s	1号窯 焼成室	15.8	8.1	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		ゆがみ
281	碗	4s	1号窯 焼成室	16.0	7.9	4.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
282	碗	4s	1号窯 焼成室	15.7	7.9	4.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
283	碗	4s	1号窯 焼成室	16.2	8.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内外面底部ひび割れ、口縁にゆがみ
284	碗	4s	1号窯 焼成室	16.0	8.3	5.0	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		外面体部ひび割れ
285	碗	4s	1号窯 焼成室	(16.0)	9.0	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
286	碗	4s	1号窯 焼成室	(15.9)	8.7	5.2	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
287	碗	4s	1号窯 焼成室	15.8	8.2	5.1	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		ゆがみ
288	碗	4s	1号窯 焼成室	15.6	8.2	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、底部ひび割れ
289	碗	4s	1号窯 焼成室	15.9	8.3	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ、口縁にゆがみ、ほぼ完形
290	碗	4s	1号窯 焼成室	測定不能	8.7	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ゆがみ
291	碗	4s	1号窯 焼成室	(15.7)	8.8	4.9	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
292	碗	4s	1号窯 焼成室	15.2	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部重ね焼片付着、底部ひび割れ
293	碗	4s	1号窯 焼成室	16.7	8.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
294	碗	4s	1号窯 焼成室	16.5	8.1	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、ほぼ完形
295	碗	4s	1号窯 焼成室	16.0	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部重ね焼片付着
296	碗	4s	1号窯 焼成室	(16.8)	8.0	(4.5)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		口縁ほぼ欠損、内面底部重ね焼片付着、高台楕円
297	碗	4s	1号窯 焼成室	15.7	8.5	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		内面重ね焼片付着、ほぼ完形
298	碗	4s	1号窯 焼成室	16.5	8.1	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
299	碗	4s	1号窯 焼成室	－	7.8	5.1	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ほぼ欠損
300	碗	4s	1号窯 焼成室	16.2	8.6	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		口縁にゆがみ
301	碗	4s	1号窯 焼成室	－	8.5	(4.6)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		口縁ほぼなし
302	碗	4s	1号窯 焼成室	15.8	8.7	5.0	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
303	碗	4s	1号窯 焼成室	(16.8)	8.5	(4.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
304	碗	4s	1号窯 焼成室	(17.2)	7.9	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
305	碗	4s	1号窯 焼成室	(15.3)	8.8	(5.4)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
306	碗	4s	1号窯 焼成室	(16.2)	8.1	(5.3)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
307	碗	4s	1号窯 第1ベルト	(15.5)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
308	碗	4s	1号窯 第1ベルト	－	8.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁ほぼ欠損
309	碗	4s	1号窯 第1ベルト	(17.0)	8.6	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
310	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.0	8.6	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
311	碗	4s	1号窯 第1ベルト	(15.6)	8.3	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
312	碗	4s	1号窯 第1ベルト	測定不能	8.1	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		口縁にゆがみ
313	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.9	8.7	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
314	碗	4s	1号窯 第1ベルト	15.8	5.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
315	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.6	8.4	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		

第40表　遺物観察表（碗）8

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
316	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.5	8.4	4.7	もみ・砂	糸切り	不明	良	良	D	2		底部中心部分欠損
317	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.8	8.9	4.7	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		
318	碗	4s	1号窯 第1ベルト	15.8	8.2	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
319	碗	4s	1号窯 第1ベルト	16.0	8.5	4.6	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
320	碗	4s	1号窯 第1ベルト	(18.0)	8.3	(4.3)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
321	碗	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	16.5	8.5	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
322	碗	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	15.8	8.5	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、ほぼ完形
323	碗	4s	1号窯 主軸ベルト灰層	(16.0)	(8.4)	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部重ね焼片付着
324	碗	4s	1号窯 主軸ベルト灰層	17.1	8.3	4.8	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	4		口縁にゆがみ、外面体部に釉たれ
325	碗	4s	1号窯 焼成室	(16.4)	9.0	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	C	2		内面底部重ね焼片付着
326	碗	4s	1号窯 主軸ベルト灰層	(16.6)	7.9	4.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面重ね焼片付着、内面～口縁に厚く釉かかる
327	碗	3r	2号窯 焼成室	16.2	8.4	4.8	もみ	糸切り	横ナデ	良	最良	D	1		高台ほぼハクリ
328	碗	3r	2号窯 焼成室	16.0	底径8.4	(4.7)	-	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		高台全てハクリ
329	碗	3r	2号窯 焼成室	16.0	8.0	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	B	2		
330	碗	4r	2号窯 焼成室	17.2	7.9	4.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		
331	碗	4r	2号窯 焼成室	(16.8)	8.1	(5.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	1		底部以外全体に黒ずむ
332	碗	4r	2号窯 焼成室	(16.8)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
333	碗	4r	2号窯 主軸ベルト	(16.0)	8.3	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
334	碗	4r	2号窯 主軸ベルト	(17.0)	8.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
335	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(16.6)	8.0	4.7	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		胎土に小石含む
336	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(16.2)	8.2	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		
337	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(17.0)	8.1	5.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
338	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(16.4)	8.0	5.7	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	4		
339	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(16.6)	8.0	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		
340	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(17.0)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
341	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(16.7)	8.4	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	C	2		
342	碗	3r	2号窯 第2ベルト	16.9	8.2	5.5	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	B	2		底部ひび割れ
343	碗	3r	2号窯 第2ベルト	(17.2)	8.4	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	4		
344	碗	3r	2号窯 燃焼室	(17.0)	8.3	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		底部ひび割れ
345	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.5	8.2	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
346	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.5	(5.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面重ね焼片付着
347	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.0	8.7	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面重ね焼片付着、底部ひび割れ
348	碗	3s	2号窯 燃焼室	(17.6)	8.2	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁端部に砂粒付着
349	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.6	9.1	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
350	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.3	8.1	5.1	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
351	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.9)	8.9	(4.6)	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	D	2		底部ひび割れで中心部分欠損
352	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.2	(5.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面重ね焼片付着、内面～口縁部に砂粒付着
353	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.0)	8.0	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	B	1		内面～口縁部に砂粒付着
354	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.3)	8.3	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
355	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.0)	8.1	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
356	碗	3s	2号窯 燃焼室	(17.4)	9.0	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
357	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.8)	8.3	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		高台ほぼハクリ
358	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.6)	9.0	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面重ね焼片付着
359	碗	3s	2号窯 燃焼室	(17.6)	7.8	5.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部に重ね焼片付着、内面体部～口縁部に砂粒付着
360	碗	3s	2号窯 燃焼室	15.9	8.3	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着

第41表　遺物観察表（碗）9

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
361	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.8)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		
362	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.8)	8.8	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		
363	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.4)	8.8	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	4		
364	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.2)	7.7	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
365	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.6	8.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
366	碗	3s	2号窯 燃焼室	(15.7)	7.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
367	碗	3s	2号窯 燃焼室	15.7	7.9	5.1	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	B	2		
368	碗	3r	2号窯 燃焼室	(16.4)	8.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
369	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.2	8.8	5.4	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	2		内面体部～口縁部砂粒付着
370	碗	3r	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.6	(5.3)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		
371	碗	3r	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.8	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		底部ひび割れ
372	碗	3r	2号窯 燃焼室	(17.4)	8.6	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
373	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.3	8.0	5.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	2		胎土に小石含む
374	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.4	7.8	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		体部ひび割れ
375	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.5	8.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		底部ひび割れ、胎土に小石含む
376	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.4	9.0	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
377	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.2)	9.1	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
378	碗	3s	2号窯 燃焼室	－	9.0	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		口縁ほぼなし
379	碗	3s	2号窯 燃焼室	(17.0)	(8.5)	(5.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台1/4残存
380	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.1	(4.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		
381	碗	3s	2号窯 燃焼室	(17.0)	9.0	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	2		
382	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.1	8.2	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
383	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.2)	7.9	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
384	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.6)	8.7	(5.3)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		
385	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.0	8.1	5.4	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		
386	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.8)	8.6	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	最良	C	1		底部ひび割れ
387	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.2	7.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
388	碗	3s	2号窯 燃焼室	(17.2)	8.7	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	C	2		
389	碗	3s	2号窯 燃焼室	15.8	8.0	4.7	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	最良	D	2		
390	碗	3s	2号窯 燃焼室	(15.0)	(9.0)	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	C	1		高台1/4残存
391	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.4)	8.2	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	5		胎土に小石含む
392	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.8)	8.4	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		底部ひび割れ
393	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.8)	7.9	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
394	碗	3s	2号窯 燃焼室	(16.4)	7.7	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
395	碗	3s	2号窯 燃焼室	16.8	8.5	4.4	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
396	碗	3s	2号窯 焚口付近	(15.0)	7.3	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		外面体部に釉たれ、内面全体に釉かかる
397	碗	3s	2号窯 焚口付近	(16.2)	7.9	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
398	碗	3s	2号窯 焚口付近	(15.2)	8.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
399	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.0)	(8.4)	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部1/3残存
400	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(15.4)	8.1	(5.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
401	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(15.6)	8.3	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		胎土小石含む
402	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(15.0)	(8.2)	(4.7)	もみ	糸切り	横ナデ	良	最良	D	1		
403	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(15.0)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
404	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.2)	(8.0)	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にミゾあり、底部1/3残存
405	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(15.0)	(8.5)	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	最良	D	1		高台ほぼハクリ

第42表　遺物観察表（碗）10

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
406	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	16.3	8.9	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
407	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.1)	7.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面底部に砂粒付着
408	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.6)	8.1	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
409	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.4)	9.1	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ、内面底部に重ね焼片付着
410	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(17.4)	7.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
411	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(15.4)	9.1	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		高台にゆがみ
412	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.4)	8.2	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
413	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	16.2	7.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		胎土に小石含む
414	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	15.8	8.3	(5.4)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ、内面底部に重ね焼片付着
415	碗	3s	2号窯 主軸ベルト	(16.2)	7.6	(5.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
416	碗	3r	2号窯 主軸ベルト	(16.4)	8.4	(5.4)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	最良	A	1		
417	碗	3r	2号窯 主軸ベルト	(15.6)	7.6	(5.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
418	碗	3r	2号窯 主軸ベルト	15.9	8.5	5.0	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、体部にゆがみ、底部ひび割れ
419	碗	3r	2号窯 燃焼室	16.0	8.6	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着
420	碗	3r	2号窯 主軸ベルト	16.1	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
421	碗	3r	2号窯 主軸ベルト	測定不能	7.5	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		口縁楕円、天場もの、カマクソ付着、高台端部ハクリ、内面全体に釉かかる
422	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	16.4	8.1	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		
423	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(15.8)	8.3	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	B	1		胎土に小石含む、高台不整形
424	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(15.6)	8.2	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
425	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(15.6)	8.4	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
426	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(15.6)	8.0	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
427	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	16.5	8.2	5.2	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
428	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(16.2)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
429	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(15.8)	8.6	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
430	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	－	8.2	－	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁欠損、底部に糸切り以外の痕（何かは不明）
431	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(16.2)	7.6	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	A	1		高台1/2ハクリ
432	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	7.8	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		口縁ほぼ欠損
433	碗	2s	検出Ⅰ	測定不能	7.8	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
434	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	8.7	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		内面に全体に釉かかる、砂粒・小石付着
435	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	7.8	(4.8)	もみ	糸切り	不明	良	良	D	2		内面全体に砂粒・小石付着、内面底部にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
436	碗	2s	検出Ⅰ	(15.6)	7.8	(5.2)	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ、外面体部に釉たれ
437	碗	4a	検出Ⅰ	(15.4)	7.8	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着
438	碗	2s	検出Ⅰ	(16.0)	8.4	(5.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部に重ね焼片付着
439	碗	3s	検出Ⅰ	(17.0)	(8.8)	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	4		高台1/4残存、内面底部に重ね焼片付着
440	碗	3s	検出Ⅰ	(17.2)	(9.3)	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		高台1/4残存、底部中心部分欠損、内面体部に砂粒付着
441	碗	3s	検出Ⅰ	15.7	8.1	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
442	碗	2s	検出Ⅰ	(16.6)	7.9	(5.3)	砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		胎土に小石含む
443	碗	2s	検出Ⅰ	(17.2)	8.1	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
444	碗	2s	検出Ⅰ	(16.0)	8.6	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台不整形
445	碗	2s	検出Ⅰ	17.0	8.8	5.0	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
446	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	7.7	(5.0)	もみ	不明	不明	良	良	C	1		天場もの、内面全体に釉かかる、底部中心部分欠損
447	碗	2s	検出Ⅰ	測定不能	8.4	4.6	もみ・砂	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		体部にゆがみ
448	碗	2s	検出Ⅰ	(15.4)	7.9	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	2		底部ひび割れ
449	碗	2s	検出Ⅰ	(16.8)	7.7	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	4		
450	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	7.7	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着

第43表　遺物観察表（碗）11

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備　考
451	碗	2s	検出Ⅰ	(16.0)	7.9	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
452	碗	2s	検出Ⅰ	(16.0)	7.9	(4.2)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	4		
453	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	8.9	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	2		生焼けっぽい
454	碗	2s	検出Ⅰ	(16.0)	8.0	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
455	碗	2s	検出Ⅰ	(16.6)	9.0	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		外面体部に重ね焼片付着
456	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	7.5	(4.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
457	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	7.8	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
458	碗	2s	検出Ⅰ	(16.0)	8.1	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
459	碗	2s	検出Ⅰ	(15.9)	8.4	(5.1)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ、底部ひび割れ
460	碗	2s	検出Ⅰ	(16.8)	8.5	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
461	碗	2s	検出Ⅰ	(16.2)	7.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
462	碗	2s	検出Ⅰ	(15.8)	7.8	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
463	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	7.9	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着
464	碗	2s	検出Ⅰ	(15.5)	8.2	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
465	碗	2s	検出Ⅰ	(16.8)	7.9	(4.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		ゆがみ
466	碗	2s	検出Ⅰ	(15.8)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
467	碗	2s	検出Ⅰ	(15.6)	7.9	(4.8)	もみ	糸切り	不明	良	良	B	2		天場もの、内面全体に釉かかる
468	碗	2s	検出Ⅰ	(16.6)	8.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
469	碗	2s	検出Ⅰ	(14.8)	7.4	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部ひび割れ
470	碗	2s	検出Ⅰ	15.7	8.2	4.7	もみ・砂	糸切り	横ナデ	良	良	C	2		口縁にゆがみ
471	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	7.9	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		高台ほぼハクリ、内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
472	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	8.8	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
473	碗	2s	検出Ⅰ	(15.6)	7.5	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		底部ひび割れ
474	碗	2s	検出Ⅰ	測定不能	7.7	測定不能	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		ゆがみ
475	碗	2s	検出Ⅰ	(16.6)	7.5	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
476	碗	2s	検出Ⅰ	(16.4)	7.8	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
477	碗	4t	検出Ⅰ	(14.8)	8.1	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	2		内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
478	碗	4t	検出Ⅰ	(16.2)	7.9	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
479	碗	4t	検出Ⅰ	(17.0)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面体部に重ね焼片付着
480	碗	4t	検出Ⅰ	(16.0)	(8.4)	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	3		底部1/4残存
481	碗	4t	検出Ⅰ	(15.8)	8.6	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
482	碗	4t	検出Ⅰ	(14.4)	7.2	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、外面底部に1.5cmの穴
483	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	8.8	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面にカマクソ付着、天場もの
484	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	7.9	(4.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
485	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	7.6	(4.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	5		内面底部に重ね焼片付着
486	碗	4t	検出Ⅰ	(14.9)	7.2	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		体部～底部ひび割れ
487	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	7.7	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
488	碗	4t	検出Ⅰ	15.8	7.9	4.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
489	碗	4t	検出Ⅰ	16.1	9.3	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		体部にゆがみ
490	碗	4t	検出Ⅰ	(15.2)	7.3	(4.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		胎土に小石含む
491	碗	4t	検出Ⅰ	(15.7)	7.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
492	碗	4t	検出Ⅰ	(16.4)	8.3	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがむ
493	碗	4t	検出Ⅰ	(16.4)	9.9	(4.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	A	4		
494	碗	4t	検出Ⅰ	(16.0)	8.7	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着、外面体部～底部ひび割れ
495	碗	4t	検出Ⅰ	(16.4)	8.7	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		

第44表　遺物観察表（碗）12

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
496	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	8.0	(4.8)	もみ	ナデ	不明	良	良	B	2		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる
497	碗	4t	検出Ⅰ	(16.0)	7.6	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		天場もの、内面全体に釉かかる、内面にカマクソ付着
498	碗	4t	検出Ⅰ	(14.8)	8.0	(4.7)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部・高台に重ね焼片付着
499	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	8.3	(4.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
500	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	7.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		内面全体に釉かかる、カマクソ付着、天場もの
501	碗	4t	検出Ⅰ	(14.6)	7.8	(4.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	5		内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
502	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	8.1	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
503	碗	4t	検出Ⅰ	(16.0)	8.5	(4.7)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
504	碗	4t	検出Ⅰ	(16.8)	8.3	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	3		内面底部に重ね焼片付着、外面底部ひび割れ
505	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	8.6	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部～体部ひび割れ
506	碗	4t	検出Ⅰ	16.3	9.0	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	3		
507	碗	4t	検出Ⅰ	16.2	7.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	3		
508	碗	4t	検出Ⅰ	15.6	7.3	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
509	碗	4t	検出Ⅰ	(15.8)	9.1	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
510	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	8.2	(3.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着
511	碗	4t	検出Ⅰ	(15.4)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
512	碗	4t	検出Ⅰ	(15.0)	7.0	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	4		内面全体に厚く釉かかる、内面と外面口縁部カマクソ付着
513	碗	4t	検出Ⅰ	(16.4)	8.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		口縁部黒変、内面底部ひび割れ、胎土に小石含む
514	碗	4t	検出Ⅰ	(16.4)	8.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		胎土に小石含む
515	碗	4t	検出Ⅰ	(16.7)	(8.7)	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		高台1/4残存
516	碗	4t	検出Ⅰ	14.9	7.8	4.0	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
517	碗	4t	検出Ⅰ	(16.2)	(8.7)	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		底部ひび割れ
518	碗	4t	検出Ⅰ	(16.2)	8.2	(4.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
519	碗	4t	検出Ⅰ	(16.6)	9.2	(5.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
520	碗	4t	検出Ⅰ	(17.2)	8.8	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		内面体部器面荒れる
521	碗	3s	検出Ⅱ	(16.0)	8.9	(5.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	2		内面体部～口縁に砂粒付着
522	碗	3s	検出Ⅱ	(16.0)	8.0	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
523	碗	3s	検出Ⅱ	(14.4)	7.1	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		内面体部に砂粒付着
524	碗	3s	検出Ⅱ	(16.5)	8.1	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面体部に砂粒付着
525	碗	3s	検出Ⅱ	(16.0)	8.1	(5.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		底部ひび割れ
526	碗	3s	検出Ⅱ	16.4	(8.2)	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台にゆがみ
527	碗	3s	検出Ⅱ	16.0	8.6	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		
528	碗	3s	検出Ⅱ	(15.8)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		
529	碗	3s	検出Ⅱ	(15.3)	8.0	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		胎土に小石含む
530	碗	3s	検出Ⅱ	(16.0)	8.2	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着
531	碗	3s	検出Ⅱ	(15.6)	8.0	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
532	碗	2a	検出Ⅱ	(16.2)	8.6	(5.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		高台楕円
533	碗	2a	検出Ⅱ	(15.8)	7.8	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
534	碗	2a	検出Ⅱ	(17.4)	7.9	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		内面底部に重ね焼片付着
535	碗	2a	検出Ⅱ	(16.0)	7.9	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
536	碗	2a	検出Ⅱ	(15.9)	8.2	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
537	碗	2a	検出Ⅱ	(15.0)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
538	碗	2a	検出Ⅱ	(16.8)	(8.2)	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		高台1/4残存
539	碗	2t	検出Ⅱ	(15.6)	8.6	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
540	碗	2t	検出Ⅱ	(15.4)	7.7	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		外面体部～高台ひび割れ

第45表　遺物観察表（碗）13

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
541	碗	2t	検出Ⅱ	(15.6)	7.5	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
542	碗	2t	検出Ⅱ	(17.0)	8.8	(4.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
543	碗	2t	検出Ⅱ	(16.3)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
544	碗	2a	検出Ⅱ	(16.1)	7.9	(5.1)	不明	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部・高台に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
545	碗	2a	検出Ⅱ	(15.8)	7.8	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
546	碗	2a	検出Ⅱ	(15.6)	8.0	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	4		器面荒れる、外面体部に釉たれ
547	碗	2a	検出Ⅱ	－	7.9	－	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	不良	良	－	－		底部のみ残存、内面底部センイ状のものでナデている
548	碗	2a	検出Ⅱ	(15.8)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
549	碗	2a	検出Ⅱ	(16.6)	8.7	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		高台楕円
550	碗	2a	検出Ⅱ	(16.2)	7.2	(5.1)	もみ・センイ痕	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
551	碗	2a	検出Ⅱ	(17.0)	7.9	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	3		内面底部に重ね焼片付着、高台のつくりが丁寧
552	碗	2a	検出Ⅱ	(17.6)	9.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	不明	不良	良	D	1		天場もの、内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
553	碗	2t	検出Ⅱ	(15.9)	8.6	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
554	碗	2t	検出Ⅱ	(15.6)	8.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
555	碗	2t	検出Ⅱ	(15.0)	8.4	(5.4)	もみ	糸切り	不明	不良	良	C	1		天場もの、内面全体に釉かかる、体部にゆがみ
556	碗	2t	検出Ⅱ	(16.0)	9.1	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
557	碗	2t	検出Ⅱ	(16.0)	7.8	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	4		
558	碗	2t	検出Ⅱ	(16.4)	7.5	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	A	2		
559	碗	2t	検出Ⅱ	(15.9)	7.3	(5.5)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
560	碗	3s	検出Ⅱ	(15.1)	8.7	(5.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	B	1		
561	碗	3s	検出Ⅱ	(16.8)	8.0	(5.3)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	1		内面にカマクソ付着
562	碗	3s	検出Ⅲ	16.6	8.9	5.3	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
563	碗	3s	検出Ⅲ	16.0	8.2	5.3	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	不良	良	D	2		
564	碗	3s	検出Ⅲ	(15.2)	8.5	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着
565	碗	3s	検出Ⅲ	(16.6)	8.3	(4.5)	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
566	碗	4s	検出Ⅲ	(16.2)	8.4	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		底部ひび割れ
567	碗	4s	検出Ⅲ	16.4	8.0	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
568	碗	3s	検出Ⅲ	(17.0)	8.5	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
569	碗	3s	検出Ⅲ	(15.8)	8.1	(5.1)	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	C	2		口縁端部突る・ミゾあり、底部～体部ひび割れ
570	碗	3s	検出Ⅲ	(15.8)	8.5	(4.6)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
571	碗	3s	検出Ⅲ	16.4	8.9	5.1	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		底部～体部ひび割れ
572	碗	4s	検出Ⅲ	(16.2)	8.1	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部・体部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
573	碗	4s	検出Ⅲ	(16.1)	8.4	(4.3)	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		口縁端部尖る、高台ほぼハクリ
574	碗	4s	検出Ⅲ	(15.4)	8.4	(5.2)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ、内面・外面体部にミゾあり
575	碗	4s	検出Ⅲ	16.8	7.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面体部器面荒れる
576	碗	4s	検出Ⅲ	16.4	(8.7)	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		高台ほぼハクリ
577	碗	2a	検出Ⅲ	(16.2)	(7.3)	(5.3)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	3		天場もの、内面にカマクソ付着、高台端部ハクリ、内面全体・高台に釉かかる
578	碗	4t	灰原	(15.8)	8.3	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	A	2		胎土に小石含む
579	碗	4t	灰原	(17.4)	(8.5)	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	1		高台3/4ハクリ
580	碗	4t	灰原	(15.8)	7.8	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
581	碗	4t	灰原	(16.6)	8.9	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2		
582	碗	3s	灰原	(16.6)	9.2	(4.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部にカマクソ付着
583	碗	3a	灰原	(15.3)	7.5	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	3		
584	碗	3a	灰原	(16.2)	8.1	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
585	碗	3a	灰原	(16.0)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		

第46表　遺物観察表（碗）14

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
586	碗	3a	灰原	(16.2)	8.9	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
587	碗	3a	灰原	(14.8)	7.5	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
588	碗	3a	灰原	16.7	9.0	4.7	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	4		胎土に小石含む
589	碗	3a	灰原	(17.0)	8.7	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
590	碗	3a	灰原	(14.4)	8.3	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	5		内面底部に重ね焼片付着
591	碗	3a	灰原	(16.8)	8.0	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		
592	碗	3a	灰原	(16.4)	8.8	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
593	碗	3a	灰原	(16.6)	9.3	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、底部～体部ひび割れ
594	碗	3a	灰原	15.8	8.2	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、外面底部に釉かかる、内面体部にカマクソ付着
595	碗	3a	灰原	(15.9)	9.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部～体部ひび割れ
596	碗	3a	灰原	(16.8)	8.2	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		高台ところどころ欠損し不整形
597	碗	3a	灰原	15.7	7.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、カマクソ付着、胎土に小石含む
598	碗	3a	灰原	(15.6)	(7.7)	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、高台3/4ハクリ、外面底部中心部スス（？）付着
599	碗	2t	灰原	(16.8)	7.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
600	碗	2t	灰原	(16.8)	8.7	(4.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、口縁端部尖る
601	碗	2t	灰原	16.2	7.6	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	C	1		
602	碗	2t	灰原	16.1	8.3	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		高台2/3ハクリ
603	碗	2t	灰原	(15.0)	7.8	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着
604	碗	2t	灰原	(15.8)	7.3	(4.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
605	碗	2t	灰原	(15.6)	8.7	(4.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
606	碗	2t	灰原	(16.0)	7.7	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	2		口縁端部尖る
607	碗	2t	灰原	(16.2)	8.5	(4.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	1		
608	碗	2t	灰原	(17.0)	8.0	(4.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
609	碗	2t	灰原	(16.2)	9.0	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
610	碗	2t	灰原	16.6	8.0	4.9	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
611	碗	2t	灰原	(16.2)	7.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
612	碗	3a	灰原	(16.8)	7.8	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		口縁にゆがみ
613	碗	3a	灰原	(16.6)	8.0	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		内面体部～口縁部・高台に砂粒付着
614	碗	3a	灰原	(17.4)	8.3	(4.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
615	碗	3a	灰原	(15.4)	8.1	(5.1)	もみ	糸切り	不明	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面底部に釉かかる
616	碗	3a	灰原	(16.4)	8.0	(4.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
617	碗	3a	灰原	(15.7)	8.4	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着、内面体部～口縁に砂粒付着
618	碗	3a	灰原	(15.6)	7.4	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
619	碗	3s	3s3tベルト	(16.6)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		天場もの、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
620	碗	2t	灰原	(17.0)	9.4	(4.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		
621	碗	2t	灰原	(15.8)	9.1	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		底部欠損、高台端部1/3欠損
622	碗	2t	灰原	(17.0)	8.8	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	C	4		外面体部に重ね焼片付着、内面底部にカマクソに付着、天場もの、内面全体に釉かかる
623	碗	2t	灰原	(17.4)	8.6	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
624	碗	2t	灰原	(15.8)	8.3	(4.6)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
625	碗	2t	灰原	(15.3)	7.8	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
626	碗	2t	灰原	(16.0)	7.9	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
627	碗	2t	灰原	(16.4)	8.3	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
628	碗	2t	灰原	(16.6)	8.2	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
629	碗	2t	灰原	(16.1)	8.3	(5.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	2		高台ほぼつぶれずナデも丁寧
630	碗	2t	灰原	(15.8)	7.9	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着

第47表　遺物観察表（碗）15

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
631	碗	2a	灰原	(17.0)	9.5	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
632	碗	3a	灰原	(16.4)	8.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
633	碗	3a	灰原	(16.0)	7.3	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
634	碗	3a	灰原	(15.8)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	1		
635	碗	2t	灰原	(17.6)	9.6	(4.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		体部にゆがみ、内面体部にカマクソ付着
636	碗	2t	灰原	(16.2)	8.3	(4.4)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
637	碗	2t	灰原	(15.6)	7.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	2		胎土に小石含む
638	碗	2t	灰原	16.2	9.0	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	2		口縁楕円にゆがむ、最大径18.0
639	碗	2t	灰原	16.0	8.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	3		完形、体部にゆがみ
640	碗	2t	灰原	(16.0)	8.1	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		底部ひび割れ
641	碗	2t	灰原	(15.1)	7.3	(4.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		外面底部ひび割れ
642	碗	2t	灰原	(17.1)	8.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
643	碗	2t	灰原	16.4	8.8	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		高台端部1/2ハクリ
644	碗	2t	灰原	(17.8)	8.1	(4.2)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	A	4		
645	碗	2t	灰原	(16.6)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、高台端部1/2ハクリ
646	碗	2s	灰原	(16.4)	7.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
647	碗	2s	灰原	(16.6)	8.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
648	碗	2s	灰原	(16.4)	8.6	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	2		
649	碗	2t	灰原	(16.1)	8.6	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		外面体部ひび割れ、胎土に小石含む
650	碗	2t	灰原	(16.0)	9.1	(4.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	A	3		胎土に小石含む
651	碗	2t	灰原	(16.6)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		高台端部に重ね焼片付着、底部～体部ひび割れ
652	碗	2t	灰原	(14.6)	7.1	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
653	碗	2t	灰原	(16.0)	8.2	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部・高台端部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
654	碗	2t	灰原	16.5	8.1	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
655	碗	3a	灰原	(14.8)	7.2	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの、内面にカマクソ、胎土に小石付着、内面全体に釉かかる
656	碗	3a	灰原	(15.9)	8.3	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
657	碗	3a	灰原	(15.8)	(8.2)	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの、カマクソ付着、底部1/3残存、内面全体に釉かかる
658	碗	3a	灰原	(16.2)	8.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台つぶれほぼなし
659	碗	3a	灰原	(15.2)	7.8	(4.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
660	碗	3a	灰原	(16.0)	8.4	(4.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		底部楕円、底面内部にカマクソ付着
661	碗	3a	灰原	(15.8)	8.4	(4.0)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
662	碗	3a	灰原	(15.7)	8.2	(5.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		口縁部に重ね焼片付着、口縁端部尖る、口縁にゆがみ
663	碗	3a	灰原	(16.2)	8.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
664	碗	3a	灰原	(16.6)	8.7	(5.0)	砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		胎土に小石含む、内面の2/3に釉かかる
665	碗	3a	灰原	(16.2)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
666	碗	3a	灰原	(16.0)	7.8	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
667	碗	3a	灰原	(16.0)	8.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
668	碗	3a	灰原	(14.8)	8.4	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
669	碗	2t	灰原	15.5	8.0	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		口縁やや楕円、内面底部ひび割れ
670	碗	2t	灰原	(15.4)	8.2	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着、内面器面荒れる
671	碗	2t	灰原	(16.8)	9.0	(5.3)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着、底部楕円
672	碗	2t	灰原	15.4	8.5	4.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
673	碗	2t	灰原	15.1	8.4	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		天場もの、内面に砂粒付着、口縁にゆがみ
674	碗	2t	灰原	(16.0)	7.9	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
675	碗	2t	灰原	(16.4)	7.4	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1		ゆがみ

第48表　遺物観察表（碗）16

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
676	碗	2t	灰原	(17.0)	8.1	(4.8)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		高台磨耗し、付着痕不明
677	碗	2t	灰原	(15.4)	8.0	(4.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
678	碗	2t	灰原	15.8	8.3	5.1	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、胎土に小石含む
679	碗	2t	灰原	15.1	6.8	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、内面・外面器面荒れる
680	碗	2t	灰原	16.2	8.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
681	碗	2t	灰原	15.9	7.5	4.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
682	碗	2t	灰原	(15.6)	(8.3)	(4.7)	もみ・センイ痕	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、底部径1/3残存、内面全体に釉かかる、天場もの
683	碗	2t	灰原	(16.4)	7.4	(5.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
684	碗	2t	灰原	(17.2)	9.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		底部楕円
685	碗	2t	灰原	(17.0)	9.2	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		ゆがみ、内面底部に重ね焼片付着
686	碗	2t	灰原	(15.8)	9.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
687	碗	2t	灰原	(15.6)	7.9	(4.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着、高台2/3ハクリ
688	碗	2t	灰原	(16.4)	8.9	(4.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		高台端部ハクリ、底部～体部ひび割れ、体部に釉たれ
689	碗	2t	灰原	(16.0)	8.0	(4.6)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着
690	碗	2t	灰原	(15.6)	7.6	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
691	碗	2t	灰原	15.2	－	(5.2)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台ほぼハクリ
692	碗	2t	灰原	15.6	8.4	5.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		
693	碗	2t	灰原	(15.6)	8.0	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底に砂粒付着、胎土に小石含む
694	碗	2t	灰原	(15.6)	7.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
695	碗	2t	灰原	(16.4)	8.5	(5.3)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
696	碗	2t	灰原	(16.2)	8.1	(5.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
697	碗	2t	灰原	15.2	7.5	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		口縁にゆがみ、内面に砂粒付着
698	碗	2t	灰原	16.2	8.4	4.9	もみ・砂・センイ痕	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		口縁にゆがみ、内面に小石付着、内面底部に小皿の重ね焼焼片付着
699	碗	3a	灰原	(16.2)	8.1	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面器面荒れる、胎土に小石含む
700	碗	3a	灰原	(15.6)	8.0	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ付着、内面全面に釉かかる
701	碗	3a	灰原	(16.6)	8.2	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	B	1		内面にカマクソ付着
702	碗	3a	灰原	(15.4)	7.0	(5.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
703	碗	3a	灰原	(16.8)	8.1	(5.4)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
704	碗	3a	灰原	(15.8)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
705	碗	2t	灰原	(15.6)	8.4	(4.0)	もみ・センイ痕	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		内面底部に重ね焼片付着
706	碗	3a	灰原	(15.0)	7.9	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
707	碗	3a	灰原	(14.6)	8.9	(5.0)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		高台摩滅
708	碗	3a	灰原	(16.2)	7.9	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面に砂粒多量に付着、内面底部に小皿の重ね焼片付着
709	碗	3a	灰原	(15.8)	8.9	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
710	碗	3a	灰原	15.9	7.9	4.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
711	碗	3a	灰原	16.0	－	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	A	2		高台ほぼハクリ、内面に砂粒付着、口縁端部尖る
712	碗	3a	灰原	(15.4)	7.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
713	碗	3a	灰原	(15.2)	6.5	(5.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
714	碗	3a	灰原	(17.6)	9.4	(4.0)	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
715	碗	3a	灰原	(15.4)	9.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
716	碗	3a	灰原	(15.2)	8.3	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		高台1/3残存、胎土に砂粒含む
717	碗	3a	灰原	(15.2)	8.1	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
718	碗	3a	灰原	(15.4)	8.6	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に砂粒含む
719	碗	4t	灰原	(15.0)	7.1	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
720	碗	4t	灰原	(16.2)	7.3	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に砂粒含む

第49表　遺物観察表（碗）17

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
721	碗	4t	灰原	(16.0)	8.8	(4.9)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	B	4		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
722	碗	3t	灰原	(15.6)	7.6	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
723	碗	3t	灰原	15.4	7.8	4.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、底部ひび割れ
724	碗	3t	灰原	(16.6)	8.2	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部・高台に重ね焼片付着
725	碗	3t	灰原	16.0	8.5	4.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		口縁にゆがみ
726	碗	3t	灰原	16.4	8.9	4.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
727	碗	3t	灰原	(15.6)	7.5	(4.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に重ね焼片付着
728	碗	3t	灰原	(17.4)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
729	碗	3t	灰原	(15.0)	8.7	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
730	碗	3t	灰原	(15.6)	9.0	(5.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
731	碗	4a	灰原	(16.8)	8.8	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
732	碗	4a	灰原	(16.6)	8.4	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、外面体部に釉たれ、体部～底部ひび割れ
733	碗	4a	灰原	(16.4)	9.4	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	4		
734	碗	4a	灰原	(15.2)	7.0	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、外面底部にカマクソ付着
735	碗	4a	灰原	(15.0)	7.3	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
736	碗	4a	灰原	(15.2)	7.6	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
737	碗	3t	灰原	(15.6)	8.6	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
738	碗	3t	灰原	(17.2)	－	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分1/3残存
739	碗	3t	灰原	(15.4)	7.7	(4.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部楕円、底部ひび割れ
740	碗	3t	灰原	(15.4)	8.2	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	B	1		
741	碗	3t	灰原	(15.4)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に砂粒含む
742	碗	3t	灰原	(15.8)	8.2	(3.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
743	碗	3t	灰原	(14.8)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
744	碗	2t	灰原	(15.0)	7.6	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
745	碗	2t	灰原	(17.6)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面器面荒れる、内面全体に釉かかる
746	碗	2t	灰原	(16.2)	8.9	(5.1)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
747	碗	3t	灰原	(15.6)	7.8	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
748	碗	3t	灰原	(15.2)	7.4	(4.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
749	碗	3t	灰原	(15.0)	7.5	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
750	碗	2t	灰原	16.4	9.2	4.9	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	1		口縁楕円、天場もの、内面全体に釉かかる
751	碗	2t	灰原	(15.8)	7.6	(4.4)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ、外面体部に釉たれ
752	碗	2t	灰原	－	8.2	－	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	不明	1		口縁にゆがみ
753	碗	2t	灰原	(15.8)	7.7	(5.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
754	碗	2t	灰原	(14.2)	(8.3)	(4.6)	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
755	碗	2t	灰原	(15.6)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		口縁内面に重ね焼片付着
756	碗	2t	灰原	(15.4)	8.3	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台ほぼハクリ
757	碗	2t	灰原	(15.6)	7.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	4		内面底部に重ね焼片付着
758	碗	2t	灰原	(16.6)	8.6	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着
759	碗	2t	灰原	(15.4)	8.3	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	5		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
760	碗	2t	灰原	(16.3)	8.2	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
761	碗	2t	灰原	(15.0)	8.7	(5.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面体部にもみの痕
762	碗	2t	灰原	(15.8)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
763	碗	2t	灰原	16.3	8.3	4.3	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		
764	碗	2t	灰原	(16.3)	8.0	(4.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着、体部ひび割れ
765	碗	2t	灰原	(15.8)	8.6	(5.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁外面に重ね焼片付着

第50表　遺物観察表（碗）18

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
766	碗	2t	灰原	15.1	7.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	4		
767	碗	2t	灰原	(16.0)	7.6	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		胎土に砂粒含む
768	碗	2t	灰原	(16.2)	9.1	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
769	碗	2t	灰原	(14.8)	8.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部楕円
770	碗	2t	灰原	(15.2)	7.0	(5.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁ひび割れ
771	碗	2t	灰原	17.2	8.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		体部ひび割れ、ゆがみ
772	碗	2t	灰原	(14.8)	7.9	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
773	碗	2t	灰原	(16.0)	8.9	(5.1)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
774	碗	2t	灰原	(15.6)	8.7	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む、底部ひび割れ
775	碗	2t	灰原	15.8	7.9	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
776	碗	2t	灰原	(16.2)	7.8	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
777	碗	4a	灰原	(14.4)	7.5	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
778	碗	1a	灰原	(16.0)	7.7	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
779	碗	2t	灰原	(15.2)	8.2	(5.6)	もみ	糸切り後センイ痕	不明	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ付着、体部ひび割れ
780	碗	4a	灰原	(15.0)	6.9	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
781	碗	3t	灰原	(15.2)	8.3	(4.6)	もみ	ナデ	不明	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
782	碗	3t	灰原	16.5	9.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		口縁に重ね焼片付着
783	碗	3t	灰原	(14.6)	7.4	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
784	碗	3t	灰原	15.1	7.5	4.6	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
785	碗	3t	灰原	(15.2)	8.3	(4.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
786	碗	3t	灰原	15.0	7.0	4.2	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
787	碗	3t	灰原	(14.8)	7.8	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
788	碗	3t	灰原	(15.8)	7.4	(4.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		高台楕円
789	碗	3t	灰原	(16.0)	7.8	(4.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、高台楕円
790	碗	3t	灰原	(15.6)	7.8	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台楕円、底部ひび割れ
791	碗	3t	灰原	15.0	7.6	5.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
792	碗	3t	灰原	(16.0)	7.7	(3.8)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		カマクソ・小石付着、口縁に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、内面底部に小皿の重ね焼片付着
793	碗	3t	灰原	(14.4)	8.1	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着、内面砂粒付着
794	碗	3t	灰原	(14.6)	底径6.7	(4.0)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、高台全てハクリ
795	碗	3t	灰原	(14.6)	7.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
796	碗	3t	灰原	(15.4)	7.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面全体に砂粒付着、体部ひび割れ
797	碗	2t	灰原	(16.4)	8.8	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、内面砂粒付着
798	碗	2t	灰原	16.3	9.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
799	碗	3s	3t4tベルト	(16.0)	8.9	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
800	碗	3s	3t4tベルト	16.3	8.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ付着、口縁にゆがみ、内面全体に釉かかる、ひび割れ
801	碗	3s	3t4tベルト	16.4	8.8	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
802	碗	3s	3t4tベルト	16.4	9.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
803	碗	3s	3t4tベルト	(15.8)	8.7	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		体部ひび割れ
804	碗	1t	灰原	(14.4)	8.8	(4.6)	もみ	糸切り後センイ痕	不明	良	良	D	1		天場もの、カマクソ付着、高台楕円、砂粒が付着
805	碗	1t	灰原	(15.0)	7.5	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
806	碗	1t	灰原	(15.4)	7.8	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内面体部に釉たれ
807	碗	2s	3s4sベルト	17.6	9.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
808	碗	1a	2a2bベルト	(16.2)	8.2	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
809	碗	4t	4a4tベルト	(15.4)	(8.4)	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁1/4残存
810	碗	4t	4a4tベルト	(15.0)	7.6	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む

第51表　遺物観察表（碗）19

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
811	碗	4t	4a4tベルト	(15.2)	8.6	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	D	1		
812	碗	4t	4a4tベルト	(14.2)	7.2	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
813	碗	4t	4a4tベルト	14.9	7.3	4.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
814	碗	4t	4a4tベルト	(14.8)	7.2	(4.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
815	碗	4t	4a4tベルト	(16.4)	8.6	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		カマクソ付着、胎土に砂粒含む
816	碗	3t	3a4aベルト	(16.2)	8.1	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着
817	碗	3t	3a4aベルト	(16.6)	8.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
818	碗	3t	3a4aベルト	(14.8)	7.8	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
819	碗	3t	3a4aベルト	16.6	8.8	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		口縁楕円
820	碗	3t	3a4aベルト	(15.6)	7.8	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
821	碗	3t	3a4aベルト	(14.8)	7.3	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
822	碗	3t	3a4aベルト	(15.8)	8.0	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
823	碗	3t	3a4aベルト	(14.8)	6.7	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
824	碗	3t	3a4aベルト	(15.6)	7.5	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		
825	碗	3t	3a4aベルト	(15.6)	7.0	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
826	碗	3t	3a4aベルト	(16.6)	8.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着
827	碗	3t	3a4aベルト	(17.4)	9.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
828	碗	3t	3a4aベルト	(16.0)	8.3	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面に砂粒付着、胎土に砂粒含む
829	碗	3t	3a4aベルト	(16.1)	7.9	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
830	碗	3t	3a4aベルト	(16.0)	(8.0)	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む、高台1/3残存
831	碗	2t	2a3aベルト	(15.8)	8.6	(4.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		カマクソ付着、内面全体に釉かかる
832	碗	2t	2a3aベルト	(16.0)	7.7	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
833	碗	2t	2a3aベルト	15.8	7.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
834	碗	1t	灰原	(16.0)	8.2	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
835	碗	1t	灰原	(16.0)	7.9	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
836	碗	1t	灰原	(15.4)	8.0	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
837	碗	2t	2a3aベルト	(15.8)	8.2	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着
838	碗	2t	2a3aベルト	(17.0)	8.4	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
839	碗	2t	2a3aベルト	(15.6)	7.6	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
840	碗	2t	2a3aベルト	(17.2)	8.3	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
841	碗	2t	2a3aベルト	(16.0)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	不良	良	C	1		
842	碗	4t	4a5aベルト	(15.0)	6.9	(4.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
843	碗	4t	4a5aベルト	15.6	7.4	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片・砂粒付着
844	碗	4t	4a5aベルト	(16.8)	9.0	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、体部ひび割れ
845	碗	4t	4a5aベルト	15.6	8.4	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁～体部ひび割れ
846	碗	4t	4a5aベルト	(16.8)	8.0	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
847	碗	4t	4a5aベルト	(15.8)	7.1	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面に砂粒付着
848	碗	4t	4a5aベルト	(15.2)	8.2	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
849	碗	4t	4a5aベルト	(15.2)	7.9	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
850	碗	4a	4a4bベルト	(16.2)	8.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
851	碗	4a	4a4bベルト	(16.2)	8.3	(5.4)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、胎土に小石含む
852	碗	4a	4a4bベルト	(15.2)	7.5	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
853	碗	4a	4a4bベルト	(15.2)	7.6	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
854	碗	4a	4a4bベルト	16.1	7.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
855	碗	4a	4a4bベルト	(15.2)	7.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着

第52表　遺物観察表（碗）20

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
856	碗	4a	4a4bベルト	(14.0)	7.3	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
857	碗	4a	4a4bベルト	(16.8)	9.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	4		底部ひび割れ、底部中心部分欠損
858	碗	4a	4a4bベルト	(12.8)	7.1	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着
859	碗	4a	4a4bベルト	15.1	7.5	4.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
860	碗	4a	4a4bベルト	16.2	8.7	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、底部中心部分欠損
861	碗	4a	4a4bベルト	(17.0)	8.6	(3.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
862	碗	3a	3a3bベルト	(16.6)	8.0	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
863	碗	3a	3a3bベルト	(15.4)	7.1	(5.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
864	碗	3a	3a3bベルト	(15.2)	8.7	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面にカマクソ・砂粒付着
865	碗	3a	3a3bベルト	(16.0)	8.5	(5.5)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
866	碗	3t	3a3bベルト	(15.8)	8.6	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
867	碗	3a	3a3bベルト	(16.0)	8.6	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
868	碗	2s	2s2tベルト	(15.4)	7.7	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
869	碗	3t	3a3tベルト	(16.4)	7.7	(5.4)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	不良	良	D	1		
870	碗	3t	3a3tベルト	16.2	8.3	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
871	碗	3t	3a3tベルト	(15.8)	8.4	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		内面底部に重ね焼片付着
872	碗	3t	3a3tベルト	(16.4)	9.2	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
873	碗	3t	3a3tベルト	(15.6)	7.5	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
874	碗	3t	3a3tベルト	(16.8)	8.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
875	碗	3t	3a3tベルト	(16.0)	8.5	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
876	碗	3t	3a3tベルト	(16.2)	8.2	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
877	碗	3t	3a3tベルト	15.9	8.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
878	碗	3t	3a3tベルト	16.0	8.6	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁楕円
879	碗	2t	2a2tベルト	16.2	7.8	5.1	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、外面体部に釉たれ、高台端部ハクリ
880	碗	2t	2a2tベルト	(16.2)	7.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
881	碗	2t	2a2tベルト	(15.8)	7.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
882	碗	2t	2a2tベルト	(15.6)	8.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
883	碗	2t	2a2tベルト	(15.6)	8.2	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
884	碗	2t	2a2tベルト	(15.6)	8.4	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの、カマクソ付着、内面器面荒れる・釉かかる
885	碗	4a	4a杭山	(14.8)	7.5	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
886	碗	4a	4a杭山	(15.6)	7.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
887	碗	4a	4a杭山	(14.2)	7.6	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁ひび割れ、内面全体に釉かかる
888	碗	2s	灰原	17.1	8.8	4.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、内面に砂粒付着
889	碗	2s	灰原	16.7	8.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、体部～底部ひび割れ
890	碗	2s	灰原	15.0	9.0	4.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
891	碗	2s	灰原	(14.8)	8.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面器面荒れる
892	碗	2s	灰原	(17.0)	8.5	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
893	碗	2s	灰原	(15.6)	9.2	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
894	碗	2s	灰原	(15.6)	7.2	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
895	碗	2s	灰原	16.0	8.7	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部・外面体部に重ね焼片・砂粒付着、底部ひび割れ
896	碗	2s	灰原	16.0	8.7	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
897	碗	2s	灰原	(16.6)	8.6	(5.4)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
898	碗	2t	2t杭山	(16.6)	7.6	(4.4)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
899	碗	3t	3t杭山	(15.4)	8.4	(5.5)	もみ・砂	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
900	碗	3t	3t杭山	(16.0)	8.9	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		

第53表　遺物観察表（碗）21

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
901	碗	3t	3t杭山	(16.2)	7.6	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
902	碗	3t	3t杭山	(15.6)	8.7	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
903	碗	3t	3t杭山	15.9	7.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
904	碗	2s	灰原	(14.4)	7.1	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
905	碗	2s	灰原	16.0	8.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	5		内面底部に重ね焼片付着、口縁内側にミゾあり数本
906	碗	2s	灰原	(15.6)	8.5	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面に砂粒付着、体部にゆがみ、胎土に小石含む
907	碗	2s	灰原	(15.0)	7.4	(4.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
908	碗	2s	灰原	(15.2)	7.9	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		胎土に小石含む
909	碗	2s	灰原	16.3	9.2	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
910	碗	2s	灰原	(15.4)	7.9	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
911	碗	2s	灰原	(16.8)	7.8	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
912	碗	2s	灰原	(16.2)	8.7	(4.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
913	碗	2s	灰原	16.4	8.5	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
914	碗	3s	灰原	16.9	8.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
915	碗	3s	灰原	(17.2)	8.9	4.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		
916	碗	3s	灰原	16.2	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
917	碗	3s	灰原	16.2	8.7	5.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		
918	碗	3s	灰原	(16.4)	8.5	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
919	碗	3s	灰原	(15.0)	7.5	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
920	碗	3s	灰原	(17.2)	9.6	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
921	碗	3s	灰原	(16.6)	9.2	(4.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
922	碗	3s	灰原	(14.4)	7.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
923	碗	3s	灰原	14.9	8.5	4.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、口縁～体部ひび割れ
924	碗	3s	灰原	(16.4)	8.2	(7.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
925	碗	3s	灰原	(15.8)	8.8	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
926	碗	3s	灰原	(15.6)	7.4	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
927	碗	3s	灰原	16.0	8.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
928	碗	3s	灰原	(16.0)	8.6	(5.4)	砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
929	碗	3s	灰原	(15.0)	7.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
930	碗	3s	灰原	(16.0)	7.9	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面に砂粒付着
931	碗	3s	灰原	16.7	8.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
932	碗	2s	灰原	16.0	9.1	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台ほぼハクリ
933	碗	2s	灰原	15.4	7.9	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片・砂粒付着
934	碗	2s	灰原	(16.2)	8.5	(4.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
935	碗	2s	SD2	(16.2)	8.2	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
936	碗	2s	灰原	(15.2)	7.5	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁に砂粒付着
937	碗	2s	灰原	15.2	7.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		胎土に小石含む
938	碗	2s	灰原	(15.4)	7.9	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
939	碗	2s	灰原	(16.6)	8.7	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面にカマクソ付着、内面体部器面荒れる
940	碗	2s	灰原	(16.0)	8.9	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内面口縁にミゾあり
941	碗	2s	灰原	(16.6)	9.0	(4.4)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
942	碗	2s	灰原	(17.0)	(8.6)	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部楕円、高台1/3残存
943	碗	2s	灰原	16.6	9.1	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・体部・口縁端部外面に重ね焼片付着
944	碗	2s	灰原	16.8	8.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		底部ひびわれ
945	碗	2s	灰原	(15.4)	8.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着

第54表　遺物観察表（碗）22

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
946	碗	2s	灰原	15.5	8.8	5.0	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
947	碗	2s	灰原	(16.2)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
948	碗	2s	灰原	(16.0)	8.9	(5.2)	砂	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
949	碗	2s	灰原	(15.4)	7.9	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
950	碗	2s	灰原	15.7	7.8	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片・内面体部に砂粒付着
951	碗	2s	灰原	16.3	8.5	4.7	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
952	碗	2s	灰原	16.5	9.1	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
953	碗	2s	灰原	(15.4)	7.4	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に砂粒付着
954	碗	2s	灰原	16.7	8.3	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
955	碗	2s	灰原	(15.0)	8.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
956	碗	2s	灰原	17.0	8.9	5.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
957	碗	2s	灰原	16.0	7.6	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	4		体部ひび割れ
958	碗	2s	灰原	15.9	7.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内外面に砂粒付着、体部ひび割れ
959	碗	2s	灰原	(16.2)	7.4	4.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片・内外面に砂粒付着
960	碗	2s	灰原	(15.8)	7.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
961	碗	2s	灰原	16.7	9.2	4.5	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
962	碗	2s	灰原	(15.4)	7.3	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、高台楕円
963	碗	2s	灰原	(16.2)	8.8	(4.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
964	碗	2s	灰原	16.2	8.8	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
965	碗	2s	灰原	(16.2)	8.8	(4.9)	もみ・砂	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
966	碗	2s	灰原	(15.0)	8.8	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
967	碗	2s	灰原	(15.8)	(10.2)	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	4		内面底部・体部に重ね焼片付着、高台1/3残存
968	碗	2s	灰原	16.0	7.8	4.6	もみ	不明	不明	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、底部中心部分欠損
969	碗	2s	灰原	15.1	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、器面荒れる
970	碗	2s	灰原	(15.8)	7.8	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
971	碗	2s	灰原	(17.0)	8.5	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	3		
972	碗	2s	灰原	(16.6)	9.3	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部ひび割れ
973	碗	2s	灰原	(16.8)	9.2	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
974	碗	2s	灰原	(17.4)	8.5	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
975	碗	2s	灰原	(16.4)	8.7	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
976	碗	2s	灰原	16.1	8.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
977	碗	2s	灰原	(15.4)	7.0	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	A	1		内面体部・外面口縁に砂粒付着
978	碗	2s	灰原	(15.8)	8.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
979	碗	3s	灰原	(15.2)	7.4	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に砂粒付着
980	碗	3s	灰原	(16.8)	8.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
981	碗	3s	灰原	16.5	8.9	4.7	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、カマクソ・砂粒付着、底部ひび割れ、口縁にゆがみ
982	碗	3s	灰原	17.8	8.0	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
983	碗	3s	灰原	16.2	9.1	5.3	砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
984	碗	3s	灰原	(16.0)	7.5	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	A	1		内面底部に重ね焼片・砂粒付着
985	碗	3s	灰原	(15.4)	7.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	4		内面体部に砂粒付着
986	碗	3s	灰原	15.5	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
987	碗	3s	灰原	(16.6)	8.9	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
988	碗	3t	灰原	16.4	8.5	4.9	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	不良	良	D	1		内面底部に重ね焼片・砂粒付着、胎土に小石含む
989	碗	3t	灰原	17.1	8.4	4.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	4		
990	碗	2s	灰原	15.4	7.3	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面・外面体部・口縁に砂粒付着

第55表　遺物観察表（碗）23

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
991	碗	2s	灰原	15.6	7.9	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
992	碗	2s	灰原	16.4	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		器面荒れる
993	碗	2s	灰原	(16.0)	9.6	(4.6)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	4		
994	碗	2s	灰原	16.7	9.4	4.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁楕円、カマクソ付着、内面全体に釉かかる
995	碗	2s	灰原	15.2	9.2	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
996	碗	2s	灰原	16.0	10.3	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
997	碗	2s	灰原	16.2	9.0	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
998	碗	2s	灰原	15.8	7.2	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	5		内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、口縁内面にミゾあり
999	碗	2s	灰原	(15.6)	8.0	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1000	碗	2s	灰原	15.6	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
1001	碗	2s	灰原	16.5	8.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	4		
1002	碗	2s	灰原	16.6	8.8	4.5	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1003	碗	2s	灰原	15.5	8.9	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1004	碗	2s	灰原	15.4	7.5	4.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に砂粒付着、内面底部ひび割れ
1005	碗	2s	灰原	(17.0)	8.8	(5.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1006	碗	2s	灰原	(16.6)	8.2	(5.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台に棒状に痕が入る、底部ひび割れ
1007	碗	2s	灰原	(16.8)	8.6	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1008	碗	2s	灰原	16.3	7.7	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1009	碗	2s	灰原	15.3	6.8	4.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
1010	碗	2s	灰原	(14.6)	7.2	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1011	碗	2s	灰原	(15.6)	7.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面・外面体部に砂粒付着
1012	碗	2s	灰原	(16.4)	9.3	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
1013	碗	2s	灰原	(15.0)	8.0	(5.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1014	碗	2s	灰原	(16.0)	7.1	(4.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、器面荒れる
1015	碗	2s	灰原	16.5	8.8	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1016	碗	2s	灰原	16.5	9.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1017	碗	2s	灰原	17.1	8.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	3		口縁にゆがみ
1018	碗	2s	灰原	(13.8)	7.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1019	碗	2s	灰原	16.0	8.7	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
1020	碗	2s	灰原	(16.0)	9.7	(4.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	4		内面底部に重ね焼片付着
1021	碗	2s	灰原	15.8	7.7	4.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	5		内面体部に砂粒付着
1022	碗	2s	灰原	16.2	7.9	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1023	碗	2s	灰原	(16.0)	8.0	(4.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1024	碗	2s	灰原	15.6	7.4	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		内面全体に砂粒付着
1025	碗	2s	灰原	15.0	7.2	4.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1026	碗	2s	灰原	(16.0)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1027	碗	2s	灰原	15.0	8.5	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1028	碗	2s	灰原	(16.4)	8.1	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面体部に重ね焼片付着
1029	碗	3t	灰原	(15.6)	9.2	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		高台に小石含む
1030	碗	3t	灰原	16.3	9.4	4.8	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
1031	碗	3t	灰原	(14.8)	8.0	(4.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		外面全体に砂粒付着、体部にゆがみ
1032	碗	3t	灰原	(15.4)	8.4	(4.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に2～3本のミゾあり
1033	碗	3t	灰原	(15.6)	8.0	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
1034	碗	3t	灰原	(16.0)	(8.2)	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面体部に砂粒付着、高台1/4残存
1035	碗	3t	灰原	(15.6)	7.9	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面体部に砂粒付着

第56表　遺物観察表（碗）24

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
1036	碗	3t	灰原	(15.2)	7.7	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		内面体部に砂粒付着
1037	碗	3t	灰原	15.2	7.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部・外面口縁に砂粒付着
1038	碗	3t	灰原	(15.4)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面体部に砂粒付着
1039	碗	3t	灰原	(16.4)	8.5	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		
1040	碗	3t	灰原	(17.6)	(8.5)	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2		外面口縁部に重ね焼片付着、高台ほぼハクリ
1041	碗	3t	灰原	(15.6)	8.6	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1042	碗	3t	灰原	15.9	7.1	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1043	碗	3t	灰原	15.8	8.5	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
1044	碗	3t	灰原	(15.8)	7.4	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1045	碗	3t	灰原	(16.1)	8.4	(4.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1046	碗	3t	灰原	(15.8)	8.5	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
1047	碗	3t	灰原	16.8	8.4	5.4	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		
1048	碗	3t	灰原	(14.8)	7.4	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1049	碗	3t	灰原	(15.8)	9.0	(4.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1050	碗	3t	灰原	(17.0)	(8.8)	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		底部ひび割れ、体部に点々と墨（？）付着、高台1/4残存
1051	碗	3t	灰原	(14.8)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		
1052	碗	3t	灰原	16.6	8.3	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1053	碗	3t	灰原	(16.6)	8.6	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		底部・体部ひび割れ
1054	碗	3t	灰原	15.2	7.0	4.5	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		内面底部に重ね焼片付着
1055	碗	3t	灰原	(17.6)	9.5	5.3	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	不良	良	A	1		口縁端部外側に突起
1056	碗	3t	灰原	16.0	8.5	5.1	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1057	碗	3t	灰原	15.8	8.4	4.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ
1058	碗	3t	灰原	(14.8)	7.7	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁端部尖る
1059	碗	3t	灰原	(17.1)	7.9	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台に下の遺物片付着
1060	碗	3t	灰原	(15.0)	8.0	(4.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		高台楕円（長径8.2　短径7.5）
1061	碗	3t	灰原	(17.0)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1062	碗	3t	灰原	(16.2)	7.6	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		小皿の重ね焼片付着、内面にカマクソ・小石付着
1063	碗	3t	灰原	(18.6)	9.2	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
1064	碗	3t	灰原	(15.8)	9.0	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1065	碗	3t	灰原	(14.6)	7.9	(3.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1066	碗	3t	灰原	(16.3)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
1067	碗	3t	灰原	15.3	7.0	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		内面底部に重ね焼片付着
1068	碗	3t	灰原	(15.6)	7.7	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1069	碗	3t	灰原	15.7	8.0	4.2	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部・高台に重ね焼片付着
1070	碗	2s	大ベルト	15.4	8.1	4.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1071	碗	2s	大ベルト	(16.0)	8.1	(4.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1072	碗	2s	大ベルト	(16.2)	8.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
1073	碗	2s	大ベルト	15.8	7.9	4.8	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1074	碗	2s	大ベルト	15.6	7.8	4.8	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		小皿の重ね焼片付着
1075	碗	2s	大ベルト	(17.2)	8.5	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
1076	碗	2s	大ベルト	(16.8)	9.1	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1077	碗	2s	大ベルト	(15.7)	8.2	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		胎土に小石含む
1078	碗	2s	大ベルト	16.5	7.6	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
1079	碗	2s	大ベルト	17.0	8.6	4.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		
1080	碗	2s	大ベルト	(16.2)	(8.5)	(4.7)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1		内面底部に重ね焼片付着、高台全てハクリ

第57表　遺物観察表（碗）25

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
1081	碗	2s	大ベルト	測定不能	7.6	測定不能	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		体部にゆがみ
1082	碗	2s	大ベルト	15.5	8.0	5.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		胎土に小石含む
1083	碗	2s	大ベルト	(16.6)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	不明	良	良	C	1		天場もの、カマクソ付着、外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
1084	碗	3s	大ベルト	(15.2)	8.5	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	A	1		
1085	碗	3s	大ベルト	(15.3)	8.1	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	2		
1086	碗	3s	大ベルト	(15.0)	7.5	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1087	碗	3s	大ベルト	(15.9)	7.4	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
1088	碗	3s	大ベルト	(15.6)	7.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1089	碗	3s	大ベルト	(16.2)	9.2	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		底部ひび割れ
1090	碗	3s	大ベルト	16.3	8.0	4.8	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、底部に小石、ほぼ完形
1091	碗	2s	大ベルト	(16.2)	7.5	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1092	碗	2s	大ベルト	(15.8)	7.6	(4.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	5		
1093	碗	2s	大ベルト	(17.0)	9.6	(4.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
1094	碗	3s	大ベルト	(16.3)	7.7	(4.7)	もみ	不明	横ナデ	不良	良	D	1		器面全体に磨耗している
1095	碗	3s	大ベルト	(14.5)	7.2	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
1096	碗	3s	大ベルト	(15.4)	8.5	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		体部ひび割れ
1097	碗	3s	大ベルト	(16.0)	7.9	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
1098	碗	3s	大ベルト	14.6	7.3	4.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
1099	碗	3s	大ベルト	(15.2)	7.3	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1100	碗	3s	大ベルト	16.4	9.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部ひび割れ
1101	碗	3s	大ベルト	16.6	8.8	4.9	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、口縁にゆがみ、内面全体に釉かかる
1102	碗	4t	大ベルト	(14.6)	8.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1103	碗	4t	大ベルト	14.9	7.3	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1104	碗	4t	大ベルト	(15.1)	8.3	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
1105	碗	4t	大ベルト	(16.0)	8.3	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	3		天場もの、内面全体に釉かかる
1106	碗	4t	大ベルト	(15.8)	7.6	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着、高台3/4ハクリ
1107	碗	4t	大ベルト	15.5	7.6	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1108	碗	4t	大ベルト	(16.6)	7.3	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	C	1		
1109	碗	4t	大ベルト	(16.5)	8.7	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	2		
1110	碗	4t	大ベルト	(16.1)	9.0	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	A	4		内面底部に重ね焼片付着、高台の付け方が非常に雑
1111	碗	2t3t	ベルト	(15.8)	8.1	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
1112	碗	2t3t	ベルト	(16.2)	8.3	(4.5)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1113	碗	2t3t	ベルト	(16.6)	8.8	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	2		
1114	碗	2t3t	ベルト	(16.0)	8.3	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1115	碗	2t3t	ベルト	(16.2)	7.6	(5.3)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		
1116	碗	2t3t	ベルト	(16.2)	8.8	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2		外面底部の色が全体に黒い(焼台直上の碗か？)
1117	碗	2t3t	ベルト	(16.1)	8.1	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		体部にゆがみ
1118	碗	2t3t	ベルト	(15.6)	7.8	(4.5)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
1119	碗	2t3t	ベルト	(16.8)	8.6	(4.4)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		体部にゆがみ
1120	碗	2t3t	ベルト	(16.4)	7.8	(4.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1121	碗	2t3t	ベルト	(16.2)	8.4	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		底部外面ひび割れ
1122	碗	2t3t	ベルト	(16.9)	9.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		底部ひび割れ
1123	碗	2t3t	ベルト	(16.4)	8.9	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
1124	碗	3s	SK01	(14.8)	8.5	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1125	碗	3s	SK01	(16.5)	8.2	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	不良	良	C	2		高台3/4ハクリ

第58表　遺物観察表（碗）26

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備　考
1126	碗	3s	SK01	(16.6)	8.3	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1127	碗	3s	SK01	(16.9)	8.3	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1128	碗	3s	SK01	16.2	8.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ、内面全体に釉かかる
1129	碗	3s	SK01	16.7	8.6	4.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		外面体部・高台部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる
1130	碗	3s	SK01	(15.2)	8.7	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面体部に砂粒片付着、底部中心部分欠損
1131	碗	3r	SK01	(16.4)	8.8	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1132	碗	3r	SK01	(15.8)	8.1	(4.9)	砂	糸切り	横ナデ	不良	良	C	3		
1133	碗	3r	SK01	(16.1)	8.5	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	2		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる
1134	碗	3r	SK01	(16.2)	8.2	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1135	碗	3r	SK01	(16.2)	8.7	(5.3)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1136	碗	3s	SK01	(15.2)	8.8	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		体部にゆがみ
1137	碗	3s	SK01	16.3	8.2	5.0	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1138	碗	3s	SK01	16.1	8.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		外面体部に指圧痕
1139	碗	3s	SK01	(16.2)	8.3	(4.0)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		底部ひび割れ、底部中心部分欠損
1140	碗	3s	SK01	(16.0)	8.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1141	碗	3s	SK01	(15.9)	8.8	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1142	碗	3s	SK01	(16.2)	7.9	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1143	碗	3s	SK01	(15.6)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1144	碗	3s	SK01	測定不能	8.9	測定不能	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1145	碗	3s	SK01	(16.2)	8.2	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1146	碗	3s	SK01	(15.2)	8.0	(5.3)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	不明	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ付着、体部にゆがみ、内面全体に釉かかる
1147	碗	3s	SK01	16.3	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
1148	碗	3s	SK01	測定不能	8.6	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
1149	碗	3s	SK01	(16.8)	8.5	(4.9)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	2		
1150	碗	3s	SK01	16.2	9.1	5.3	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2		底部中心部分欠損
1151	碗	3s	SK01	(16.8)	8.4	(4.1)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1152	碗	3s	SK01	(15.8)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1153	碗	3s	SK01	(16.4)	8.4	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1154	碗	3s	SK01	(17.0)	(8.1)	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		高台1/4残存
1155	碗	3s	SK01	測定不能	7.8	測定不能	もみ	糸切り	不明	良	良	D	1		体部にゆがみ、内面底部に指圧痕
1156	碗	3s	SK01	(16.8)	8.0	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1157	碗	3s	SK01	(16.6)	7.8	(4.5)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1158	碗	3s	SK01	(16.8)	(8.0)	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着
1159	碗	3s	SK01	(17.0)	9.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1160	碗	3s	SK01	16.1	8.1	4.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ、口縁にカマクソ付着
1161	碗	3s	SK01	(15.6)	8.2	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1162	碗	3s	SK01	(16.2)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	最良	D	1		
1163	碗	3s	SK01	16.4	8.4	4.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1164	碗	3s	SK01	(17.2)	8.0	4.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		高台にゆがみ
1165	碗	3s	SK01	(17.2)	8.8	(4.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1166	碗	3s	SK01	(16.7)	8.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1		底部・体部ひび割れ
1167	碗	3s	SK01	16.2	8.1	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1168	碗	3s	SK01	(16.8)	9.1	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面体部に重ね焼片付着
1169	碗	3s	SK01	(16.4)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1170	碗	3s	SK01	(16.0)	8.7	(4.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、底部中心部分欠損

第59表　遺物観察表（碗）27

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
1171	碗	3s	SK01	(16.0)	9.1	(4.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着、底部楕円
1172	碗	3s	SK01	(15.8)	8.1	(4.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面・外面底部に重ね焼片付着
1173	碗	3s	SK01	(17.4)	8.8	(4.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1174	碗	3s	SK01	(16.2)	8.4	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
1175	碗	3s	SK01	(16.0)	7.6	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1176	碗	3s	SK01	16.4	8.9	4.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ、内面に砂粒付着
1177	碗	3s	SK01	15.2	8.7	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
1178	碗	3s	SK01	(16.2)	8.3	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
1179	碗	3s	SK01	(15.8)	8.1	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1180	碗	3s	SK01	－	8.0	－	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	不明	1		体部にゆがみ
1181	碗	3s	SK01	(16.4)	8.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1182	碗	3s	SK01	(16.8)	8.3	(3.9)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1183	碗	3s	SK01	(14.8)	8.3	(5.6)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・高台に重ね焼片付着
1184	碗	3s	SK01	(16.4)	8.4	(5.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		底部楕円
1185	碗	3s	SK01	(15.6)	8.9	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1186	碗	3s	SK01	(16.2)	8.4	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1187	碗	3s	SK01	(16.4)	8.3	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1188	碗	3s	SK01	16.7	8.2	4.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる
1189	碗	3s	SK01	(16.6)	9.4	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		底部ひび割れ
1190	碗	3s	SK01	(16.8)	8.8	(4.9)	もみ・砂	糸切り	横ナデ	良	最良	A	1		
1191	碗	3s	SK01	16.3	8.4	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	4		底部ひび割れ
1192	碗	4s	SK02	(16.1)	7.5	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面体部に砂粒付着
1193	碗	4s	SK02	(16.6)	8.8	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
1194	碗	4t	SK02	(16.2)	8.0	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
1195	碗	4s	SK02	(16.4)	7.0	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
1196	碗	4s	SK02	(16.5)	8.6	(4.2)	もみ	糸切り	不明	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる
1197	碗	4s	SK02	(16.1)	8.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片、カマクソ付着、口縁にゆがみ
1198	碗	4s	SK02	(16.8)	7.4	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1		内面に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1199	碗	4s	SK02	(16.4)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
1200	碗	4s	SK02	(16.1)	8.2	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1201	碗	4s	SK02	16.4	8.0	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1		内面体部に砂粒含む、口縁にゆがみ、ほぼ完形
1202	碗	4t	SK02	(15.4)	8.1	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	最良	C	1		
1203	碗	4t	SK02	16.8	8.9	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	3		
1204	碗	4t	SK02	17.2	8.3	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	D	1		
1205	碗	4t	SK02	(16.8)	8.6	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1		
1206	碗	4t	SK02	(15.4)	9.1	(5.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、
1207	碗	4t	SK02	(16.3)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	B	1		口縁端部尖る、胎土に小石含む
1208	碗	4t	SK02	(16.0)	8.5	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2		高台7/8ハクリ
1209	碗	4t	SK02	(15.8)	8.4	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		外面底部ひび割れ
1210	碗	4t	SK02	(15.6)	8.5	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
1211	碗	4t	SK02	16.6	8.6	4.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、ほぼ完形
1212	碗	2a	SK03	(16.2)	7.0	(5.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1		
1213	碗	2a	SK03	(17.0)	8.9	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
1214	碗	2a	SK03	(16.0)	7.6	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1215	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.4	9.2	5.3	もみ・砂	不明	回転ナデ	不良	良	A	1		底部ひび割れ

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
1216	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.6)	8.7	(4.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部ひび割れ
1217	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.6)	9.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1218	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.2	9.1	5.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	C	1		
1219	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.2)	8.5	(4.3)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	最良	D	2		
1220	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.8	8.7	5.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1		
1221	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.4)	8.5	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1222	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.8	8.3	4.3	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ、底部中心部にくぼみ
1223	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.6	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
1224	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.0)	7.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1225	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.8)	7.7	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1226	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.4	8.7	5.1	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1227	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	15.8	8.1	4.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、ほぼ完形
1228	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	15.8	8.4	4.9	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		口縁にゆがみ、天場もの、内面全体に釉かかる
1229	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.2	7.9	5.3	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		
1230	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.3	8.1	5.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部・体部ひび割れ
1231	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(14.6)	7.9	(5.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		体部ひび割れ
1232	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(16.6)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1233	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(17.4)	8.8	(4.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1234	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	16.3	8.5	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1235	碗	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	15.5	8.3	4.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1236	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(16.0)	8.3	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1237	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(17.0)	7.0	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		胎土に小石含む
1238	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(15.0)	8.4	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1239	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(15.0)	7.9	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
1240	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(16.0)	7.8	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1		底部ひび割れ
1241	碗	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(16.6)	7.8	(5.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
1242	碗	3s	SD01	(15.0)	7.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1243	碗	3s	SD01	15.4	7.7	5.0	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1244	碗	3s	SD01	測定不能	7.4	測定不能	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		口縁にゆがみ
1245	碗	3s	SD01	(15.6)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	B	1		天場もの、内面全体に釉かかる
1246	碗	3s	SD01	(16.4)	8.2	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1247	碗	3s	SD01	16.2	7.6	5.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面に砂粒付着
1248	碗	3s	SD01	16.0	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1249	碗	3s	SD01	(16.2)	8.6	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1250	碗	3s	SD01	(15.6)	8.3	(5.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1251	碗	3s	SD01 第2ベルト	(17.0)	9.0	(5.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1252	碗	3s	SD01 第2ベルト	(15.6)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
1253	碗	3s	SD01 第2ベルト	(15.8)	8.5	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		
1254	碗	3s	SD01 第2ベルト	(16.6)	7.7	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面体部に重ね焼片付着
1255	碗	3s	SD01 第2ベルト	(16.2)	7.8	(4.9)	砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		天場もの、カマクソ付着、内面全体に釉かかる
1256	碗	3s	SD01 第2ベルト	(15.8)	8.8	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1257	碗	3s	SD01 第2ベルト	(16.0)	7.9	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		
1258	碗	2s	SD01	(16.8)	8.6	(4.9)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1259	碗	2s	SD01	(17.0)	8.2	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		
1260	碗	2s	SD01	(16.2)	8.1	(5.1)	もみ・砂	糸切り	不明	良	良	C	1		天場もの、カマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる

第61表　遺物観察表（碗）29

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
1261	碗	2s	SD01	16.0	8.2	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1262	碗	2s	SD01	(16.6)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	C	1		外面口縁部～内面体部に砂粒・小石付着
1263	碗	2s	SD01	(15.8)	8.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1264	碗	2s	SD01	(17.0)	8.0	(5.0)	もみ	糸切り	不明	良	良	C	1		天場もの、小石付着、内面全体に釉かかる
1265	碗	2s	SD01	16.1	7.8	5.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
1266	碗	2s	SD01	(16.0)	7.6	(4.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1267	碗	2s	SD01	15.6	7.9	4.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1268	碗	4r	SD01 施設	(15.4)	6.7	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	SD01-2	
1269	碗	3t	SD01 施設	(16.2)	8.0	(4.9)	もみ・センイ痕	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	SD01-19	
1270	碗	3s	SD01 施設	(16.1)	7.7	(4.7)	もみ・センイ痕	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	3	SD01-42	内面底部に重ね焼片付着
1271	碗	3s	SD01 施設	(16.3)	8.3	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	SD01-43	胎土に小石含む
1272	碗	3r	SD01 施設	(16.4)	7.9	(4.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	D	1	SD01-52	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1273	碗	3r	SD01 施設	(16.0)	7.4	(5.0)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1	SD01-53	内面体部にカマクソ付着
1274	碗	4s	SD02 第2ベルト	(17.6)	8.3	(5.4)	不明	不明	回転ナデ	良	良	D	1		外面器面荒れる、小石付着
1275	碗	4s	SD02 第2ベルト	測定不能	9.2	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面器面荒れる、内面に重ね焼片付着、ゆがみ
1276	碗	4s	SD02 第2ベルト	(17.2)	8.3	(4.9)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		口縁端部尖る
1277	碗	4s	SD02 第2ベルト	16.6	(7.9)	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台3/4ハクリ
1278	碗	3s	SD02	(16.5)	(9.2)	(5.0)	不明	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	4		高台ほぼハクリ
1279	碗	3s	SD02	(15.7)	8.4	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1280	碗	2s	SD02	(15.1)	7.3	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	5		
1281	碗	2s	SD02	(15.5)	6.8	(4.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		
1282	碗	2s	SD02	(16.0)	8.7	(5.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		
1283	碗	2s	SD02	(15.9)	7.6	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	1		内面底部器面荒れる
1284	碗	2s	SD02	(15.3)	7.7	(4.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1285	碗	2s	SD02	(16.0)	7.6	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1286	碗	4s	SD02 施設	16.1	8.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	SD02-1	
1287	碗	4s	SD02 施設	(16.6)	7.8	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	SD02-2	内面底部に重ね焼片付着
1288	碗	4s	SD02 施設	16.5	(9.1)	(5.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1	SD02-11	高台ほぼハクリ、ゆがみ、内面器面荒れる、小石付着
1289	碗	4s	SD02 施設	16.1	(8.7)	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1	SD02-18	底部ひび割れ、高台2/3ハクリ
1290	碗	不明	分布調査 表採	(15.0)	8.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1291	碗	不明	分布調査 表採	16.3	8.7	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1292	碗	不明	分布調査 表採	16.0	8.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1293	碗	不明	表採	(15.4)	7.0	(4.2)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
1294	碗	不明	表採	(15.8)	8.7	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着
1295	碗	不明	表採	(16.6)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1296	碗	不明	表採	(15.8)	－	(4.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台1/5残存
1297	碗	不明	表採	(15.6)	7.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		外面体部に重ね焼片付着
1298	碗	不明	表採	(15.6)	7.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1299	碗	不明	表採	(14.8)	7.2	(4.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1300	碗	不明	表採	(14.6)	(7.8)	(4.9)	砂	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1		底部1/4残存
1301	碗	不明	表採	(14.8)	(8.0)	(5.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		内面に砂粒付着
1302	碗	2t	表採	(16.3)	8.9	(4.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		高台3/4ハクリ
1303	碗	3s	表採	(16.0)	8.6	(5.0)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1		
1304	碗	3s	表採	(16.5)	9.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面底部に重ね焼片付着
1305	碗	3s	表採	(16.4)	(8.0)	(5.0)	不明	糸切り後センイ痕後ナデ	不明	良	良	D	1		高台1/2ハクリ、高台端部ハクリ、天場もの、内面全体に釉かかり器面荒れる、小石付着

第62表　遺物観察表（碗）30

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
1306	碗	3t	表採	(16.6)	8.6	(4.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		遺物は13066と表記されている
1307	碗	3t	表採	(16.2)	8.3	(5.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1308	碗	3a	表採	(15.2)	(8.3)	(5.3)	砂	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1		底部ひび割れ、底部1/3残存
1309	碗	3a	表採	(16.4)	9.4	(5.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	A	1		
1310	碗	4a	表採	(16.4)	9.6	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		底部・体部ひび割れ
1311	碗	4a	表採	(14.4)	8.1	(4.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1312	碗	4a	表採	(15.6)	8.1	(4.9)	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		高台のつぶれが少ない
1313	碗	4a	表採	(16.0)	9.2	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	4		
1314	碗	4a	表採	(14.4)	7.9	(4.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	B	2		内面底部に重ね焼片付着
1315	碗	4a	表採	(15.1)	8.2	(4.7)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1		内面器面荒れる、高台全体に釉付着
1316	碗	4a	表採	(15.8)	8.7	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		内面底部に重ね焼片付着
1317	碗	4a	表採	(17.3)	8.3	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	4		
1318	碗	4a	表採	(16.7)	9.2	(5.0)	砂	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		内面底部ひび割れ・重ね焼片付着、口縁端部尖る
1319	碗	4t	表採	(16.4)	8.3	(4.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面にカマクソ・小石付着
1320	碗	5a	表採	(15.4)	8.7	(4.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1321	碗	2a	表採	(14.8)	7.0	(5.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2		
1322	碗	2a	表採	(15.0)	7.8	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		
1323	碗	2a	表採	(17.0)	8.4	(4.1)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	2		内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1324	碗	2a	表採	(15.6)	8.7	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2		
1325	碗	2t	表採	(16.2)	8.1	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1326	碗	3a	表採	(15.4)	7.9	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1327	碗	1t	検出Ⅰ	(16.2)	8.1	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1328	碗	1t	検出Ⅰ	(15.6)	8.4	(5.1)	不明	不明	不明	良	良	C	2		内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る、高台端部ハクリ、底部中心部分欠損
1329	碗	1t	検出Ⅰ	(17.0)	7.3	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	4		
1330	碗	2a	検出Ⅰ	(15.8)	8.3	(5.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1		内面にカマクソ付着
1331	碗	3s	窯体 検出	(16.8)	9.5	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		体部にゆがみ
1332	碗	1s	検出Ⅰ	(16.8)	7.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		
1333	碗	2t	検出Ⅰ	(15.4)	8.4	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1		内面底部に重ね焼片付着
1334	碗	2t	検出Ⅰ	(15.6)	8.2	(4.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1335	碗	不明	調査区外 排土	(15.4)	7.6	(4.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1336	碗	不明	試掘調査 トレンチ東側	(15.7)	8.4	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1		内面にカマクソ付着
1337	碗	不明	試掘調査 トレンチ西側	(16.2)	8.1	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1		
1338	碗	3r	2号窯 床面下施設	−	7.8	−	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1		体部にゆがみ
1339	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2		内面底部に重ね焼片付着
1340	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.2)	7.5	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2		
1341	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.6	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2		口縁端部尖る
1342	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.8)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-5	
1343	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.7	(8.0)	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	1Y-24	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台5/6ハクリ
1344	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.0	9.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1	1Y-26	内面底部に重ね焼片付着
1345	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.5)	7.9	(4.4)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	4	1Y-27	内面底部に重ね焼片付着
1346	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.9)	9.1	(5.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-31	
1347	碗	4s	1号窯 床面下施設	17.0	8.2	5.1	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-32	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1348	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.9)	7.9	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-32	内面底部に重ね焼片付着
1349	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.5	8.4	5.4	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	1Y-33	内面底部に重ね焼片付着、体部に小石含む
1350	碗	4s	1号窯 床面下施設	17.1	9.2	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	1Y-34	内面底部に重ね焼片付着

第63表　遺物観察表（碗）31

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
1351	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.9	7.6	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-35	内面底部に重ね焼片付着
1352	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.0)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	1Y-39	
1353	碗	4s	1号窯 床面下施設	17.2	8.4	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	5	1Y-42	
1354	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	8.6	5.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-43	口縁にゆがみ
1355	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.0)	(7.7)	(5.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	1Y-49	高台3/4ハクリ
1356	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.8)	8.5	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	2	1Y-54	
1357	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.0)	8.4	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	D	2	1Y-55	胎土に小石含む
1358	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.0)	8.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-56	外面口縁部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1359	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.4)	8.3	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	C	1	1Y-61	
1360	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.4)	8.2	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	1Y-66	
1361	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.6)	9.2	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-68	内面底部に重ね焼片付着
1362	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.8)	底径8.1	(5.0)	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-72	内面底部に重ね焼片付着、高台全てハクリ
1363	碗	4r	1号窯 床面下施設	(17.0)	8.8	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-74	
1364	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.7)	8.9	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2	1Y-75	内面底部に重ね焼片付着、内面にカマクソ付着、高台2/3ハクリ
1365	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.6)	8.4	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	1Y-75	
1366	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.3)	7.7	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	C	2	1Y-76	胎土に小石含む
1367	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.6)	8.6	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-80	
1368	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.8)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	1Y-81	内面底部に重ね焼片付着、高台の崩れ少ない
1369	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.4)	8.7	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-85	内面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む、内面・外面に砂粒・小石付着
1370	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.9	8.0	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	5	1Y-86	天場もの、内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
1371	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.2)	8.1	(4.6)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	最良	D	2	1Y-93	内面底部に重ね焼片付着
1372	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.8)	8.5	(4.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	最良	D	2	1Y-98	
1373	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.0)	8.6	(5.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2	1Y-100	内面～口縁が器面荒れる、胎土に小石含む
1374	碗	4s	1号窯 床面下施設	測定不能	7.2	測定不能	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-102	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1375	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.1)	8.2	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1	1Y-105	
1376	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.0)	8.7	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	C	1	1Y-110	
1377	碗	4r	1号窯 床面下施設	(16.0)	8.0	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-116	内面底部に重ね焼片付着
1378	碗	4r	1号窯 床面下施設	(18.6)	9.1	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1	1Y-118	
1379	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.8	8.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-132	内面底部に重ね焼片付着
1380	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.7	7.5	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-132	内面底部に重ね焼片付着
1381	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.2)	9.3	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-137	
1382	碗	4r	1号窯 床面下施設	16.4	(8.5)	4.9	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1	1Y-141	内面底部に重ね焼片付着、高台2/3ハクリ
1383	碗	4r	1号窯 床面下施設	(16.4)	8.5	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	1Y-145	外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1384	碗	4r	1号窯 床面下施設	(15.3)	7.0	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	1Y-147	
1385	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.6)	8.7	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	最良	D	1	1Y-154	内面底部に重ね焼片付着
1386	碗	4r	1号窯 床面下施設	(16.4)	8.8	(4.8)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	最良	D	1	1Y-159	
1387	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.8)	8.5	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	A	1	1Y-160	
1388	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.3	8.7	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	1Y-164	底面外部にひび割れ、内面体部にカマクソ・小石付着、小皿の重ね焼片付着
1389	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.7)	8.8	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-168	内面底部に重ね焼片付着
1390	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.0)	8.0	(4.7)	もみ	不明	横ナデ	不良	良	D	1	1Y-170	底面外面磨耗
1391	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.4)	(8.0)	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	1Y-174	内面底部に重ね焼片付着、底面にひび割れ、高台ほぼハクリ
1392	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.6)	7.7	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	1Y-175	
1393	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.4)	7.7	(5.0)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	1Y-179	口縁端部尖る
1394	碗	4s	1号窯 床面下施設	測定不能	8.1	測定不能	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	1Y-181	ゆがみ
1395	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	7.4	5.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2	1Y-182	

第64表　遺物観察表（碗）32

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
1396	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.4	7.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-185	
1397	碗	4s	1号窯 床面下施設	(14.6)	7.8	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-193	外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1398	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	8.9	4.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	最良	D	1	1Y-193	
1399	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.2)	7.3	(4.8)	もみ	不明	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-196	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、胎土に小石含む
1400	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.1)	9.4	(5.3)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	2	1Y-197	天場もの、内面～外面体部器面荒れる、内面全体に釉かかる
1401	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.4)	7.7	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	1Y-199	
1402	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.4)	底径7.2	(4.8)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	1Y-201	高台全てハクリ
1403	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.0)	底径8.7	(5.3)	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	B	1	1Y-202	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台全てハクリ、口縁にゆがみ
1404	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.6)	(7.4)	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	1Y-204	内面底部に重ね焼片付着、高台ほぼハクリ
1405	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.6	8.5	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-207	内面底部に重ね焼片付着
1406	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	(6.9)	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	5	1Y-205	高台3/4ハクリ
1407	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.4	底径8.9	(4.8)	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-208	高台全てハクリ
1408	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.9)	7.9	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	1Y-209	内面底部に重ね焼片付着
1409	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.2	－	(5.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-211	高台ほぼハクリ
1410	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.0)	8.5	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	5	1Y-213	内面底部に重ね焼片付着
1411	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.2)	8.7	(5.1)	もみ	不明	回転ナデ	良	良	A	1	1Y-216	高台1/2ハクリ、外面体部が器面荒れる
1412	碗	4s	1号窯 床面下施設	17.1	9.5	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2	1Y-219	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
1413	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.5)	8.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-222	内面底部に重ね焼片付着
1414	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.6	7.8	5.0	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-222	
1415	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.0)	8.4	(5.0)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-226	高台端部ハクリ
1416	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.6)	7.7	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-227	
1417	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.8)	8.7	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-230	
1418	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.1)	8.5	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-232	高台の崩れ少ない、底部ひび割れ
1419	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.6)	底径8.0	－	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2	1Y-234	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台全てハクリ
1420	碗	4s	1号窯 床面下施設	(17.5)	底径9.1	－	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	A	1	1Y-236	高台全てハクリ
1421	碗	4s	1号窯 床面下施設	(15.6)	7.3	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-239	内面底部に重ね焼片付着
1422	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.8)	8.0	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	2	1Y-242	天場もの、カマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
1423	碗	4s	1号窯 床面下施設	15.8	7.9	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-245	
1424	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.9	8.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	1Y-246	
1425	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	7.8	4.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	5	1Y-247	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1426	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.1	8.2	5.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	2	1Y-251	底部ひび割れ
1427	碗	4s	1号窯 床面下施設	16.9	底径8.8	(4.9)	不明	糸切り	回転ナデ	良	良	A	2	1Y-252	高台全てハクリ
1428	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.6)	8.9	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	2	1Y-253	内面底部に重ね焼片付着
1429	碗	4r	1号窯 床面下施設	(16.6)	8.5	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	1Y-257	
1430	碗	4r	1号窯 床面下施設	(16.4)	9.1	(5.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	1Y-259	
1431	碗	4s	1号窯 床面下施設	(16.4)	(8.0)	(4.9)	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	1Y-261	内面底部に重ね焼片付着、高台ほぼハクリ
1432	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.2	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	3	2Y-2	内面底部に重ね焼片付着、底部～体部ひび割れ
1433	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.9	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-3	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に砂粒付着
1434	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.1)	7.7	(5.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-5	口縁端部尖る
1435	碗	3r	2号窯 床面下施設	15.9	7.9	4.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-6	外面体部に重ね焼片付着
1436	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-10	
1437	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.0)	7.3	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-18	内面底部に重ね焼片付着
1438	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.1)	7.1	(5.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	2Y-24	口縁端部尖る
1439	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.2	(4.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-28	
1440	碗	3r	2号窯 床面下施設	(14.8)	6.8	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-32	内面にカマクソ付着、底部ひび割れ、口縁端部尖る

第65表　遺物観察表（碗）33

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備　考
1441	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.0	8.0	5.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-33	
1442	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.6)	7.2	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	2Y-37	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、口縁端部尖る
1443	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.4	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	B	1	2Y-38	内面底部に重ね焼片付着
1444	碗	3r	2号窯 床面下施設	(14.8)	7.0	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-39	口縁端部尖る
1445	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.7)	8.0	(4.6)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	1	2Y-40	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に砂粒付着、底部ひび割れ
1446	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.5	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-41	口縁端部尖る
1447	碗	3r	2号窯 床面下施設	15.9	7.7	4.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	2Y-42	
1448	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.4	(5.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-45	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、口縁端部尖る
1449	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.1	7.6	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-48	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、口縁端部尖る
1450	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.4	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-49	口縁端部尖る
1451	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.0	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	2Y-50	内面底部に重ね焼片付着
1452	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.6)	7.5	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-53	
1453	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.6)	7.5	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-55	
1454	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.0	7.3	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-62	体部にゆがみ
1455	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.4)	7.0	(5.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	2	2Y-63	
1456	碗	3r	2号窯 床面下施設	16.2	7.4	4.9	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-64	内面底部に重ね焼片付着、口縁楕円、口縁端部尖る
1457	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	7.0	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-67	
1458	碗	3r	2号窯 床面下施設	15.5	8.5	5.0	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-69	外面体部に重ね焼片付着、口縁楕円
1459	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.7	(5.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-73	口縁端部尖る
1460	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.1)	7.0	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	2Y-74	口縁にゆがみ
1461	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.3	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	C	2	2Y-77	
1462	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.2)	9.0	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	A	1	2Y-78	底部・体部ひび割れ
1463	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.2	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-84	体部にゆがみ
1464	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	6.9	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-84	外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1465	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.1)	7.0	(4.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-86	内面底部重ね焼片付着、体部にゆがみ、口縁端部尖る
1466	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.7	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	2Y-87	
1467	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.4)	7.3	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-88	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1468	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.8)	7.4	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-90	体部にゆがみ、口縁端部尖る
1469	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.8	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-94	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、口縁端部尖る
1470	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.5	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	B	1	2Y-96	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、口縁端部尖る
1471	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.2	(5.1)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-97	
1472	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.1	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-98	
1473	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.9)	7.3	(5.5)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-99	
1474	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.2)	7.5	(5.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-104	体部にゆがみ、口縁端部尖る
1475	碗	3r	2号窯 床面下施設	測定不能	7.9	4.8	もみ	不明	回転ナデ	良	良	C	2	2Y-105	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
1476	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.1	(5.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-106	口縁端部尖る
1477	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.0)	7.1	(5.0)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-108	外面底部荒れる
1478	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.8	7.2	4.9	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-109	内面底部に重ね焼片付着
1479	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.9)	6.9	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	2Y-110	内面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、口縁端部尖る
1480	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.4)	8.1	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	2	2Y-112	
1481	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.5	8.3	4.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	D	1	2Y-114	口縁にゆがみ
1482	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.1)	7.7	(5.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	2Y-115	体部にゆがみ
1483	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.0)	8.9	(5.1)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	2	2Y-118	
1484	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.1)	7.4	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-119	口縁端部尖る
1485	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	8.5	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	C	1	2Y-122	

第66表　遺物観察表（碗）34

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
1486	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	7.5	(4.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	2	2Y-126	底部ひび割れ
1487	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.3	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-127	口縁端部尖る
1488	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.4)	7.2	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-181	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、ゆがむ、底部～体部ひび割れ
1489	碗	3r	2号窯 床面下施設	15.7	7.1	5.3	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-132	外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1490	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.4)	8.5	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1	2Y-140	内面全体に釉かかる、内面にカマクソ付着、胎土に小石含む
1491	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.4)	7.2	(5.0)	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-143	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1492	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.8	7.5	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-145	
1493	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.8)	8.7	(4.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	4	2Y-151	内面底部に重ね焼片付着
1494	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.2	8.2	4.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	2Y-152	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1495	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.8	8.5	4.9	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	不良	C	4	2Y-153	内面底部に重ね焼片付着、口縁楕円、胎土に小石含む
1496	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.0)	(8.8)	(5.3)	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-154	高台1/4残存、胎土に小石含む
1497	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.2)	8.5	(5.0)	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-160	
1498	碗	4r	2号窯 床面下施設	(17.0)	8.6	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	4	2Y-163	口縁楕円、胎土に小石含む
1499	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	7.2	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-164	外面体部に重ね焼片付着
1500	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.0)	6.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-167	内面底部に重ね焼片付着、口縁楕円
1501	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-169	口縁楕円
1502	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.8)	8.0	(5.2)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	C	4	2Y-171	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1503	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.6	6.8	5.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-174	
1504	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.7	7.8	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	C	4	2Y-178	胎土に小石含む
1505	碗	4r	2号窯 床面下施設	17.1	8.0	4.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	D	1	2Y-179	底部ひび割れ、胎土に小石含む
1506	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	6.9	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-184	内面底部の中心から離れた所に指ナデの痕
1507	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.8	8.1	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-186	胎土に小石含む
1508	碗	4r	2号窯 床面下施設	17.0	8.7	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-191	内面底部に重ね焼片付着、口縁楕円
1509	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.2)	7.0	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-192	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1510	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.4	8.0	5.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-193	外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、胎土に小石含む
1511	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	9.0	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-195	内面底部に重ね焼片付着
1512	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.2)	8.3	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-196	胎土に小石含む、内面全体に釉かかる
1513	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.9	8.5	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-197	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1514	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	8.4	(5.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-201	底部ひび割れ、胎土に小石含む
1515	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.1	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-203	内面底部に重ね焼片付着
1516	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.8)	8.6	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-204	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1517	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	8.9	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-208	内面底部に重ね焼片付着
1518	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.2)	7.5	(4.8)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1	2Y-210	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1519	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.1	8.5	4.9	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1	2Y-211	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1520	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.9	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-218	内面底部にカマクソ付着
1521	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.6)	9.1	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1	2Y-223	内面底部に重ね焼片付着
1522	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.6)	7.5	(4.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-224	内面底部に重ね焼片付着
1523	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.8)	8.0	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-228	内面底部に重ね焼片付着
1524	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	8.2	(4.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-229	内面底部に重ね焼片付着
1525	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.7	(4.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-231	
1526	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.0)	8.1	(5.1)	もみ・砂	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-235	胎土に小石含む
1527	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.6)	7.2	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	C	1	2Y-236	内面底部に重ね焼片付着
1528	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.3	8.1	5.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-237	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、胎土に小石含む
1529	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.9	(4.7)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-240	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1530	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.0)	8.4	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-242	内面底部にカマクソ付着、天場もの、内面全体に釉かかる

第67表　遺物観察表（碗）35

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	口縁端部	取上番号	備考
1531	碗	4r	2号窯 床面下施設	−	7.2	−	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-246	口縁にゆがみ
1532	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.4)	7.3	(5.1)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	不明	良	良	B	1	2Y-251	外面口縁に重ね焼片・内面底部中心にカマクソ付着、天場もの、口縁にゆがみ、内面全体に釉かかる
1533	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.2	7.6	5.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-253	内面全体に砂粒付着
1534	碗	4r	2号窯 床面下施設	(14.2)	8.4	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-256	内面底部に重ね焼片付着
1535	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	7.4	(5.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-259	
1536	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.6)	8.1	(5.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-260	内面底部に重ね焼片付着
1537	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.8)	8.5	(4.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-261	内面底部に重ね焼片付着
1538	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.6)	8.9	(5.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-262	内面底部に重ね焼片付着
1539	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.0)	8.5	(5.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-264	
1540	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.4	7.5	4.7	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-266	内面底部に重ね焼片付着
1541	碗	3r	2号窯 床面下施設	(16.0)	8.9	(5.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-270	
1542	碗	3r	2号窯 床面下施設	測定不能	8.2	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	C	1	2Y-271	体部にゆがみ
1543	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.7	8.4	5.1	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	不良	良	D	1	2Y-274	胎土に小石含む
1544	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.9)	8.9	(5.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-275	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1545	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.4)	8.4	(4.9)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-276	内面底部に重ね焼片付着
1546	碗	4r	2号窯 床面下施設	16.6	(8.4)	(4.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	1	2Y-277	高台1/4残存、内面体部にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
1547	碗	4r	2号窯 床面下施設	17.2	底径8.3	−	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	C	1	2Y-280	高台全てハクリ、口縁楕円、底部ひび割れ、内面全体に釉かかる
1548	碗	4r	2号窯 床面下施設	15.5	7.7	5.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-288	内面底部に重ね焼片付着
1549	碗	4r	2号窯 床面下施設	(16.8)	8.2	(4.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-290	内面底部に重ね焼片付着
1550	碗	4r	2号窯 床面下施設	測定不能	8.4	測定不能	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1	2Y-291	体部にゆがみ
1551	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.2	(5.4)	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-295	
1552	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.5	(4.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-296	
1553	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.3	(5.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	C	1	2Y-296	
1554	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.5	(4.8)	砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-299	内面底部に重ね焼片付着
1555	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.4	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	横ナデ	良	良	D	1	2Y-304	内面底部に重ね焼片付着
1556	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.3	(4.7)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-305	内面底部に重ね焼片付着
1557	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.4	5.1	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-308	体部にゆがみ、底部ひび割れ
1558	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.4	(4.9)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-309	内面底部に重ね焼片付着
1559	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.0	(5.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-310	底部ひび割れ
1560	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.2	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-314	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1561	碗	3r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.1	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	5	2Y-315	
1562	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.3	(4.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-318	底部ひび割れとくぼみ、口縁端部尖る
1563	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.0	(5.2)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-319	
1564	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.0	(5.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	C	1	2Y-320	
1565	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.1	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	C	2	2Y-321	内面底部に重ね焼片付着
1566	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.6	(5.4)	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	最良	D	2	2Y-323	
1567	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.4	(5.4)	もみ	糸切り後ナデ後センイ痕	不明	良	良	D	2	2Y-324	天場もの、内面全体に釉かかる
1568	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.5	(4.7)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-330	
1569	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.4	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1	2Y-332	天場もの、内面全体に釉かかる
1570	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.8	(5.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-334	内面底部に重ね焼片付着
1571	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.8	(5.0)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-336	内面底部に重ね焼片付着
1572	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.3	4.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-339	内面底部に重ね焼片付着
1573	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	8.6	5.2	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	D	1	2Y-342	
1574	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.8	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	D	1	2Y-343	天場もの、高台のつぶれほぼなし、内面全体に釉かかる
1575	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.7	(5.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	2	2Y-344	内面底部に重ね焼片付着
1576	碗	4r	2号窯 床面下施設	(15.8)	7.9	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	D	1	2Y-347	口縁にゆがみ

第68表　遺物観察表（Ⅲ）1

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
1577	皿	4s	1号窯 焼成室	8.6	4.1	2.6	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	胎土に小石含む
1578	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.9	2.8	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1579	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	5.3	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1580	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	5.5	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1581	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.5	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着、内面底部中心にくぼみ、ひび割れ
1582	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.7	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1583	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	5.2	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	底部ひび割れ
1584	皿	4s	1号窯 焼成室	9.4	5.3	2.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面にカマクソ付着
1585	皿	4s	1号窯 焼成室	8.5	4.5	2.0	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
1586	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.9)	4.8	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着、内面底部中央にくぼみ、ひび割れ
1587	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.2)	4.8	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
1588	皿	4s	1号窯 焼成室	8.7	5.5	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1589	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.3	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部中央にくぼみ
1590	皿	4s	1号窯 焼成室	9.3	5.3	2.7	もみ	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
1591	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	4.6	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1592	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	4.5	2.6	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1593	皿	4s	1号窯 焼成室	8.8	4.9	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	
1594	皿	4s	1号窯 焼成室	8.8	4.7	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1595	皿	4s	1号窯 焼成室	8.7	5.1	2.2	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1596	皿	4s	1号窯 焼成室	8.7	4.8	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
1597	皿	4s	1号窯 焼成室	8.8	4.9	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	口縁端部にカマクソ付着
1598	皿	4s	1号窯 焼成室	8.9	4.5	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
1599	皿	4s	1号窯 焼成室	8.9	4.7	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1600	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	5.1	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
1601	皿	4s	1号窯 焼成室	8.7	5.2	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1602	皿	4s	1号窯 第1ベルト	9.2	4.7	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	
1603	皿	4s	1号窯 第1ベルト	9.2	4.7	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1604	皿	4s	1号窯 第1ベルト	9.0	4.4	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1605	皿	4s	1号窯 第1ベルト	8.9	4.8	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	
1606	皿	4s	1号窯 第1ベルト	8.9	4.7	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1607	皿	4s	1号窯 第1ベルト	8.8	4.4	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
1608	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第2層	8.9	4.4	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1609	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	(8.9)	4.4	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1610	皿	4r	2号窯 焼成室	9.5	5.8	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	外面体部に重ね焼片付着
1611	皿	4r	2号窯 焼成室	8.7	4.8	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	高台端部1/2ハクリ
1612	皿	3r	2号窯 焼成室	8.4	5.3	2.6	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1613	皿	3r	2号窯 第2ベルト	9.2	5.5	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	底部ひび割れ
1614	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.0	4.2	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1615	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.3	4.9	2.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	4	外面体部に重ね焼片付着、内面に小石付着、口縁端部～外面体部にカマクソ付着
1616	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.6	5.2	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1617	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.2)	(5.6)	(2.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
1618	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.5	5.6	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1619	皿	3r	2号窯 燃焼室	8.9	5.4	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部ひび割れ
1620	皿	3r	2号窯 燃焼室	9.2	5.4	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1621	皿	3r	2号窯 燃焼室	(9.1)	4.4	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	

第69表　遺物観察表（Ⅲ）2

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
1622	皿	3s	2号窯 燃焼室	10.1	5.0	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面体部に重ね焼片付着
1623	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.7	5.6	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1624	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.7	6.1	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	
1625	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.9	5.3	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台端部1/2ハクリ、内面底部に重ね焼片付着
1626	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.8	5.3	2.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1627	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.7	5.3	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1628	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.2	5.5	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	内面体部に重ね焼片付着、底面ひび割れ
1629	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.9	5.4	2.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1630	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.0	4.6	2.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1631	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.9	5.2	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1632	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.5	5.2	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1633	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(9.0)	5.2	(2.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	
1634	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.9	5.1	2.1	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
1635	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.7	4.9	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1636	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	8.8	4.6	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部中央にくぼみ
1637	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	9.9	5.0	2.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1638	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	9.1	4.5	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1639	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	9.0	5.7	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
1640	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.1	5.1	2.1	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	3	
1641	皿	2s	検出Ⅰ	8.7	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1642	皿	2s	検出Ⅰ	9.2	5.2	2.7	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	天場もの、内面に小石付着、内面全体に釉かかる
1643	皿	2s	検出Ⅰ	8.3	4.1	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1644	皿	2s	検出Ⅰ	(8.6)	4.9	(2.5)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	B	1	天場もの、内面全体に釉かかる
1645	皿	2s	検出Ⅰ	(8.0)	4.1	(2.2)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	
1646	皿	3r	検出Ⅰ	(9.0)	4.1	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
1647	皿	2s	検出Ⅰ	8.7	5.2	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部2/3ハクリ
1648	皿	3s	検出Ⅰ	9.2	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	高台端部2/3ハクリ、口縁にゆがみ、天場もの、内面全体に釉かかる
1649	皿	2s	検出Ⅰ	8.4	4.6	2.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	天場もの、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
1650	皿	2s	検出Ⅰ	8.4	4.7	2.7	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	天場もの、内面全体に釉かかる
1651	皿	2s	検出Ⅰ	8.8	5.6	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1652	皿	2s	検出Ⅰ	8.3	5.1	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1653	皿	2s	検出Ⅰ	8.3	5.1	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面体部に重ね焼片付着
1654	皿	2s	検出Ⅰ	8.4	4.9	2.7	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1655	皿	4t	検出Ⅰ	8.2	4.6	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	内面底部中央にくぼみ
1656	皿	4t	検出Ⅰ	(7.8)	4.7	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
1657	皿	4t	検出Ⅰ	8.7	4.0	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	
1658	皿	4t	検出Ⅰ	8.8	5.0	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	外面底部に重ね焼片付着
1659	皿	4t	検出Ⅰ	9.5	4.9	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	外面底部ひび割れ
1660	皿	4t	検出Ⅰ	8.4	4.8	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1661	皿	4t	検出Ⅰ	9.0	5.1	2.1	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1662	皿	4t	検出Ⅰ	7.8	4.4	2.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	天場もの、カマクソ付着、内面全体に釉かかる
1663	皿	4t	検出Ⅰ	7.8	4.5	2.2	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1664	皿	4t	検出Ⅰ	8.9	5.4	2.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1665	皿	4t	検出Ⅰ	9.1	4.7	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1666	皿	4t	検出Ⅰ	8.4	4.4	2.4	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備　考
1667	皿	4t	検出Ⅰ	(8.1)	5.1	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	胎土に小石含む
1668	皿	4t	検出Ⅰ	8.4	4.8	2.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	天場もの、内面にカマクソ付着、外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
1669	皿	4t	検出Ⅰ	7.8	4.5	2.4	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面体部に重ね焼片付着
1670	皿	4t	検出Ⅰ	8.4	4.1	2.3	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
1671	皿	4t	検出Ⅰ	8.5	4.7	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1672	皿	4t	検出Ⅰ	8.6	4.5	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面体部器面荒れる、胎土に小石含む
1673	皿	3a	検出Ⅱ	(8.2)	4.2	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	3	内面底部に重ね焼片・カマクソ付着
1674	皿	3s	検出Ⅱ	8.3	4.9	2.5	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1675	皿	3s	検出Ⅱ	8.6	4.5	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	4	
1676	皿	3s	検出Ⅱ	9.0	5.2	2.5	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	4	内面底部に重ね焼片付着
1677	皿	3s	検出Ⅱ	8.6	4.7	2.2	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1678	皿	3s	検出Ⅱ	8.5	5.1	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部中央にくぼみ、内面体部に小石付着
1679	皿	3s	検出Ⅱ	9.7	6.1	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	4	
1680	皿	3s	検出Ⅱ	8.9	4.8	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
1681	皿	3s	検出Ⅱ	(8.7)	4.9	(2.6)	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、小石付着
1682	皿	3s	検出Ⅱ	8.8	5.4	2.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	高台2/3ハクリ、内面端部に重ね焼片付着
1683	皿	3s	検出Ⅱ	9.2	4.9	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1684	皿	2t	検出Ⅱ	7.7	4.5	2.2	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	天場もの、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる、口縁端部尖る
1685	皿	2t	検出Ⅱ	8.0	4.7	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部1/2ハクリ
1686	皿	2t	検出Ⅱ	8.7	4.9	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1687	皿	1s	検出Ⅱ	8.1	5.1	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1688	皿	3s	検出Ⅲ	9.3	5.0	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
1689	皿	3s	検出Ⅲ	9.1	5.0	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1690	皿	4s	検出Ⅲ	8.9	4.8	2.2	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	
1691	皿	3s	検出Ⅲ	8.9	4.6	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	
1692	皿	3s	検出Ⅲ	8.0	4.7	2.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1693	皿	4s	検出Ⅲ	9.2	4.8	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部中央にくぼみ
1694	皿	2t	試掘トレンチ	(9.1)	(5.4)	(2.5)	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	
1695	皿	4t	灰原	8.8	4.7	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1696	皿	2s	灰原	9.3	5.0	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、内面底部中央にくぼみ
1697	皿	3s	灰原	8.7	6.1	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1698	皿	3a	灰原	8.2	4.6	2.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1699	皿	3a	灰原	8.5	5.0	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1700	皿	3a	灰原	8.7	4.9	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内外面体部に重ね焼片付着
1701	皿	3a	灰原	(9.2)	5.5	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1702	皿	3a	灰原	9.0	5.6	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1703	皿	3s	3s3tベルト	8.6	4.2	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	外面体部に重ね焼付着
1704	皿	2t	灰原	8.8	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
1705	皿	3a	灰原	8.2	4.8	2.6	もみ	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
1706	皿	3a	灰原	9.0	4.4	2.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1707	皿	3a	灰原	8.0	4.6	2.4	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台底面に釉かかる
1708	皿	2t	灰原	(9.6)	5.2	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	天場もの、内面全体に釉かかる
1709	皿	2t	灰原	(9.8)	5.0	(3.2)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1710	皿	2s	灰原	(8.2)	4.8	(2.6)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	2	内面全体に釉かかる
1711	皿	2t	灰原	8.6	5.2	2.2	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	

第71表　遺物観察表（Ⅲ）4

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
1712	皿	3a	灰原	8.4	4.3	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	
1713	皿	2t	灰原	9.0	5.2	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1714	皿	2t	灰原	8.8	4.9	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1715	皿	3a	灰原	9.5	4.8	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	
1716	皿	2t	灰原	8.6	4.8	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1717	皿	3a	灰原	(9.0)	5.3	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1718	皿	3a	灰原	7.6	4.8	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1719	皿	3a	灰原	(8.7)	5.0	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
1720	皿	3a	灰原	8.1	4.7	2.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面全体に釉かかる、天場もの、完形
1721	皿	3a	灰原	(9.0)	5.1	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1722	皿	2t	灰原	9.6	4.8	2.1	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	
1723	皿	3a	灰原	8.6	4.5	2.7	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	内面底部に重ね焼片付着
1724	皿	4t	灰原	8.0	4.5	2.2	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1725	皿	4t	灰原	(9.5)	5.1	(2.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部・外面体部・高台端部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1726	皿	3t	灰原	8.9	5.2	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1727	皿	3t	灰原	9.2	5.0	2.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1728	皿	3t	灰原	8.3	4.7	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	外面底部にくぼみ
1729	皿	3t	灰原	9.0	5.3	2.1	−	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	内面底部に孔、天場もの
1730	皿	4a	灰原	8.7	4.6	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1731	皿	4a	灰原	(10.1)	(5.1)	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面底部にくぼみ
1732	皿	3t	灰原	8.6	4.2	2.6	もみ	センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、外面体部にカマクソ付着
1733	皿	3t	灰原	8.1	3.9	2.2	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	2	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1734	皿	3t	灰原	8.5	4.6	2.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1735	皿	3t	灰原	8.3	4.7	2.3	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	外面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1736	皿	4t	灰原	8.3	4.6	2.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1737	皿	2t	灰原	8.3	5.2	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部・口縁に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1738	皿	2t	灰原	9.4	5.9	2.6	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
1739	皿	2t	灰原	8.7	4.9	2.7	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1740	皿	2t	灰原	9.0	4.7	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
1741	皿	2t	灰原	(9.8)	(5.8)	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1742	皿	4a	灰原	(9.5)	(5.4)	(2.5)	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面体部にくぼみ
1743	皿	4a	灰原	8.3	4.9	2.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1744	皿	3t	灰原	8.8	4.4	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1745	皿	3t	灰原	8.5	5.6	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1746	皿	3t	灰原	8.2	4.5	2.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	外面体部に重ね焼片付着
1747	皿	1a	灰原	9.1	5.2	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1748	皿	3s	3t4tベルト	9.0	4.3	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1749	皿	3s	灰原	8.8	4.2	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	胎土に小石含む
1750	皿	3s	灰原	9.3	4.3	2.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、体部・底部ひび割れ
1751	皿	1t	灰原	8.1	4.9	2.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1752	皿	4t	4a4tベルト	8.4	4.8	2.5	砂	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1753	皿	4t	4a4tベルト	8.9	4.5	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1754	皿	4t	4a4tベルト	7.8	3.6	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部・外面底部に重ね焼片付着
1755	皿	4t	4a4tベルト	8.3	5.2	2.4	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1756	皿	4t	4a4tベルト	8.7	5.3	2.5	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む

第72表　遺物観察表（皿）5

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
1757	皿	3t	3a4aベルト	8.7	5.2	2.9	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
1758	皿	3t	3a4aベルト	9.5	5.0	2.7	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部・体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1759	皿	3t	3a4aベルト	8.4	5.2	2.4	不明	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	4	高台端部ハクリ
1760	皿	3t	3a4aベルト	8.5	4.4	2.1	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1761	皿	3t	3a4aベルト	8.8	4.8	2.5	−	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	胎土に小石含む
1762	皿	3t	3a4aベルト	8.8	5.0	2.7	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	高台端部ハクリ
1763	皿	3t	3a4aベルト	9.1	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む
1764	皿	3t	3a4aベルト	10.1	5.2	2.4	−	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	天場もの
1765	皿	2t	2a3aベルト	9.1	5.4	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
1766	皿	2t	2a3aベルト	9.0	5.0	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1767	皿	1t	灰原	8.8	5.2	2.6	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1768	皿	1t	灰原	9.1	底径5.5	(2.5)	不明	糸切り	不明	良	良	Ⅲ	A	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面に釉とカマクソ付着、高台全てハクリ
1769	皿	3s	3s杭山	9.0	5.1	2.4	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1770	皿	4s	4a5aベルト	8.4	3.4	2.2	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・体部に重ね焼片付着
1771	皿	4s	4a5aベルト	8.8	4.8	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	2	
1772	皿	4s	4a5aベルト	8.5	5.3	2.6	砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	口縁に重ね焼付着、内面に砂粒付着、胎土に小石含む
1773	皿	4s	4a5aベルト	8.8	5.2	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1774	皿	3t	3a3tベルト	8.4	4.8	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
1775	皿	3t	3a3tベルト	9.3	4.9	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	口縁にゆがみ、内面底部に指圧痕あり
1776	皿	3t	3a3tベルト	8.5	4.2	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1777	皿	3t	3a3tベルト	9.3	4.1	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部ひび割れ
1778	皿	3t	3a3tベルト	8.8	4.5	2.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1779	皿	3t	3a3tベルト	8.8	4.8	2.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1780	皿	3t	3a3tベルト	8.7	4.9	2.5	−	糸切り	横ナデ	不良	良	Ⅰ	E	1	体部ひび割れ、完形
1781	皿	3t	3a3tベルト	8.5	4.6	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	胎土に小石含む、内面全体に釉かかる、天場もの、完形
1782	皿	2t	2a2tベルト	8.2	5.1	2.5	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部にカマクソ付着、底部ひび割れ、天場もの
1783	皿	4a	4a杭山	8.2	4.6	2.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1784	皿	2s	灰原	9.3	4.5	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部にカマクソ付着、外面体部に重ね焼片付着
1785	皿	2s	灰原	8.8	4.3	2.4	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	
1786	皿	3s	灰原	7.9	4.4	2.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1787	皿	3s	灰原	8.3	4.6	2.3	−	糸切り	横ナデ	不良	良	Ⅱ	D	2	胎土に小石含む
1788	皿	3s	灰原	9.4	4.6	2.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1789	皿	3s	灰原	9.1	4.2	2.9	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に指圧痕あり
1790	皿	3s	灰原	8.4	5.0	2.6	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
1791	皿	2s	灰原	9.0	5.2	2.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1792	皿	2s	灰原	9.3	5.5	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	天場もの、内面全体に釉かかる
1793	皿	2s	灰原	8.4	5.1	3.3	もみ	ナデ	コロシ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、見込みに指圧痕
1794	皿	2s	灰原	8.8	4.6	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面底部ひび割れ
1795	皿	3s	灰原	8.0	3.8	2.5	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
1796	皿	3s	灰原	9.1	5.1	2.7	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1797	皿	3s	灰原	9.1	5.1	2.6	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1798	皿	3s	灰原	8.7	4.8	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部ひび割れ
1799	皿	3s	灰原	9.3	底径5.6	(2.7)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	外面体部に重ね焼片付着、高台全てハクリ
1800	皿	3t	灰原	(9.1)	(5.2)	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	外面底部ひび割れ
1801	皿	2s	灰原	8.5	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着

第73表　遺物観察表（Ⅲ）6

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
1802	皿	2s	灰原	8.4	4.6	2.5	不明	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
1803	皿	2s	灰原	8.6	4.9	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着・高台に指圧痕
1804	皿	2s	灰原	8.9	4.8	2.7	不明	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1805	皿	2s	灰原	(8.6)	(4.9)	(2.6)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1806	皿	3t	灰層	8.4	4.6	2.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1807	皿	3t	灰層	8.6	4.8	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1808	皿	3t	灰層	9.0	5.2	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1809	皿	3t	灰層	(8.2)	(4.7)	(2.4)	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1810	皿	3t	灰層	7.6	3.9	2.1	−	糸切り後センイ痕	不明	良	良	Ⅱ	D	2	内面にカマクソ付着、天場もの、内面全体に釉かかる
1811	皿	3t	灰層	8.8	4.8	2.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面に砂粒付着
1812	皿	3t	灰層	9.7	4.6	2.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面・外面底部ひび割れ、口縁にゆがみ
1813	皿	3t	灰層	8.7	4.5	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面体部に重ね焼片付着
1814	皿	3t	灰層	8.4	4.9	2.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着と中央にくぼみ
1815	皿	3t	灰層	8.3	4.4	2.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着、内面底部ひび割れ
1816	皿	3t	灰層	8.9	4.6	2.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1817	皿	3t	灰層	9.3	4.7	2.1	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	
1818	皿	3t	灰層	8.5	5.1	2.3	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	2	
1819	皿	3t	灰層	8.3	4.3	2.3	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
1820	皿	2s	大ベルト	8.3	(4.7)	2.1	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	
1821	皿	2s	大ベルト	9.0	5.3	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1822	皿	2s	大ベルト	8.3	4.6	2.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1823	皿	2s	大ベルト	8.5	4.7	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1824	皿	2s	大ベルト	8.9	5.1	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部・高台に重ね焼片付着
1825	皿	2s	大ベルト	9.3	5.1	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	口縁楕円
1826	皿	2s	大ベルト	8.0	4.4	2.4	もみ・砂	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1827	皿	2s	大ベルト	8.3	4.7	2.5	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1828	皿	3s	大ベルト	8.9	4.9	2.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面底部中央にくぼみ
1829	皿	4r	大ベルト	8.8	5.2	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1830	皿	2s	2t3tベルト	8.9	4.8	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部にきれいにミゾ入る
1831	皿	2s	2t3tベルト	(9.3)	(5.1)	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	
1832	皿	2s	2t3tベルト	(8.2)	(4.8)	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、内面体部にミゾあり
1833	皿	2s	2t3tベルト	8.1	5.0	2.5	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片、内面・外面にカマクソ・砂粒付着
1834	皿	2s	2t3tベルト	9.3	4.9	2.8	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
1835	皿	3s	SK01	8.7	5.4	2.6	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1836	皿	3s	SK01	8.9	4.7	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1837	皿	3s	SK01	9.2	5.0	2.6	−	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ
1838	皿	3s	SK01	8.9	4.8	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1839	皿	3s	SK01	8.6	4.6	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1840	皿	3s	SK01	9.2	4.6	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面体部に重ね焼片付着
1841	皿	3s	SK01	9.1	4.8	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1842	皿	3s	SK01	9.1	4.8	2.6	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1843	皿	3s	SK01	9.1	5.7	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1844	皿	3s	SK01	9.1	5.6	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1845	皿	4s	SK02	8.9	5.4	2.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	体部ひび割れ、完形
1846	皿	4s	SK02	8.7	4.7	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着

第74表　遺物観察表（Ⅲ）7

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
1847	皿	4t	SK02	8.5	4.4	2.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	胎土に小石含む
1848	皿	4t	SK02	8.7	4.5	2.3	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1849	皿	4t	SK02	(8.5)	(5.0)	(2.6)	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	4	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
1850	皿	4t	SK02	8.7	4.2	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台に粘土のかたまり付着、口縁端部尖る
1851	皿	4s	SK04 第1ベルト	8.8	4.3	2.3	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1852	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.2	4.8	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1853	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.5	5.5	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部中央くぼみ
1854	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.3	5.1	2.6	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1855	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.8	4.4	2.2	–	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面体部に重ね焼片付着
1856	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	4.4	2.6	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、体部ひび割れ
1857	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.6	4.6	2.1	–	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
1858	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.9	4.5	2.4	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1859	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.8	4.1	2.3	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	体部ひび割れ
1860	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.5	4.9	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1861	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.2	4.7	2.6	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1862	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.7	4.1	2.7	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	
1863	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.7	4.7	2.3	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1864	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.3	4.9	2.7	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面全体に釉かかる
1865	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.8	4.7	2.3	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	外面体部に籾の跡
1866	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.7	4.5	2.4	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1867	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	5.3	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1868	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	5.0	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	
1869	皿	3s	2号窯 主軸ベルト最終層(SK05)	8.9	5.0	2.2	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	口縁端部尖る
1870	皿	3s	2号窯 主軸ベルト最終層(SK05)	8.5	4.1	2.3	–	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1871	皿	3s	SD01	8.8	4.6	2.3	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1872	皿	3s	SD01	8.9	4.9	2.6	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1873	皿	2s	SD01	8.9	5.2	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1874	皿	2s	SD01	8.9	5.5	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1875	皿	2s	SD01	9.1	5.4	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
1876	皿	2s	SD01	8.8	5.4	2.6	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
1877	皿	3r	SD01 施設	8.3	5.2	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1878	皿	3r	SD01 施設	8.5	5.0	2.6	砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼き片・砂粒付着
1879	皿	3s	SD02	9.4	5.0	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着、口縁にゆがみ
1880	皿	2s	SD02	8.7	5.6	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
1881	皿	4s	SD02 施設	9.0	4.7	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	胎土に小石含む
1882	皿	4s	SD02 施設	9.2	4.6	2.7	–	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
1883	皿	4s	SD02 施設	9.4	4.7	2.7	–	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅰ	A	2	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
1884	皿	4s	SD02 施設	9.3	5.2	2.7	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1885	皿	不明	表採	8.4	4.3	2.2	–	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
1886	皿	不明	表採	8.7	4.4	2.9	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
1887	皿	不明	表採	8.8	5.2	2.6	不明	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
1888	皿	不明	表採	8.9	4.7	3.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1889	皿	2t	表採	8.4	5.2	2.2	–	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	B	1	天場もの、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
1890	皿	3t	表採	(8.2)	(5.4)	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1891	皿	3t	表採	8.4	4.7	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	体部ひび割れ

第75表　遺物観察表（Ⅲ）8

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備　考
1892	皿	3t	表採	8.4	4.3	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、外面底部や体部にへこみ(不明)
1893	皿	3a	表採	8.9	4.6	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1894	皿	3a	表採	8.8	4.6	2.0	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面体部・底部・外面体部に重ね焼片付着
1895	皿	4a	表採	9.1	5.4	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1896	皿	4a	表採	8.8	4.0	2.2	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1897	皿	2a	表採	8.7	5.3	2.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、カマクソ付着
1898	皿	2a	表採	8.4	4.1	2.6	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
1899	皿	2a	表採	8.3	4.9	2.2	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	B	1	カマクソ付着、内面全体に釉かかる
1900	皿	1t	検出Ⅰ	(8.8)	5.8	(2.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1901	皿	2t	検出Ⅰ	(9.1)	5.1	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部にへこみあり、砂粒付着、体部～底部ひび割れ
1902	皿	2t	検出Ⅰ	8.4	4.5	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1903	皿	2t	検出Ⅰ	9.1	5.3	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部・外面口縁に重ね焼片付着
1904	皿	2t	検出Ⅰ	8.7	4.8	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1905	皿	不明	試掘調査	8.6	4.8	2.7	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
1906	皿	不明	試掘調査 トレンチ西側	8.9	4.9	2.7	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部・外面口縁に重ね焼片付着
1907	皿	3r	2号窯 床面下施設	8.5	4.8	2.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1908	皿	4s	1号窯 床面下施設	8.9	5.0	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
1909	皿	4s	1号窯 床面下施設	8.8	4.0	2.6	−	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1910	皿	4s	1号窯 床面下施設	9.4	5.1	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	、内面底部・外面体部に重ね焼片付着
1911	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	4.8	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1912	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	4.6	(2.2)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1913	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.6)	4.4	(2.0)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	外面底部に重ね焼片付着、内面底部ひび割れ
1914	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.9)	4.5	(2.1)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
1915	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.9)	4.7	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
1916	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.8	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
1917	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.8)	4.7	(2.0)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部中央に孔
1918	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.8)	4.9	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
1919	皿	4s	1号窯 焼成室	8.9	4.9	2.6	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1920	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	5.0	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1921	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.8	2.2	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
1922	皿	4s	1号窯 焼成室	8.9	4.7	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
1923	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	5.2	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面体部に段差あり
1924	皿	4s	1号窯 焼成室	9.7	5.2	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	外面端部に重ね焼片付着
1925	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	4.9	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面体部に重ね焼片付着
1926	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	4.9	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
1927	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.1)	5.0	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
1928	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.7)	4.7	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、内面底部に孔
1929	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.6)	4.7	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	
1930	皿	4s	1号窯 焼成室	8.8	4.7	2.3	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部に砂粒付着
1931	皿	4s	1号窯 焼成室	8.9	5.1	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1932	皿	4s	1号窯 焼成室	9.6	4.6	2.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	2	口縁に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる、内面体部に段差あり
1933	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.1)	5.0	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	2	
1934	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.7	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	2	
1935	皿	4s	1号窯 焼成室	測定不能	4.4	測定不能	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	体部にゆがみ、内面体部に段差あり、内面底部にくぼみ
1936	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.3)	4.7	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
1937	皿	4s	1号窯 焼成室	8.7	4.3	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	
1938	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.4)	5.3	(3.0)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、高台1/2ハクリ
1939	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.5	2.4	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面体部に段差あり、高台にゆがみ
1940	皿	4s	1号窯 焼成室	8.7	4.5	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1941	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	4.9	2.2	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
1942	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.9)	4.4	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	2	内面体部に段差あり
1943	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.5	2.7	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	内面体部に段差あり
1944	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	5.2	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
1945	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.4)	4.2	(2.2)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1946	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.6)	4.5	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1947	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.9	2.5	−	糸切り後センイ痕	不明	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、中央にくぼみ、内面体部に段差あり
1948	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.8)	4.7	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面底部ひび割れ
1949	皿	4s	1号窯 焼成室	9.4	4.6	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1950	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	4.5	(2.0)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1951	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.4)	4.7	(2.8)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
1952	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.6)	4.6	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	内面底部中央に孔
1953	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	5.1	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1954	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.5)	4.9	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面体部に段差あり
1955	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.4)	4.9	(2.0)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
1956	皿	4s	1号窯 焼成室	8.6	4.3	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1957	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.3)	4.4	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面体部に段差あり
1958	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.3)	4.6	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	
1959	皿	4s	1号窯 焼成室	8.9	4.5	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	
1960	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	4.8	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1961	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	4.8	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	
1962	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	4.8	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	
1963	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.4)	5.2	(2.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
1964	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	5.1	(2.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1965	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	4.9	(2.6)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
1966	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	5.0	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1967	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	5.0	(2.8)	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
1968	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	4.4	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
1969	皿	4s	1号窯 焼成室	9.2	4.8	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部に重ね焼片付着、外面底部中央に孔
1970	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	5.0	2.4	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
1971	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.8)	5.1	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に砂粒付着
1972	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.4)	4.9	(2.1)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	C	1	底部中央部分欠損
1973	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.3)	4.9	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
1974	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.3)	5.1	(3.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
1975	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	5.4	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面体部に段差あり
1976	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	4.8	(2.4)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	D	1	天場もの
1977	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.6)	5.0	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1978	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.4	2.4	−	糸切り後センイ痕	コロシ	良	良	Ⅱ	D	1	底部中央に孔、内面底部に指圧痕あり
1979	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.8	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1980	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	5.4	(2.6)	もみ・砂・セ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
1981	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	4.8	(2.1)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	

第77表　遺物観察表（皿）10

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
1982	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.2)	4.6	(2.1)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
1983	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.7	2.5	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
1984	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.4	2.3	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面体部に段差、底部ひび割れ
1985	皿	4s	1号窯 焼成室	(8.8)	4.8	(2.4)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部ひび割れ
1986	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.0)	5.2	(2.3)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	
1987	皿	4s	1号窯 焼成室	9.0	4.5	2.5	–	糸切り	コロシ	良	良	Ⅱ	D	1	
1988	皿	4s	1号窯 焼成室	(9.3)	5.1	(2.4)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
1989	皿	4s	1号窯 燃焼室	9.2	4.8	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
1990	皿	4s	1号窯 燃焼室	9.0	4.2	2.5	–	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	D	2	口縁に重ね焼片付着、内面底部中央にくぼみ
1991	皿	4s	1号窯 燃焼室	9.1	4.8	2.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面体部に段差あり
1992	皿	4s	1号窯 燃焼室	(9.6)	5.1	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1993	皿	4s	1号窯 燃焼室	(8.4)	4.2	(2.8)	–	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	E	1	内面全体に厚く釉かかる
1994	皿	4s	1号窯 燃焼室	8.9	4.8	2.5	–	不明	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
1995	皿	4s	1号窯 燃焼室	(8.8)	4.6	(2.6)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面全体に釉かかる、カマクソ付着
1996	皿	4s	1号窯 燃焼室	(8.6)	4.9	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
1997	皿	4s	1号窯 燃焼室	9.2	4.9	2.6	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に砂粒付着
1998	皿	4s	1号窯 第1ベルト	(9.2)	5.0	(2.5)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	外面底部に重ね焼片付着
1999	皿	4s	1号窯 第1ベルト	9.2	4.6	2.8	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面体部に段差あり
2000	皿	4s	1号窯 第1ベルト	8.8	4.7	2.4	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2001	皿	4s	1号窯 第1ベルト	8.8	4.5	2.3	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2002	皿	4s	1号窯 第1ベルト	(9.2)	4.7	(2.2)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
2003	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第2層	(9.1)	4.6	(2.5)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2004	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第2層	(8.8)	4.6	(2.6)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2005	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第2層	(9.2)	4.8	(2.6)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	
2006	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	(8.8)	4.9	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	2	内面底部に重ね焼片付着、胎土に砂粒含む
2007	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	8.7	4.1	2.2	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2008	皿	4s	1号窯 主軸ベルト第3層	(9.4)	5.3	(2.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	天場もの、内面底部にカマクソ・小石多く付着、口縁～体部にゆがみ
2009	皿	3r	2号窯 第2ベルト	(8.8)	4.1	(2.7)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	糸切り2回？
2010	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.2)	4.9	(2.5)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	底部に小石含む
2011	皿	3s	2号窯 燃焼室	(8.8)	4.7	(2.5)	–	糸切り	コロシ	良	良	Ⅰ	E	2	
2012	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.2)	4.6	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
2013	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.1)	4.2	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
2014	皿	3s	2号窯 燃焼室	(8.9)	4.8	(2.3)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2015	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.3)	4.9	(2.4)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	底部ひび割れ、内面底部にくぼみ、内面底部に重ね焼片と砂粒付着
2016	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.0)	4.7	(2.4)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	
2017	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.1	4.7	2.5	–	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面にカマクソ・小石付着、口縁にゆがみ
2018	皿	3s	2号窯 燃焼室	(8.8)	5.1	(2.7)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	2	高台1/2残存、外面底部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉と小石付着
2019	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.8	4.3	2.2	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面体部～口縁に砂粒付着
2020	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.4)	5.2	(2.2)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2021	皿	3s	2号窯 燃焼室	(8.6)	5.3	(2.4)	不明	糸切り	回転ナデ	良	最良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着、灰釉に近いつくり、高台端部全てハクリ、器壁薄い
2022	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.2)	5.6	(2.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2023	皿	3s	2号窯 燃焼室	(8.8)	5.3	(2.8)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2024	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.7	5.4	2.5	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2025	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.2	4.8	2.7	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	外面底部に重ね焼片付着
2026	皿	3s	2号窯 燃焼室	(9.4)	5.2	(2.8)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	

第78表　遺物観察表（Ⅲ）11

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2027	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.0	4.9	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2028	皿	3s	2号窯 燃焼室	8.4	5.2	(2.6)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	2	天場もの、カマクソ多く付着、高台端部全てハクリ、内面全体に釉かかる
2029	皿	3s	2号窯 燃焼室	9.4	6.0	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
2030	皿	3s	2号窯 検出Ⅲ　焚口付近	(9.0)	4.8	(2.4)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	2	
2031	皿	3s	2号窯 検出Ⅲ　焚口付近	(8.6)	4.8	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2032	皿	3s	2号窯 検出Ⅲ　焚口付近	(9.0)	5.0	(2.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2033	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(8.4)	5.5	(2.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2034	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(8.2)	(5.3)	(2.2)	−	糸切り	横ナデ	良	最良	Ⅰ	A	2	
2035	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.6	5.0	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	最良	Ⅰ	A	2	
2036	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	9.0	4.6	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面底部にくぼみ
2037	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	9.2	4.7	2.8	もみ・砂	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	天場もの、内面にカマクソ・砂粒付着、内面全体に釉かかる
2038	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.9	5.3	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2039	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	8.7	5.6	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2040	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(8.6)	5.1	(2.4)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	
2041	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	9.2	5.3	2.9	もみ	不明	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、外面底部器面荒れる
2042	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(8.8)	5.0	(3.1)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2043	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.3)	5.2	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2044	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.2)	4.7	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	2	天場もの、カマクソ・小石多く付着
2045	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(8.6)	4.7	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2046	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(8.7)	4.4	(2.2)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2047	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.1)	4.9	(2.6)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2048	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.4)	5.3	(2.5)	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部にくぼみ・ひび割れ、外面底部器面荒れる
2049	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.0)	4.9	(2.4)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ・砂粒付着
2050	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.2)	4.7	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
2051	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(8.8)	5.0	(3.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2052	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.0)	4.0	(2.8)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面底部ひび割れ
2053	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	8.9	4.5	2.4	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2054	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	(9.2)	5.0	(2.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台2/3ハクリ
2055	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(9.0)	4.5	(2.6)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	2	
2056	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(9.0)	4.9	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	
2057	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(9.1)	4.8	(2.2)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2058	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	9.6	5.0	2.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2059	皿	3s	2号窯 主軸ベルト	(9.2)	4.9	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	不良	良	Ⅰ	D	1	生焼け
2060	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.5	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面・外面底部に重ね焼片付着
2061	皿	2s	検出Ⅰ	(8.2)	4.8	(2.9)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	内面全体に釉・砂付着、高台底面に釉塊付着
2062	皿	2s	検出Ⅰ	(8.6)	5.8	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	高台1/5残存、口縁にゆがみ
2063	皿	4a	検出Ⅰ	(8.0)	4.4	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	最良	最良	Ⅲ	D	1	
2064	皿	4a	検出Ⅰ	(8.8)	4.7	(3.0)	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2065	皿	2s	検出Ⅰ	(9.2)	5.3	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2066	皿	2s	検出Ⅰ	(8.8)	5.4	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2067	皿	2s	検出Ⅰ	8.5	3.9	2.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2068	皿	2s	検出Ⅰ	(8.5)	5.2	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	口縁にゆがみ
2069	皿	2s	検出Ⅰ	(8.6)	5.2	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2070	皿	2s	検出Ⅰ	(9.0)	5.3	(2.7)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面全体に釉かかる
2071	皿	3s	検出Ⅰ	−	4.9	−	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	−	内面底部に重ね焼片付着、口縁欠損

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備　考
2072	皿	2s	検出Ⅰ	(9.0)	5.1	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2073	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.8	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2074	皿	2s	検出Ⅰ	8.8	4.5	2.1	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着、高台が押しつぶされ着痕不明
2075	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.2	(2.5)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面に砂粒付着
2076	皿	2s	検出Ⅰ	(8.8)	4.7	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2077	皿	2s	検出Ⅰ	(8.2)	3.8	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台楕円、内面にカマクソ付着
2078	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.4	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着、高台に2本平行に鋭いミゾあり
2079	皿	2s	検出Ⅰ	(8.6)	5.5	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
2080	皿	2s	検出Ⅰ	(8.2)	(4.2)	(3.2)	不明	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	口縁に重ね焼片付着、内面にカマクソ・全体に釉付着、高台端部ハクリ
2081	皿	2s	検出Ⅰ	(9.0)	5.1	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2082	皿	2s	検出Ⅰ	(8.6)	4.9	(2.4)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部口縁に重ね焼片付着、口縁たれ、高台端部ハクリ
2083	皿	2s	検出Ⅰ	(9.6)	(5.0)	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
2084	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.5	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	不良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2085	皿	2s	検出Ⅰ	8.2	5.3	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2086	皿	2s	検出Ⅰ	(8.8)	5.1	2.4	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	外面口縁に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、内面全体に釉かかる、天場もの
2087	皿	2s	検出Ⅰ	8.7	5.3	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2088	皿	2s	検出Ⅰ	8.7	4.4	2.4	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2089	皿	2s	検出Ⅰ	(8.2)	4.2	2.8	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	高台端部ほぼハクリ
2090	皿	2s	検出Ⅰ	7.6	4.6	2.7	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部尖る
2091	皿	2s	検出Ⅰ	(7.4)	5.1	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、ゆがみ
2092	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.2	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2093	皿	2s	検出Ⅰ	(8.9)	(5.2)	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	ゆがみ
2094	皿	3s	検出Ⅰ	8.4	5.1	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2095	皿	2s	検出Ⅰ	8.6	4.5	2.6	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2096	皿	2s	検出Ⅰ	8.5	4.7	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2097	皿	2s	検出Ⅰ	(7.8)	5.0	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる、天場もの
2098	皿	2s	検出Ⅰ	(8.0)	4.2	(2.8)	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2099	皿	2s	検出Ⅰ	(8.8)	4.4	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	体部にゆがみ
2100	皿	2s	検出Ⅰ	(8.3)	(5.0)	(2.7)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	口縁たれ、内面全体に釉厚くかかる、高台2/3ハクリ、天場もの
2101	皿	2s	検出Ⅰ	(8.6)	5.1	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2102	皿	2s	検出Ⅰ	(9.0)	4.9	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2103	皿	2s	検出Ⅰ	(9.0)	5.4	(3.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
2104	皿	2s	検出Ⅰ	(8.0)	4.3	(2.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
2105	皿	2s	検出Ⅰ	(8.0)	3.7	(2.5)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台端部尖る
2106	皿	2s	検出Ⅰ	(7.6)	4.1	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
2107	皿	2s	検出Ⅰ	(8.8)	4.7	(3.1)	不明	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	口縁に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ・釉付着、高台端部ハクリ
2108	皿	2s	検出Ⅰ	(8.4)	4.3	(2.2)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	3	
2109	皿	2s	検出Ⅰ	8.6	5.3	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2110	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	(5.0)	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2111	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	4.7	(2.1)	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2112	皿	4t	検出Ⅰ	8.6	5.2	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2113	皿	4t	検出Ⅰ	(7.6)	4.1	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2114	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	4.6	(3.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2115	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	4.2	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2116	皿	4t	検出Ⅰ	8.3	4.4	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、胎土に小石含む

第80表　遺物観察表（Ⅲ）13

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2117	皿	4t	検出Ⅰ	(7.6)	4.3	(2.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	胎土に小石含む
2118	皿	4t	検出Ⅰ	(7.6)	4.0	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2119	皿	4t	検出Ⅰ	(7.4)	4.4	(2.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2120	皿	4t	検出Ⅰ	(9.0)	5.0	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2121	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	4.7	(2.6)	–	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、口縁にゆがみ
2122	皿	4t	検出Ⅰ	(7.6)	4.0	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2123	皿	4t	検出Ⅰ	(8.0)	4.8	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	
2124	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	4.6	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2125	皿	4t	検出Ⅰ	7.8	(4.2)	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台1/4残存
2126	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	4.9	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2127	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	5.2	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2128	皿	4t	検出Ⅰ	(8.0)	4.7	(1.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2129	皿	4t	検出Ⅰ	(9.0)	4.5	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	4	内面に砂粒付着
2130	皿	4t	検出Ⅰ	(7.6)	4.8	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2131	皿	4t	検出Ⅰ	(9.4)	5.1	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2132	皿	4t	検出Ⅰ	(8.0)	4.8	(2.1)	–	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	4	内面底部に重ね焼片付着
2133	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	4.7	(2.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2134	皿	4t	検出Ⅰ	(8.0)	4.3	(2.7)	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台端部ハクリ
2135	皿	4t	検出Ⅰ	(7.2)	3.9	(2.2)	–	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2136	皿	4t	検出Ⅰ	(8.6)	4.8	(3.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2137	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	4.7	(3.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
2138	皿	4t	検出Ⅰ	(8.0)	4.4	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部口縁に重ね焼片付着
2139	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	4.5	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2140	皿	4t	検出Ⅰ	(9.2)	5.1	(2.6)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面・外面に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
2141	皿	4t	検出Ⅰ	8.7	4.8	2.5	砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部・高台に重ね焼片付着
2142	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	5.0	(2.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2143	皿	4t	検出Ⅰ	8.0	4.4	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む
2144	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	4.6	(1.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2145	皿	4t	検出Ⅰ	(7.6)	4.3	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、底部1/3残存
2146	皿	4t	検出Ⅰ	(7.8)	4.9	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2147	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	5.5	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2148	皿	4t	検出Ⅰ	8.1	4.3	2.4	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面全体に釉かかる、胎土に小石含む、天場もの
2149	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	4.7	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部・口縁に重ね焼片付着
2150	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	5.1	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・口縁に重ね焼片付着
2151	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	4.8	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2152	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	4.3	(2.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2153	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	5.2	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2154	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	5.1	(2.0)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2155	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	4.3	(2.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁にゆがみ、内面底部ひび割れ
2156	皿	4t	検出Ⅰ	(7.8)	4.3	(2.4)	–	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	D	1	外面底部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ・釉付着、器面荒れる
2157	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	4.8	(2.7)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
2158	皿	4t	検出Ⅰ	(8.6)	4.9	(2.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2159	皿	4t	検出Ⅰ	8.6	4.2	2.4	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	体部ひび割れ
2160	皿	4t	検出Ⅰ	(8.2)	4.6	(2.6)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2161	皿	4t	検出Ⅰ	(8.6)	4.2	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着

第81表　遺物観察表（Ⅲ）14

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2162	皿	4t	検出Ⅰ	(8.0)	4.4	(2.3)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む
2163	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	5.0	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む
2164	皿	4t	検出Ⅰ	(9.0)	5.1	(2.7)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
2165	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	(4.8)	(3.4)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	高台3/4残存、底部中心部分欠損
2166	皿	4t	検出Ⅰ	(8.8)	4.8	(2.3)	−	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2167	皿	4t	検出Ⅰ	(8.4)	4.4	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2168	皿	4t	検出Ⅰ	(8.6)	4.8	(2.7)	もみ	センイ痕後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ・釉付着、胎土に小石含む
2169	皿	1a	検出Ⅱ	(9.4)	5.1	(2.4)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面・外面底部に重ね焼片付着
2170	皿	1a	検出Ⅱ	(9.2)	5.0	(2.6)	もみ・砂	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2171	皿	1a	検出Ⅱ	8.8	5.2	2.5	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2172	皿	1a	検出Ⅱ	(9.2)	5.3	(2.1)	−	糸切り	横ナデ	最良	最良	Ⅰ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2173	皿	3a	検出Ⅱ	(8.0)	4.2	(2.1)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	1	内面全体に釉かかり、小石やカマクソ付着
2174	皿	3a	検出Ⅱ	8.4	4.9	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2175	皿	3a	検出Ⅱ	8.5	5.1	2.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2176	皿	3a	検出Ⅱ	8.7	4.6	2.2	不明	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	高台ほぼ欠損、底部中心部分欠損
2177	皿	3a	検出Ⅱ	8.6	5.4	2.7	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2178	皿	3a	検出Ⅱ	(7.8)	4.9	(2.9)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2179	皿	3a	検出Ⅱ	(8.8)	5.4	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2180	皿	3a	検出Ⅱ	(7.8)	5.2	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	外面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、高台1/2ハクリ
2181	皿	3a	検出Ⅱ	(8.4)	4.1	(2.2)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面全体に釉かかる、口縁端部尖る
2182	皿	3a	検出Ⅱ	8.5	4.5	2.6	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2183	皿	3a	検出Ⅱ	8.4	(4.6)	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる、内面にカマクソ付着、天場もの、高台1/4残存
2184	皿	3a	検出Ⅱ	(9.0)	4.8	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2185	皿	3a	検出Ⅱ	(9.0)	4.5	(2.3)	−	ナデ	不明	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面にカマクソ付着
2186	皿	3a	検出Ⅱ	(8.9)	5.0	(2.7)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2187	皿	3a	検出Ⅱ	(8.8)	4.5	(3.1)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2188	皿	3a	検出Ⅱ	(8.2)	4.8	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2189	皿	3a	検出Ⅱ	(7.8)	4.2	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	
2190	皿	3a	検出Ⅱ	(7.8)	4.7	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	
2191	皿	3a	検出Ⅱ	(8.2)	4.5	(2.4)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2192	皿	3a	検出Ⅱ	8.9	4.6	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2193	皿	4s	検出Ⅱ	9.0	5.0	2.6	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	完形、口縁楕円、内面にカマクソ付着、天場もの、内面全体に釉かかる
2194	皿	3s	検出Ⅱ	(8.2)	4.8	(2.3)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	B	1	底部中心部分欠損
2195	皿	3s	検出Ⅱ	(8.0)	4.3	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2196	皿	3s	検出Ⅱ	(8.4)	4.3	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2197	皿	3s	検出Ⅱ	8.9	4.5	2.6	不明	不明	不明	良	良	Ⅲ	E	1	外面底部欠損し、中心に孔
2198	皿	3s	検出Ⅱ	(9.2)	4.9	(2.4)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2199	皿	3s	検出Ⅱ	(8.4)	4.6	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2200	皿	3s	検出Ⅱ	9.3	4.7	2.3	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2201	皿	3s	検出Ⅱ	(8.6)	4.7	(2.6)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2202	皿	3s	検出Ⅱ	8.6	4.6	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2203	皿	3s	検出Ⅱ	9.0	4.6	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2204	皿	3s	検出Ⅱ	8.4	4.2	2.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部・口縁に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
2205	皿	2a	検出Ⅱ	(7.6)	4.7	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2206	皿	2a	検出Ⅱ	(8.4)	3.7	(2.6)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2207	皿	2a	検出Ⅱ	(9.4)	4.9	2.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2208	皿	2a	検出Ⅱ	(8.6)	5.1	(2.6)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2209	皿	2a	検出Ⅱ	(9.0)	5.0	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2210	皿	2t	検出Ⅱ	(7.6)	4.2	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2211	皿	2a	検出Ⅱ	8.3	5.2	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面体部に重ね焼片付着
2212	皿	2a	検出Ⅱ	(8.6)	4.4	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2213	皿	2a	検出Ⅱ	(9.0)	5.1	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面口縁に重ね焼片付着
2214	皿	2t	検出Ⅱ	(8.8)	4.4	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2215	皿	2t	検出Ⅱ	(9.2)	4.8	(3.0)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる
2216	皿	2t	検出Ⅱ	9.0	4.7	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2217	皿	2t	検出Ⅱ	(7.8)	5.0	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2218	皿	2t	検出Ⅱ	(8.6)	4.9	(2.7)	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	4	胎土に小石含む
2219	皿	2t	検出Ⅱ	(8.2)	4.9	(2.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2220	皿	2a	検出Ⅱ	(8.8)	4.8	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2221	皿	3s	検出Ⅱ	9.0	4.4	2.6	もみ	センイ痕後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	2	内面全体に釉かかる、天場もの
2222	皿	3s	検出Ⅲ	(8.8)	4.5	(2.6)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
2223	皿	3s	検出Ⅲ	(8.8)	4.6	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2224	皿	3s	検出Ⅲ	(9.2)	5.0	(2.1)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2225	皿	3s	検出Ⅲ	(8.8)	4.4	(2.6)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、底部1/4残存
2226	皿	3s	検出Ⅲ	(9.2)	5.0	(2.7)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2227	皿	3s	検出Ⅲ	(9.2)	4.7	(2.7)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	注:№2237とあるが、2227の誤り
2228	皿	3s	検出Ⅲ	8.7	5.2	2.8	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2229	皿	3s	検出Ⅲ	8.9	5.4	2.2	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	底部が反っている、底部ひび割れ、外面底部一部黒変
2230	皿	4s	検出Ⅲ	8.8	4.8	2.8	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
2231	皿	4s	検出Ⅲ	(8.8)	4.8	(2.8)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2232	皿	3s	検出Ⅲ	(9.0)	4.9	(3.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面体部に段差あり
2233	皿	3s	検出Ⅲ	(9.0)	4.3	(2.4)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
2234	皿	3s	検出Ⅲ	8.1	4.4	2.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2235	皿	4s	検出Ⅲ	(8.8)	5.0	(2.4)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2236	皿	4s	検出Ⅲ	(8.6)	4.5	(2.6)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	E	1	内面・外面底部に重ね焼片付着、内面底部に砂粒付着
2237	皿	2a	検出Ⅲ	(8.0)	4.0	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2238	皿	2a	試掘トレンチ	9.1	5.2	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にたれ
2239	皿	2a	試掘トレンチ	(8.6)	4.2	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部に重ね焼片・砂粒付着、高台1/3ハクリ
2240	皿	2a	試掘トレンチ	8.3	5.3	2.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2241	皿	2a	試掘トレンチ	(9.0)	5.3	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、内面底部中央にくぼみ
2242	皿	2a	試掘トレンチ	8.6	5.3	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2243	皿	2a	試掘トレンチ	(8.2)	5.0	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2244	皿	2a	試掘トレンチ	(8.4)	4.7	(3.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2245	皿	3a	灰原	(8.8)	5.0	(2.8)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
2246	皿	3a	灰原	(9.0)	5.3	(2.5)	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	
2247	皿	3a	灰原	8.5	5.3	2.2	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	2	内面底部に重ね焼片付着
2248	皿	3a	灰原	(8.8)	5.1	(2.4)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
2249	皿	3a	灰原	(9.6)	4.5	3.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2250	皿	3a	灰原	(9.0)	4.7	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2251	皿	3a	灰原	(8.4)	4.3	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、底部1/3残存

第83表　遺物観察表（Ⅲ）16

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
2252	皿	3a	灰原	(8.0)	4.0	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	高台不恰好
2253	皿	3a	灰原	(8.2)	4.9	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	体部にゆがみ、天場もの、内面全体に釉かかる
2254	皿	3a	灰原	(8.6)	4.6	(2.0)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2255	皿	3a	灰原	8.4	4.6	2.8	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、体部ひび割れ
2256	皿	3a	3s3tベルト	(8.4)	4.5	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2257	皿	3a	灰原	(8.6)	4.1	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2258	皿	3a	灰原	(8.6)	4.5	(2.5)	もみ	糸切り	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
2259	皿	3a	灰原	(7.4)	4.0	(2.7)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面に砂粒付着
2260	皿	3a	灰原	(9.4)	5.3	(2.5)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2261	皿	2t	灰原	8.5	4.8	2.7	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、内面全体に釉かかる、内面器面荒れる
2262	皿	2t	灰原	8.7	4.7	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2263	皿	2t	灰原	9.3	4.6	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる、天場もの
2264	皿	2t	灰原	8.7	5.0	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	外面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2265	皿	2t	灰原	(9.0)	5.2	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面にカマクソ付着、高台1/2ハクリ
2266	皿	2t	灰原	(8.4)	4.5	(1.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面体部・底部に重ね焼片付着
2267	皿	2t	灰原	8.4	5.1	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	体部ひび割れ
2268	皿	2s	灰原	(8.8)	4.4	(2.2)	－	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	
2269	皿	2s	灰原	(8.0)	4.8	(2.1)	－	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	
2270	皿	2s	灰原	9.0	4.9	2.7	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面に砂粒付着
2271	皿	3a	灰原	(8.8)	4.4	(2.1)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2272	皿	3a	灰原	(9.4)	5.2	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面に砂粒付着
2273	皿	3a	灰原	(8.8)	4.6	(2.2)	－	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2274	皿	2t	灰原	8.7	5.3	3.0	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、体部ひび割れ
2275	皿	2t	灰原	8.3	4.6	2.5	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	外面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、内面にカマクソ付着
2276	皿	2t	灰原	(8.0)	4.6	(2.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・高台に重ね焼片付着
2277	皿	2t	灰原	8.2	5.0	2.3	－	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	A	1	外面体部に重ね焼片付着、内面にカマクソ・砂粒付着、内面全体に釉かかる、天場もの
2278	皿	3a	灰原	(8.6)	4.5	(2.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2279	皿	3a	灰原	(7.6)	4.5	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	体部にゆがみ、内面器面荒れる、天場もの
2280	皿	3a	灰原	(9.2)	4.3	(2.7)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、天場もの、カマクソ付着、内面全体に釉かかる
2281	皿	3a	灰原	(8.6)	4.3	(2.8)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2282	皿	3a	灰原	(9.0)	－	(2.6)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる、天場もの、高台ほぼハクリ、胎土に小石含む
2283	皿	3a	灰原	8.9	4.6	2.6	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面・外面に砂粒付着
2284	皿	3a	灰原	9.1	4.2	2.3	－	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2285	皿	3a	灰原	8.7	4.6	2.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面全体に釉かかり、砂粒付着、天場もの、外面口縁～体部に釉たれ
2286	皿	3a	灰原	(8.4)	4.0	(2.9)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面器面荒れる、高台端部ハクリ
2287	皿	3a	灰原	(8.0)	4.5	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2288	皿	3a	灰原	(9.0)	4.3	(2.4)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	外面口縁～体部に釉たれ
2289	皿	3a	灰原	(8.4)	4.6	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	
2290	皿	3a	灰原	(8.0)	4.2	(2.4)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部にくぼみ、高台3/4ハクリ
2291	皿	3a	灰原	(8.8)	4.7	(2.4)	－	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	E	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に厚く釉かかる、カマクソ付着、天場もの
2292	皿	3a	灰原	(8.6)	4.6	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ねでハクリした痕あり
2293	皿	3a	灰原	8.7	4.4	2.7	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	内面に砂粒付着、胎土に小石含む
2294	皿	2t	灰原	(8.4)	(4.6)	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、底部1/3残存
2295	皿	2t	灰原	(8.6)	4.2	(2.1)	－	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2296	皿	3a	灰原	9.7	4.5	2.6	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	B	1	胎土に小石含む

第84表　遺物観察表（皿）17

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
2297	皿	3a	灰原	(8.8)	4.2	(2.6)	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
2298	皿	4t	灰原	(8.4)	(4.4)	(2.6)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台ほぼハクリ
2299	皿	4t	灰原	(8.2)	3.7	(1.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2300	皿	4t	灰原	8.9	4.0	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
2301	皿	4t	灰原	(8.4)	4.5	(2.6)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	2	内面底部に重ね焼片付着
2302	皿	4t	灰原	(8.0)	4.3	(2.0)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面・外面底部に重ね焼片付着
2303	皿	4t	灰原	(8.6)	4.3	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
2304	皿	4t	灰原	9.2	5.2	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
2305	皿	3t	灰原	(8.6)	4.1	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2306	皿	3t	灰原	(8.4)	4.5	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2307	皿	3t	灰原	(8.4)	5.0	(2.7)	−	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面・外面底部に重ね焼片付着
2308	皿	3t	灰原	(8.8)	4.3	(2.9)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	2	内面全体に釉かかる、天場もの
2309	皿	4t	灰原	7.9	3.8	2.2	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2310	皿	4a	灰原	8.8	4.6	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2311	皿	4a	灰原	(8.8)	5.0	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2312	皿	4a	灰原	(9.2)	5.0	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2313	皿	4a	灰原	8.6	5.2	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2314	皿	4a	灰原	(8.8)	4.8	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着
2315	皿	4a	灰原	(8.4)	4.7	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2316	皿	4a	灰原	(7.8)	4.0	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2317	皿	4a	灰原	(8.2)	4.3	(2.1)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2318	皿	4a	灰原	(9.0)	4.5	(2.1)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2319	皿	4a	灰原	(8.2)	4.6	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	3	内面底部に重ね焼片付着
2320	皿	4t	灰原	(8.6)	4.7	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
2321	皿	4t	灰原	(9.0)	4.9	(2.9)	もみ	不明	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台の付け方が雑、内面体部砂粒付着、底部中心部分欠損
2322	皿	4t	灰原	(8.8)	(5.2)	(2.8)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	A	2	全体1/3残存
2323	皿	4t	灰原	(8.2)	4.6	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面全体に釉かかる、内面底部に重ね焼片付着
2324	皿	4t	灰原	(8.0)	4.2	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2325	皿	4a	灰原	(8.2)	4.5	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2326	皿	4a	灰原	(8.6)	4.4	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	底部ひび割れ
2327	皿	4a	灰原	(7.2)	4.4	(2.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2328	皿	4a	灰原	(9.0)	4.7	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2329	皿	3t	灰原	8.8	5.2	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2330	皿	3t	灰原	(10.0)	5.9	(1.9)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2331	皿	3t	灰原	8.8	5.2	2.7	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、内面に砂粒付着、底部ひび割れ
2332	皿	3t	灰原	(9.4)	5.1	(2.7)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2333	皿	3t	灰原	(9.2)	5.0	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2334	皿	3t	灰原	(8.4)	4.4	(2.8)	もみ	不明	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台と本体底部がズレている(底径は高台の方で計測)
2335	皿	4t	灰原	(8.4)	4.9	(2.2)	−	糸切り後センイ痕	不明	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2336	皿	4t	灰原	(8.9)	4.6	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2337	皿	4t	灰原	(8.2)	4.7	(1.9)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2338	皿	4t	灰原	(8.8)	5.2	(2.4)	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
2339	皿	4t	灰原	8.9	(4.9)	(2.3)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、高台全てハクリ
2340	皿	4t	灰原	(8.6)	4.5	(2.3)	−	糸切り後センイ痕	不明	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2341	皿	4t	灰原	8.8	4.7	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量（cm）			高台底面	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			備　考
				口径	高台径	器高	付着痕					高台	体部	口縁端部	
2342	Ⅲ	2t	灰原	(8.8)	4.6	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2343	Ⅲ	2t	灰原	(8.8)	4.8	(2.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
2344	Ⅲ	2t	灰原	(8.0)	3.9	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2345	Ⅲ	2t	灰原	8.7	5.1	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁部にカマクソ付着
2346	Ⅲ	2t	灰原	(9.2)	4.1	(2.4)	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	外面体部に釉たれ
2347	Ⅲ	2t	灰原	(8.6)	5.4	(2.8)	もみ	糸切り	横ナデ	不良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2348	Ⅲ	2t	灰原	(9.1)	(4.8)	(2.9)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片多く付着、高台端部全てハクリ、高台3/4ハクリ
2349	Ⅲ	2t	灰原	(9.0)	(4.6)	(3.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	高台2/3ハクリ
2350	Ⅲ	2t	灰原	(9.1)	4.2	(2.8)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	
2351	Ⅲ	4a	灰原	(8.6)	4.8	(2.6)	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2352	Ⅲ	4a	灰原	(9.0)	(5.3)	(2.7)	もみ	不明	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	底部1/2残存
2353	Ⅲ	4a	灰原	(9.1)	5.1	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2354	Ⅲ	4a	灰原	(8.8)	(5.0)	(2.6)	不明	不明	不明	良	良	Ⅲ	B	1	底部中心・高台ほぼハクリ、内面全体に釉かかる
2355	Ⅲ	4a	灰原	(8.6)	4.9	(2.4)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	内面全体に釉かかる、高台端部ハクリ
2356	Ⅲ	1a	灰原	(8.9)	5.1	(2.6)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2357	Ⅲ	2t	灰原	(9.2)	4.7	(2.5)	もみ・砂	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2358	Ⅲ	4a	灰原	(8.8)	4.4	(2.2)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2359	Ⅲ	4a	灰原	(9.2)	5.0	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる、天場もの
2360	Ⅲ	3t	灰原	8.0	4.6	2.0	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
2361	Ⅲ	3t	灰原	(8.2)	5.3	(2.4)	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2362	Ⅲ	3t	灰原	(8.8)	4.4	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部・高台端部に重ね焼片付着
2363	Ⅲ	3t	灰原	8.3	4.6	2.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に外面体部に重ね焼片付着
2364	Ⅲ	3t	灰原	(8.2)	4.8	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
2365	Ⅲ	1a	灰原	8.3	4.8	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	胎土に砂粒含む
2366	Ⅲ	1a	灰原	(9.0)	5.2	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部・高台端部に重ね焼片付着
2367	Ⅲ	1a	灰原	(9.2)	5.0	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台と本体底部がズレている
2368	Ⅲ	1a	灰原	(9.0)	(4.8)	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2369	Ⅲ	1a	灰原	(8.1)	4.9	(2.3)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	底部ひび割れ
2370	Ⅲ	1a	灰原	(8.6)	(4.9)	(2.9)	もみ	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	高台2/3ハクリ、口縁にゆがみ
2371	Ⅲ	1a	灰原	(8.4)	5.5	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2372	Ⅲ	1a	灰原	(9.4)	5.7	(2.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、底部～体部ひび割れ
2373	Ⅲ	1a	灰原	8.8	5.5	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・高台端部に重ね焼片付着
2374	Ⅲ	1a	灰原	(9.0)	4.8	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	高台端部ハクリ、内面全体に釉かかる、外面体部に釉たれ
2375	Ⅲ	1a	灰原	(8.6)	(5.4)	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ほぼハクリ
2376	Ⅲ	1a	灰原	(8.8)	(5.0)	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	
2377	Ⅲ	2t	灰原	(8.6)	4.9	(3.0)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部ひび割れ
2378	Ⅲ	3s	灰原	(8.4)	(4.8)	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	高台ほぼハクリ
2379	Ⅲ	3s	3t4tベルト	(9.2)	4.6	(3.2)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	体部にゆがみ
2380	Ⅲ	3s	3t4tベルト	(8.4)	(4.4)	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	ゆがみ、底部～体部ひび割れ
2381	Ⅲ	3s	3t4tベルト	8.9	5.2	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	4	内面底部に重ね焼片付着
2382	Ⅲ	3s	3t4tベルト	8.4	4.7	2.5	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2383	Ⅲ	1t	灰原	(8.6)	5.1	(2.3)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、高台3/4ハクリ
2384	Ⅲ	1t	灰原	(8.1)	4.8	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
2385	Ⅲ	2a	3b3bベルト	(9.0)	4.7	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、外面底部にくぼみ
2386	Ⅲ	2a	3b3bベルト	(8.0)	5.1	(2.0)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、内面体部に小石付着

第86表　遺物観察表（Ⅲ）19

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備　考
2387	皿	4t	4a4tベルト	(8.0)	5.0	(2.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2388	皿	4t	4a4tベルト	8.5	5.1	2.7	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	B	1	底部中心部分欠損、内面全面に釉かかる
2389	皿	4t	4a4tベルト	(8.8)	4.6	(2.5)	−	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2390	皿	4t	4a4tベルト	9.0	5.7	2.5	−	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	ほぼ完形
2391	皿	3t	3a4aベルト	(8.6)	(5.0)	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	口縁ひび割れ
2392	皿	3t	3a4aベルト	9.1	5.3	2.6	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	
2393	皿	3t	3a4aベルト	8.9	6.2	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	口縁端部尖る
2394	皿	3t	3a4aベルト	(9.4)	5.0	(2.7)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	
2395	皿	3t	3a4aベルト	(8.2)	4.2	(2.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2396	皿	3t	3a4aベルト	8.2	4.8	2.1	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、完形
2397	皿	3t	3a4aベルト	8.5	4.4	2.0	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部・高台端部に重ね焼片付着、内面にカマクソ付着、内面全面に釉かかる
2398	皿	3t	3a4aベルト	8.4	5.6	2.8	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	
2399	皿	3t	3a4aベルト	(8.0)	4.5	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2400	皿	3t	3a4aベルト	9.1	5.3	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	胎土に小石含む、高台1/2ハクリ
2401	皿	3t	3a4aベルト	8.7	4.7	2.2	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	3	口縁端部尖る
2402	皿	3t	3a4aベルト	(8.2)	4.8	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・高台端部に重ね焼片付着
2403	皿	3t	3a4aベルト	(9.0)	(4.6)	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	高台ほぼハクリ
2404	皿	3t	3a4aベルト	(8.8)	4.5	(2.4)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2405	皿	3t	3a4aベルト	(8.8)	4.6	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台楕円
2406	皿	3t	3a4aベルト	(9.0)	4.6	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2407	皿	2t	2a3aベルト	(7.9)	4.2	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	口縁部に重ね焼片付着
2408	皿	2t	2a3aベルト	(8.3)	5.4	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	口縁部にゆがみ
2409	皿	2t	2a3aベルト	(9.2)	5.2	(2.8)	もみ	不明	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台1/4残存
2410	皿	1t	灰原	(8.5)	4.6	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2411	皿	1t	灰原	(9.2)	4.5	(2.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2412	皿	1t	灰原	8.7	4.6	3.1	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅱ	A	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
2413	皿	1t	灰原	(8.5)	4.7	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ほぼハクリ
2414	皿	2t	2a3aベルト	8.9	4.8	2.6	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着、内面底部ひび割れ
2415	皿	2t	2a3aベルト	(9.2)	4.9	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2416	皿	2t	2a3aベルト	(8.9)	5.2	(2.6)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	
2417	皿	2t	2a3aベルト	8.2	4.7	2.1	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・体部に重ね焼片、小石付着、内面全体に釉かかる
2418	皿	4t	4a5aベルト	8.4	5.1	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2419	皿	4t	4a5aベルト	8.1	4.7	2.3	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に・外面体部に重ね焼片付着
2420	皿	4t	4a5aベルト	9.0	5.1	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2421	皿	4t	4a5aベルト	8.2	5.3	(2.3)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ほぼハクリ
2422	皿	4t	4a5aベルト	8.3	4.5	2.3	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2423	皿	4t	4a5aベルト	(8.8)	4.9	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2424	皿	4t	4a5aベルト	9.0	5.0	2.3	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	外面体部に重ね焼片付着
2425	皿	4t	4a5aベルト	(9.2)	(5.0)	(2.3)	なし	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2426	皿	4t	4a5aベルト	(8.9)	4.3	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2427	皿	4t	4a5aベルト	(8.8)	4.7	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2428	皿	4t	4a5aベルト	(8.6)	5.0	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2429	皿	4t	4a5aベルト	8.7	5.2	2.6	もみ	センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2430	皿	4t	4a5aベルト	8.9	4.5	2.5	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片多く付着、内面全体に釉かかる
2431	皿	4t	4a5aベルト	(9.9)	5.6	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	体部にゆがみ、底部ひび割れ

第87表　遺物観察表（Ⅲ）20

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量（cm）			高台底面	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類			備　考
				口径	高台径	器高	付着痕					高台	体部	口縁端部	
2432	Ⅲ	4t	4a5aベルト	(8.4)	5.1	(2.5)	なし	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2433	Ⅲ	4t	4a5aベルト	(8.6)	4.4	(2.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
2434	Ⅲ	4t	4a5aベルト	(8.4)	4.4	(2.2)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2435	Ⅲ	4t	4a5aベルト	8.4	4.8	2.4	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	A	1	内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
2436	Ⅲ	4t	4a5aベルト	8.8	4.8	2.4	砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2437	Ⅲ	4a	4a4bベルト	(8.2)	(4.7)	(2.3)	もみ	不明	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	3	内面底部に重ね焼片付着、底部1/2残存
2438	Ⅲ	4a	4a4bベルト	(8.2)	4.6	(2.1)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・高台に重ね焼片付着、カマクソ、小石付着、内面全体に釉かかる
2439	Ⅲ	4a	4a4bベルト	9.0	5.3	2.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2440	Ⅲ	4a	4a4bベルト	(9.0)	5.4	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、内面底部に指圧痕
2441	Ⅲ	4a	4a4bベルト	(8.6)	5.3	(2.7)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ・小石付着、口縁ほぼ欠損、内面全体に釉かかる
2442	Ⅲ	4a	4a4bベルト	(8.0)	5.0	(2.6)	不明	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	高台端部に重ね焼片付着、天場もの、高台端部ほぼハクリ、内面全体に釉かかる
2443	Ⅲ	1t	1a2aベルト	(9.5)	(5.4)	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2444	Ⅲ	1t	1a2aベルト	(8.8)	5.6	(2.5)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
2445	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(9.2)	5.2	(2.6)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	内面体部に小石付着
2446	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(8.4)	4.8	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2447	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(8.8)	4.9	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	C	2	
2448	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(8.6)	4.9	(2.8)	もみ	糸切り	不明	良	良	Ⅲ	C	2	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2449	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(8.4)	4.2	(2.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
2450	Ⅲ	3a	3a3bベルト	9.2	4.6	2.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・体部に重ね焼片付着
2451	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(9.4)	5.0	(3.0)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	高台・体部にカマクソ・小石付着
2452	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(9.2)	(4.7)	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	C	2	内面底部に重ね焼片付着
2453	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(8.6)	4.8	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	不良	Ⅲ	D	1	全体に作りが荒い
2454	Ⅲ	3a	3a3bベルト	(8.9)	4.9	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部に重ね焼片付着
2455	Ⅲ	3a	3a3bベルト	9.5	4.3	2.8	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2456	Ⅲ	3a	3a3bベルト	9.3	5.2	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、高台5/6ハクリ
2457	Ⅲ	3t	3a3tベルト	8.6	4.2	2.7	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	底部・体部ひび割れ
2458	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(9.0)	4.8	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	2	天場もの、内面全体に釉かかる
2459	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(8.9)	5.0	(2.4)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2460	Ⅲ	3t	3a3tベルト	9.8	4.8	2.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁にゆがみ、体部ひび割れ
2461	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(9.1)	4.7	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
2462	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(8.8)	5.0	(2.8)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
2463	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(9.4)	4.5	(2.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部ひび割れ
2464	Ⅲ	3t	3a3tベルト	8.9	5.2	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	生焼け
2465	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(8.6)	4.5	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・高台端部に重ね焼片付着、内面体部に小石付着
2466	Ⅲ	3t	3a3tベルト	(9.0)	4.0	(2.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2467	Ⅲ	2t	2a2tベルト	(8.6)	4.5	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	
2468	Ⅲ	2t	2a2tベルト	(8.6)	4.9	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部に重ね焼片付着
2469	Ⅲ	2t	2a2tベルト	9.3	5.3	2.8	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	
2470	Ⅲ	2t	2a2tベルト	9.2	5.1	(3.0)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	天場もの、内面底部にカマクソ付着、高台2/3ハクリ、体部ひび割れ、内面全体に釉かかる
2471	Ⅲ	2t	2a2tベルト	8.2	4.7	2.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2472	Ⅲ	2t	2a2tベルト	8.7	5.6	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	高台の作りが雑
2473	Ⅲ	2t	2a2tベルト	8.7	5.4	(3.1)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部に重ね焼片付着、高台端部2/3ハクリ、天場もの、内面全体に釉かかる
2474	Ⅲ	2t	2a2tベルト	9.0	5.3	2.4	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	体部にゆがみ
2475	Ⅲ	2t	2a2tベルト	(8.2)	5.2	(2.7)	もみ・砂	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2476	Ⅲ	2s	2s2tベルト	(8.7)	4.5	(2.4)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ほぼハクリ

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2477	皿	2s	2t3tベルト	(9.4)	5.5	(2.7)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	
2478	皿	1s	1t2tベルト	(8.4)	5.2	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ほぼハクリ
2479	皿	4a	4a杭山	(8.2)	5.0	(2.2)	なし	不明	不明	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部・外部口縁に重ね焼片付着、底部1/3残存
2480	皿	4a	4a杭山	(9.4)	5.0	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2481	皿	4a	4a杭山	8.0	4.2	2.4	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面器面荒れる
2482	皿	4a	4a杭山	(8.6)	4.7	(2.7)	もみ	糸切り後センイ痕後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2483	皿	2t	2t杭山	(8.6)	(5.6)	(2.4)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	A	2	内面底部に重ね焼片付着、底部1/3残存
2484	皿	2t	2t杭山	8.4	4.9	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、高台ほぼハクリ、内面器面荒れる、口縁端部尖る
2485	皿	2t	2t杭山	(9.3)	(5.2)	(2.8)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	A	1	高台1/3残存
2486	皿	2t	2t杭山	(9.0)	4.5	(2.5)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	C	1	外面体部に重ね焼片付着、内面器面荒れる
2487	皿	3t	3t杭山	(9.4)	4.8	(3.0)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁にゆがみ
2488	皿	3t	3t杭山	(9.2)	4.3	(2.1)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2489	皿	2s	灰原	8.7	4.8	2.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部・外面体部・高台端部に重ね焼片付着
2490	皿	2s	灰原	(9.8)	5.1	(3.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部にカマクソ・小石付着
2491	皿	2s	灰原	(9.6)	(5.2)	(2.8)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	E	2	底部1/2残存
2492	皿	3s	灰原	(9.0)	5.1	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	体部にゆがみ、底部～体部ひび割れ
2493	皿	3s	灰原	(7.8)	5.0	(2.0)	なし	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2494	皿	3s	灰原	(9.4)	4.4	(2.6)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、ゆがみ
2495	皿	3s	灰原	(10.2)	5.4	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2496	皿	2s	灰原	(9.3)	4.1	(2.9)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁にゆがみ
2497	皿	2s	灰原	9.3	4.6	2.6	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉・カマクソ・小石付着、天場もの
2498	皿	2s	灰原	(7.6)	4.9	(2.6)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	高台端部全てハクリ
2499	皿	2s	灰原	8.8	4.9	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台2/3ハクリ
2500	皿	2s	灰原	(9.0)	4.7	(2.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・体部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2501	皿	2s	灰原	8.9	4.8	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁にゆがみ
2502	皿	2s	灰原	9.3	4.8	2.5	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	
2503	皿	2s	灰原	(8.8)	4.5	(2.7)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	外面体部に重ね焼片付着、内面体部に石・カマクソ付着、口縁にゆがみ
2504	皿	2s	灰原	8.8	5.2	2.4	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	B	1	底部が欠け穴があいている
2505	皿	2s	灰原	(9.2)	5.7	(2.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2506	皿	2s	灰原	(8.6)	(5.4)	(2.9)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	A	2	底部1/3残存、高台ほぼハクリ
2507	皿	2s	灰原	(8.6)	5.6	(2.4)	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2508	皿	2s	灰原	(9.6)	5.1	(2.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2509	皿	2s	灰原	(8.8)	4.9	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2510	皿	2s	灰原	9.0	4.5	2.8	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2511	皿	2s	灰原	8.7	4.2	2.3	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部・外面体部・底部に重ね焼片付着
2512	皿	2s	灰原	(9.0)	5.0	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2513	皿	3s	灰原	(9.2)	5.2	(1.9)	−	不明	不明	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
2514	皿	3s	灰原	(8.6)	4.8	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2515	皿	3s	灰原	9.0	4.8	2.5	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2516	皿	3s	灰原	8.8	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	コロシ	良	良	Ⅲ	B	1	高台1/3ハクリ
2517	皿	3s	灰原	9.5	4.7	2.9	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2518	皿	2s	灰原	(9.0)	4.7	3.0	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2519	皿	2s	灰原	(8.9)	5.5	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2520	皿	3t	灰層	9.0	4.3	2.4	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	天場もの、内面全体に釉かかる、体部にゆがみ
2521	皿	3t	灰層	(8.7)	4.8	(2.5)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	高台端部に重ね焼片付着、天場もの、高台端部2/3ハクリ、内面全体に釉かかる

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備　考
2522	皿	3t	灰層	(9.2)	4.9	(2.3)	もみ・砂	ナデ	コロシ	良	良	Ⅲ	A	2	
2523	皿	3t	灰層	8.6	4.7	2.6	−	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面・外面底部に重ね焼片付着
2524	皿	3t	灰層	(8.8)	4.5	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部・高台端部に重ね焼片付着
2525	皿	3t	灰層	(8.4)	4.5	(2.1)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部・高台端部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2526	皿	3t	灰層	(8.7)	4.5	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	石はぜ
2527	皿	3t	灰層	(8.8)	4.8	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部ひび割れ
2528	皿	3t	灰層	(9.4)	4.3	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部ひび割れ
2529	皿	3t	灰層	9.0	4.8	2.7	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面口縁～体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2530	皿	3t	灰層	9.2	5.1	2.5	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	D	1	底部中心部分欠損
2531	皿	3t	灰層	(8.4)	4.6	(2.4)	なし	不明	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部中心表面ハクリ
2532	皿	3t	灰層	(9.2)	5.1	(2.4)	なし	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	底面外面糸切り後高台をはさんで指ではさんで調整
2533	皿	3t	灰層	(7.9)	4.4	(2.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2534	皿	3t	灰層	(9.0)	5.5	(2.6)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2535	皿	3t	灰層	(8.8)	5.0	(2.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
2536	皿	3t	灰層	(9.6)	5.8	(2.6)	−	不明	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	体部にゆがみ、外面底部に釉かかる（二次利用？）
2537	皿	3t	灰層	(8.5)	4.7	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2538	皿	3t	灰層	(8.6)	5.2	(2.4)	もみ	不明	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・高台端部に重ね焼片付着、底部1/2残存
2539	皿	3t	灰層	(9.0)	5.4	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2540	皿	3t	灰層	(8.6)	5.2	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
2541	皿	3t	灰層	(9.0)	5.0	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2542	皿	3t	灰層	(8.9)	4.6	(2.9)	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
2543	皿	3t	灰層	9.1	4.7	2.5	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
2544	皿	3t	灰層	9.1	4.5	(2.5)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	2	外面に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2545	皿	3t	灰層	(9.3)	4.8	(2.6)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	天場もの、内面にカマクソ付着、内面全体に釉かかる
2546	皿	3t	灰層	(9.0)	4.6	(2.3)	もみ・砂・セ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	
2547	皿	3t	灰層	(8.4)	4.5	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2548	皿	2s	大ベルト	(8.1)	5.8	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	高台の付け方が雑
2549	皿	2s	大ベルト	8.1	5.0	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2550	皿	2s	大ベルト	8.6	5.5	2.4	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2551	皿	2s	大ベルト	(8.6)	4.9	(2.7)	もみ・砂	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2552	皿	2s	大ベルト	(8.8)	5.6	(2.8)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片多く付着、高台端部全てハクリ
2553	皿	2s	大ベルト	(8.6)	4.7	(2.3)	−	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	
2554	皿	2s	大ベルト	(8.8)	底径4.5	(2.2)	不明	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、高台全てハクリ、口縁端部尖る
2555	皿	2s	大ベルト	(8.9)	4.3	(2.2)	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	底部ひび割れ
2556	皿	2s	大ベルト	8.9	5.0	2.8	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	天場もの、内面全体に釉かかる
2557	皿	2s	大ベルト	(8.1)	4.1	(2.4)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片・小石付着、口縁端部尖る
2558	皿	2s	大ベルト	(9.0)	4.5	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
2559	皿	2s	大ベルト	(9.0)	4.8	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
2560	皿	3s	大ベルト	(8.9)	5.1	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2561	皿	3s	大ベルト	(8.4)	5.1	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2562	皿	3s	大ベルト	(8.6)	5.1	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面体部に段差あり
2563	皿	3s	大ベルト	9.4	底径5.7	(2.1)	不明	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	高台全てハクリ
2564	皿	3s	大ベルト	(8.8)	4.7	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2565	皿	3s	大ベルト	(8.9)	4.9	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2566	皿	3s	大ベルト	(7.4)	4.8	(3.0)	不明	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面に重ね焼片付着、内面器面荒れる

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2567	皿	3s	大ベルト	(8.2)	4.8	(2.2)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2568	皿	3s	大ベルト	(8.9)	5.0	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2569	皿	3s	大ベルト	(8.4)	4.8	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に砂粒付着
2570	皿	3s	大ベルト	(8.2)	4.6	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2571	皿	3s	大ベルト	(9.2)	4.8	(2.8)	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2572	皿	3s	大ベルト	(8.8)	5.2	(3.0)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片多く付着
2573	皿	3s	大ベルト	(8.6)	5.2	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2574	皿	2s	2t3tベルト	(9.0)	4.8	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁端部尖る
2575	皿	2s	2t3tベルト	8.4	5.0	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	高台の付け方が雑
2576	皿	2s	2t3tベルト	(8.8)	4.3	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2577	皿	2s	2t3tベルト	(8.4)	5.4	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台楕円 長5.6・短4.9
2578	皿	3s	SK01	9.5	5.1	2.6	−	糸切り後センイ痕	不明	良	良	Ⅰ	E	2	外面に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2579	皿	3s	SK01	(8.5)	(5.1)	(2.5)	−	糸切り後センイ痕	不明	良	良	Ⅰ	E	1	底部1/2残存・中心部分欠損
2580	皿	3r	SK01	(8.9)	5.7	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ、底部ひび割れ
2581	皿	3s	SK01	9.3	6.0	2.4	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面体部に重ね焼片付着、糸切り2回？体部にゆがみ
2582	皿	3s	SK01	(9.4)	5.0	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2583	皿	3s	SK01	(8.2)	(5.4)	(2.2)	−	不明	不明	良	良	Ⅰ	A	1	底部1/4残存
2584	皿	3s	SK01	(8.8)	4.5	(1.9)	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面体部に重ね焼片付着
2585	皿	3s	SK01	9.1	4.8	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面・外面体部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
2586	皿	3s	SK01	(9.3)	5.1	(2.3)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	1	外面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ、内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
2587	皿	3s	SK01	(8.4)	5.0	(2.4)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面にカマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
2588	皿	3s	SK01	(8.8)	4.7	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	
2589	皿	3s	SK01	(9.2)	4.5	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2590	皿	3s	SK01	8.8	5.6	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部7/8ハクリ、体部・底部ひび割れ
2591	皿	3s	SK01	(9.0)	(4.9)	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	高台5/6ハクリ
2592	皿	3s	SK01	9.0	4.7	2.8	もみ	糸切り後センイ痕	コロシ	良	良	Ⅲ	E	2	
2593	皿	3s	SK01	(9.2)	5.0	(2.8)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2594	皿	3s	SK01	(8.8)	4.8	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2595	皿	3s	SK01	(9.2)	5.1	(2.4)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	E	1	外面体部に重ね焼片付着と段差・ミゾあり、天場もの、カマクソ・小石付着、内面全体に釉かかる
2596	皿	3s	SK01	(9.1)	4.9	(2.7)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	C	1	内面底部にくぼみ
2597	皿	3s	SK01	(8.4)	4.4	(2.5)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
2598	皿	3s	SK01	(9.2)	(4.9)	(2.4)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	E	1	内面全体に釉かかる、天場もの、内面にカマクソ付着
2599	皿	3s	SK01	(9.2)	5.0	(2.3)	−	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2600	皿	3s	SK01	(9.2)	4.7	(2.3)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2601	皿	3s	SK01	(8.8)	4.5	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、高台の付け方が雑、内面・外面底部黒変、口縁端部尖る
2602	皿	3s	SK01	(9.3)	4.6	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	
2603	皿	3s	SK01	8.7	5.7	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、底部ひび割れ、口縁にゆがみ
2604	皿	3s	SK01	(9.4)	5.4	(2.4)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着
2605	皿	4s	SK02	9.7	4.2	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	生焼け
2606	皿	4s	SK02	9.0	5.3	2.4	もみ・砂	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面体部に段差・ミゾあり、口縁部にカマクソ付着
2607	皿	4t	SK02	8.9	5.3	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2608	皿	4t	SK02	(9.4)	5.1	(2.5)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	2	
2609	皿	4t	SK02	(9.4)	(5.6)	(2.4)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	E	1	底部1/2残存・中心部分欠損
2610	皿	4t	SK02	9.2	4.8	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2611	皿	4t	SK02	(8.4)	4.2	(2.2)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
2612	皿	4t	SK02	9.3	4.9	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部中央にくぼみ
2613	皿	4t	SK02	(9.6)	4.7	(2.4)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
2614	皿	2a	SK03	(8.6)	(4.9)	(2.5)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、内面にカマクソ付着、底部中心部分欠損
2615	皿	2a	SK03	(8.4)	4.9	(2.4)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
2616	皿	2a	SK03	8.6	4.7	2.4	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面体部に重ね焼片付着
2617	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.4)	4.9	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2618	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.2	4.8	2.3	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	3	
2619	皿	4s	1号窯 焼成室	9.1	5.0	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2620	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	5.1	2.0	−	糸切り後センイ痕	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2621	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.7	4.5	2.5	−	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部中央にくぼみ
2622	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	5.3	2.2	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2623	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.2	5.0	2.4	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	
2624	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.9	4.7	2.5	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面体部に段差あり
2625	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.0	4.8	(2.8)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面体部に段差あり、高台ほぼハクリ
2626	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.5)	4.8	(2.2)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2627	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.4)	4.8	(2.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2628	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	5.0	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2629	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.2	5.4	2.6	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面体部にミゾ
2630	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.8	5.7	2.5	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2631	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.9	4.4	3.0	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	
2632	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.2)	5.0	(2.5)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
2633	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(8.8)	4.7	(2.0)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2634	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.0)	4.7	(2.3)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	底面体部に段差あり
2635	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(8.7)	4.7	(2.7)	−	糸切り	コロシ	良	良	Ⅰ	D	2	
2636	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.4)	4.8	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
2637	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(8.9)	5.0	(2.7)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
2638	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.0	4.7	2.7	もみ	不明	コロシ	良	良	Ⅲ	E	2	内面体部に段差あり、外面底部器面荒れる
2639	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.0	4.8	2.6	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	1	
2640	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	4.9	2.6	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面・外面体部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
2641	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	8.9	5.1	2.6	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2642	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.2)	4.6	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	体部にゆがみ
2643	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.2)	(4.8)	(2.1)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	C	1	内面体部に段差、全体1/4残存
2644	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	(9.0)	5.2	(2.8)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	内面体部に段差、内面体部に砂粒付着
2645	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.1	4.9	(2.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部・高台端部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
2646	皿	4s	1号窯 主軸ベルト最終層(SK04)	9.0	5.0	2.5	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	外面体部に重ね焼片付着
2647	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(9.1)	(5.2)	(2.2)	−	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	1	全体1/5残存、内面全体に釉かかる
2648	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(9.0)	5.0	(2.7)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	E	2	内面体部に段差、内面体部に砂粒付着
2649	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(9.0)	5.1	(2.6)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	
2650	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	9.1	5.3	2.4	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面体部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
2651	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	8.5	4.7	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、外面底部器面荒れる
2652	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(9.0)	4.7	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
2653	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(8.1)	4.8	(2.3)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	最良	Ⅲ	B	1	体部器壁が薄い
2654	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(8.9)	4.8	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2655	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(8.9)	4.8	(2.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面・外面体部に重ね焼片付着
2656	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	(9.8)	5.1	(2.5)	−	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	

第92表　遺物観察表（Ⅲ）25

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
2657	皿	3s	2号窯 主軸ベルト第3層(SK05)	9.2	4.6	2.4	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	天場もの、内面全体に砂粒・カマクソ付着、内面体部に段差あり、内面全体に釉かかる
2658	皿	3s	SD01	(8.6)	(4.7)	(2.6)	–	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、底部1/3残存中心なし
2659	皿	3s	SD01	(8.7)	5.2	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面体部に段差あり
2660	皿	3s	SD01	8.8	4.7	2.3	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、高台の付け方非常に雑、高台1/2ハクリ
2661	皿	3s	SD01	(9.4)	4.5	(2.2)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
2662	皿	3s	SD01	(8.6)	4.3	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部に重ね焼片付着、体部の器壁薄い、口縁端部尖る
2663	皿	3s	SD01	(9.4)	5.0	(2.2)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
2664	皿	3s	SD01	(9.2)	4.7	(2.5)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	内面底部に重ね焼片・内面体部に砂粒付着、体部にゆがみ
2665	皿	3s	SD01 第1ベルト	(9.0)	4.8	(2.3)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2666	皿	3s	SD01 第1ベルト	(9.5)	(5.0)	(2.4)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面体部に段差あり
2667	皿	3s	SD01 第1ベルト	8.4	4.7	2.5	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、内面に段差と小石付着、天場もの
2668	皿	3s	SD01 第1ベルト	8.7	4.4	2.7	–	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、底面楕円、内面全体に釉かかる、天場もの
2669	皿	3s	SD01 第1ベルト	(9.2)	4.9	(2.3)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	1	
2670	皿	3s	SD01 第2ベルト	8.7	5.1	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、カマクソ付着、内面底部器面荒れる
2671	皿	3s	SD01 第2ベルト	(9.4)	4.8	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に段差あり
2672	皿	3s	SD01 第2ベルト	(8.8)	4.7	(2.4)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片付着
2673	皿	3s	SD01 第2ベルト	(7.8)	4.0	(2.1)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2674	皿	3s	SD01 第2ベルト	(8.4)	4.3	(1.8)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面・外面底部に重ね焼片付着
2675	皿	3s	SD01 第2ベルト	(8.6)	4.6	(2.3)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2676	皿	2s	SD01 検出	(8.0)	4.5	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる、天場もの、内面にカマクソ付着、高台1/2ハクリ
2677	皿	2s	SD01 検出	(8.6)	4.4	(2.5)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、高台1/2ハクリ
2678	皿	2s	SD01	(8.4)	(4.4)	(2.7)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	底部1/2残存、高台1/2欠損
2679	皿	2s	SD01	(9.0)	4.1	(2.4)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部中心表面ハクリ、カマクソ付着、内面体部器面荒れる
2680	皿	2s	SD01	8.8	4.5	2.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2681	皿	2s	SD01	(8.0)	5.5	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2682	皿	2s	SD01	(8.2)	4.3	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	不良	Ⅲ	D	1	
2683	皿	2s	SD01	8.8	5.3	2.9	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2684	皿	2s	SD01	(7.8)	4.7	(2.6)	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2685	皿	2s	SD01	(8.4)	4.6	(2.3)	–	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、天場もの、内面にカマクソ付着
2686	皿	3r	SD01 施設	(8.8)	4.7	(3.1)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	C	1	高台に重ね焼片付着、内面にカマクソ付着
2687	皿	3r	SD01 施設	8.4	4.4	2.5	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面に砂粒付着
2688	皿	3r	SD01 施設	(8.0)	4.3	(2.3)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2689	皿	3s	SD01 施設	8.7	4.9	2.3	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる、体部にゆがみ
2690	皿	3s	SD01 施設	(7.4)	5.0	(2.3)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2691	皿	3s	SD01 施設	8.8	5.6	2.9	もみ	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部3/4ハクリ、外面底部ひび割れ
2692	皿	2s	SD02	8.8	4.9	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ
2693	皿	2s	SD02	8.6	4.8	2.6	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	4	内面底部に重ね焼片付着
2694	皿	2s	SD02	(8.8)	4.9	(2.5)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面器面荒れる、口縁にゆがみ
2695	皿	2s	SD02	(8.2)	4.1	(2.5)	不明	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	外面体部に重ね焼片付着、天場もの、器面荒れる、高台端部全てハクリ
2696	皿	4s	SD02 施設	(8.2)	4.7	(2.8)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2697	皿	4s	SD02 施設	(9.4)	5.1	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2698	皿	4s	SD02 施設	9.2	4.6	2.8	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる、カマクソ付着、高台1/2ハクリ、胎土に小石含む、天場もの
2699	皿	4s	SD02 施設	8.9	4.7	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む
2700	皿	4s	SD02 施設	8.8	5.2	2.7	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかり泡状に荒れる、胎土に小石含む
2701	皿	不明	分布調査 表採	(8.6)	4.9	(3.0)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面全体に釉かかる

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	高台径	器高	高台底面 付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	体部	口縁端部	備考
2702	皿	不明	表採	9.3	4.9	2.7	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面全体に砂粒・カマクソ付着、天場もの
2703	皿	不明	表採	(8.6)	4.6	(2.7)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁に重ね焼片付着、高台端部1/2ハクリ
2704	皿	不明	表採	(8.0)	4.6	(3.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部・高台に重ね焼片付着、高台楕円
2705	皿	不明	表採	8.2	4.8	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、体部にゆがみ
2706	皿	不明	表採	(8.8)	5.0	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2707	皿	不明	表採	7.8	4.0	2.3	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着、高台楕円
2708	皿	不明	表採	(8.8)	(4.4)	(2.6)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ、底部1/3残存・中心部分欠損
2709	皿	不明	表採	(8.6)	5.0	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	不良	良	Ⅲ	D	1	
2710	皿	不明	表採	(7.8)	3.9	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	胎土に小石含む
2711	皿	不明	表採	8.5	4.3	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2712	皿	不明	表採	8.2	4.5	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2713	皿	不明	表採	(8.2)	4.4	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	4	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2714	皿	2t	表採	(9.0)	5.1	(2.3)	不明	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台端部ハクリ
2715	皿	2t	表採	(8.8)	4.5	(2.8)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	2	
2716	皿	2t	表採	(8.3)	5.4	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	口縁にゆがみ
2717	皿	2t	表採	(8.0)	4.7	(2.9)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2718	皿	2t	表採	(8.8)	4.2	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2719	皿	2t	表採	8.9	4.6	2.8	–	糸切り	不明	良	良	Ⅱ	D	1	天場もの、内面にカマクソ付着、器面荒れる
2720	皿	3s	表採	(8.4)	4.8	(2.6)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2721	皿	3s	表採	(8.6)	4.3	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・高台に重ね焼片付着
2722	皿	3t	表採	8.8	4.9	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	
2723	皿	3t	表採	(7.8)	4.5	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	
2724	皿	3t	表採	(8.0)	4.7	(2.1)	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
2725	皿	3t	表採	(8.4)	4.9	(2.8)	–	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面底部に重ね焼片・砂粒付着
2726	皿	3t	表採	(7.8)	4.1	(2.3)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	外面体部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、底部1/2残存、天場もの
2727	皿	3t	表採	(8.8)	5.1	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2728	皿	3t	表採	(8.4)	4.0	(2.1)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2729	皿	3t	表採	(8.2)	(4.8)	(2.0)	–	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	内面体部に重ね焼片付着、底部1/3残存
2730	皿	3t	表採	(8.4)	4.2	(2.1)	–	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	1	内面底部・外面体部に重ね焼片付着
2731	皿	3a	表採	(7.6)	4.4	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2732	皿	3a	表採	8.0	4.8	2.2	–	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2733	皿	4a	表採	(8.2)	4.3	(2.3)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2734	皿	4a	表採	(8.6)	5.4	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2735	皿	4a	表採	(8.8)	4.4	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2736	皿	4a	表採	8.4	4.8	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、高台楕円
2737	皿	4a	表採	(8.0)	4.9	(2.5)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2738	皿	4a	表採	9.1	5.1	2.5	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着、口縁にゆがみ
2739	皿	4t	表採	(9.0)	4.7	(2.2)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面・外面体部に重ね焼片付着
2740	皿	4t	表採	(8.8)	5.1	(2.8)	もみ・砂	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	
2741	皿	4a	表採	(9.0)	5.5	(2.8)	なし	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	E	1	内面底部に重ね焼片多く付着、高台3/4ハクリ
2742	皿	4a	表採	(8.2)	4.7	(2.1)	もみ	センイ痕後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	内面底部・外面体部・高台に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる
2743	皿	2s	表採	(9.4)	5.1	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	C	1	天場もの、内面全体に釉かかる
2744	皿	2s	表採	(9.4)	(5.0)	(2.7)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2745	皿	2a	表採	(8.6)	4.5	(2.2)	もみ	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着、高台1/2ハクリ、端部ほぼハクリ、糸切り2回？
2746	皿	2a	表採	(8.8)	4.9	(2.3)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	

第94表　遺物観察表（Ⅲ）27

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 高台	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	備考
2747	皿	2a	表採	9.0	4.9	2.8	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	C	2	内面底部に重ね焼片付着、内面体部に砂粒付着
2748	皿	3a	表採	(8.4)	4.7	(2.2)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	
2749	皿	3a	表採	(8.2)	(4.8)	(2.2)	もみ	不明	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面体部に重ね焼片付着、底部1/2残存、底部中心部分欠損
2750	皿	3a	表採	(9.2)	5.0	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2751	皿	3a	表採	8.4	4.6	2.4	もみ・砂	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
2752	皿	3a	表採	(8.4)	4.0	(2.4)	–	不明	回転ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部・体部・外面底部・体部に重ね焼片付着、外面底部に釉かかる
2753	皿	3a	表採	(8.8)	4.4	(2.1)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着
2754	皿	4a	表採	(8.5)	(5.6)	(2.5)	なし	糸切り後ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着、底部1/4残存
2755	皿	4a	表採	(8.4)	4.6	(2.3)	もみ・砂	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	
2756	皿	4b	表採	(9.2)	5.0	(2.6)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	E	2	
2757	皿	2a	検出Ⅰ	(9.0)	5.1	(2.6)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	2	内面底部に重ね焼片付着
2758	皿	2a	検出Ⅰ	(8.8)	4.4	(2.3)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅰ	E	2	内面底部に重ね焼片付着
2759	皿	2a	検出Ⅰ	8.7	5.0	2.5	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着、底部中心部分欠損
2760	皿	1t	検出Ⅰ	(8.8)	5.3	(2.6)	もみ	センイ痕後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	A	1	内面底部に重ね焼片付着
2761	皿	1t	検出Ⅰ	(9.0)	5.1	(2.5)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	B	2	内面底部に重ね焼片付着
2762	皿	2a	検出Ⅰ	(9.8)	5.4	(3.1)	–	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	外面体部に重ね焼片付着
2763	皿	3s	窯体検出	(8.2)	4.7	(2.2)	–	糸切り後センイ痕	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	内面体部に重ね焼片付着
2764	皿	2t	検出Ⅰ	(8.8)	5.1	(2.2)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	糸切り2回？
2765	皿	2t	検出Ⅰ	(8.6)	4.8	(2.4)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	2	内面底部に重ね焼片付着
2766	皿	2t	検出Ⅰ	(8.2)	4.2	(2.2)	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	内面底部に、外面体部に重ね焼片付着
2767	皿	2t	検出Ⅰ	(8.4)	4.3	(2.6)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	A	1	天場もの、カマクソ・小石内面に付着、内面全体に釉かかる
2768	皿	2t	検出Ⅰ	(8.9)	5.4	(2.5)	もみ・砂	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	天場もの、カマクソ内面に付着、内面全体に釉かかる
2769	皿	2t	検出Ⅰ	(8.9)	(5.3)	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台ほぼハクリ
2770	皿	2t	検出Ⅰ	(8.8)	4.9	(2.8)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	
2771	皿	2t	検出Ⅰ	(8.2)	4.9	(2.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	2	内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2772	皿	2t	検出Ⅰ	(8.0)	5.4	(2.9)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	底部1/3残存
2773	皿	不明	排土	(8.0)	4.9	(2.4)	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面底部に重ね焼片付着
2774	皿	不明	排土	(9.2)	4.9	(2.5)	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部に重ね焼片付着と体部に段差あり、高台端部ほぼハクリ、底部中心部分欠損
2775	皿	不明	排土	(8.6)	5.2	(2.1)	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	B	1	外面体部に重ね焼片付着
2776	皿	不明	排土	(8.6)	4.9	(2.7)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	内面底部・高台に重ね焼片付着、内面底部にくぼみ
2777	皿	不明	排土	9.5	4.5	2.9	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	B	1	内面体部に重ね焼片付着、高台が雑、高台に付着物あり
2778	皿	不明	試掘坑1	(8.0)	3.5	(2.3)	–	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	Ⅰ	B	2	
2779	皿	不明	試掘調査 トレンチ東側	8.2	5.1	2.6	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	
2780	皿	不明	試掘調査 トレンチ西側	8.8	4.8	2.7	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	高台に重ね焼片付着
2781	皿	4s	1号窯 床面下施設	(8.0)	5.6	(2.4)	–	糸切り	不明	良	良	Ⅰ	A	1	口縁にゆがみ、内面全体に釉かかる
2782	皿	4s	1号窯 床面下施設	8.9	5.0	2.5	–	糸切り	回転ナデ	良	良	Ⅱ	D	1	取上番号1Y-8、内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2783	皿	4s	1号窯 床面下施設	9.1	5.3	2.7	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	取上番号1Y-46、内面底部・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2784	皿	4s	1号窯 床面下施設	8.2	4.5	2.7	もみ	ナデ	不明	良	良	Ⅲ	B	1	取上番号1Y-129、内面底部に重ね焼片付着、内面全体に釉かかる、胎土に小石含む
2785	皿	4s	1号窯 床面下施設	(9.0)	4.5	(2.9)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	Ⅲ	D	1	取上番号1Y-221、内面底部・外面体部に重ね焼片付着、砂粒付着、胎土に小石含む
2786	皿	4s	1号窯 床面下施設	9.1	5.0	2.5	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	D	1	取上番号1Y-249、内面・外面体部に重ね焼片付着、胎土に小石含む
2787	皿	4r	2号窯 床面下施設	8.5	4.8	2.4	–	糸切り	横ナデ	良	良	Ⅰ	A	1	取上番号2Y-150、内面底部・外面体部に重ね焼片付着、カマクソ付着　、口縁端部尖る

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
2788	玉縁状口縁碗	4a	灰原	(19.2)	－	－	－	－	－	良	良	－	－		

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
2789	鉢	3a	灰原	－	10.4	－	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	－	－		3a検出Ⅰと接合、内面底部に重ね焼片付着
2790	鉢	2t	灰原	19.0	9.4	7.6	もみ	糸切り後ナデ	不明	良	良	A	1		4tベルト除去4a4tベルト接合、体部にゆがみ、カマクソ付着、天場もの、外面に重ね焼片付着、中心欠損
2791	鉢	3s	灰原	20.3	10.2	7.1	もみ	ナデ	横ナデ	良	良	B	1		3t杭山ほか多数、底部少しはつれ、内面底部に重ね焼片付着
2792	鉢	4t	4a5aベルト	19.8	－	－	不明	不明	回転ナデ	良	良	B	1		外面に重ね焼片付着(3枚ほぼ完品)→上の鉢のみ観察、片口・口縁にゆがみ
2793	鉢	3s	灰原	19.2	9.5	7.2	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	B	1		カマクソ付着、天場もの、片口体部に亀裂あり、外面重ね焼片付着
2794	鉢	4r	2号窯 床面下施設	(19.3)	(8.9)	(8.3)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	A	1	2Y-116	内面底部に重ね焼片付着、片口に小石含む
2795	鉢	4r	2号窯 床面下施設	(19.6)	9.6	(8.4)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	A	1	2Y-268	胎土に小石含む
2796	鉢	3r	検出Ⅰ	－	10.0	－	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	－	－		3rピット掘削SK1と接合、底部のみ、内面底部に重ね焼片付着
2797	鉢	2a	検出Ⅲ	－	9.9	－	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	－	－		内面底部に重ね焼片付着
2798	鉢	3s	3t4tベルト	－	9.4	－	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	－	－		2s灰原掘削灰原と接合、ほぼ底部のみ、内面底部に重ね焼片付着

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
2799	重ね碗	3s	2号窯 主軸ベルト	－	7.6	－	もみ	糸切り後ナデ	不良	良	良	－	－		重ね枚数:5枚(6)、上から2枚目の碗が伏せてある。内面底部に砂粒・カマクソ付着
2800	重ね碗	3a	灰原	(16.6)	9.8	(4.7)	もみ	糸切り後ナデ	不良	良	良	－	－		重ね枚数:14枚(14)、最上段のものの内面底部に釉かかる
2801	重ね碗	3t	3a3tベルト	14.9	8.4	5.4	もみ	糸切り後ナデ	不良	良	良	－	－		重ね枚数:11枚(11)、最上段のものの内面底部器面荒れる
2802	重ね碗	2s	灰原	15.5	7.4	4.8	もみ	糸切り後ナデ	不良	良	良	－	－		重ね枚数:11枚(皿4、碗7)、上から4枚は小皿が付着、カマクソ付着
2803	重ね碗	3s	SK01	16.3	8.8	4.7	もみ	糸切り後ナデ	不良	良	良	－	－		重ね枚数:10枚(10)、最上段のものの内面底部器面荒れる
2804	重ね碗	4s	SK02	(15.6)	7.8	(4.6)	もみ	糸切り後ナデ	横ナデ	良	良	－	－		重ね枚数:10枚(10)
2805	重ね碗	3r	SD01 施設	－	8.1	－	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	－	－	SD01-14	重ね枚数:11枚(14)
2806	重ね碗	3r	SD01 施設	(15.6)	7.6	(5.0)	もみ	糸切り後ナデ	回転ナデ	良	良	－	－	SD01-51	重ね枚数:10枚(10)

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm) 口径	法量(cm) 高台径	法量(cm) 器高	高台底面付着痕	底面外面	見込み	焼成	胎土	器形分類 体部	器形分類 口縁端部	取上番号	備考
2807	重ね皿	3s	2号窯 主軸ベルト第2層	8.7	5.0	2.6	もみ	糸切り後ナデ	不良	良	良	－	－		枚数:9枚(9)、最上段内面底部に砂粒・カマクソ付着
2808	重ね皿	4t	検出Ⅰ	8.7	4.3	2.6	もみ	ナデ	不良	良	良	－	－		枚数:12枚(13)、最上段内面底部器面荒れる、カマクソ付着
2809	重ね皿	4t	検出Ⅰ	(8.3)	4.2	(2.2)	もみ	ナデ	不良	良	良	－	－		枚数:8枚(8)、全体に釉が厚くかかる、カマクソ付着
2810	重ね皿	4t	4a5aベルト	(6.8)	4.5	(2.1)	もみ	ナデ	不良	良	良	－	－		枚数:15枚(15)、最上段内面底部器面荒れる、釉が厚くかかる
2811	重ね皿	3s	SK01	－	4.3	－	－	糸切り	横ナデ	良	良	－	－		枚数:10枚(12)
2812	重ね皿	3r	SD01 施設	(8.4)	3.9	(2.7)	もみ	ナデ	回転ナデ	良	良	－	－	SD01-17	枚数:8枚(9)、体部に釉たれあり
2813	重ね皿	4s	1号窯 床面下施設	(8.0)	(5.0)	(2.8)	－	糸切り	回転ナデ	良	良	－	－	1Y-108	枚数:14枚(14)、最上段内面底部にカマクソ付着、釉も薄くかかる(全体)

第96表　遺物観察表（その他）2

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			焼成	備　考
				最大長	最大幅	最大高		
2814	焼台	4g	2号窯 焼成室	16.8	11.8	6.8	良	ほぼ完形品
2815	焼台	4g	2号窯 焼成室	残長13.4	11.7	5.9	良	最大長は残存長
2816	焼台	4g	2号窯 焼成室	残長14.8	残長11.9	6.6	やや不良	一部欠損
2817	焼台	4g	2号窯 焼成室	15.8	13.7	5.5	良	一部欠損
2818	焼台	4r	2号窯 焼成室	16.5	残長12.4	7.4	良	一部欠損
2819	焼台	4r	2号窯 焼成室	残長18.5	残長12.4	5.4	良	最大長は残存長
2820	焼台	4r	2号窯 焼成室	残長17.1	残長13.5	7.6	良	一部欠損
2821	焼台	3t	灰原	残長13.9	11.8	7.8	良	最大長は残存長
2822	焼台	4t	大ベルト	残長12.4	13.9	7.2	良	最大長は残存長

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)						残存率(%)				状態	備　考
				口径	頸基部径	胴部最大径	底径	器高	口頸部高	口縁	頸部	胴部	底部		
2823	土師質埵	3s	検出Ⅰ	－	(19.4)	－	－	－	－	－	25.0	－	－	もろい	3点の破片
2824	土師質埵	4t	ベルト除去	(23.7)	－	－	－	－	－	10.0	－	－	－	もろい	2点の破片
2825	土師質埵	4s	ピット検出 SK02	(24.8)	(21.8)	－	－	－	1.8	30.0	－	－	－	もろい	2点の破片

遺物番号	器種	G名	出土位置	法量(cm)			備　考
				縦	横	厚さ	
2826	須恵器	3a	表採	－	－	－	破片1点のみ

第4章　科学分析

熱残磁気測定調査風景

第１節　深廻間Ａ古窯跡群の考古地磁気学的研究

富山大学理学部地球科学教室
広岡公夫、佐竹俊昭

はじめに

地球は一つの大きな磁石とみなせる。その地球磁石がつくる磁場を地磁気または地球磁場という。この磁場は、地球の中心に強力な棒磁石（これを地磁気双極子という）をおいたときに生ずる磁場として近似できる。

地球上の地点ごとに地球磁場の方向は異なっており、磁気コンパスの磁針が指す方位は、地理学的な北（真北）から何度かずれているのが普通であり、そのずれの角度も、ずれの向き（東にずれているか、西にずれているか）も場所（地点）によって違っている。この真北からのずれの角を偏角という。また、地球磁場方位は、赤道付近以外では水平ではなく、北半球では水平より下向きに傾斜している。この傾斜角は緯度が高くなるほど急傾斜になり、磁極付近では鉛直下向きになる。この傾斜角を伏角といい、下向きを正とする。

地磁気はこのような場所による違いばかりでなく、時間的にも変化する。非常に振幅の小さい１日周期の日周変化、１年周期の年周変化、太陽の活動の周期である 11 年と 22 年周期の変化など周期的な変化がある。これらの短周期で振幅の小さい変動とは別に、数十年から百年以上の時間を経て見えてくる変化がある。これを地磁気永年変化という。英国ロンドンのグリニッヂでは西暦１５５０年頃から地磁気の継続観測が行われており、偏角・伏角ともに明らかに変化している。このロンドンの観測記録が世界の最古のものであり、１６世紀半ば以前の時代に関しては、偏角と伏角の両方についての観測記録は存在しない。

岩石や土には、一般に‘砂鉄’と呼ばれている鉄の酸化物が少量（１～3%程度）含まれている。これらは、磁鉄鉱（Fe_3O_4）や赤鉄鉱（Fe_2O_3、ベンガラ）で、磁石になることができる磁性鉱物である。

磁性鉱物はすべて、加熱され高温になると、それぞれの鉱物に固有の温度に達したとたんに、磁性（磁石になることができる性質）を失い、非磁性の物質に転移する。上記の鉄酸化物も例外ではなく、磁鉄鉱では 578℃、赤鉄鉱では 670℃で非磁性になる。この転移温度をキュリー点という。この転移の反応は可逆的で、キュリー点以上の高温から冷却され、この温度にまで冷えると、再び磁性を取り戻す。地球上では、地球磁場が存在しているので、そこでこのような高温からの冷却が行われると、磁性を取り戻した鉱物は、そのときに作用している地球磁場の方向と平行で、かつ、地球磁場強度に比例した磁化を獲得する。これを熱残留磁化（thermoremanent magnetization、略して、TRM）という。すなわち、高温から冷却されたときの地球磁場の方向と強度が熱残留磁化の形で記録されるのである。この磁化は強くて非常に安定な残留磁化であり、再度高温にまで加熱されることがなければ、ほとんど永久にこの磁化は保存される。

遺跡に残されている窯跡や炉跡などの被熱遺構では、窯体や炉床を造っている土の中に上記に述べたような磁性鉱物が含まれているため、それらの遺構が使用されていた当時の地球磁場によって磁化され、熱残留磁化を有している。焼成が何度も繰り返された場合には、最終焼成時の地球磁場が記録されることになる。

いろいろな時代の焼土遺構の残留磁化を測定し、その結果（残留磁化方向）を時代順に列べることによって、過去の地球磁場がどのように変動したかを知ることができる。地磁気観測が行われなかった過去の時代についても、永年変化の様子を明らかにすることができるのである。このような考古学的な遺物や遺構から試料を得て、歴史・考古時代の地磁気を復元する研究を考古地磁気学という。また、地磁気の直接観測から得られた‘地磁気永年変化’と区別するために、考古地磁気学的に求められた永年変化を‘考古地磁気永年変化’という。

日本では、東海・北陸地方から九州北部に至る西南日本各地の多くの遺跡から試料を得て、弥生中期中頃以降の過去２０００年間の西南日本における考古地磁気永年変化曲線を求められている（Hirooka, 1971；広岡、1977）。時代未詳の焼土遺構の残留磁化方位をこの永年変化曲線と比べることによって、考古地磁気学的に焼土の焼成年代を推定することができる。これを考古地磁気年代推定法といい、窯跡や炉跡などの多くの遺構について年代推定が行われている。この方法は、最終焼成以後動かされていない焼土遺構さえあれば、遺構の種類とは関係なく同一基準で年代が推定できるので、異種遺構間の対比には非常に有効である。

遺構焼土を主とした考古地磁気測定は、現在も精力的に継続されており、膨大なデータが蓄積されてきた。特に東海地方と北陸地方のデータの増加が著しく、北陸地方（福井・石川・富山・新潟西部）のデータのみで西暦５００年～１５５０年の期間について北陸版永年変化曲線ができあがっている（広岡、1997）。また、瀬戸・東濃地域のデータを中心にした東海版永年変化曲線（西暦 700 年～1700 年）の作成も行われている（広岡・藤澤、2003）。これらの永年変化曲線を見比べると、大きな傾向は一致しているものの細部では相当な違いが認められ、高精度の年代推定を行うためには、日本列島内の各地でそれぞれの地方版永年変化曲線をつくることが必要となる。

今回は、大府市長草町深廻間１５番地所在の深廻間Ａ古窯１・２号窯の考古地磁気測定結果を報告する。

試料の採取

深廻間Ａ古窯１号窯およびＡ古窯２号窯では、床面のほぼ中軸線沿いのトレンチ掘削を行う予定の部分から、それぞれ 12 個および 13 個の試料を採集した。採取試料個数および試料番号は第 97 表に示されている。これらは全て、方位が詳しく測られた定方位試料である。定方位試料の採取法は、我々の研究室で以前から行なっている石膏で固めて、石膏表面に平面を作り、その面の方位を測定してから採る方法で、比較的短時間に高精度の定方位試料が得られる。試料採取は次のような手順で行った。

１）炉跡や窯跡のよく焼けた部分を選んで、試料として採る数 cm 角の部位の周囲に深さ数 cm の溝

を掘り、こぶし大の焼土を削り出す。焼土の上の土埃や土粒は手帚を用いて、きれいに除いておく。次に述べる手順で、これらの土埃や土粒が試料中に混入することを防ぐためである。

２）採取後の焼土がくずれないように焼土を固定するために、削り出した焼土に薄く溶いた石膏をかける。薄い石膏は、焼土の細かい凹凸の中にもしみ込むので、固定効果が高くなる。また、後でのせる濃い石膏ともよく馴染んで剥がれにくくなる効果もある。

３）焼土の上面に濃く溶いた石膏をのせ、アルミ板を押し付けて石膏の平面をつくる。平面を作るのは、方位測定の精度を上げるためである。

４）石膏が固まったら、アルミ板をはがし、平面の方位を特製クリノメーター（Hirooka、1971）を用いて測る。試料の方位は、平面の最大傾斜線（pitch）の方位と平面の傾斜角（dip）を測って決める。試料の番号とともに pitch の方位と dip の値を野帳に記入し、試料平面には方位を示す 3 点と試料番号を油性のマーカーで記しておく。

５）石膏で固めた試料を手鍬で掘り起こし、石膏がついてない試料裏側にも石膏をかけて補強し、紙に包んで研究室に持ち帰る。

方位の測定にはクリノメーター（考古地磁気試料採取用に改造した特製クリノコンパス）の磁針を用いているので、磁北を基準にした方位となる。したがって、磁北が真北からずれている角度（現在の偏角）分だけ偏ったものになっている。

遺跡現場の現在の偏角は、遺跡現場で太陽の方位観測を行なって求める。今回の深廻間Ａ古窯では、１号窯と２号窯の間で、両窯の焚口部に近い地点にトランシットを据えて太陽の方位観測を行なった。方位観測の結果、深廻間Ａ古窯の遺跡現場における現在の偏角値（Dp）は、西偏 6.46°（Dp ＝－6.46°）となった。遺跡現場の緯度・経度とともに、Dp の値も第 97 表に載せてある。残留磁化測定結果の偏角はこの値を用いて真北を基準にしたものに補正されている。

写真 39　サンプル採取状況 1

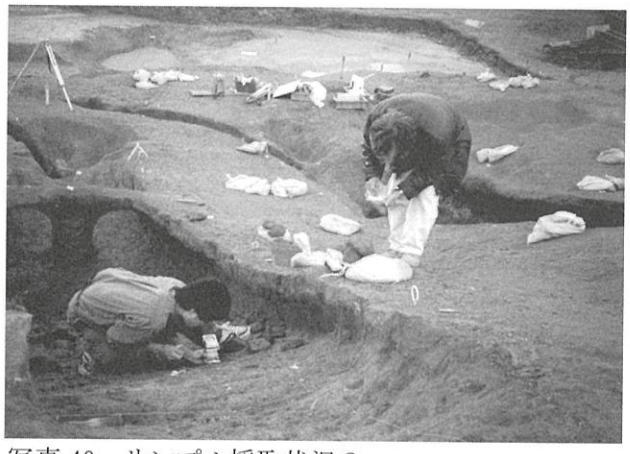


写真 40　サンプル採取状況 2

考古地磁気測定

残留磁化の測定には夏原技研製のリングコア型スピナー磁力計（SMM-85 型）を使用し、試料１個につき６回置き直しをして測定した。

試料が保持している自然残留磁化（natural remanent magnetization、略して、NRM）には、最終焼成後に付加された不安定な磁化成分も含まれており、それを除去するために、段階交流消磁を行う。消磁磁場の段階としては、2.5 mT、5.0mT、7.5 mT、 10.0 mT、15.0 mT の５段階を設定し、NRM の測定の後、４～５段階で消磁を行なった。段階ごとに磁化方向のまとまり具合と磁化強度の減少度をみて、最もまとまりがよくなる段階を判定し、それを最適消磁段階とする。その時の平均磁化方向を考古地磁気データとして採用し、それを用いて年代の推定を行なうことにしている。

深廻間Ａ古窯１・２号窯についての NRM および各消磁段階の個々の試料の残留磁化測定の結果は、第 98～102 表にまとめられている。これらの表の中で、＊印の付されている試料は他の試料の磁化方向から大きく外れた磁化をもつものである。これらの試料は、充分高温にまで加熱されなかったか、残留磁化獲得後に動かされたか、最終焼成以降に床面上に堆積した部分を試料としたか、など、何らかの原因で、当時の地磁気の方向を記録している熱残留磁化とは異なった方向を示すものであると考えられる。そのため、これらの試料は平均磁化方向を求める統計計算の際には除外されている。

今回得た測定結果によると、１・２号窯ともに、いずれの試料も 10^{-3}（Am^2/kg）オーダーの磁化強度を保有しているので、非常によく焼かれた、考古地磁気測定に適した窯であることを示している。

両窯の各消磁段階の平均磁化方向およびばらつきの程度を表わすパラメータ（フィッシャーの信頼角：α_{95} と、フィッシャーの精度係数：K）を求める統計計算にはフィッシャーの統計法（Fisher、1953）を用いた。NRM と各消磁段階についての統計計算の結果は第 109 表の通りである。最適消磁段階は、【　】で括られている。１号窯では 5.0 mT の、２号窯では 15.0 mT の消磁段階で磁化方向が最もよいまとまりを示した。これらを最適消磁段階とし、その平均磁化方向を考古地磁気データとして採択した。

磁化方向のばらつき具合を表す α_{95} は 0～1°台で、通常のよく焼けた窯跡の値（2°以下）に比べても非常にまとまりのよいことがわかる。Kの値も最適消磁段階では両窯とも 1000 を超えており、通常のまとまりのよい窯跡の例（K≧500）を大きく上回っている。

深廻間Ａ古窯１号窯・２号窯の考古地磁気年代

第 109 表の考古地磁気データ（最適消磁段階のもの）の平均磁化方向（平均偏角Ｄと平均伏角Ｉ）を、考古地磁気永年変化曲線上にプロットして、曲線のどの年代のところに来るかを見て年代を推

定する。推定年代値の年代幅（年代誤差にあたる）は、α_{95} の占める範囲となる。

年代推定に用いる考古地磁気永年変化曲線として、従来は西南日本版の標準曲線を用いていたが、先にも述べたように、東海地方版の永年変化曲線も得られているので、両方の曲線を用いて年代の推定を試みる。

第 51 図は西南日本版考古地磁気永年変化曲線（広岡、1977）を描いた図に第 109 表の考古地磁気データを記入したものである。また、第 52 図は、最近完成した東海地方版永年変化曲線（広岡・藤澤、2003）に測定結果をプロットしたものである。

両図とも平均磁化方向は黒丸、α_{95}（信頼円）はそれを囲む円で表されている。図中のＡ１ はＡ古窯１号窯の結果、Ａ２ はＡ古窯２号窯の結果を示している。１号窯と２号窯の信頼円が重なっていないので、統計学的に年代差があることを示している。

これらの永年変化曲線を用いて考古地磁気年代を求めると次のようになろう。

	西南日本版永年変化曲線	東海版永年変化曲線
深廻間Ａ古窯１号窯	A.D. 1200 ±10 年	A.D. 1160 ± 10 年 又は A.D. 1110±10 年
深廻間Ａ古窯２号窯	A.D. 1210 ±20 年	A.D. 1200 ± 50 年

両窯の結果はともに伏角が深くて西南日本版永年変化曲線にはのらないので、上記の年代幅（年代誤差）より実際はもう少し誤差の範囲は大きくなろう。また、東海版永年変化曲線では、西暦１２～１４世紀の期間は非常に地磁気の変化の速度が遅く、変化量が小さいために、α_{95} が少し大きくなると年代幅が急に大きくなる。さらに、A.D. 1100 年～1200 年の間は曲線がループを描いているので、１号窯では２つの年代値が求まる。どちらもほとんど同じくらいの可能性があるが、強いていえば先に記した値（A.D. 1160 年）の方が少し確率が高いであろうと思われる。

引用文献

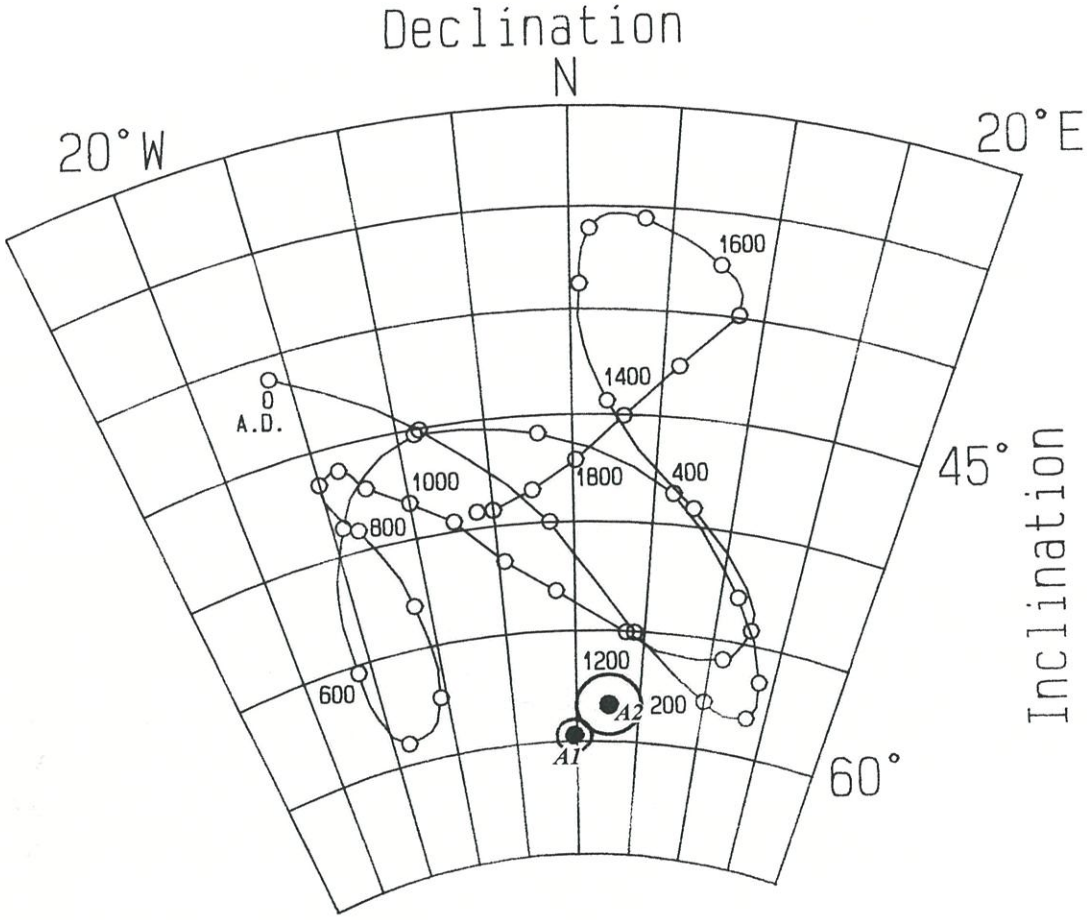
Fisher, R. A.（1953）Dispersion on a sphere, Proc. Roy. Soc. London, Ser. A, vol.217, 295-305.

Hirooka, K.（1971）Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan, Mem. Fac. Sci., Kyoto Univ., ser. Geol. & Mineral., 38, 167-207.

広岡公夫（1977）考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀研究、vol.15, 200-203.

広岡公夫（1997）北陸における考古地磁気研究、「中・近世の北陸、－考古学が語る社会史－」、北陸中世土器研究会編、桂書房、560-583.

広岡公夫、藤澤良祐（2003）東海地方の地磁気永年変化曲線、「考古学と自然科学」日本文化財科学会誌、vol.45, 29-54.

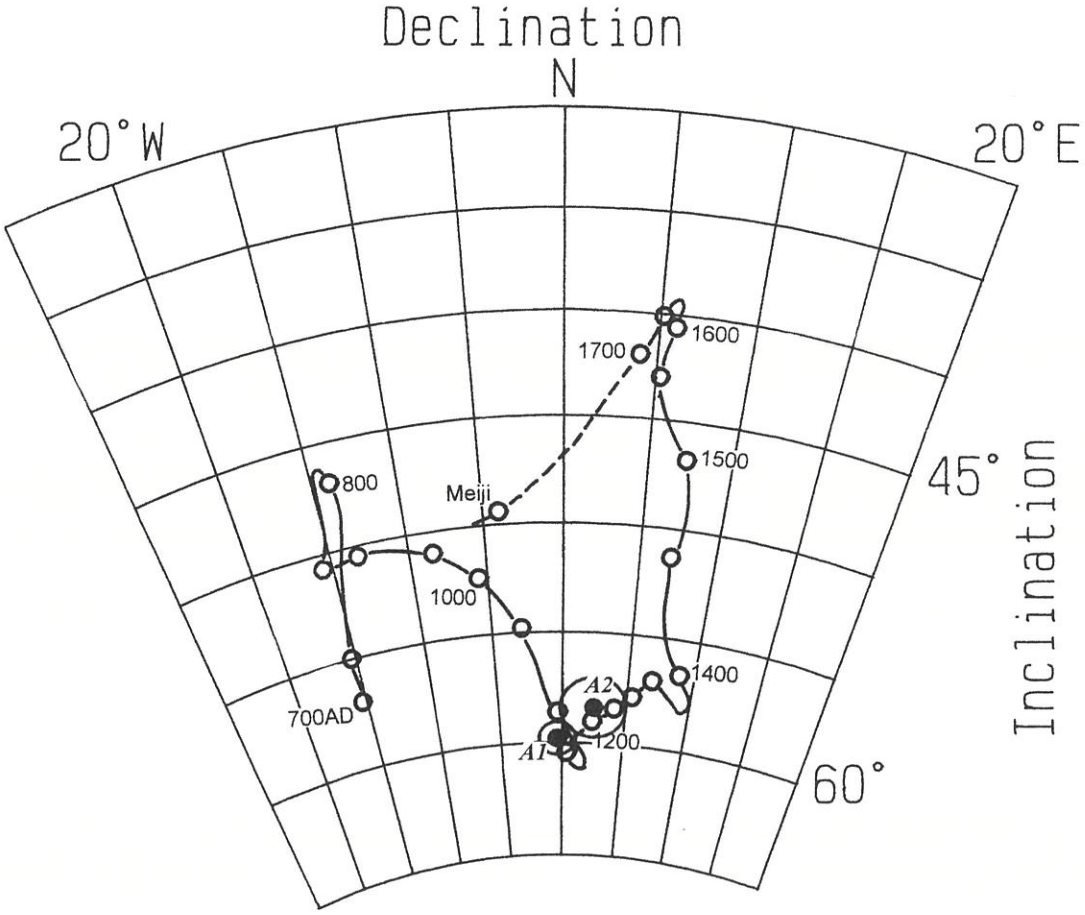


図の説明

第51図　西南日本版永年変化曲線（広岡、1977）と深廻間Ａ古窯１号・２号窯の考古地磁気測定結果

Ａ１：深廻間Ａ古窯１号窯、　Ａ２：深廻間Ａ古窯２号窯、

Declination：偏角、　Inclination：伏角



第52 図　東海版永年変化曲線（広岡・藤澤、2003）と深廻間Ａ古窯１号・２号窯の考古地磁気測定結果
Ａ１：深廻間Ａ古窯１号窯、　Ａ２：深廻間Ａ古窯２号窯、
Declination：偏角、　Inclination：伏角

遺構名	個数	試料番号
深廻間Ａ１号窯	12	CT 2871～2882
深廻間Ａ２号窯	13	CT 2891～2903

愛知県大府市長草町深廻間 15 番地
Lat.：35° 00’ 52.03” N,　Long.：136° 57’ 14.47” E.
現在の偏角：Dp = -6.46°

第 97 表　深廻間Ａ古窯１・２号窯で採取した考古地磁気試料番号

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
CT 2871	-3.4	59.9	21.0
2872	-7.0	59.0	14.8
2873	2.3	60.4	20.6
2874	-0.3	58.4	15.4
2875	-0.7	57.8	19.6
2876	1.3	59.5	17.1
2877	5.6	58.8	11.9
2878	-2.1	59.5	10.8
2879	2.2	58.8	14.7
2880	1.2	58.5	13.2
2881	-4.2	59.7	15.8
2882	-3.8	60.4	18.7

第 98 表　深廻間Ａ古窯１号窯の NRM の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
CT 2871	-3.2	60.3	21.1
* 2872	-6.7	58.9	14.7
2873	-1.3	59.1	20.2
2874	-1.6	58.4	15.4
2875	2.2	58.8	20.0
2876	1.8	59.6	17.3
* 2877	5.5	58.8	11.9
2878	0.3	60.4	10.9
* 2879	4.9	59.7	14.1
2880	2.0	58.2	13.2
2881	-2.9	59.6	15.7
2882	-2.6	60.3	18.8

*：統計計算の際に除外したもの.

第 99 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 2.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (°E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
CT 2871	-2.4	61.2	21.0
2872	-1.6	60.3	14.9
2873	0.6	59.8	20.1
2874	1.5	59.1	15.3
2875	2.0	58.7	19.6
2876	-0.3	59.0	17.4
* 2877	6.9	58.7	11.8
2878	-1.8	59.8	10.7
2879	-0.8	58.5	13.9
* 2880	0.9	56.5	13.1
2881	0.4	59.5	15.7
* 2882	-6.1	59.7	18.6

*：統計計算の際に除外したもの.

第 100 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 5.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (°E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
CT 2871	-2.7	60.6	20.8
2872	-4.7	59.6	14.7
2873	-1.4	59.3	20.1
2874	-1.0	58.3	15.2
2875	0.7	58.2	19.6
2876	0.4	58.7	17.2
* 2877	8.7	60.1	11.6
2878	0.6	60.6	10.7
2879	1.3	59.5	13.9
2880	-1.5	57.6	12.9
* 2881	-7.8	58.4	15.5
2882	-2.5	60.6	18.7

*：統計計算の際に除外したもの.

第 101 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 7.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
CT 2871	-1.0	61.1	20.6
2872	-5.1	59.6	14.5
2873	-2.4	59.2	20.1
2874	-0.2	58.4	15.1
2875	4.0	59.6	19.3
2876	4.1	60.5	17.0
2877	6.4	59.1	11.6
2878	-0.5	60.5	10.5
2879	4.6	59.9	13.9
2880	1.1	59.3	12.8
* 2881	0.8	54.3	15.2
2882	-5.0	59.5	18.6

*：統計計算の際に除外したもの.

第 102 表　深廻間Ａ古窯１号窯の 10.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
*CT 2891	-11.8	60.4	27.7
2892	-4.3	60.6	24.2
2893	-2.4	58.3	28.1
2894	2.9	59.9	20.8
2895	3.6	56.0	22.2
2896	1.2	58.1	19.3
2897	3.5	56.4	26.5
2898	-0.2	56.5	33.4
* 2899	-9.0	62.4	22.2
2900	5.9	57.3	24.2
* 2901	-5.4	57.0	23.6
2902	9.7	56.9	32.9
2903	2.5	59.0	29.5

*：統計計算の際に除外したもの.

第 103 表　深廻間Ａ古窯２号窯の NRM の磁化測定結果

試料番号	偏角 (°E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
*CT 2891	-7.4	61.8	27.5
2892	1.3	61.7	24.3
2893	0.9	56.7	28.2
2894	1.4	61.6	21.0
2895	4.6	56.6	22.2
2896	0.3	58.2	19.5
2897	4.6	55.7	27.2
2898	-0.7	55.7	33.6
* 2899	-7.8	63.6	22.4
2900	7.8	58.1	24.4
* 2901	-10.9	55.6	23.8
2902	7.7	56.2	33.1
2903	3.1	58.1	29.7

*：統計計算の際に除外したもの.

第 104 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 2.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (°E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
*CT 2891	-10.7	60.9	27.5
2892	0.9	62.1	24.3
2893	1.5	57.0	28.1
2894	7.4	60.5	21.0
2895	5.5	57.7	22.2
2896	-2.5	56.8	19.5
2897	2.7	56.8	26.5
2898	-3.5	54.4	33.4
* 2899	-11.6	62.6	22.0
2900	11.7	58.6	24.6
* 2901	-10.2	55.6	23.7
2902	6.2	55.7	32.7
2903	2.4	56.3	29.2

*：統計計算の際に除外したもの.

第 105 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 5.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 (×10⁻⁴ Am²/kg)
*CT 2891	-10.6	60.6	26.9
2892	2.0	62.4	23.8
2893	0.8	56.5	27.7
2894	0.9	60.3	20.4
2895	2.7	57.4	21.9
2896	1.6	58.5	18.9
2897	3.1	57.2	26.1
2898	2.5	56.6	33.0
* 2899	-11.2	62.5	21.6
2900	6.9	58.1	23.9
* 2901	-13.8	54.7	23.3
2902	7.8	55.6	32.9
2903	1.0	57.2	29.5

*：統計計算の際に除外したもの.

第 106 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 7.5 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 (×10⁻⁴ Am²/kg)
*CT 2891	-10.8	60.7	26.5
* 2892	0.3	61.9	23.5
2893	1.2	57.1	27.2
2894	2.7	59.3	19.8
2895	3.6	56.9	21.7
2896	-4.1	57.2	18.4
2897	2.6	57.5	25.7
2898	-2.6	55.8	33.0
* 2899	-10.0	60.1	21.2
2900	4.6	57.9	23.7
2901	-6.4	56.8	23.4
2902	7.1	56.6	32.1
2903	-0.1	57.5	29.2

*：統計計算の際に除外したもの.

第 107 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 10.0 mT 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (°E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ Am^2/kg)
*CT 2891	-11.9	60.2	24.5
2892	-0.6	61.9	21.0
2893	2.7	57.3	24.4
2894	1.9	60.9	18.2
2895	2.8	56.9	19.5
2896	-0.4	57.5	16.5
2897	2.2	57.5	23.4
2898	0.2	56.4	30.2
* 2899	-12.2	62.8	18.9
2900	7.8	58.5	21.6
* 2901	-6.1	57.0	21.3
2902	4.9	56.7	29.3
2903	3.6	58.6	27.1

*：統計計算の際に除外したもの.

第 108 表　深廻間Ａ古窯２号窯の 15.0 mT 消磁後の磁化測定結果

窯　名	消磁段階	n/N	D (°E)	I (°)	α_{95} (°)	K	平均磁化強度 ($\times 10^{-4}Am^2/kg$)
廻間Ａ１号窯	NRM	12/12	-0.7	59.3	1.06	1691.3	16.1
	2.5 mT	9/12	-0.5	59.4	0.89	3362.2	17.0
	【 5.0 mT	9/12	-0.2	59.6	0.73	5026.1	16.5 】
	7.5 mT	10/12	-1.0	59.3	0.86	3125.9	16.4
	10.0 mT	11/12	0.6	59.8	1.19	1481.3	15.8
深廻間Ａ２号窯	NRM	10/13	2.4	58.0	1.57	950.5	26.1
	2.5 mT	10/13	3.2	57.9	1.63	878.8	26.3
	5.0 mT	10/13	3.2	57.7	2.01	580.8	26.2
	7.5 mT	10/13	3.0	58.0	1.44	1130.3	25.8
	10.0 mT	10/13	0.9	57.3	1.46	1095.6	25.4
	【 15.0 mT	10/13	2.6	58.2	1.35	1273.9	23.1 】

n/N：採択試料個数／測定試料個数、Ｄ：平均偏角、Ｉ：平均伏角、
α_{95}：フィッシャーの信頼角、Ｋ：フィッシャーの精度係数.
【　】が最適消磁段階として年代推定のために採用した考古地磁気データであることを示す.

第 109 表　深廻間Ａ古窯１・２号窯の考古地磁気測定結果

第２節　深廻間Ａ古窯跡群出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

当古窯は愛知県大府市共和町に所在し、同一斜面から１号窯と２号窯が検出され、出土考古遺物から12～13世紀の窯跡と推定されている。窯体内や灰層・灰原からは燃料材の残渣と考えられる炭化材破片が出土した。また１号窯の焼成室の床面には積み重ねた皿茶碗が敷き詰められ、その下には直径5～10cmの丸太材が敷かれていた。これは防湿や排水のための床面下施設で、その材は全体または一部が炭化した状態で出土した。燃料材は陶器生産にとって不可欠な要素の一つであるが、実際にどのような樹種が使用されていたのか、時期や陶器の種類により利用樹種は変化したのか、大量な燃料材の伐採は周辺植生や窯業活動にどのような影響を及ぼしたのかなど、未解明な課題が多い。大府市では、当地域での窯業活動の様相を明らかにして行くための一環として燃料材の樹種調査を実施しており資料の蓄積が行われている。当遺跡では炭化材の出土状況を明らかにするために、採取した位置を記録しそこから検出された炭化材の樹種構成について検討した。

なお床面下施設の炭化材を用いて、比例計数管法で放射性炭素年代測定が行われている（別報）。

２．試料と方法

同定は、先ず炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で観察した。広葉樹材のコナラ節・クヌギ節・クリは、横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能である。針葉樹材は、横断面で樹脂道の有無などを調べ、同一分類群と推定された破片については、各試料から複数の破片を抽出し、走査電子顕微鏡で材組織を拡大して観察を行い、同定を決定した。

走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、炭化材を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。なお前述の広葉樹材でも横断面が典型的な試料以外（例えば、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い炭化材など）は、実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあるので、走査電子顕微鏡で確認した。

３．結果

炭化材は、丸材や半割れ状のものもあるが多くは破片で、横断面の径は3cm以下がほとんどであった。

採取された試料は、１地点1点の試料から複数が採取された試料がある。同定結果に偏りがでないように、接合しない破片は1点と数え計数した。ただし、マツ属複維管束亜属の一部試料では年輪界の境で剥がれたと思われる破片を含む試料もあったので、そのよう場合は複数と表示した。樹種同定の結果の一覧を第110表にまとめ、第111表に遺構・地点ごとの検出分類群とその試料点数を比較した。第53図には、炭化材の採取位置と検出樹種を示した。第54図は、1号窯床面下施設の木材の産状と樹種

を示した。

検出された分類群は、針葉樹のマツ属複維管束亜属と落葉広葉樹のコナラ節・クヌギ節・クリの合計４分類群であった。SK01と１号窯からは４分類群が検出され、特にクヌギ節の出土が多く、マツ属複維管束亜属は少ない。２号窯ではマツ属複維管束亜属が最も多く、次にコナラ節が多く、クヌギ節は検出されなかった。灰層(検出Ⅱ)からも４分類群が検出され、クヌギ節とコナラ節が多く、マツ属複維管束亜属とクリは少なかった。

１号窯焼成室の床面下施設の材12点は、マツ属複維管束亜属4点、クリ9点であった(第54図)。合計数が１点多いのは、炭32からクリとマツ属複維管束亜属の破片がほぼ同量検出されたためである。炭32付近では炭32そのものと隣接する炭31のマツ属複維管束亜属と炭33のクリの破片が混在していたためと思われる。また、マツ属複維管束亜属は窯体の左右の壁際に配置され、クリは一面に配置されていた(第54図)。

以下に樹種同定の根拠を分類順に記載する。

1)マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. Diploxylon　マツ科　写真-41 1a.-1c.(炭27) 2a.-2c.(炭24)

垂直と水平の樹脂道がある針葉樹材。晩材部の量は概して多く、垂直樹脂道は年輪後半から晩材部に多く分布し、分野壁孔は窓状である。放射組織の上下端には放射仮道管があり、その内壁には鋸歯状肥厚があることからマツ属のアカマツとクロマツを含む複維管束亜属である。放射仮道管内壁の肥厚がアカマツは鋭利な鋸歯状を呈し、クロマツはなだらかであるが、炭化材では内腔に張り出た部分が充分に観察できないので、２種を識別するのは難しい。

炭24に含まれていた1破片はほかの破片に比べ、晩材部の幅が非常に狭く、年輪幅も狭く、放射方向の径が1.5cmで40年輪以上もある破片であった。

マツ属複維管束亜属のアカマツとクロマツは、暖帯～温帯下部に生育し、特にアカマツは乾燥地した痩せ地生育し二次林を形成する。

2)コナラ属コナラ亜属コナラ節　*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　写真-41 3a.-3c.(炭10)

年輪の始めに中型の管孔が配列し、晩材部は薄壁・角形で小型の管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単先行、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織・複合状のものとがある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。

3)コナラ属コナラ亜属クヌギ節　*Quercus* subgen. *Q.* sect. *Cerris*　ブナ科　写真-42 4a.-4c.(炭10)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部は厚壁・円形の小型の管孔が単独で放射方向に配列する環孔材。穿孔は単穿孔、内腔にチロースがある。放射組織は同性、単列のものと集合状のものがある。

クヌギ節は落葉性のドングリの仲間でクヌギとアベマキが属する。いずれの種も暖帯の山林や二次林に多い。

4)クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科　写真-42 5a.-5c.(炭10)

年輪の始めに中型～大型の管孔が近接して配列し徐々に径を減じてゆき、晩材部では非常に小型の

管孔が火炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく開いており交互状や柵状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯～温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は硬く粘りがあり耐久性・耐水性に優れている。

4．まとめ

窯体内の焼成室や燃焼室の埋土中と灰原・灰層そして土坑(SK)や溝(SD)から採取された炭化材からは、マツ属複維管束亜属・コナラ節・クヌギ節・クリの４分類群が検出された。SK01と１号窯ではクヌギ節が優占したが、２号窯からクヌギ節は検出されずマツ属複維管束亜属が優占し、灰層(検出Ⅱ)ではコナラ節とクヌギ節が多く出土した。このように検出分類群の構成や量比が採取場所により異なる要因については、今後の検討課題と思われる。

全体的に、コナラ節とクヌギ節が大半を占め、マツ属複維管束亜属とクリは少ないという分類群構成は、当古窯の近くに所在するほぼ同時期の神明古窯址(小川、1996)やガンジ山A古窯(植田、2000)の燃料材調査結果と類似していた。しかし大府市内の12世紀中葉～後葉の森岡第１号窯跡群では、複数種類の広葉樹材が検出されているが、マツ属複維管束亜属が最も多く検出されている。また、古窯の北西部一帯に広がる猿投古窯群や瀬戸地域のほぼ同時期の窯跡でもコナラ節とクヌギ節がマツ属複維管束亜属と共に検出されているが、コナラ節・クヌギ節よりマツ属複維管束亜属が多い（城ケ谷、1992、植田、1998、植田、2001a、2001b）。12～13世紀の山茶碗窯で使用されたおもな燃料材は、コナラ節・クヌギ節・マツ属複維管束亜属の３分類群のようであるが、窯跡による検出分類群の差異は、どのような要因によるのか検討する必要があるのではないだろうか。

当窯跡では、クヌギ節・コナラ節・マツ属複維管束亜属・クリの４分類群はほぼ各遺構各地点から検出され、１号窯と２号窯では分類群の構成とその量比に次のような違いが見られた。１号窯では、コナラ節とクヌギ節は焼成室と燃焼室から検出され、クヌギ節が最優占し、マツ属複維管束亜属は焼成室のみから検出されその量はコナラ節とクヌギ節に比べ非常に少なかった。２号窯では、焼成室と燃焼室からマツ属複維管束亜属が圧倒的に多く出土し、コナラ節は焼成室からわずかに出土し、クヌギ節は検出されなかった。１号窯と２号窯は、同一斜面に並列するほぼ同時期の窯址であるが、このように出土優占樹種が異なる結果となった。この理由として、１号窯が操業していた時は、丘陵地の肥沃でやや湿潤な環境下でクヌギ節の樹種が豊富に生育していたが、クヌギ節を主要燃料材として使用していたため伐採による陽地の広がりとそれに伴う乾燥化はクヌギ節よりマツ属複維管束亜属の分布拡大を促し、２号窯の時は周辺にクヌギ節はほとんどなくマツ属複維管束亜属の多い二次林に変化し、２号窯ではマツ属複維管束亜属を主要燃料材とするようになった可能性が推定される。

土坑SK01からはクヌギ節が最も多く、そのほかにマツ属複維管束亜属・コナラ節・クリが検出されている。この分類群の構成や比率は１号窯の出土炭化材と似ており、土坑の位置が１号窯のすぐ東南であることから、土坑は１号窯の燃料材残渣が投棄された土坑であろうか。灰層（検出Ⅱ）から出土した炭化材も、マツ属複維管束亜属が少なくコナラ節とクヌギ節が圧倒的に多い点で１号窯から出土

した炭化材の構成と類似している。しかし灰層の分布は広く、窯との層位や埋積関係を断面から検討していないのでここで、灰層（検出Ⅱ）が１号窯の燃料材と関連が深いかどうかは言及できない（第53図）。１号窯と２号窯での優占樹種の違いを上記で検討したが、１号窯に比べ２号窯から採取された炭化材の量・数は少なかったことや炭化材の埋積や続成作用による試料の偏りも考えられるので、今後も同一遺跡内において複数の窯跡の複数の地点から、できるだけ多くの試料を採取し樹種資料を蓄積して行く必要がある。また、近隣のガンジ山Ａ古窯(2000)や森岡第１号窯(1999)の調査では、マツ属複維管束亜属は灰原から多く検出される傾向が見られた。

１号窯の焼成室床面から良好な状態で出土した床面下施設の材12点は、クリが9点とマツ属複維管束亜属が4点であった(第54図)。当窯跡から約1km北部に位置する大高南地区遺跡のＮＡ３２４群Ｄ窯から出土した床面下施設の材のうち、樹種同定をした1点はクリであった（植田、1998）。クリ材は堅く耐水性・耐久性に優れることから、床面下施設材に選択利用されたと思われる。また、三好町のK-G-66窯跡の燃焼室施設柱にはマツ属複維管束亜属が、K-G-96窯跡の西壁木芯はクリであり、窯施設材にはやはりマツ属複維管束亜属やクリが使われている(植田、2001a)。逆にクリは燃料材からはあまり検出されていないので、燃料材としては避けられていた可能性が考えられる。

当遺跡では残存していた床面下施設の材をすべて樹種同定して第53・54図と照合した結果、マツ属複維管束亜属は窯体の左右の壁際に配置され、クリは一面に配置されていた。このような配置と樹種の使い分けにはなんらかの理由があたとものと思われるが、同様な配置が一般的であったかなど今後も事例の蓄積が必要であろう。

引用文献

小川雅康、1996、出土炭化材の樹種同定、「海陸庵古窯址群・神明古窯址群」、125-133、大府市教育委員会。

城ケ谷和宏、1992、小田妻古窯跡出土木炭の樹種同定、「小田妻古窯跡群」、71-75、図版43、財団法人愛知県埋蔵文化財センター。

植田弥生、1998、炭化材の樹種同定、「大高南区遺跡発掘調査報告書」、141-143、名古屋市教育委員会。

植田弥生、1999、森岡第１号窯跡出土出土炭化材の樹種同定、「森岡第１号窯跡群」、57-62、図版26-28、愛知埋蔵文化財センター。

植田弥生、2000、炭化物について、「ガンジ山Ａ古窯跡群」、124-129、大府市教育委員会。

植田弥生、2001a、K-G-66・96出土炭化材の樹種同定、「北部畑総南工区曽和地内 埋蔵文化財発掘調査報告書」、82-86、三好町教育委員会。

植田弥生、2001b、K-3・K-G-21の出土炭化材の樹種同定、「三好根浦特定土地区画整理事業地内 埋蔵文化財発掘調査報告書」、108-114、三好町教育委員会。

出土位置	取上番号	グリット	樹種（破片数）	備考
1号窯焼成室埋土中	炭 3	5r	クヌギ節(1)	
	炭 4	4s	クヌギ節(6)	
	炭 5	4s	クヌギ節(6)	灰層中
	炭 8	4s	クヌギ節(1)	灰層中
	炭16	4s	マツ属複維管束亜属(1)	床面上
			クヌギ節(10)	床面上
	炭17	4s	クヌギ節(1)	
	炭18	4s	マツ属複維管束亜属(2)	
			コナラ節(4)	
			クヌギ節(17)	
	炭22	4s	マツ属複維管束亜属(1)	主軸ベルト下層灰層
			コナラ節(4)	主軸ベルト下層灰層
			クヌギ節(9)	主軸ベルト下層灰層
	炭23	4s	マツ属複維管束亜属(4)	主軸ベルト下層灰層
			コナラ節(9)	主軸ベルト下層灰層
			クヌギ節(12)	主軸ベルト下層灰層
1号窯主軸ベルト	炭21	4r	コナラ節(2)	
			クヌギ節(複数)	
1号窯内溝SD02	炭24	3s	マツ属複維管束亜属(複数)	
	炭30	4s	クリ(1)	
1号窯焼成室床面下	炭29	4s	クリ(1)	分焔柱根元
1号窯焼成室床面下施設	炭31	4s	マツ属複維管束亜属	施設構築材炭1
	炭32	4s	マツ属複維管束亜属	施設構築材炭2
			クリ	
	炭33	4s	クリ(1)	施設構築材炭3
	炭34	4s	マツ属複維管束亜属(1)	施設構築材炭4
	炭35	4s	クリ(1)	施設構築材炭5
	炭36	4s	クリ(1)	施設構築材炭6
	炭37	4s	クリ(1)	施設構築材炭7
	炭38	4s	クリ(1)	施設構築材炭8
	炭39	4s	マツ属複維管束亜属(1)	施設構築材炭9
	炭40	4s	クリ(1)	施設構築材炭12
	炭41	4s	クリ(1)	施設構築材炭13
	炭42	4s	クリ(1)	施設構築材炭14
1号窯燃焼室	炭43	4s	コナラ節(4)	主軸ベルト灰層
			クヌギ節(7)	主軸ベルト灰層
SK01	炭14	4s	マツ属複維管束亜属(6)	
			コナラ節(1)	
			クヌギ節(17)	
			クリ(4)	
SK01内	炭15	4t	マツ属複維管束亜属(複数)	

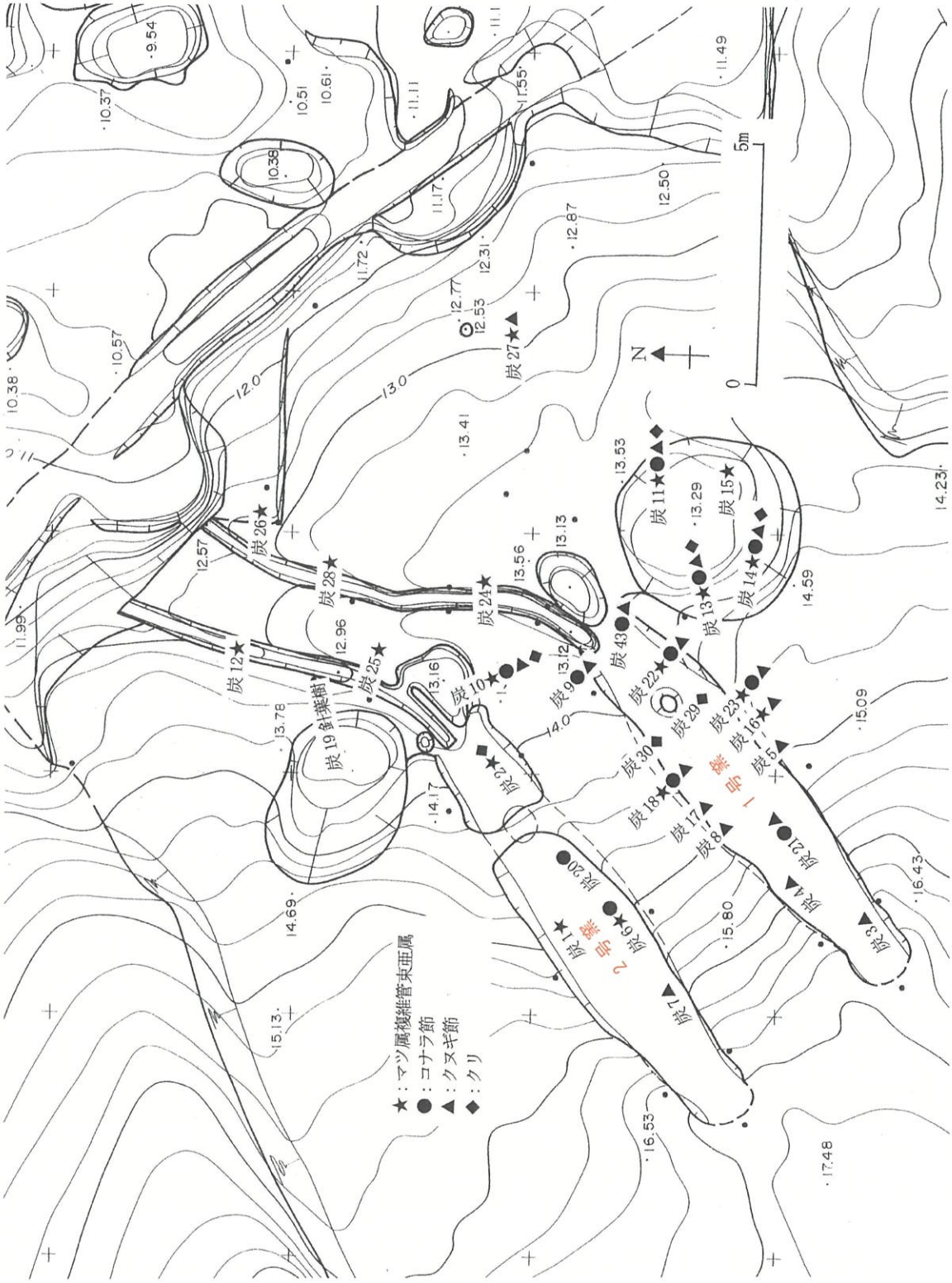
第110表　深廻間Ａ古窯出土炭化材の採取地点別樹種判定結果　　続く

出土位置	取上番号	グリット	樹種（破片数）	備考
灰層(検出Ⅱ)	炭 9	4s	コナラ節(18)	
			クヌギ節(17)	
	炭11	4s	マツ属複維管束亜属(1)	
			コナラ節(5)	
			クヌギ節(1)	
			クリ(1)	
	炭13	4s	マツ属複維管束亜属(2)	
			コナラ節(6)	
			クヌギ節(5)	
			クリ(1)	
	炭10	3s	マツ属複維管束亜属(2)	
			コナラ節(5)	
			クヌギ節(2)	
			クリ(2)	
灰原	炭26	3t	マツ属複維管束亜属(複数)	
灰原内	炭27	4t	マツ属複維管束亜属(3)	
			クヌギ節(2)	
2号窯焼成室埋土中	炭 6	4r	マツ属複維管束亜属(18)	
			コナラ節(8)	
	炭 7	5r	クヌギ節(1)	床面上
	炭20	4r	コナラ節(1)	
2号窯燃焼室埋土中	炭 1	3r	マツ属複維管束亜属(8)	
	炭 2	3s	マツ属複維管束亜属(2)	
			クリ(1)	
SD01内	炭12	3s	マツ属複維管束亜属(複数)	
	炭25	3s	マツ属複維管束亜属(11)	
SK01	炭19	3s	針葉樹(微破片複数)	
大ベルト	炭28	2s	マツ属複維管束亜属(1)	SD01上

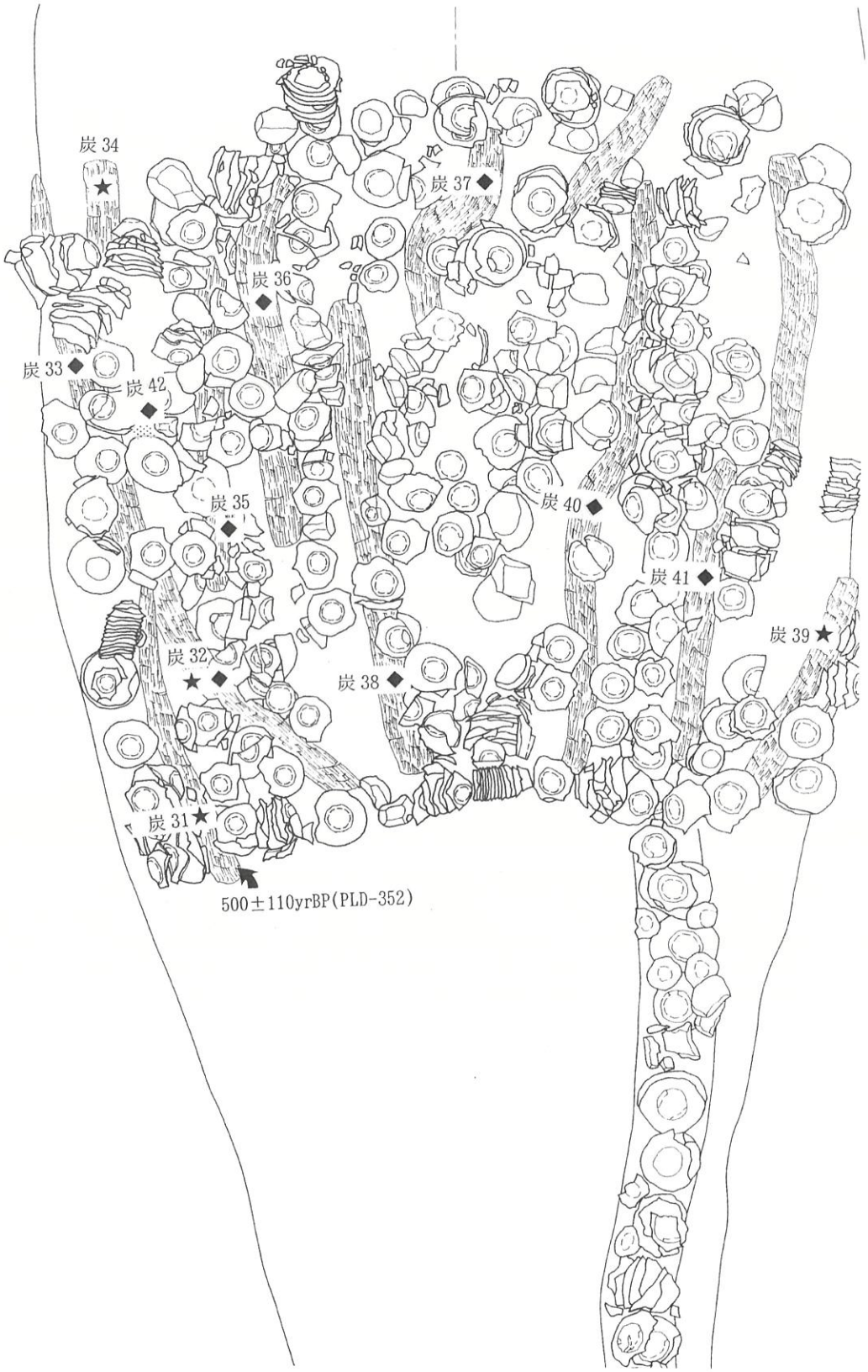
第110表　続き　　深廻間Ａ古窯出土炭化材の採取地点別樹種判定結果

検出分類群	SK01	1号窯			2号窯		灰原	灰層(検出Ⅱ)
		焼成室		燃焼室	焼成室	燃焼室		
		床面下施設	埋土中		埋土中	埋土中		
マツ属複維管束亜属	複数	4	8		18	10	複数	5
コナラ節	1		17	4	10			34
クヌギ節	17		63	7			2	25
クリ	4	9	9			1		4

第111表　深廻間Ａ古窯の主な遺構・地点別の検出樹種

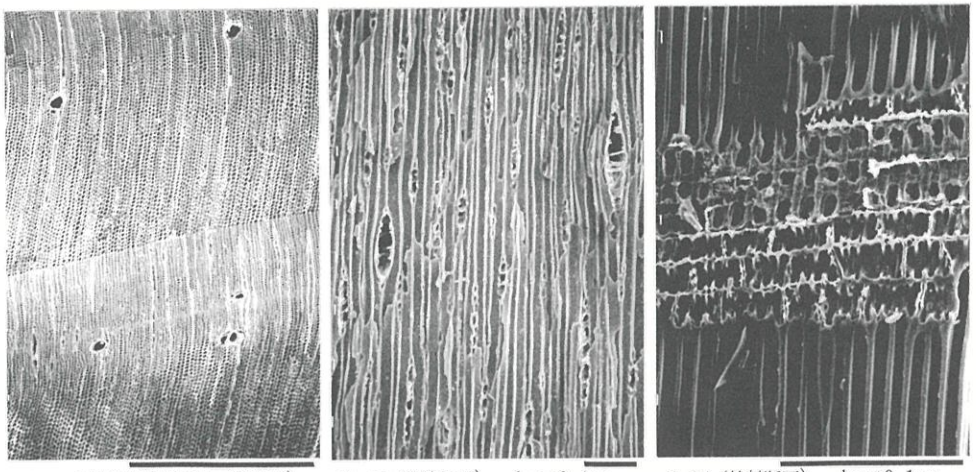


第53 図　深廻間Ａ古窯の燃料材樹種の検出地点



◆：クリ　　★：マツ属複維管束亜属

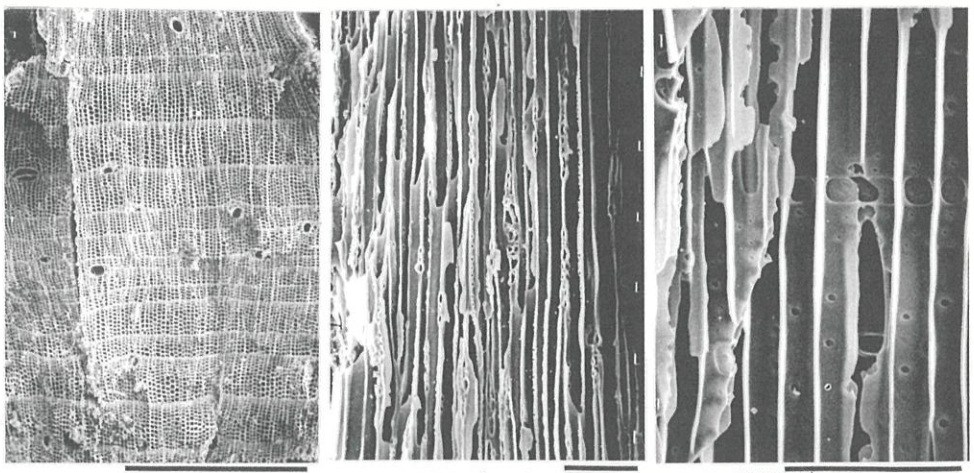
第54 図　深廻間Ａ古窯１号窯床面下施設木材の樹種



1a. マツ属複維管束亜属（横断面）
炭27　bar:1.0mm

1b. 同（接線断面）　bar:0.1mm

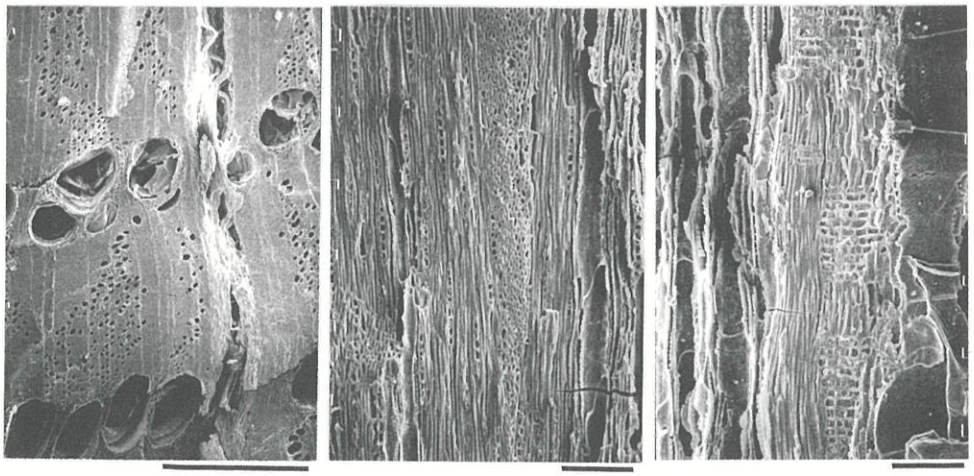
1b. 同（放射断面）　bar:0.1mm



2a. マツ属複維管束亜属（横断面）
炭24　bar:1.0mm

2b. 同（接線断面）　bar:0.1mm

2b. 同（放射断面）　bar:0.1mm

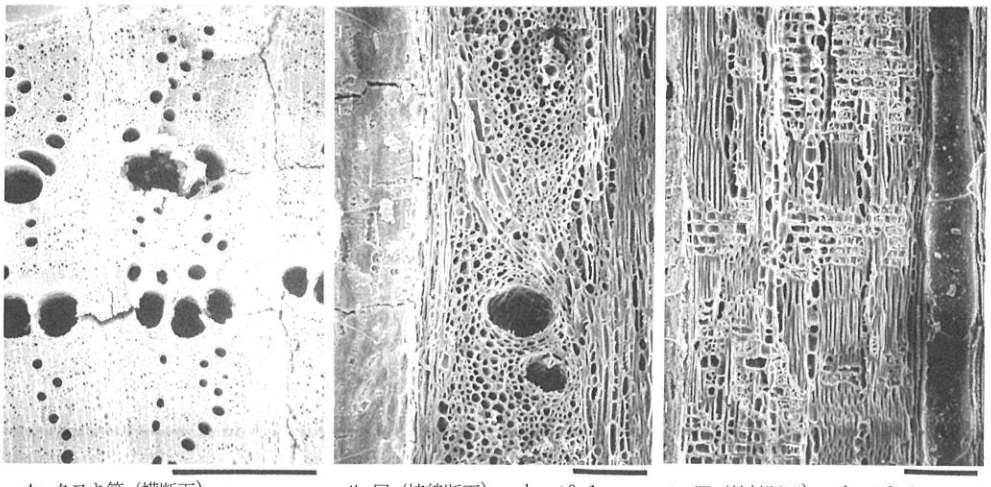


3a. コナラ節（横断面）
炭10　bar:0.5mm

3b. 同（接線断面）　bar:0.1mm

3b. 同（放射断面）　bar:0.1mm

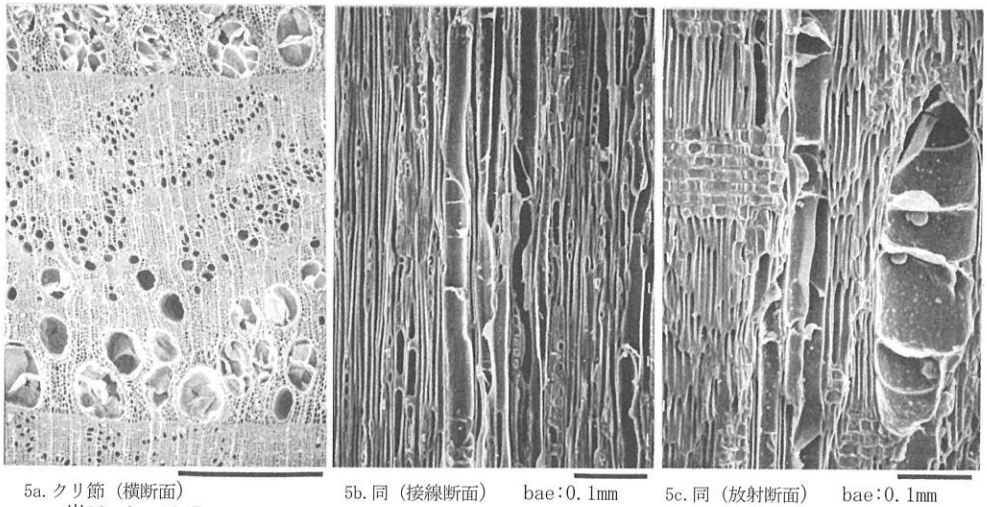
写真41　出土炭化材樹種１



4a. クヌキ節（横断面）
炭10　bar:0.5mm

4b. 同（接線断面）　bae:0.1mm

4c. 同（放射断面）　bae:0.1mm



5a. クリ節（横断面）
炭10　bar:0.5mm

5b. 同（接線断面）　bae:0.1mm

5c. 同（放射断面）　bae:0.1mm

写真42　出土炭化材樹種２

第5章　総　　論

完掘状況　南東から

まとめ

深廻間Ａ古窯跡群は、市内で１２例目の発掘調査である。窯業遺跡としては９例目である。本遺跡は２基の窯体と灰原からなる古窯跡群である。窯体は２基とも焚口から燃焼室・焼成室および煙道部まで、ほぼ完全に残存していた。また前庭部もほぼ良好に残存していたが、前庭部末端から灰原にかけては、後世の土木工事により削平された部分もあり、灰原は一部が残存するもののほぼ滅失していた状態であった。窯体は２基とも床面下施設が施されており、市内の窯業遺跡では２例目となる遺構である。

遺構について

本古窯跡群の２基の窯体は、いずれも床面に大きな特徴が見られる。２基の窯体とも最終床面の下に２層の床面が確認された。２基とも最終床面から下に約 20～10cm の深さで２回にわたり床面が形成されていた。いずれの床面も焼成が施されており、それぞれの床面で少なくとも１回～数回の焼成がおこなわれたものと思われる。１号窯では、二次面まで形成され焼成がおこなわれた後に、焼成室下半部（分焔柱から 2.3mの地点まで）を掘り抜き、そこに木材を並べてその周りに碗などを伏せて並べ、最終床面を形成している。一方２号窯では一次面が形成され焼成がおこなわれた後に、焼成室下半部（分焔柱から 2mの地点まで）を掘り抜き、そこに碗などを伏せて並べ、その上に二次面を形成したものと思われる。また２号窯では、碗などを隙間なく並べた面の上に、もう一層ところどころに碗が伏せられており、床面下施設も２層になっていた。本古窯跡群の特徴としては、２基の窯体ともいったん一次面・二次面を形成し、焼成が行なわれた後に碗を伏せた施設が造られていることである。また２基の窯体とも、床面下施設から排水溝が造られている。排水溝は燃焼室から前庭部を通って灰原上部にまで延びており、排水溝の内部には、熔着した碗や焼台・焼壁の破片などが詰められていた。これは本古窯跡群の立地する丘陵の地質が、粘質土層であったことから、湧水対策のために設けられたものと思われる。地山を掘り抜いてつくる窖窯の場合、窯内の水分は最大の障害である。このため様々な方法を用いて窯内の水分を排出・除去する施設がつくられている。このような床面下に排水施設をもつ例は、知多古窯でも多く報告されている①。知多古窯のなかで床面下施設の施された窯体は５３基が確認されているが、本古窯跡群のように焼成不良や熔着した碗などを利用してつくられた例は、本窯を含めると３５基が確認されている。市内でも立根Ａ古窯第２号窯②、ガンジ山Ａ古窯第２号窯③で４基になる。

本古窯跡群２基の窯体の床面下施設は、焼成室下半部（分焔柱から 2m 程度）を掘り下げ、碗が伏せて並べて敷き詰められていたが、これは市内のガンジ山Ａ古窯第２号窯の床面下施設と造り方がかなり類似している。ガンジ山Ａ古窯第２号窯も焼成室下半部（分焔柱から 1.85m）の床面を掘り下げて作られていた。ただしガンジ山Ａ古窯第２号窯の場合は、築窯した段階から床面下施設が造られて

いたのに対して、本窯の場合は築窯して一旦操業した後に床面を改修して作られたものであり、若干の相違がみられる。本窯の２基の窯体も、１号窯は木材が溝状に並べられ、そのまわりに碗が伏せて並べられていたのに対して、２号窯は掘り下げられた床面に碗が伏せてきれいに敷き詰められていた。２号窯の状態はガンジ山Ａ古窯第２号窯と類似した方法であった。またいずれの窯体にも排水溝が併設されていた。このように床面下施設が焼成室下半部の全体に施されるものは、12 世紀末から 13 世紀初頭にかけて、最も多く造られている。

また本古窯跡群の２基の窯体とも、焼成室全体に床面が２回にわたって貼り直されている。しかも各面ごとに焼成が行なわれていたものとみられる。床面の厚さは 10～20cm で、焼成された面の上に砂を敷き、その上に粘土を貼って焼成が行なわれていた。このような例は他にもみられるが、阿久比町の八ヶ谷古窯址群④では、４基の窯体に類似した例がみられる。八ヶ谷古窯址群の場合、碗などを敷いた施設はみられなかったが、焼成室下半部では床面を 30～80cm も掘り下げられ、大量の砂が敷き詰められていた。いずれの場合も湧水・排水対策として行なわれたものと考えられる。

遺物について

本窯の出土遺物は、碗類と皿類の２種類が主な焼成器種で、他に数点の鉢と玉縁状口縁碗の破片が１点確認された。碗は 3955 点と熔着したものが 796 組、皿は 1691 点と熔着したもの 337 組である。

２基の窯内からは碗と皿のみが検出された。碗類の平均値は１号窯で、口径 16.1cm・高台径 8.3cm・器高 5.0cm、２号窯では口径 16.3cm・高台径 8.3cm・器高 5.1cm である。皿類の平均値は１号窯で、口径 9.0cm・高台径 4.8cm・器高 2.5cm、２号窯では口径 9.0cm・高台径 5.0cm・器高 2.5cm である。２基の窯内から出土した碗類・皿類は法量の数値からはほぼ同様の結果が得られた。このことから２基の窯体の操業時期に大きな差はないものと思われる。また２基の床面下施設から検出された碗も、数値や器形などに大きな差がないことからそれぞれの床面下施設に使用された碗は、他の古窯跡群で作られたものではなく、本古窯跡群で焼成されたものを利用したものと考えられる。

炭化材について

本古窯跡群からは、多くの炭化材が検出された。本古窯跡群から検出された炭化材樹種は、クヌギ節・コナラ節・マツ属複維管束亜属・クリの４分類群であった。１号窯の焼成室および燃焼室からはクヌギ節が多く検出され、マツ属複維管束亜属は焼成室のみから検出された。一方２号窯の焼成室・燃焼室からはマツ属複維管束亜属が圧倒的に多く検出検出され、逆にコナラ節は焼成室からのみ検出された。このことから植田氏は、２基の窯体の操業時期差について、１号窯で豊富に生育していたクヌギ節を主要燃料として伐採したため、マツ属複維管束亜属の分布拡大を促し、２号窯のときはなくなったクヌギ節のかわりに多くなったマツ属複維管束亜属を主要燃料とした⑤と推定している。

市内の同時期の窯業遺跡には、森岡１号窯跡群⑥・神明古窯跡群⑦・ガンジ山Ａ古窯跡群などがある。これらの古窯跡群は、出土遺物の形態などからみると、本古窯跡群とほぼ同時代、それぞれ相前後して築窯・操業されていたものと思われる。残存していた炭化材では、本古窯跡群はコナラ節とクヌギ節が大半を占め、マツ属は少ないという結果がでた。神明古窯跡群とガンジ山Ａ古窯跡群でも、炭化材の構成比は同様の結果であったが、森岡１号窯跡群ではマツ属が多く検出されている。本古窯跡群でも１号窯ではクヌギ節が多く検出されていたのに対して、２号窯ではほとんどマツ属のみが検出されている。このような例は、古窯跡付近の森林の植生変化に伴った結果でないかと考えられる。

築窯年代について

本古窯跡群では考古地磁気年代測定を行なっている。西南日本版によると、１号窯はAD.1200±10年、２号窯はAD.1210±20年という結果が出ている。またこれを東海版永年変化曲線に照合すると、１号窯はAD.1160±10年または1110±10年、２号窯はAD.1200±50年という結果になり、西南日本版より若干時期が遡ることになる。しかし考古地磁気年代測定ではほとんど同時期に操業されていたことがわかる。

窯体についてみても、２基とも隣どうし並行して築窯されており、窯体の構造も２基ともほとんど同じ形態である。前庭部も共有して使用されており、また残存していた灰原も２基の区別がほとんどできない状態であった。また遺物についても同様に、大きさや形態などほぼ同じであった。このことから２基の操業時期はほぼ同時期であると思われる。

築窯順については、残存している炭化材から、１号窯が２号窯より早い時期に操業していたものと思われる。

これらのことから、本古窯跡群の操業時期は、12 世紀後半から 13 世紀初頭で、１号窯を廃棄した後、すぐに２号窯が操業されたものと考えられる。

註①　『大池古窯址群・池田古窯址群』2001 年　　半田市教育委員会
②　『長草立根古窯跡群』1991 年　　大府市教育委員会
③　『ガンジ山Ａ古窯跡群』2000 年　　大府市教育委員会
④　『八ヶ谷古窯址群』2001 年　阿久比町教育委員会
⑤　本書第４章第２節「深廻間Ａ古窯跡群出土炭化材の樹種同定」
⑥　『森岡第１号窯跡群』1999 年　　愛知県埋蔵文化財センター
⑦　『海陸庵古窯址群・神明古窯址群』1996 年　　大府市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	ふかはざまえいこようせきぐん
書　　名	深廻間A古窯跡群
副　書　名	大府深廻間特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	大府市文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編 著 者 名	近藤英正、古田功治、伊藤羊子、鈴木智恵、広岡公夫、植田弥生
編集機関	大府市教育委員会
所　在　地	〒474－0011　大府市中央町五丁目70番地
発行年月日	西暦2004年12月1日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯 °’”	東経 °’”	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふかはざまえいこようせきぐん 深廻間Ａ古窯跡群	おおぶしながくさまち 大府市長草町 ふかはざま 深廻間 15 の 61 他	232238	44046	35° 0’ 51”	136° 57’ 14”	971104 ～ 980124	800㎡	区画整理事業

遺 跡 名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
深廻間A古窯	古窯址	平安時代末期 ～ 鎌倉時代初期	窯体2基・灰原・ピット5・床面下施設2	碗・皿・鉢・焼台・伊勢型鍋など	床面下施設がいずれも窯体にも施工されている。1号窯のそれには木材も使用されていた

大府市文化財調査報告書刊行案内

	タイトル	刊行年	値段	在庫
第１集	大府市山車調査報告書	平成７年	３，５００円	在庫あり

大府市指定有形民俗文化財になっている藤井神社祭礼山車３輌と山之神社祭礼１輌の詳細調査の報告書で図面多数掲載。３分冊で構成。

第２集	海陸庵古窯址群・神明古窯址群	平成８年	２，０００円	在庫あり

平成６年から７年に発掘調査した前期中世山茶碗窯の遺構である。神明古窯址群からは大量の広口長頸壺が出土。

第３集	円通寺古墓	平成９年	１，５００円	在庫あり

平成６年に発見された江戸中期の経塚遺構。近世村落社会における庶民の信仰を探る資料。

第４集	ガンジ山Ａ古窯跡群	平成１２年	１，２００円	在庫あり

平成９年に発掘調査した中世山茶碗窯の遺構で、検出した窯跡１基から市内ではじめて床面下施設を確認した遺跡である。

大府市文化財調査報告書　第５集

深廻間Ａ古窯跡群

～大府深廻間特定土地区画地内埋蔵文化財発掘調査報告書～

平成１７年３月１日　発行

発行　愛知県大府市教育委員会
住所　〒４７４－００１１
　　愛知県大府市中央町五丁目７０番地
印刷　松栄印刷株式会社